# 福岡市西区

# 野方久保遺跡

Nokata

Kubo

Site

II

福岡市埋蔵文化財調査報告書第348集

1 9 9 3 福岡市教育委員会

# 福岡市西区

Nokata

Kubo

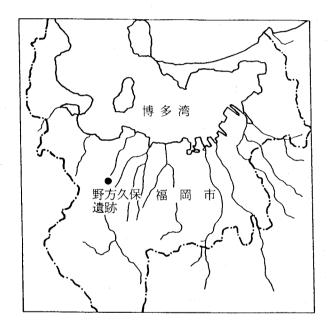
Site

# 野方久保遺跡

# 第1次調查報告

# II

福岡市埋蔵文化財調査報告書第348集



野方久保遺跡第1次調査 調査略号 NKU-1 調査番号 8301

1 9 9 3

福岡市教育委員会



野方久保遺跡 A 地点全景(南から)



野方久保遺跡 A 地点住居址群(南から)



野方久保遺跡出土 装身具



野方久保遺跡出土 銅製品



仙薬製造に使用されたと 考えられる片口鉢形土器



片口鉢形土器内面が赤色顔料 赤い部分

## 序

福岡市西区野方周辺は、都市圏拡大に伴い、住宅の建築が急速に 行なわれています。その反面、埋蔵文化財の保存も重要な課題と なっています。

野方周辺は国史跡野方遺跡や広石古墳群をはじめとして数多くの 埋蔵文化財があります。

昭和57年に福岡市住宅供給公社が西区野方に住宅建設を計画し、 事前に協議を重ねた結果、やむを得ず保存できない所については発 掘調査を実施し、記録による保存に努めることにしました。

本書は、住宅建設に先だって調査を行なった野方久保遺跡の発掘 調査報告書です。

調査の結果、弥生時代から室町時代にかけての数多くの遺構や遺物が発見され、予想以上の成果をあげることができました。これも地元をはじめ関係者の皆様方の埋蔵文化財に対するご理解とご協力によるものであります。

本書が地域の皆様ならびに市民各位の文化財保護に対する理解を 深められる上で広く活用されるとともに、学術研究の分野において も貢献できれば幸いです。

発掘調査から資料整理に至るまでの多くの方々のご協力に対し、 心から謝意を表するものです。

平成5年1月福岡市教育委員会

教育長 井 口 雄 哉

## 例 言

- 1. 本書は福岡市西区野方字久保416番地他に所在する野方久保遺跡第1次調査の報告書である。
- 2. 事業は福岡市住宅供給公社の住宅建設に伴う事前調査で、1983(昭和58)年8月から翌年 2月にかけて福岡市教育委員会文化財部埋蔵文化財課(機構改革により平成3年度に文化部 埋蔵文化財課が文化財部埋蔵文化財課に組織、名称変更)が実施した。
- 3. 調査及び遺構の実測は二宮忠司が担当し、調査・整理補助として田中稿二(明治大学学生、現佐賀県大和町教育委員会)、大庭友子、渡辺和子(現筑紫野市教育委員会)が調査に参加した。製図は大庭が行なった。
- 4. 写真撮影は現場写真を二宮が行ない、遺物写真は二宮、大庭が、写真現像、焼付けは**桑野** 聖子、浜田登志枝、宮崎まり子がこれに当たった。
- 5. 遺物実測は、二宮・大庭のほか久保寿一郎がこれに当った。また金属器の実測・製図・原稿は、埋蔵文化財課の大庭康時が、赤色顔料分析と原稿は、埋蔵文化財センターの本田光子と宮内庁正倉院事務所成瀬正和氏がこれに当った。
- 6. 本書の執筆は二宮と大庭が行なった。
- 7. 本書の編集は大庭友子と二宮が行なった。
- 8. 本報告書に関する記録・遺物類は整理後、福市教埋文センターに収蔵・保管される。
- 9. 十器、石器、鉄器、木器の挿図内番号は登録番号を示す。
- 10. 挿図内のアミカケは薄い方が赤色顔料、濃い方が黒斑およびスス附着を示す。

遺跡調査番号	8301	遺跡略号	NKU 1 か	ζ	調査期間	1983年(昭和58年)
調査地地籍	福岡市西区大字野方字久保他		分布地図番号		93—A— 2	
調査面積	11,047m <sup>2</sup>		1.70			*.

# 本文目次

第I章	はじめに	1
	1. 発掘調査に至る経過	1
	2. 発掘調査の組織と構成	3
第Ⅱ章	遺跡の位置と歴史的環境	5
第Ⅲ章	調査の記録	9
	1. 調査の概要	9
	2. A 地点の調査	11
	古墳	11
	弥生時代から古墳時代にかけての住居址群	17
	掘立柱建物	41
	その他の遺構	57
	3. B地点の調査	63
	土層 • 小児甕棺墓	63
	水田址•溝状遺構	68
	B 地点の住居址	69
	掘立柱建物とその他の遺構	75
第IV章	出土遺物	93
	土器	
	石器	.54
	<b>野</b> 方久保遺跡出土の金属器について	.59
	野方中原遺跡出土の土器に付着した赤色顔料について ······ 1	
第V章	まとめ	82
	1)野方久保遺跡1次調査検出の住居址の前後関係について	
	2) 野方久保遺跡 1 次調査の成果にについて	
	3) 野方久保遺跡群について	
	4) 野方中原遺跡と野方久保遺跡の住居址の在り方について	
	5) 野方中原遺跡と野方久保遺跡の土器の形式分類について	
	/ · */ * / · * · · · · · · · · · · · · ·	

# 挿図目次

第	1図	野方久保遺跡位置図(縮尺1/25,000)	XII
第	2 図	野方久保遺跡群位置図(縮尺 1 /8,000)	2
第	3 図	野方久保遺跡と周辺の遺跡(縮尺1/8,000)	4
第	4 図	野方久保遺跡群と野方中原遺跡位置図(縮尺1/3,000)	8
第	5 図	野方久保遺跡 A 地点遺構図(縮尺1/800)	10
第	6図	A 地点第 1 号墳現況図(縮尺1/200) ······	12
第	7 図	A 地点第 1 号墳石室平面・断面図(縮尺1/40) · · · · · · 折り込み · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
第	8図	A 地点第 1 号墳墳丘測量図(縮尺1/200) · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	14
第	9図	A 地点第1号墳土層断面・奥壁見透視図(縮尺1/40)折り込み	
第	10図	A 地点第 1 号墳平面図(縮尺1/200)	15
第	11図	A 地点第 1 号墳地山整形図(縮尺1/200)	16
第	12図	A 地点竪穴式住居址(SC—01、08、15、16)遺構実測図(縮尺1/80) ·······	18
第	13図	A 地点竪穴式住居址(SC—03)遺構実測図(縮尺1/13、1/40、1/80) ··············	19
第	14図	A 地点竪穴式住居址(SC—04)遺構実測図(縮尺1/80) ······	20
第	15図	A 地点竪穴式住居址(SC—07、09)遺構実測図(縮尺1/13、1/80) ·······	22
第	16図	A 地点竪穴式住居址(SC—10、12、51~53)遺構実測図(縮尺1/80) ·······	23
第	17図	A 地点竪穴式住居址(SC—13、14、18)遺構実測図(縮尺1/80) ·······	25
第	18図	A 地点竪穴式住居址(SC—17、23、57)遺構実測図(縮尺1/80) ······	26
第	19図	A 地点竪穴式住居址(SC-19、20、22)遺構実測図(縮尺1/80) ······	27
第	20図	A 地点竪穴式住居址(SC—21、30)遺構実測図(縮尺1/80) ······	28
第	21図	A 地点竪穴式住居址(SC—24、29、35、47)遺構実測図(縮尺1/80) ·······	29
第	22図	A 地点竪穴式住居址(SC—27、28)遺構実測図(縮尺1/80) ······	30
第	23図	A 地点竪穴式住居址(SC-31~34、58)遺構実測図(縮尺1/80) ·······	32
第	24図	A 地点竪穴式住居址(SC-39、40、43、45)遺構実測図(縮尺1/80) ·······	33
第	25図	A 地点竪穴式住居址(SC-38、42、44、46)遺構実測図(縮尺1/80) ·······	34
第	26図	A 地点竪穴式住居址(SC—36、41)遺構実測図(縮尺1/80) ······	36
第	27図	A 地点竪穴式住居址(SC-02、54、61)遺構実測図(縮尺1/80) ······	37
第	28図	A 地点竪穴式住居址(SC-05、06、55、59)遺構実測図(縮尺1/80) ······	38
第	29図	A 地点掘立柱建物(SB—01、06)遺構実測図(縮尺1/80) ·······	40

第 30図	A 地点掘立柱建物(SB-02、04)遺構実測図(縮尺1/80) ······	42
第 31図	A 地点掘立柱建物(SB—03、12、16)遺構実測図(縮尺1/80)	43
第 32図	A 地点掘立柱建物(SB—05、08)遺構実測図(縮尺1/80) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	44
第 33図	A 地点掘立柱建物(SB—07、18)遺構実測図(縮尺1/80) ······	46
第 34図	A 地点掘立柱建物(SB—09、21)遺構実測図(縮尺1/80) ······	47
第 35図	A 地点掘立柱建物(SB—10、11)遺構実測図(縮尺1/80) ······	48
第 36図	A 地点掘立柱建物(SB—15、20、22)遺構実測図(縮尺1/80) ······	49
第 37図	A 地点掘立柱建物(SB—13、14、17、19)遺構実測図(縮尺1/80) ······	50
第 38図	A 地点掘立柱建物(SB—23)遺構実測図(縮尺1/80) ······	51
第 39図	A 地点掘立柱建物(SB—24、25)遺構実測図(縮尺1/80) ······	52
第 40図	A 地点掘立柱建物(SB—26、27)遺構実測図(縮尺1/80) ·······	54
第 41図	A 地点掘立柱建物(SB—28)遺構実測図(縮尺1/120) ······	55
第 42図	A 地点土壙状遺構(SX—01)実測図(縮尺 1 /20)	56
第 43図	A 地点土壙状遺構(SX—07、08)実測図(縮尺1/40)	58
第 44図	A 地点土壙状遺構(SE—01、02、SX—03、09)実測図(縮尺1/40) ·······	59
第 45図	A 地点土壙状遺構(SK—02~04)実測図(縮尺1/20) ······	60
第 46図	A 地点土壙状遺構(SX—02、04、06、SK—05)実測図(縮尺1/40) ·······	
第 47図	野方久保遺跡 B 地点遺構図(縮尺1/200) ·······	62
第 48図	B 地点検出遺構配置図(縮尺1/200)折り込み	
第 49図	B 地点土層図(縮尺1/40) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	64
第 50図	B 地点土層図、甕棺墓(SK—01)実測図(縮尺1/20) ······	65
第 51図	B 地点水田址、溝状遺構実測図— 1 (縮尺1/200) ······	66
第 52図	B 地点水田遺構実測図(縮尺1/200)折り込み	
第 53図	B 地点水田址、溝状遺構実測図— 2 (縮尺1/200) ······	67
第 54図	B 地点竪穴式住居址(SC-01~04)遺構実測図(縮尺1/80)	70
第 55図	B 地点竪穴式住居址(SC—05、06)遺構実測図(縮尺1/80) ······	71
第 56図	B 地点竪穴式住居址(SC—08、09)遺構実測図(縮尺1/80) ······	72
第 57図	B 地点下層検出遺構配置図(縮尺1/200)折り込み	
第 58図	B 地点掘立柱建物(SB—31~33)遺構実測図(縮尺1/80) ······	74
第 59図	掘立柱建物·井戸状遺構 (SB—30、34、35、SE—04) 実測図 (縮尺1/20、1/80)	76
第 60図	A 地点溝状遺構実測図(SD—01~04、07~11)(縮尺1/160) ······	77
第 61図	出土土器実測図一1 (縮尺1/4)	94

第	62図	出土土器実測図―2	(縮尺1/4) ・		95
第	63図	出土土器実測図一3	(縮尺1/4) ・		97
第	64図	出土土器実測図―4	(縮尺1/4) ·		98
第	65図	出土土器実測図―5	(縮尺1/4) ·		99
第	66図	出土土器実測図—6	(縮尺1/4)	<u></u>	100
第	67図	出土土器実測図7	(縮尺1/4)		101
第	68図	出土土器実測図—8	(縮尺1/4、1/	6)	103
第	69図	出土土器実測図—9	(縮尺1/4)		104
第	70図	出土土器実測図―10	(縮尺1/4)		105
第	71図	出土土器実測図―11	(縮尺1/4)		107
第	72図	出土土器実測図―12	(縮尺1/4)		108
第	73図	出土土器実測図—13	(縮尺1/4)		109
第	74図	出土土器実測図—14	(縮尺1/4)		111
第	75図	出土土器実測図—15	(縮尺1/4)		112
第	76図	出土土器実測図―16	(縮尺1/4)		113
第	77図	出土土器実測図—17	(縮尺1/4、1/	6)	115
第	78図	出土土器実測図—18	(縮尺1/4)		116
第	79図	出土土器実測図-19	(縮尺1/4)		117
第	80図	出土土器実測図—20	(縮尺1/4)		118
第	81図	出土土器実測図―21	(縮尺1/4)		119
第	82図	出土土器実測図―22	(縮尺1/4)		121
第	83図	出土土器実測図―23	(縮尺1/4、1/	(6)	122
第	84図	出土土器実測図―24	(縮尺1/4)		123
第	85図	出土土器実測図—25	(縮尺1/4、1/	(8)	125
第	86図	出土土器実測図—26	(縮尺1/4)		126
第	87図	出土土器実測図—27	(縮尺1/4)		127
第	88図	出土土器実測図―28	(縮尺1/4)		128
第	89図	出土土器実測図―29	(縮尺1/4)		129
第	90図	出土土器実測図一30	(縮尺1/4)		131
第	91図	出土土器実測図—31	(縮尺1/4)		132
第	92図	出土土器実測図—32	(縮尺1/4)		133
第	93図	出土土器実測図―33	(縮尺1/4)		134

第 94図	出土土器実測図—34(縮尺1/4)
第 95図	出土土器実測図-35(縮尺1/4) 137
第 96図	出土土器実測図―36(縮尺1/4) 138
第 97図	出土土器実測図一37(縮尺1/4) 139
第 98図	出土土器実測図―38(縮尺1/4) 140
第 99図	出土土器実測図―39(縮尺1/4、1/6) 141
第100図	出土土器実測図―40(縮尺1/4) 144
第101図	出土土器実測図―41(縮尺1/4、1/6) … 145
第102図	出土土器実測図―42(縮尺1/4) 146
第103図	出土土器実測図―43(縮尺1/4) 147
第104図	出土土器実測図―44(縮尺1/4) … 149
第105図	出土土器実測図―45(縮尺1/4)
第106図	出土土器実測図―46(縮尺1/4) 151
第107図	出土石器実測図—1 (縮尺1/1、1/2、2倍)
第108図	出土石器実測図一2 (縮尺1/4) 155
第109図	出土石器実測図一3 (縮尺1/4) 156
第110図	出土石器実測図-4 (縮尺1/4) 157
第111図	出土金属器実測図―1 (縮尺1/2、1/4) 160
第112図	出土金属器実測図―2 (縮尺1/2) 162
第113図	仙薬製造に使用されたと考えられる片口鉢形土器
	表目次
Tab. 1	住居址計測一覧
Tab. 2	掘立柱建物計測一覧
Tab. 3	野方久保遺跡 pit 計測一覧 79
Tab. 4	野方久保遺跡 pit 計測一覧 80
Tab. 5	野方久保遺跡 pit 計測一覧 81
Tab. 6	野方久保遺跡 pit 計測一覧 82
Tab. 7	野方久保遺跡 pit 計測一覧 83
Tab. 8	野方久保遺跡 pit 計測一覧
Tab. 9	野方久保遺跡 pit 計測一覧

Tab. 10	野方久保遺跡 pit 計測一覧
Tab. 11	野方久保遺跡 pit 計測一覧
Tab. 12	野方久保遺跡 pit 計測一覧
Tab. 13	野方久保遺跡 pit 計測一覧 · · · · 89
Tab. 14	野方久保遺跡 pit 計測一覧 90
Tab. 15	野方久保遺跡 pit 計測一覧 91
Tab. 16	野方久保遺跡土壙・不整形土壙・溝状遺構計測一覧 92
Tab. 17	赤色顔料の分析結果
Tab. 18	野方久保遺跡出土遺物一覧 165
Tab. 19	野方久保遺跡出土遺物一覧 166
Tab. 20	野方久保遺跡出土遺物一覧 167
Tab. 21	野方久保遺跡出土遺物一覧 168
Tab. 22	野方久保遺跡出土遺物一覧 169
Tab. 23	野方久保遺跡出土遺物一覧
Tab. 24	野方久保遺跡出土遺物一覧
Tab. 25	野方久保遺跡出土遺物一覧
Tab. 26	野方久保遺跡出土遺物一覧
Tab. 27	野方久保遺跡出土遺物一覧
Tab. 28	野方久保遺跡出土遺物一覧 175
Tab. 29	野方久保遺跡出土遺物一覧
Tab. 30	野方久保遺跡出土遺物一覧
Tab. 31	野方久保遺跡出土遺物一覧
Tab. 32	野方久保遺跡出土遺物一覧
Tab. 33	野方久保遺跡出土遺物一覧 180
Tab. 34	野方久保遺跡出土遺物一覧

# 付 図

付図―1 野方久保遺跡群遺構配置図と野方中原遺跡(縮尺1/1,000)

付図-2 野方久保遺跡 A 地点遺構配置図(縮尺 1/200)

付図-3 野方久保遺跡・中原遺跡出土土器形式分類(縮尺不統一)

# 図版目次

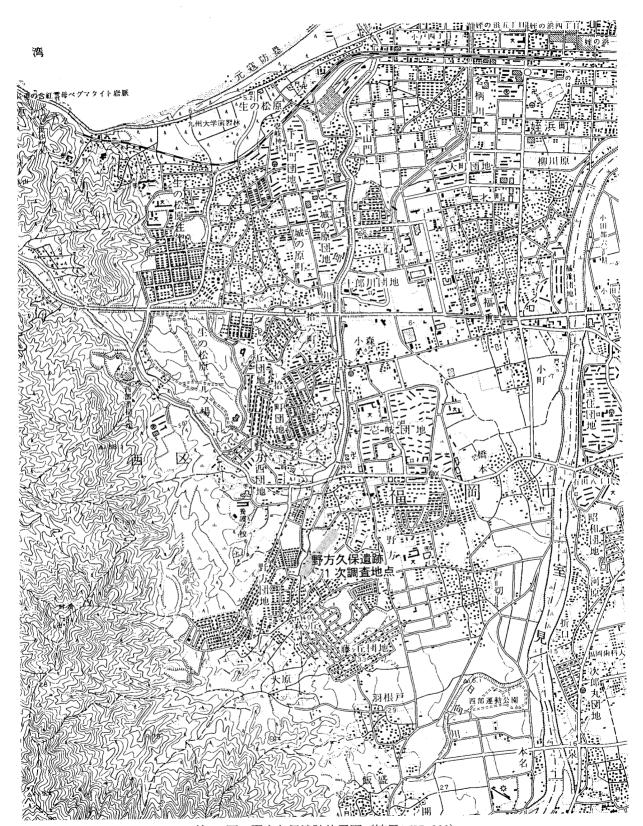
## 巻頭写真 野方久保遺跡遺構検出状態

### 野方久保遺跡出土銅製品 赤色顔料資料

PL. 1	1	遺跡遠景(西から)	2	A 地点空中写真(北西から)
	3	A 地点遠景(南から)	4	住居址遠景(南東から)
	5	A 地点遠景(南東から)	6	住居址遠景(南東から)
PL. 2	1	住居址遠景(北から)	2	住居址遠景(南から)
	3	住居址近景(南から)	4	住居址近景(北西から)
	5	住居址近景(南西から)	6	住居址近景(南東から)
PL. 3	1	住居址近景(西から)	2	住居址近景(西から)
	3	住居址近景(西から)	4	住居址近景(北から)
	5	住居址近景(南西から)	6	住居址近景(北東から)
PL. 4	1	住居址近景(北西から)	2	住居址近景(南から)
	3	住居址近景(東から)	4	住居址近景(南から)
	5	住居址近景(西から)	6	住居址近景(南西から)
PL. 5	1	住居址近景(西から)	2	住居址近景(南西から)
	3	住居址近景(西から)	4	住居址近景(北から)
	5	住居址近景(南から)	6	SC-07近景 (北から)
PL. 6	1	SC—10近景(東から)	2	SC-07、09近景(西から)
	3	住居址と掘立柱建物(東から)	4	住居址と掘立柱建物(南東から)
	5	住居址と掘立柱建物(東から)	6	住居址と掘立柱建物(南東から)
PL. 7	1	住居址近景(南から)SC―08、15	2	住居址近景(東から)SC—07、09
	3	住居址近景(北西から)SC—21、27	4	住居址近景(北東から)SC―27、28
	5	住居址近景(西から)SC―27	6	住居址近景(南東から)SC―01、02、54
PL. 8	1	住居址近景(南西から)SC―38、44	2	住居址近景(東から)SC—07、09
	3	住居址近景(南から)SC―10、51	4	住居址近景(南東から)SC―21
	5	SC―41出土土器近景(東から)	6	SC―45出土土器近景(南から)
PL. 9	1	住居址近景(北東から)SC―03	2	SC―03出土土器近景(西から)
	3	SC―03出土土器近景(南西から)	4	SC-03出土土器近景(東から)
	5	住居址近景(北から)SC—61	6	SC―61出土遺物近景(北東から)

PL. 10	1 谷部(3地点)遠景(南西から)	2	谷部(3地点)遠景(北から)
	3 谷部(3地点)遺構検出(南西から)	4	谷部 (3地点) 遺構検出(西から)SB―23
	5 谷部 (3地点)遺構検出(北から)	6	SC-60近景(西から)
PL. 11	1 B地点水田址検出遠景(北から)	2	B 地点水田址検出近景(西から)
	3 水田址近景(北西から)	4	水田址全景(北東から)
	5 中央部遺構検出(北から)	6	中央部遺構検出(北から)SC—05、06他
PL. 12	1 東側水田址検出状態(西から)	2	水田址と溝検出状態(東から)
	3 水田下検出 SD―20、21(北から)	4	水田下検出 SC―08、09全景(北から)
	5 小児甕棺墓検出状態(北から)	6	小児甕棺墓検出近景(北から)
PL. 13	1 第1号墳全景(調査前)(北から)	2	第1号墳全景表土排除状態(西から)
	3 第1号墳石室全景(南から)	4	石室・墳丘全景(南から)
	5 石室奥壁と地山状態(東から)	6	石室と地山整形状態(南から)
	7 墳丘西側土層状態(南から)	8	墳丘東側土層状態(南から)
PL. 14	出土遺物装身具及び砧状石器	••••	(縮尺1/1、1/2)
PL. 15	出土銅製品	• • • • •	(縮尺1.7倍)
PL. 16	出土鉄製品	••••	(縮尺1/3)
PL. 17	出土土器一1	••••	(縮尺1/3)
PL. 18	出土土器—2	••••	(縮尺1/3)
PL. 19	出土土器—3	••••	(縮尺1/3)
PL. 20	出土土器一4	••••	(縮尺1/3)
PL. 21	出土土器一5	••••	(縮尺1/3)
PL. 22	出土土器一6	••••	(縮尺1/3、1/4)
PL. 23	出土土器一7	•••••	(縮尺1/4)
PL. 24	出土土器一8	•••••	(縮尺1/3、1/4)
PL. 25	出土土器一9		(縮尺1/3、1/4)
PL. 26	出土土器—10	•••••	(縮尺1/3)
PL. 27	出土土器—11	• • • • • •	(縮尺1/3)
PL. 28	出土土器—12	• • • • • •	(縮尺1/3)
PL. 29	出土土器—13	• • • • • •	(縮尺1/3、1/4)
PL. 30	出土土器—14	• • • • • •	(縮尺1/3)
PL. 31	出土土器—15		(縮尺1/2、1/3、1/4)
PL. 32	出土土器—16		(縮尺1/3)

PL. 33	出土土器—17		(縮尺1/3)
PL. 34	出土土器—18		(縮尺1/3)
PL. 35	出土土器—19		(縮尺1/3、1/4)
PL. 36	出土土器—20		(縮尺1/3)
PL. 37	出土土器—21		(縮尺1/3、1/5)
PL. 38	出土土器—22		(縮尺1/3、1/4)
PL. 39	出土土器—23		(縮尺1/3、1/4、1/8)
PL. 40	出土土器—24	•••••	(縮尺1/3、1/4)
PL. 41	出土土器—25		(縮尺1/3)
PL. 42	出土土器—26		(縮尺1/3、1/4)
PL. 43	出土土器—27		(縮尺1/3)
PL. 44	出土土器—28	•••••	(縮尺1/3、1/4)
PL. 45	出土土器—29		(縮尺1/3)
PL. 46	出土土器—30		(縮尺1/3)
PL. 47	出土土器—31		(縮尺1/3)
PL. 48	出土土器—32		(縮尺1/2、1/3)
PL. 49	出土土器一33		(縮尺1/3、1/4)
PL. 50	出土土器—34		(縮尺1/3、1/5)
PL. 51	出土土器—35		(縮尺1/3、1/5)
PL. 52	出土土器一36		(縮尺1/3、1/4、1/5)
PL. 53	出土土器—37		(縮尺1/2、1/3、1/4)
PL. 54	出土土器一38		(縮尺1/3)
PL. 55	出土土器—39		(縮尺1/2、1/3)
PL. 56	出土土器—40		(縮尺1/3)
PL: 57	出土土器—41		(縮尺1/3、1/4)
PL. 58	出土土器—42		(縮尺1/3、1/4、1/5)
PL. 59	出土石器—1		(縮尺1/2、1/3)
PL. 60	出土石器—2		(縮尺1/1)



第 1図 野方久保遺跡位置図(縮尺1/25,000)

## 第1章 はじめに

#### 1. 発掘調査に至る経過

福岡市は人口増大に伴って行政区の分区を1982年(昭和57年)に5区から7区(早良区、城南区を新設)とした。旧西区は城南区、早良区、西区の3つに分割され、室見川を境とした西側を新しい西区とした。

それに伴って住宅の建設は、西区に集中し、特に野方周辺は建設ラッシュを迎えた。

1982年(昭和57)年、福岡市住宅供給公社は、西区野方字久保周辺一帯を住宅建設用地として計画し、実施するにあたり教育委員会文化部文化課(昭和60年度、平成3年度に機構改革があり、文化部文化課から文化部埋蔵文化財課、平成3年度に文化部埋蔵文化財課から文化財部埋蔵文化財課組織改革)に埋蔵文化財の有無についての照会が提出された。これを受け文化課では、試掘調査を行い遺跡を確認し、その旨を住宅供給公社に報告・協議を重ねた。協議の結果、現状保存に関しては非常に困難であり、記録保存のため発掘調査を実施することとなった。

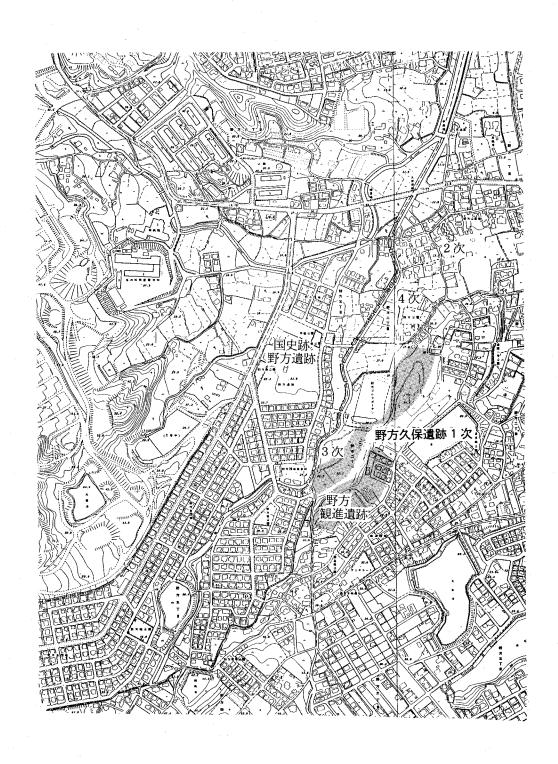
試掘調査はA地点だけ行なわれており、その結果古墳1基と住居址群、溝等を検出した。飛び地のB地点の試掘調査は実施されておらず、A地点の調査を行ないながら、B地点の試掘調査を実施した。B地点からは、水田址3面と住居址、溝、甕棺墓1基等が検出され、大規模な集落跡が検出されるとの所見を持った。しかしながらB地点には3mの残土が全面を覆い、調査の進行が著しくかかることが予想された。

発掘調査は、昭和58年8月からA地点の古墳から調査を開始し、A地点の住居址群、B地点の調査と進め昭和59年3月に調査を終了した。諸般の事情により報告が遅れたがここに刊行することができたのは、住宅供給公社のご協力の賜物である。

出土**遺物は、コンテナ420箱を越え、遺物の登録に混乱を**きたしたため、遺構ごとに番号を付すことにした。

A 地点	遺構	登録番号	A 地点	遺構	登録番号	B 地点	遺	構	登録番号
	第1号墳	00001~	不整形	SX-01の土器	30101~	住居址	SC-	01の土器	50101~
住居址	SC-01の土器	00101~	土壙	SX-02の土器	30201~		SC-	02の土器	50201~
	SC―02の土器	00201~	Pit	Pit の土器	40001~	溝	SD	-01の土器	60101~
溝	SD-01の土器	10101~		-					
	SD02の土器	10201~	石 器	A、B 地点をとわず	70001~				
井戸	SE―01の土器	20101~	金属器	A、B 地点をとわず	80001~	-			

A、B 地点に関係なく上記の遺構に当てはまらない遺構から出土した遺物。例えば水田址、SZ-01(意味不明の土壙)等 90001 $\sim$ 



第 2図 野方久保遺跡群位置図(縮尺1/8,000)

#### 2. 発掘調査の組織と構成

調查委託 福岡市住宅供給公社

調查主体 福岡市教育委員会文化部埋蔵文化財課第1係

教育長 佐藤善郎(前任) 井口雄哉

教育次長 尾花 剛(前任) 井上剛紀

部長 河野清一(前任) 花田兎一

課長 生田征生(前任) 折尾 学

係長 折尾 学(前任) 飛高憲雄

事務 岸田 隆(前任) 中山昭則 寺崎幸男 吉田麻由美

発掘調査 二宮忠司(主事) 濱石哲也

調查•整理補助 渡辺和子 大庭友子 久保寿一郎 田中稿二 加藤元信

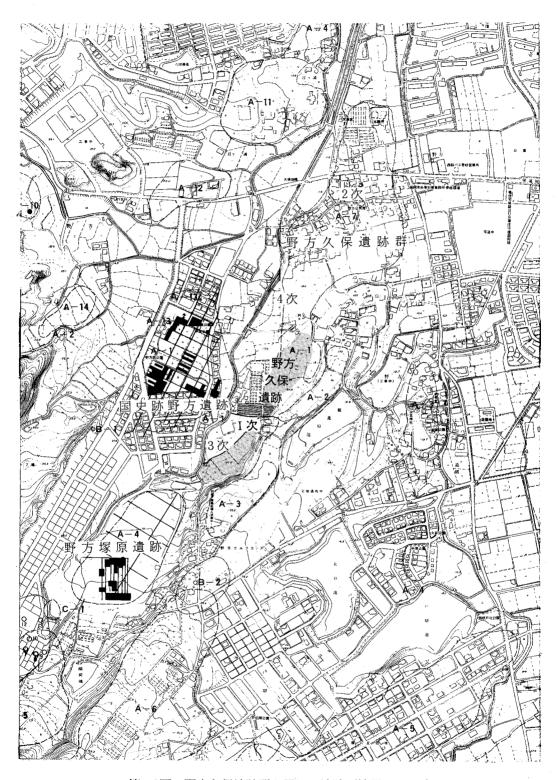
発掘・整理作業 榊光雄 牛尾豊 尾崎達也 太田孝房 鬼丸邦宏 広田義美

真名子時雄 三苫宗澄 結城弥澄

有吉貞江 池 弘子 伊藤みどり 上原チョ子 牛尾秋子 牛尾シキョ 尾崎八重 大内文恵 金子ョシ子 菊池栄子 倉光ナツ子 白坂フサヲ 正崎由須子 柴田シズノ 柴田タエ子 清水文代 末松信子 杉村文子 惣慶とみ子 多田映子 田中タヅ子 津田和子 典略 初 富永純子 西嶋和子 西嶋タミエ 西嶋初子 西納テル子 西納トシエ 能美八重子 野坂三重子 原 早苗 平田政子 平野ミサヲ 藤野ふじ子 古井モモコ 藤 タケ 細川ミサヲ 真鍋チエ子 松本愛子 松本マサ子 松本フジ子 松本トシエ 真名子ゆきえ 山西人美 山本チエ子 山下サノエ 結城シズ 結城信子 結城千賀子 吉岡員代 吉岡タヤ子 吉岡蓮枝 吉岡竹子 吉武早苗 吉積ミエ子 脇山美代子 脇坂ミサヲ

整理作業 青柳恵子 安部宣子 飯田千恵子 牛尾美保子 太田頼子 尾崎文枝 尾崎京子 亀井律子 北島藤子 木村絹子 桑野正子 斎藤美紀枝 清水裕子 杉山悦子 平田ミサ子 日名子節子 内山孝子 藤崎洋子 高橋知代子 浜田登志枝 森 千賀子 山崎恵美子 真名子順子 渡辺ちず子 京塚ハツミ 海内美也子 瀧本裕美子 酒巻眞理子

このほかにも地元の方々をはじめとして多くの方々のご理解、ご協力によって事故も無く調査・資料整理・報告書が完了する運びとなりました。これもみなさまのご協力の賜物であります。ここに紙面をもって感謝の意を表します。



第 3図 野方久保遺跡群と周辺の遺跡(縮尺1/8,000)

— 4 —

## 第Ⅱ章 遺跡の位置と歴史的環境

背振山麓から派生した山塊は北と西に広がり、西の山麓は糸島平野と早良平野を二分する大起丘陵地である西山、飯盛山、叶ケ岳・長垂山・高祖山へと続き、博多湾に達する。北には油山、鴻巣山、西公園と続き、両山塊に挟まれた東西約5km、南北約9kmの平野が早良平野である。

背振山麓の大起丘陵地である飯盛山・叶ケ岳から派生した丘陵は、標高50m~20mの扇状地をヤツデ状に伸ばしながら沖積平野へと続く。遺跡も扇状地の北西端に位置し、先端部は久保遺跡2次調査地点を載せ牟多田遺跡付近まで広がっている。この扇状地には、野方塚原西遺跡、野方塚原遺跡、野方観進遺跡、羽根戸原 A 遺跡群、羽根戸原古墳群、野方観進古墳等を載せる。

一方、野方中原遺跡を載せる扇状地もヤッデ状に広がったもので、野方中原遺跡付近で東西約20mを測り、北へ伸びるが約20mで沖積地となる。野方中原遺跡を載せる扇状地には、野方古墳群A群・B群、野方塚原遺跡、野方大音石棺墓、野方新池遺跡、野方カサネ池遺跡等を載せる。これら二つの扇状地を切断するのが十郎川で、叶ケ岳の谷間から源を発している。

遺跡は福岡市西区大字野方字久保416番地外に位置し、西側に叶ヶ岳山麓東側斜面が広がる。 国土地理院発行『福岡』1/50,000(NI—52—10—11、福岡11号)の左上端より下に21.3cm、右に4.4cmで、ほぼ東径130°18′44″、北緯33°33′11″に位置する。

叶岳山麓の南側に古代からの幹道が開かれ、これを広石峠と呼び早良平野と糸島平野とを結ぶ幹道であり、額田郷に比定される野方を中心として、この幹道及び十郎川沿いには数多くの遺跡が分布する。北には弥生時代後期から古墳時代初頭の墳墓群が検出された宮の前遺跡群、縄文時代前記の遺構や弥生時代後期~古墳時代初頭の遺構から多量の木製品を出土した湯納遺跡社の治六町ツイジ遺跡は、縄文時代晩期の遺構と鎌倉~室町時代にかけての遺構を検出した石丸古川遺跡がある。西には学校建設に伴う文化財の調査で検出された広石古墳群が、土地区画整理事業に伴う文化財調査の広石遺跡群 C・D 地点や広石古墳群VI・VII群がや鋤崎前方後円墳墳準で等がある。南には飯盛・吉武地区の圃場整備事業に伴う埋蔵文化財の調査や市道、野方・金武線や学校建設に伴う文化財の調査、田・飯盛線の道路新設工事に伴う文化財の調査が行なわれ、吉武遺跡群が、羽根戸原遺跡群が、羽根戸古墳群が、都地遺跡群がの調査がこの数年間で行なわれ遺跡の密度の濃さに加え、その遺跡の内容に驚嘆しているのが現状である。

東には、平安時代の遺構を検出した橋本榎田遺跡<sup>は13</sup>や古墳時代の住居址等が検出された戸切 遺跡<sup>は13</sup>等が上げられる。

発掘調査をもとに周辺の遺跡について述べる。

ここ数年で野方久保遺跡の周辺の調査は4件ほど行なわれている。

国史跡・野方中原遺跡(註14) 1973 (昭和48) 年に調査され、弥生時代後期から古墳時代にかけての集落群と墓地群があり、昭和51年に国史跡として指定された。弥生時代後期には大小二つの環濠があり、大きい環濠は短軸90m を測り、長軸は十郎川によって破壊されたか、十郎川に流れ込むものなのかは定かでは無いが、確認できる長さは110m を測る。この内部に住居址が検出された。小さい環濠は25m×30m の方形を呈し、この内部には住居址は検出されず、掘立柱建物が3棟検出された。

古墳時代には石棺墓が6基と100軒を超す住居址が検出された。石棺墓には獣帯鏡や内行花 紋鏡、勾玉、管玉等が副葬されていた。

昭和61年度に環濠内の遺構確認調査が行なわれ住居址100件以上(内、弥生時代後期の住居址12件)が検出された。

昭和61年度から弥生時代後期の環濠集落をメインとして史跡整備事業が行なわれ、平成3年 度に史跡公園としてオープンした。

野方久保遺跡 2 次調査 1986 (昭和61) 年に調査されたもので、共同住宅建設に伴って発掘 調査を実施した。福岡市西区大字野方字柿ノ内に所在し、十郎川の右岸、1 次調査地点から北 900m に位置し、調査面積670m² である。

弥生時代前期末の金海タイプ甕棺墓から中期後半代の立岩タイプの甕棺墓まで67基の甕棺墓、古墳時代の柱穴群、又、調査区北側では弥生前期末~中期前半代の遺物を含む段落ちが確認できた。

中心は甕棺墓で、67基の甕棺墓のうち中期前半代の汲田タイプに属する甕棺墓から、37.7cm の細形銅剣と、高さ5cmの把頭飾、別の甕棺墓から長さ26cmの細形銅剣、さらに別の甕棺墓から碧玉製管玉が出土した。その他、中期中頃の須玖タイプに近い甕棺墓にはヒスイ製勾玉、別の甕棺墓には鉄鏃が副葬されていた。

甕棺墓はさらに南側に伸びていることが確認された。早良平野で青銅器副葬の墓地は数えるほどしかなく、早良平野における有力な集落があったことが考えられる。 (下村 智)

野方久保遺跡 3 次調査(註15) 野方久保遺跡 1 次調査 B 地点の西側に位置し、1991年に170 m² を調査した。検出した遺構は、溝、土壙、ピットである。溝の一部は古墳時代後期以降の遺構と考えている。下限は中世以降の遺物がまったく出土していないことから、古墳時代後期以降から中世までの次期を考えている。 (宮井善郎)

野方久保遺跡 4 次調査 (註16) 第 4 次調査は、1 次調査区の西南部にあり、北東部へ約150 m の野方一丁目517外に位置する。調査の結果、西側の河川端から25m の距離までは、十郎川の氾濫源が広がり、その東には2.5~4 m の比高差を以て段丘が続く。この段丘上に弥生時代

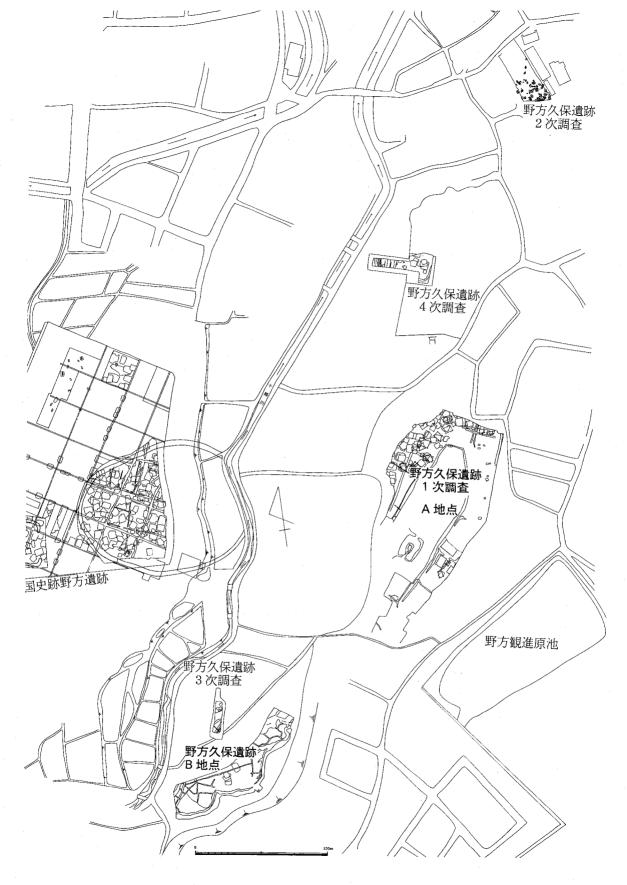
後期の竪穴式住居址八軒以上、土壙16基、溝二条等が検出された。竪穴式住居址は一軒を除けば、一辺3.5~5 m の方形プランをなす。出土遺物は土器・石器の他、SC—66からガラス玉、SC—65から銅鏃(2)、SC—68から鉄斧・滑石製臼玉、SC—90から鉄鏃等が出土している。この他にも銅鏃が2本出土している。 溝は住居址群を囲む SD—67と住居址群の西端を南北流するSD—11があり、この両溝は調査区の南側で「コ」字状に繋がる可能性もある。 (小林義彦)

#### 参考文献及び註

- 註 1 福岡市教育委員会『宮の前遺跡 F 地点』福岡市埋蔵文化財調査報告書第 2 集 1970『宮の前遺跡 A~D 地点』
- 註 2 福岡市教育委員会『今宿バイパス関係調査報告書 湯納遺跡』今宿バイパス関係調査報告書第 4 集 1976
- 註3 福岡市教育委員会『拾六町ツイジ遺跡』福岡市埋蔵文化財調査報告書第92集 1983
- 註 4 日本住宅公団『十郎川遺跡』1982
- 註 5 福岡市教育委員会『広石古墳群』福岡市埋蔵文化財調査報告書第41集 1977
- 註 6 福岡市教育委員会『生松台』福岡市埋蔵文化財調査報告書第226集 1990
- 註 7 福岡市教育委員会『鋤崎古墳』福岡市埋蔵文化財調査報告書第112集 1983
- 註8 圃場整備事業第1~6次調査1981~1986年まで福岡市教育委員会が調査。この他に道路関係で、 野方金武線・出飯盛線の報告書がある。 福岡市教育委員会『吉武遺跡群 I. II. IV. V』福岡市埋蔵文化財調査報告書第127、187、194、
- 註 9 福岡市教育委員会『羽根戸原遺跡』福岡市埋蔵文化財調査報告書第180集 1988 『羽根戸原 c 遺跡』福岡市埋蔵文化財調査報告書第188集 1988
- 註10 福岡市教育委員会『羽根戸古墳群』福岡市埋蔵文化財調査報告書第198集 1989
- 註11 福岡市教育委員会『都地遺跡・金武城田遺跡』福岡市埋蔵文化財調査報告書第186集 1988
- 註12 1980年に福岡市教育委員会が調査

303集 1986、1988、1989、1992

- 註13 1974年に福岡市教育委員会が調査
- 註14 福岡市教育委員会『野方中原遺跡調査概報』埋蔵文化財調査報告書第127集 1986『国史跡野方遺跡』 埋蔵文化財調査報告書第313集 1992
- 註15 福岡市教育委員会『野方久保遺跡1』福岡市埋蔵文化財調査報告書第300集 1992
- 註16 1992年に福岡市教育委員会が調査



第 4図 野方久保遺跡群と野方中原遺跡位置図(縮尺1/3,000)

## 第Ⅲ章 調査の記録

#### 1. 調査の概要

野方久保遺跡 1 次調査は福岡市西区大字野方字久保416番地外に位置し、西に十郎川が北流し東地区のヤツデ状に広がる扇状地に位置する。調査は、1983(昭和58)年 8 月11日から開始し1984年 3 月までの約 6 ケ月を有した。当初の調査面積は、A 地点の4,000㎡ と古墳 1 基の調査であったが、未試掘調査部分が A 地点の南東側(樹木、竹等の伐採が終了していなかった)と B 地点部分があり、 最終調査面積は11,047㎡ となった。 ただ A・B 地点とも上下二面に遺構を検出認めこれを調査した部分(A 地点の上面の調査面積7,806㎡ に対し下面の調査面積5,226㎡、B 地点の上面の調査面積3,241㎡ に対し、下面の調査面積3,241㎡。これを加算すると6,482㎡)があり、これを加えると19,514㎡ である。

調査が進むにつれて遺構面が上下二面検出され、竪穴式住居址が70軒、水田址、掘立柱建物等が検出された。時期的には、弥生時代後期から鎌倉時代・室町時代までの期間に古代の人々の生活空間場所として利用されていたことが判明した。

当遺跡は遺構の密度がかなり高く、十郎川の対岸にある国史跡・野方中原遺跡にも劣らない 遺跡であり、豊富な資料が記録保存された。

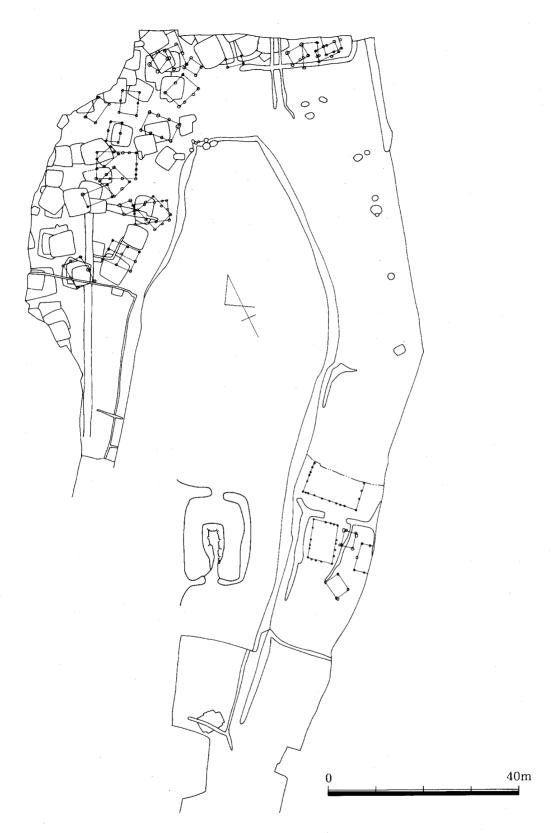
#### A 地点の調査概要

飯盛山から叶ケ岳に延びる山麓から東になだらかな丘陵が続く。丘陵はヤツデ状に広がり室 見川河畔まで続く。A・B地点はヤツデ状に延びた台地上とその谷部に位置する。A 地点の台 地には古墳1基と竪穴式住居址・溝状遺構が、谷部には掘立柱建物を初めとして竪穴式住居址 60軒、溝状遺構が検出された。遺跡の立地としては、台地の北側に位置しているにもかかわら ず数多くの竪穴式住居址が検出された。

古墳は台地上に1基だけ現存する方墳である。石室は南に開口し、石室内部、羨道部全域にかけて攪乱を受けており、特に左側壁部はダイナマイトによる破壊を受けている。このため遺物の遺存状態は悪く時期を決定する遺物は少ない。

**竪穴式住居址** 台地から一段落ちた段丘上に約61軒の竪穴式住居址が所狭しと建ち並んでいる。当遺跡では、西から北側にかけて住居址を築造している。これは立地によるものであろうか。冬には玄界灘からの北風が強いにもかかわらず住居址を築造しているのは、他の要素が考えられる。

掘立柱建物 台地下北側と谷部の上下二面に掘立柱建物群が検出された。特に谷部上面から



第 5図 野方久保遺跡 A 地点遺構図(縮尺1/800)

は鎌倉時代から室町時代にかけての建物群が検出された。

#### A 地点の調査(第5図 付図-1、2)

A 地点からは、古墳 1 基、竪穴式住居址が61軒、溝状遺構、井戸、土壙状遺構、掘立柱建物等が検出された。時期的には、弥生時代後期から鎌倉時代・室町時代までの期間に古代の人々の生活空間場所として利用されていたことが判明した。

#### 古墳 (第6~11図 PL.13)

台地上に1基だけ現存する方墳である。現在はこの1基だけであるが、おそらく群集していたとかんがえられる。第6図の現況図から墳丘標高は26.040mをもち、中央部が陥没した状況であった。石室内部の確認と羨道部の確認を行なった後、十文字にトレンチを設定し、土層観察と地山の確認作業を行ないマウンドの測量を行なった。

マウンドは西側が急斜面で、一部崩落している部分もある。台地下の遺構の在り方から西側側面の削平は考えられない。

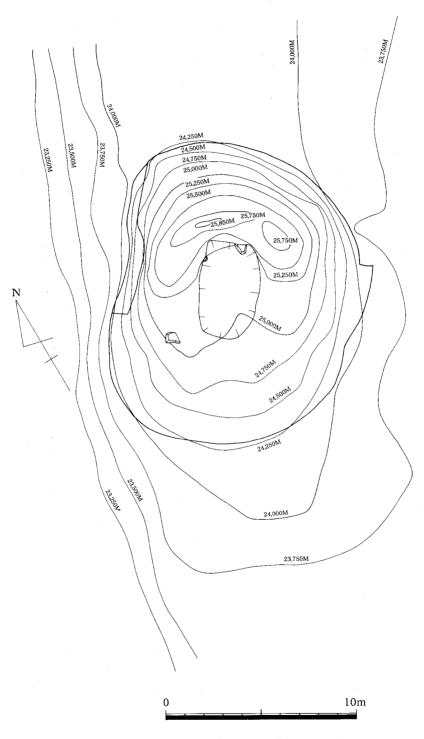
石室は南に開口し、石室内は長軸3.30m、短軸2.15mの長方形を呈し、その比は1.5:1の割合である。石室内部は、左側壁部の袖石が奥壁から2石までしかなく、他はダイナマイトによる破壊を受けている。奥壁は両サイドの石が2段目まで辛うじて現存していた。腰石は石室短軸の長さを有している。右側壁部は、辛うじて腰石が羨道部まで現存している。ただダイナマイトによると思われる裂岩機の痕跡が数多く認められ、腰石までも運び去ろうとした形跡が窺える。このため石室床面も荒らされ現位置を保つものは無に等しく、地山が露出した状態が羨道部床面まで広がっていた。

羨道部は石室同様左側壁は、現存せず辛うじて掘り方により羨道部の幅が確認できた。右側壁は辛うじて2石が現存しており他は掘り方のみであった。石室と羨道部を仕切る仕切石も無い。羨道部は中心から西にずれ、長さ5.80m、幅1.10m で、約2.50m で西に26°振れる。石室と羨道部を加えた全長は、9.10m で石室主軸は N—12°30′—E である。

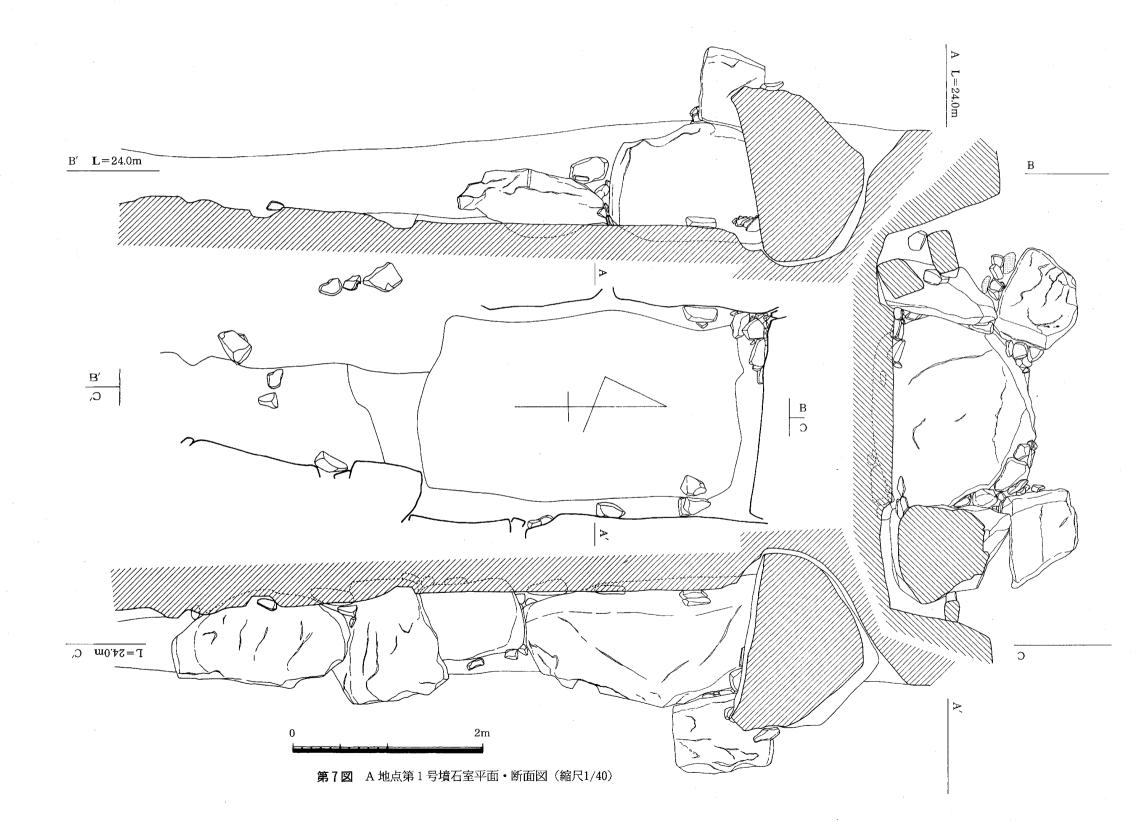
石室内部、羨道部全域にかけて攪乱を受けており、このため遺物の遺存状態は極めて悪く、 現位置を保つのもは数少ない。ただ、羨道部右側外に土器を破壊した部分が検出され、この部 分は明治時代以降の石抜きによる破壊では無く、追葬時における搔き出しの可能性が高い。

墳丘の裾を巡る溝は石室長軸延長上を境として東側に逆「コ」の字状に、西側は、急斜面(約40°の斜面を持つ)を利用して裾端部を残すのみで、 北と南側に溝を上下に配する形状を呈する。

羨道部の延長上にあたる部分は、墓道として確保され両側から始まっている。奥壁側は、陸橋となり、その形状から方形を呈し、溝内部における長軸は17.5m、短軸は10.5m を測り、面積 $183.75m^2$  である。溝まで含めると $20m \times 14m$  となる。



第 6図 A 地点第1号墳現況図(縮尺1/200)



東側溝幅は約 $2\,\mathrm{m}$ 、深さ約 $0.30\mathrm{m}$  を測る。西側は段落ちのため不明であるが、北側の溝幅は $2.4\mathrm{m}$ 、深さ $0.35\mathrm{m}$  を測る。

地山整形は第9、11図に見られるごとく、石室内と溝の部分を掘込み、形造っている。石室 内の掘込みは、長軸8m、短軸4.60mで、床面部分で深さ1.20m、奥壁部で1.5mを測り、標高 23mである。

掘込みの中から鉄鏃(第112図80065~80069外多数)が出土したが、現位置を保っているものは無い。また、須恵器、土師器等も出土しているが、やはり現位置を保っているものは無く、 攪乱によって遊離したものと考えられる。第61図に図示した00001~11が弦室内から出土した ものであるが、土器も鉄鏃と同じように現位置を保っていず遊離していた。土器自体も土師器 皿等が出土していることから、同一時期の遺物だけではない。

墳丘の土層は第9図に示すごとく攪乱が石室横に認められるが、外は版築の状況が非常に良く観察される。

土層は第9図に図示したごとく、第 I 層は茶褐色土を呈し、全体を覆うが、西側ではかなり 土砂の流れが認められる。

第Ⅱ層は東側断面にしか見られず、明茶褐色土を呈する。第Ⅲ層・Ⅳ層も東側断面にしか見られず、第Ⅲ層は黒褐色土と茶褐色土の版築状態を示す。Ⅳ層は茶褐色土を呈するが、Ⅲ層と明確な境は認められず、離れてみるとわずかに異なる程度の差違である。

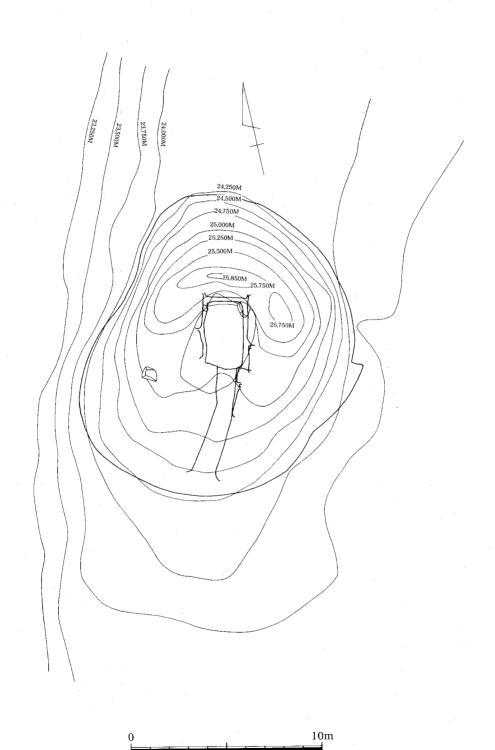
第V層も東側断面にしか見られない土層である。全体に覆い I 層からIV層を載せるところから旧地表面と考えたが、西側・北側には認められない。東側に厚く堆積し、この層から溝が始まり、地山を削り溝を造っている。

第VI層は東西、北側全体に見られる版築で、東西は薄く、北側には厚く堆積した褐色砂質土とバイラン土の互層と成っている。

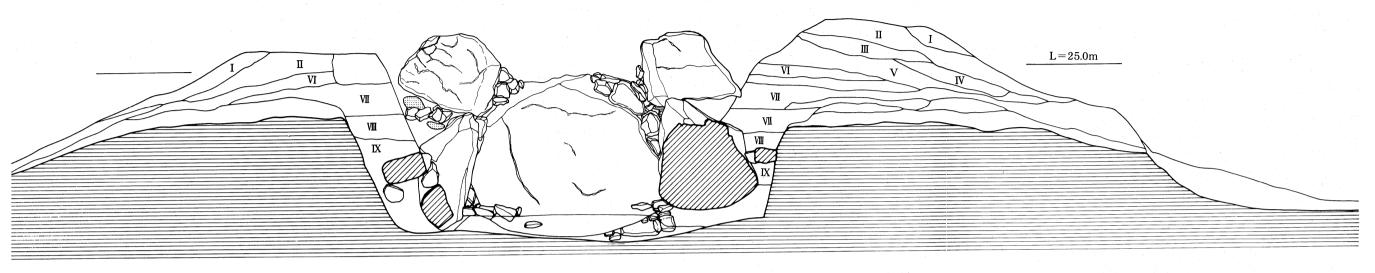
第Ⅷ層も東西、北側全体に見られる版築である。赤褐色土とバイラン土の互層で掘方上面まである。

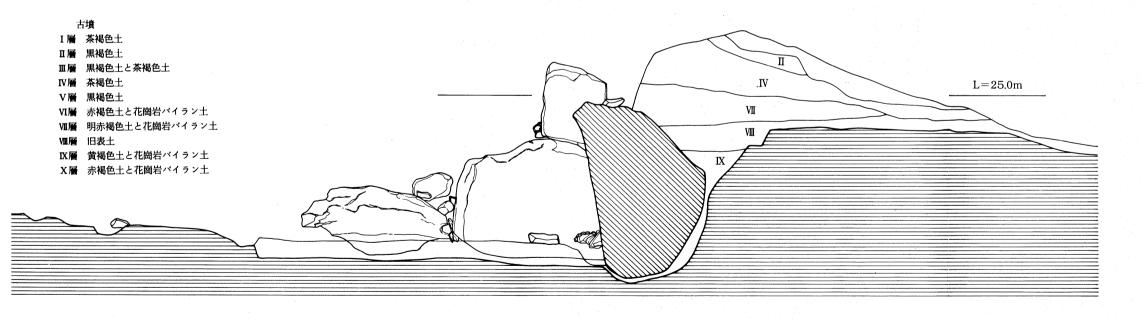
第四層も掘方内に認められる版築で、黄褐色土とバイラン土の互層である。

第IX層は掘方底面に見られる版築で、赤褐色土とバイラン土の互層である。



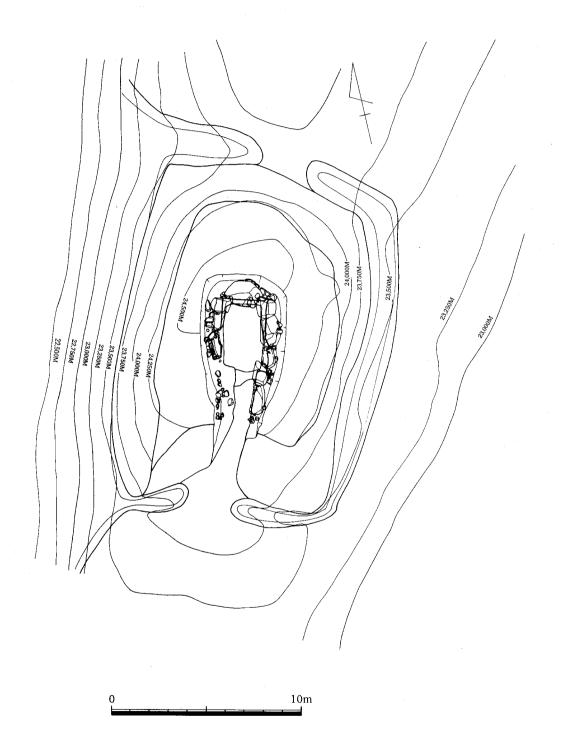
第 8図 A 地点第1号墳墳丘測量図(縮尺1/200)



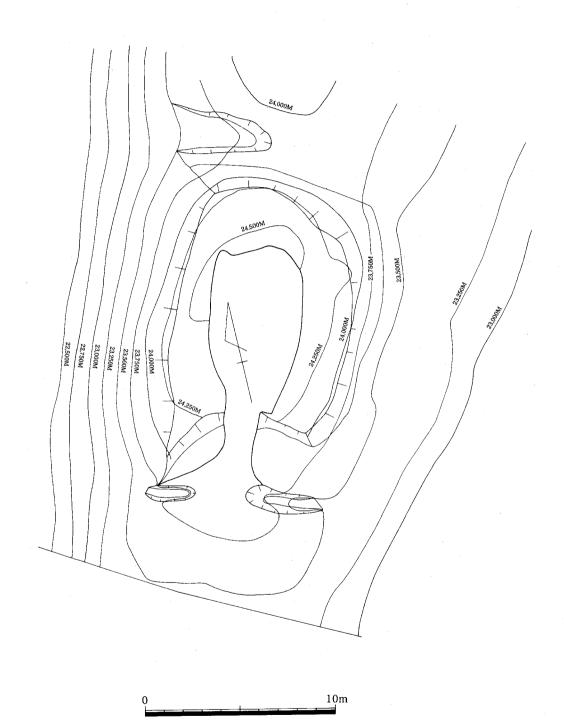


0 2m

**第9図** A 地点第1号墳土層断面・奥壁見透視図(縮尺1/40)



第 10図 A 地点第 1 号墳平面図 (縮尺1/200)



第 11図 A 地点第 1 号墳地山整形図(縮尺1/200)

### 3. 弥生時代から古墳時代にかけての住居址群

#### 概要

台地から一段落ちた扇状地に約60軒の竪穴式住居址が所狭しと建ち並んでいる。本来なら南側に立地しているのが普通であるが、当遺跡では西から北側にかけて住居址が造られており、これは立地によるものと考えられる。 西側約100m に十郎川が流れ、住居址の下段に湿地帯が広がっていること、北東側に向かって台地が広がり、住居址もまた広がりを見せ、環境としても良好な条件が揃っていたと考えられる。

台地の谷部との境に一条の溝が配置され、掘立柱建物と竪穴式住居址との境を成していたと考えられる。約60軒の竪穴式住居址は出土土器から弥生時代後期中頃から布留併行期までの期間に集中し、特に弥生時代後期後半の時期と布留併行期に築造されている。

住居址 SC-03、07、36、38、39、41、45からは、多量の土器・石器・金属器が出土した。特に SC-03、07、45は生活跡そのものが確認され、覆土上部全体に炭化した木材が検出され、火災の状況が認められた。また、住居址内から鉄製品(鉄鏃・刀子・鉄斧)や銅製品(銅鏃・鋤先)、土製勾玉等が出土した。土器の形式分類は付図-3に図示した分類を使用している。

SC—01 (第12、61図 Tab. 1 PL. 4—4、6—3 付図—3)

西部端に検出された遺構で、SC-17との切り合い関係がある。主柱は4本で、一辺が狭い台 形状を呈する住居址である。北・西・南にベット状遺構を配し、壁溝を東と南に巡らす。

出土土器は布留併行期の土器であり、住居址自体もこの時期と考えてよい。

SC-08、15、16 (第12、71、72、75図 Tab. 1 PL. 4-6、5-3 付図-3)

SC-08 08は SC-01の北側に位置し、08が15、16を切る。一辺4.0m×3.4m の正方形に近い 形状を呈し、主柱穴は2本である。SC-08、15、16のすべてを北宋銭を出土した SD-02が切る。

SC-08から出土した土器は後期IV様式から布留併行期である。後期IV様式の遺物は他の住居址の可能性も考えられ、住居址を示す遺物は布留併行期と考えられる。

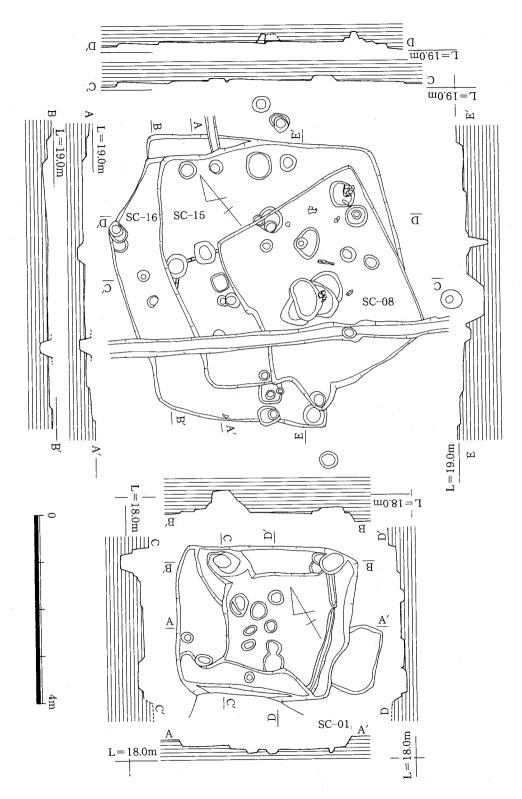
SC-15 15は08から切られ、16を切る。南西隅にベット状遺構を配し、恐らく 4 本の主柱穴であろう。一辺5.0m×5.0m の方形を呈する住居址で床面までの深さは0.16m である。

出土土器は第75図に図示しているが、弥生時代後期IV様式に比定出来る遺物である。

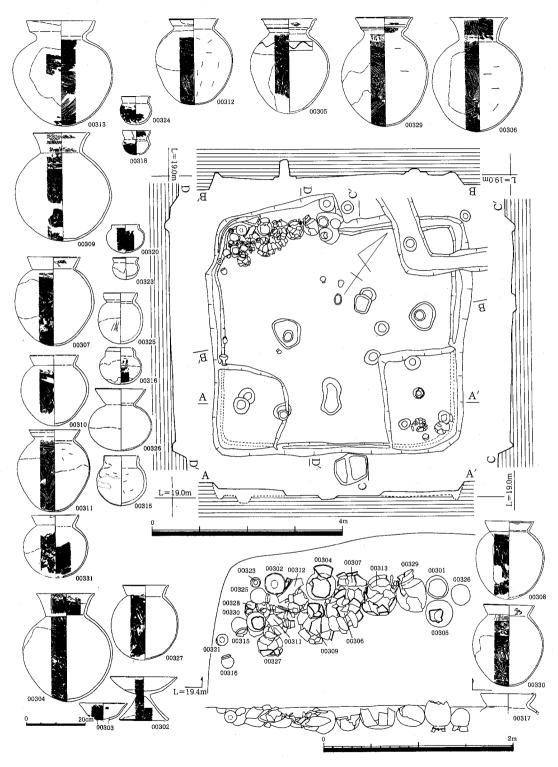
SC—16 16は西側と南側の一角だけ現存する。長方形を呈する竪穴式住居址で、一辺6.0m×3.7mを測る。主柱穴は明らかでない。出土土器は、第75図に図示しているが、SC—15より古い弥生時代後期 II 様式に比定出来る遺物である。

SC-03 (第13、63~67図 Tab. 1 PL. 4-5、9-1~4 付図-3)

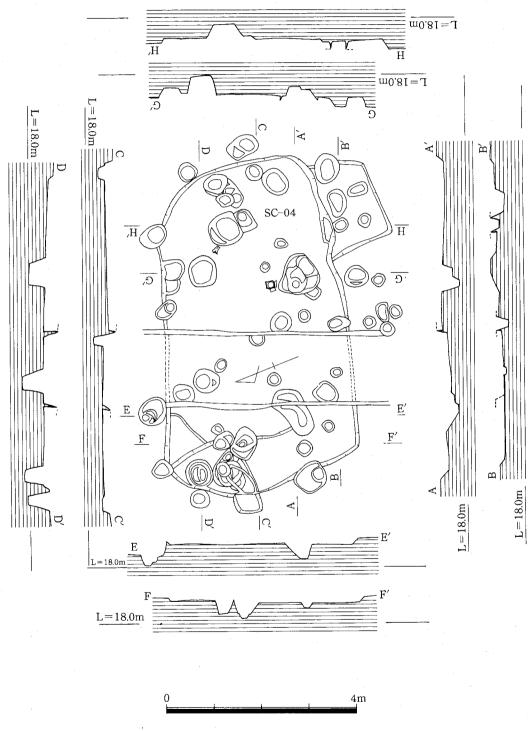
南西部隅にほぼ完全な形で検出された。SC-06に近接し、SX-02を切り、北東隅が SD-01 の溝により一部破壊を受けている。ベット状遺構を南隅と東隅とに配置し、一辺 $5.6m\times5.0m$  のほぼ正方形を呈し、深さ0.3m を測る。



第 12図 A 地点竪穴式住居址 (SC—01、08、15、16) 遺構実測図 (縮尺1/80)



第 13図 A 地点竪穴式住居址 (SC-03) 遺構実測図 (縮尺1/13、1/40、1/80)



第 14図 A 地点竪穴式住居址(SC-04)遺構実測図(縮尺1/80)

西隅に張出し部分を設け、この部分に多量の完形及びそれに近い土器が設置されたまま放置されている。主柱穴は2本で、周辺に壁溝を設けている。覆土上部には多量の炭化した木材が確認されており、この住居址が火災に有ったことが判明した。

出土した土器は第63~67図に図示した。一括土器は、00301、00304~00331までで、00310、00317等はベット状遺構の上から出土した。時期的には、布留併行期に属するものでVI~WI様式に比定できる。

SC-04 (第14、67図 Tab. 1 PL. 3-4、4-4 付図-3)

西側の中央部に位置し、SC-05の北側、SC-20の南側に位置し、SC-25を切る。試掘調査による掘削と柱穴群とにより、大部分が破壊を受けている。隅丸長方形の形状を呈し、一辺6.6m×4.0mで、東西が長軸で恐らく主柱穴は4本と思われ、周辺に小さな柱穴を持つ。これは野方中原遺跡の住居址と同形態を持つ。

出土遺物からVI様式の布留併行期の住居址と考えられる。

SC-05~07、09(第15、28、68~72図 Tab. 1 PL. 4-1、7-2、8-2 付図-3)

SC-05 05は西側中央部に位置し、SC-02、54から切られている。床面も柱穴により攪乱を受けている。長方形を呈し、長軸 $2.6+\alpha$ m 短軸3.0m を測る。出土遺物は無いため時期の確定は出来ない。

SC-06 06は SC-03に隣接し、SD-01と試掘調査により破壊されている。恐らく隅丸長方形を呈しているものと思われる。出土遺物は無いため時期の確定は出来ない。

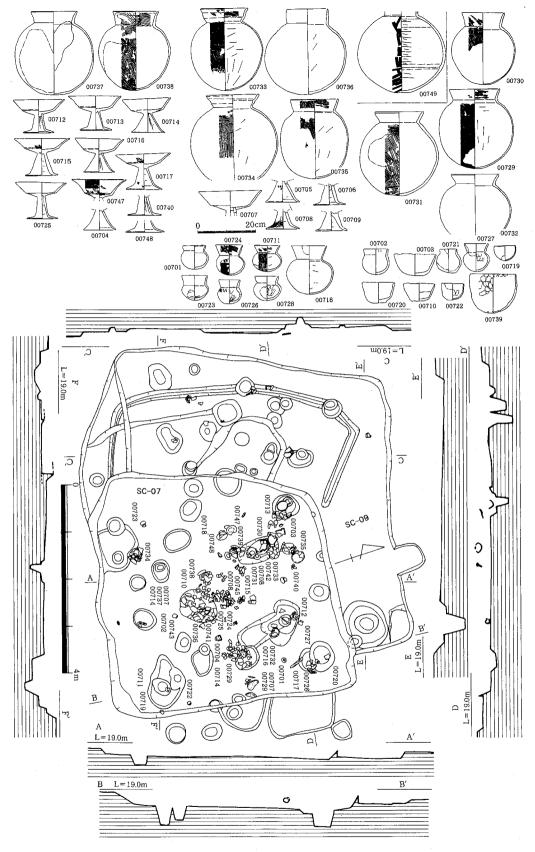
SC-07 07は SD-01の西側、SC-02の南、SC-16の北側に位置し、SC-09を切る。ほぼ隅丸方形を呈し、 $-辺5.1m \times 5.1m$  で、主柱穴 4 本で中央部に支柱穴 2 本がある。床面に遺物が散乱しているがその殆どが現位置を保ち細かく割れている。覆土中に炭化した木材が検出されたことから、火災を起こし放棄したものと考えられる。出土遺物は多く、土器のセットが揃っている。時期的には $\mathbf{W}$   $\mathbf{$ 

SC—09 09は SC—07に切られているため、全容は明らかでは無い。内部に壁溝があることから、拡張された可能性も考えられる。形状は隅丸方形を呈し、一辺 $6.2m \times 6.0m$  で、主柱穴は不明である。

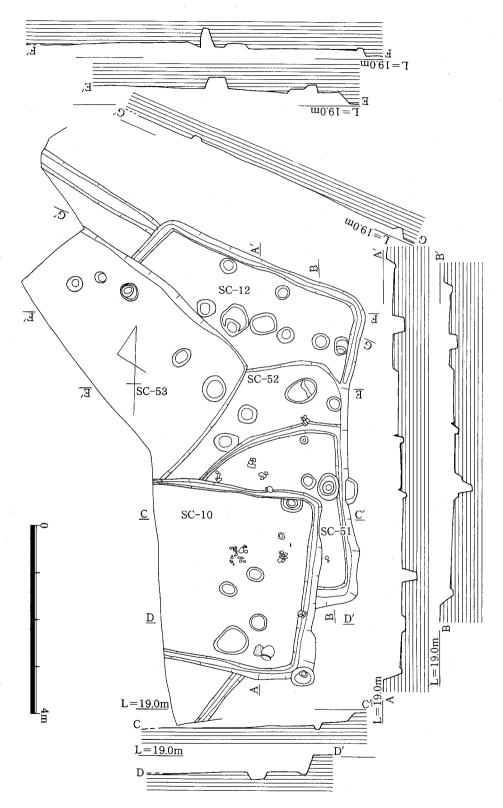
出土土器は、弥生時代後期IV様式から土師皿まであるが、土師皿は SD—02の遺物と考えられ、布留併行期の遺物は、SC—07の物とも考えられ SC—09の遺物としては、IV様式の後期後半の時期と考えられる。

SC—10、12、51~53(第16、73、74、93、94図 Tab. 1 PL. 2—4、5—4、5—5、6—1 付 図—3)

SC—10、12、51~53は南西部端に検出され、SC—13の南側に位置する。切り合い関係は新しい順に SC—10、51~53、12となる。殆ど隅丸方形の形状を呈する。SC—10、51、12から壁溝が検出されたが、他は無い。一辺4.0m×3.3+ $\alpha$ m で、主柱穴は2本(SC—10、12、51)と4本(SC—



第 15図 A 地点竪穴式住居址 (SC-07、09) 遺構実測図 (縮尺1/13、1/80)



第 16図 A 地点竪穴式住居址 (SC-10、12、51~53) 遺構実測図 (縮尺1/80)

53)。

出土遺物は、SC-10からIV様式からIV様式にかけての土器が出土している。SC-51からは弥生後期II様式とIVI様式の土器が出土している。SC-52からは弥生後期II様式しか出土していない。SC-53からIVI様式の土器が出土しているが、これはSC-53を切る遺構のものと考えられる。SC-12からは、弥生後期III様式とIVI様式の土器が出土している。

出土遺物と切り合い関係から SC-12 (弥生後期Ⅲ様式)、SC-51が弥生後期Ⅳ様式、SC-10がⅥ~Ⅷ様式にかけての時期を設定できる。

SC-13、14、18 (第17、74図 Tab. 1 PL. 4-1、4-5、5-4 付図-3)

SC-13、14は SC-12の北側、SC-08の西側に位置し、SD-02によって切られている。SC-13は14によって切られ、西側は段落ちとなっている。

SC—14の形状は方形を呈し、主柱穴は 4 本柱である。一辺4.3m× $3.6+\alpha$ m、深さ0.2m を測る。

SC-13は南西部分が丸みを持つが、他は方形の形状を呈し、周辺四隅にベット状遺構を配する。主柱穴は4本柱である。 $-辺7.8+\alpha$ m $\times 6.4$ m、深さ0.2m を測る。

SC—18は SC—03の北に位置し、SX—04と不整形土壙によって切られているが、ほぼ方形の形状を呈する。主柱穴は 4 本柱で、一辺4.7m×4.4m、深さ0.15m を測る。

出土遺物から SC—14がWI様式、SC—13がVI様式に位置付けられる。SC—18は出土遺物が無いため時期は不明。

SC-17、23、57(第18、75、76、77、94図 Tab. 1 PL. 2-1、4-1、5-4 付図-3)

SC-17は、SC-02、54の西に位置し02、54に切られる。西側と南、北にベット状遺構を配し、ほぼ方形の形状を呈する。主柱穴は4本柱で、一辺5.2m×5.0m、深さ0.34mを測る。

SC-23、57は西側の段落ち部分にある住居址である。 段落ち部分の試掘調査を行なった結果、砂層の堆積が認められ、十郎川の氾濫源であったことが判明した。この二つの住居址も十郎川の洪水によって破壊されたものと考えられる。この他に SC-56、26、23、47、24、29、35等が被害を受けている。SC-23は北西の SC-47を切る形で検出された。詳細は不明である。

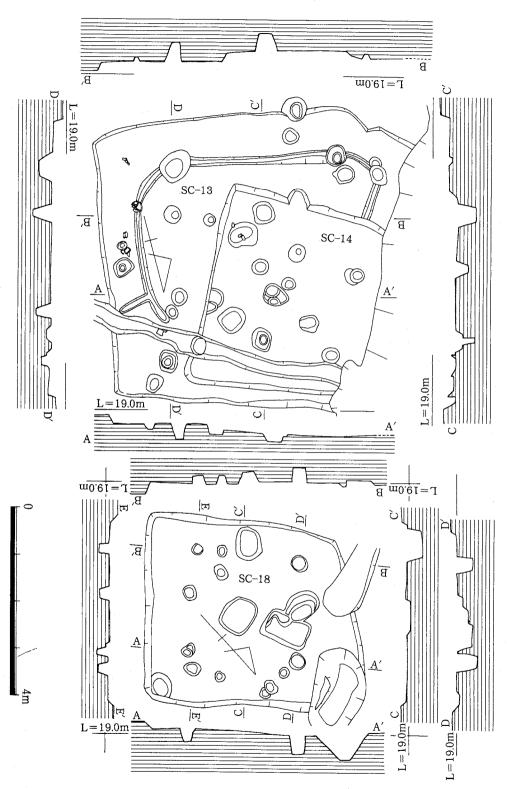
SC-57は SC-09の西側に検出され、詳細は不明である。

出土遺物から SC—17、23は弥生後期IV様式に位置付けられ、SC—57はIU~IU0様式と考えられる。

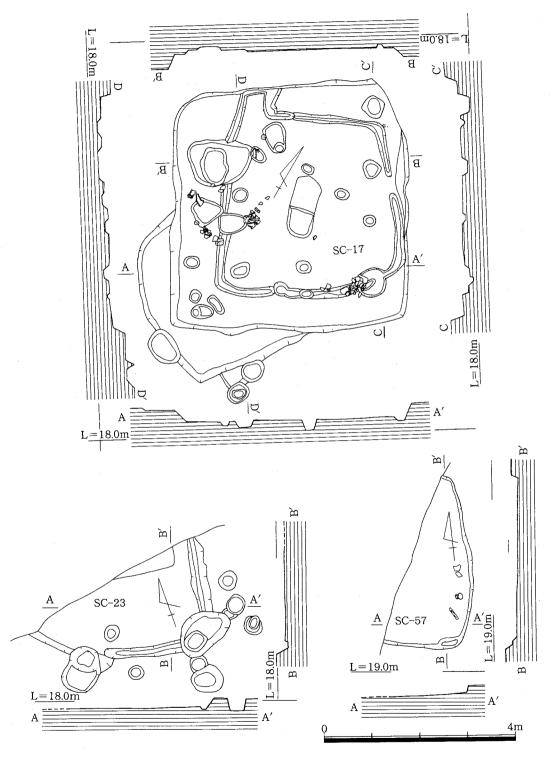
SC—19~20、22(第19、76、77図 Tab. 1 PL. 2—1、4—4 付図—3)

 $SC-19\sim20$ 、22は西側の中央部寄りから検出された。SC-22は段落ち部分により西側部分が破壊されている。切り合い関係は、SC-19が20、22から切られる。SC-20は南側東西部分がやや広く、主柱穴は4本柱で、-205.0 $m\times4.9m$ 、深さ0.22mを測る台形の形状を呈する。

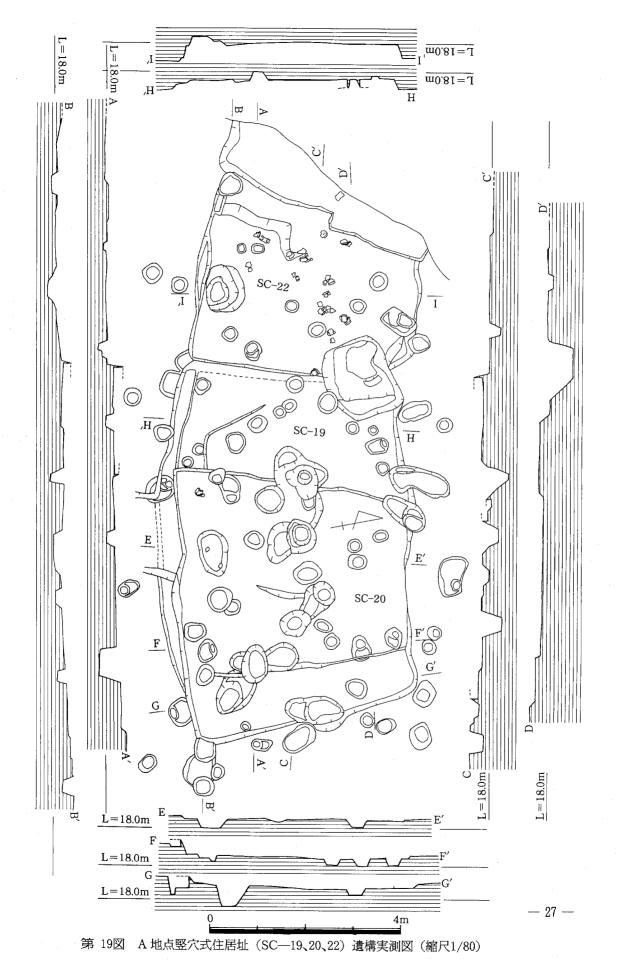
SC-22は方形の形状を呈し、主柱穴は 4 本柱で、一辺 $4.0+\alpha$ m×4.7m、深さ0.36m を測る。 SC-19の形状は長方形と推定でき、主柱穴は 4 本柱で、一辺 $7.0+\alpha$ m×4.8m、深さ0.20m

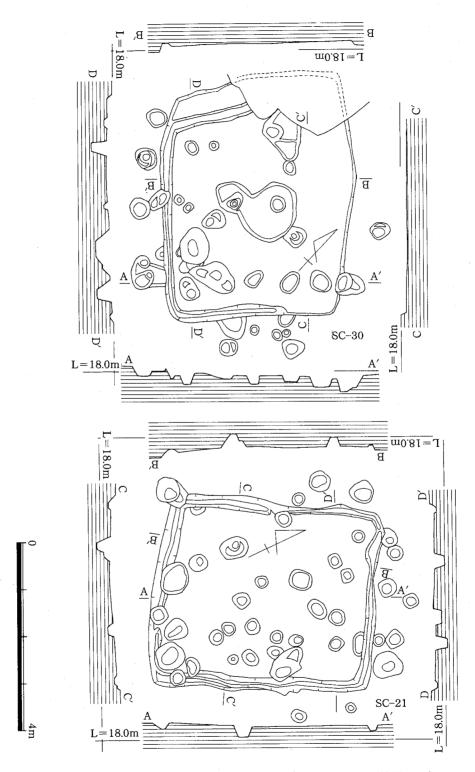


第 17図 A 地点竪穴式住居址 (SC-13、14、18) 遺構実測図 (縮尺1/80)

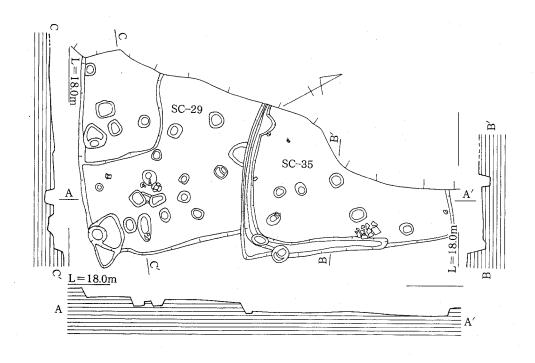


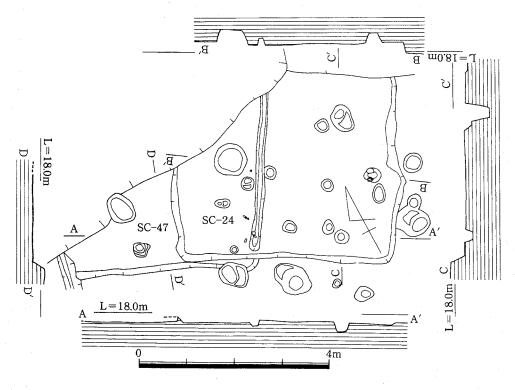
第 18図 A 地点竪穴式住居址 (SC-17、23、57) 遺構実測図 (縮尺1/80)



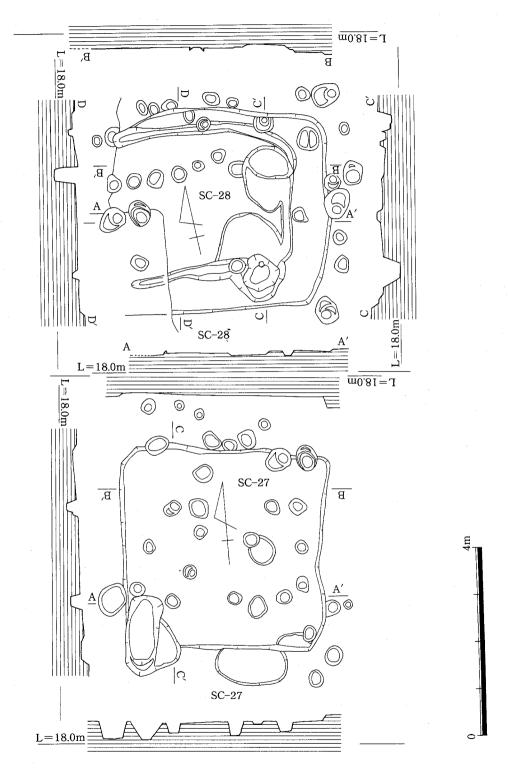


第 20図 A 地点竪穴式住居址 (SC-21、30) 遺構実測図 (縮尺1/80)





第 21図 A 地点竪穴式住居址 (SC-24、29、35、47) 遺構実測図 (縮尺1/80)



第 22図 A 地点竪穴式住居址(SC-27、28)遺構実測図(縮尺1/80)

を測る。

出土遺物から SC-19~20、22とも弥生後期Ⅲ様式に位置付けられる。

SC-21、30 (第20、76、78図 Tab. 1 PL. 2-5、2-6、3-2、3-5 付図-3)

SC-21は SC-20の東側、SC-27の西側に隣接している。方形の形状を呈し、主柱穴は 4 本柱で、-辺4.7 $m \times 4.0 m$ 、深さ0.16m を測る。壁周辺に柱穴が巡る形状は野方中原遺跡の住居址と同形態である。SC-30は SC-29に切られ、SC-24、34に隣接する。方形の形状を呈し、主柱穴は 4 本柱で、-辺5.0 $m \times 4.0 m$ 、深さ0.18m を測る。SC-30も SC-21と同様に壁周辺に柱穴が巡る。出土遺物から SC-21は弥生後期IV様式に、SC-30はVII~VIII様式に位置付けられる。

SC-24、29、35、47(第21、78、80図 Tab. 1 PL. 2-3、2-5、2-6 付図-3)

切り合い関係は SC-29が SC-24、35から切られ、SC-24が SC-47から切られている。すべて段落ちによって削られている。殆ど方形を呈していると推定できる。

出土遺物から SC-24は II 様式から WI様式までの遺物が混在している。 SC-29は WI様式、SC-35は IV 様式 ~ VII様式までの遺物が混在している。

SC—27、28(第22図、 Tab. 1 PL. 2—5、2—6)

SC-27、28は切り合い関係にある。SC-27が28を切る。両方とも方形の形状を呈し、主柱穴は 4 本柱で、SC-27は一辺4.4m×4.4m、深さ0.24m、SC-28は一辺 $4.6+\alpha$ m×4.3m、深さ0.24m を測る。出土遺物は無いため時期の確定は出来ない。

SC-31~34、58(第23、79、80、94図 Tab. 1 PL.2—3、2—5、3—2、3—3、3—5 付図—3) SC-31~34、58は北側の住居址が集中する部分に位置する。切り合い関係は、SC-58が31、32、33から、34が33、32から切られている。SC-31、33は、方形の形状を呈し、主柱穴は4本柱である。SC-31は一辺5.0m×4.8m、深さ0.3m、SC-33は一辺4.5m×3.9m、深さ0.24mを測る。SC-34は長方形を呈する住居址で、全容は不明であるが、長軸が5.5m、深さ0.22mを測る。SC-32、58は不明。出土遺物から SC-31、32とも弥生後期IV様式からVII様式までの遺物が混在している。

33はVI様式、34、58はVII様式の土器が出土している。

SC-45は40に切られている。

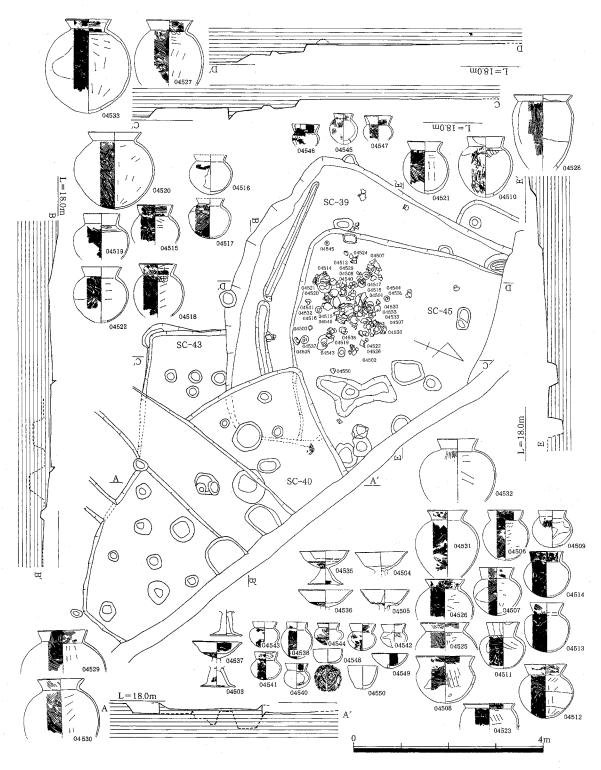
SC-39、40、43、45 (第24、83、89~93図 Tab. 1 PL.2-3、3-3、4-2 付図-3) SC-39、40、43、45は、北側の境界に位置し、SD-03によって区切られた部分にある。これらはすべて切合い関係にあり、SC-43が39、40、45に切られる。SC-39は、40、45に切られ、

SC—40は、不整形な方形を呈し、SD—04の2条の溝に切られている。約半分は調査区外のためその全容は不明であるが、恐らく主柱穴4本を持つ。SC—45も約半分が調査区外である。形状的には、方形を呈するものと思われる。遺物が多量に、一ケ所に集中して出土している。覆

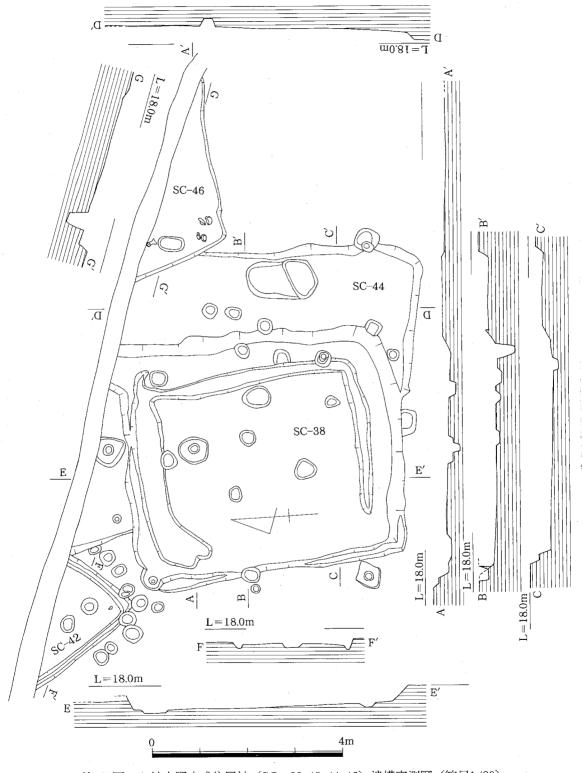
SC-39は、SC-45、40にその大部分を破壊されているため、形状、内容等の詳細は不明であ

土上面から炭化した木材等が出土し、SC-03、07と同じく火災を受けたものと考えられる。





第 24図 A 地点竪穴式住居址 (SC-39、40、43、45) 遺構実測図 (縮尺1/80)



第 25図 A 地点竪穴式住居址 (SC-38、42、44、46) 遺構実測図 (縮尺1/80)

る。一見して隈丸方形を呈すると考えられ、主柱穴も 4 本程度と考えられる。 SC-43はコーナーの一部しか検出できていないため、詳細は不明である。 SC-40は一辺6.9m× $3.0+\alpha$ m、深さ0.26m、45も一辺 $5.0+\alpha$ m× $4.4+\alpha$ m、深さ0.2m、39、43は不明。出土遺物からみて、SC-39は、VI様式に属し、40は、IV様式に属する。45はVI~WI様式にである。出土遺物中に、袋状鉄斧や板状鉄製品等が出土している。43は遺物の出土はない。

SC-38、44、46(第25、81、82、89図 Tab. 1 PL. 2-3、2-5、3-2、3-3、4-2 付図-3) SC-38、44、46は、北側の調査で区境界にある。SC-45の西側、42の東側に位置している。切合い関係は、SC-44を38と46が切る。SC-38は西側を除く三方に壁溝を持ち、主柱穴は2本で方形を呈する形状を持ち、一辺5.8m×5.1m、深さ0.35mを測る。住居址床面近くに多量の土器が出土している。銅鏃、鉄鏃、土製勾玉等の特殊な遺物が出土している。土器も完形に近い状態で出土し、SC-03、07と同様に、炭化した木材が出土していることから、火災により破棄したものと考えられる。SC-46は、その大半が調査区外となり形状は定かでない。一見長方形の形状をする。主柱穴は不明。SC-44は、SC-38に切られ、全体の規模は不明であるが方形の形状を呈し、主柱穴は4本で一辺6.1+αm×3.4+αm、深さ0.2mを測る。出土遺物から、SC-38、44ともIV様式の土器と奈良、平安の土師器の遺物が出土している。奈良、平安の土師器は上部遺構の物と考えられ、SC-38、44とも弥生後期後半のIV様式の時期と考えてよい。

SC-41 (第26、83~88図 Tab. 1 PL. 2-3、3-5、5-1 付図-3)

北西隅に検出され、北側は調査区外である。SC—36を切る形で検出された。形状的にはやや 長方形を呈する。西側にベット状遺構を配し主柱穴は4本と考えられる。ベット状遺構の上に 土器が廃棄された状態で検出された。一辺5.0m×4.0m、深さ0.35mを測る。

出土遺物から弥生後期ⅢB~ⅢC に比定できる遺構と考えてよい。

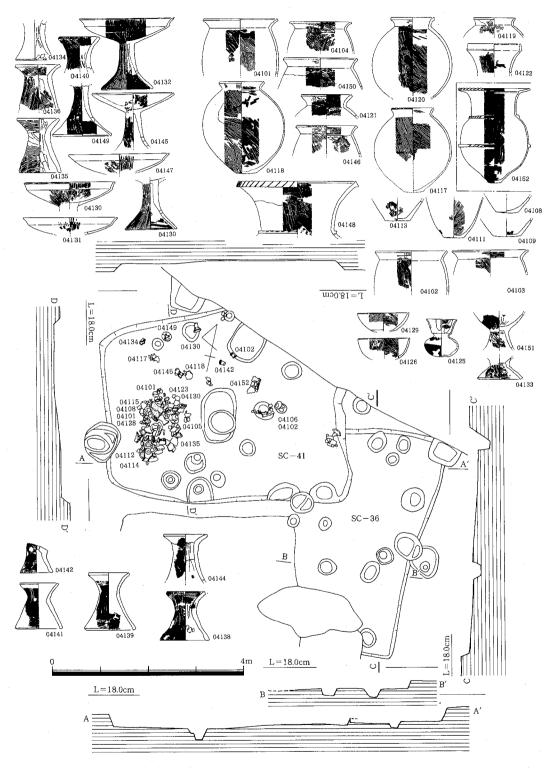
SC-02、54、55、59、61(第27、28、61~63、94、95図 Tab. 1 PL. 3-3、7-6、9-5、9-6 付図-3)

SC-02、54は、西側の SC-17、05に挟まれた部分で検出され、SC-05、17を切る。SC-02は一辺 $4.4m\times4.1m$  の方形を呈し、主柱穴は2本である。床面に土器が散乱した状態で検出された。SC-54も02と同様に方形の形状を呈し、主柱穴4本と推定できる。試掘調査のトレンチで破壊されているが、一辺 $4.1m\times5.0m$ 、深さ0.3m を測る。

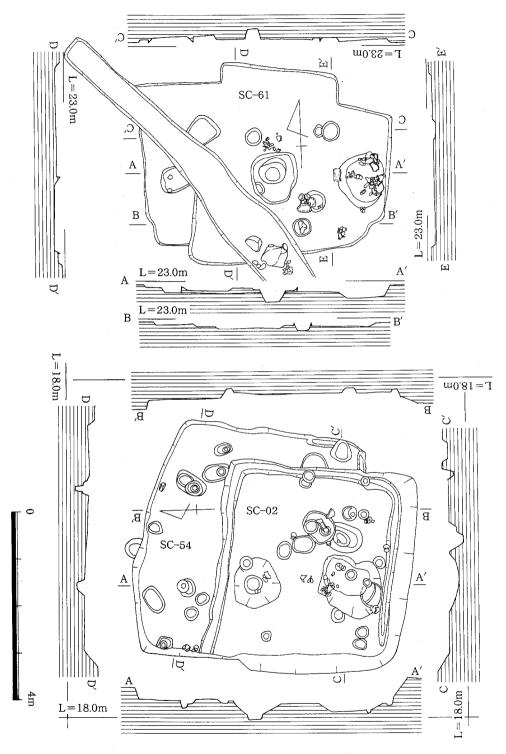
SC—61は、古墳の南側50m に 1 軒だけ検出された。SD—09によって一部破壊されているが、その形状は、他の住居址と異なり三方に張り出し部を持つ。主柱穴は 4 本、東側に土器が散乱していた。

SC-55は、台地直下につくられた住居址で、SC-27、28の南側に位置する。形状は間延びした方形を呈し、主柱穴は4本である。一辺4.5m×4.2m、深さ0.21m を測る。

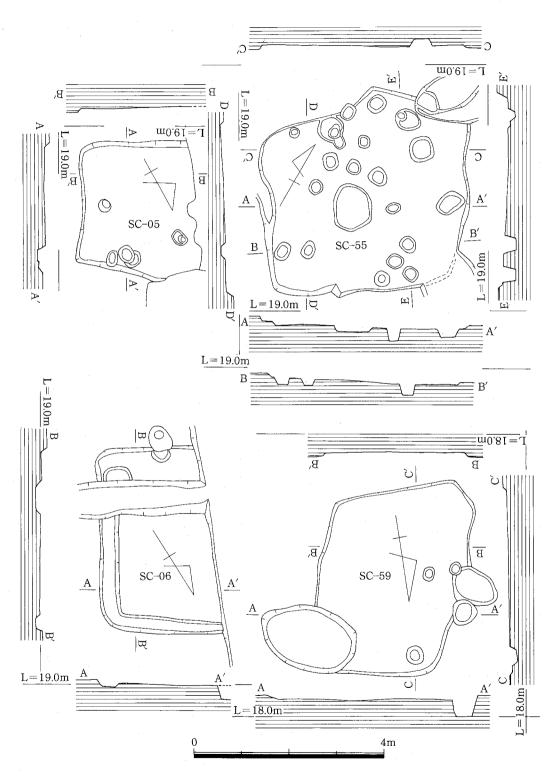
SC-59は55の北側、台地下に位置する。不整形土拡等によって破壊されているが、形状は、 長方形を呈し、一辺4.0m×3.3m である。主柱穴はない。



第 26図 A 地点竪穴式住居址 (SC-36、41) 遺構実測図 (縮尺1/80)



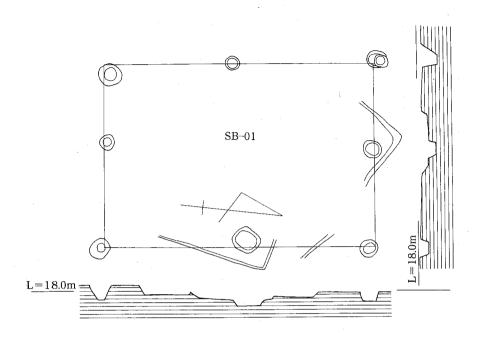
第 27図 A 地点竪穴式住居址 (SC-02、54、61) 遺構実測図 (縮尺1/80)

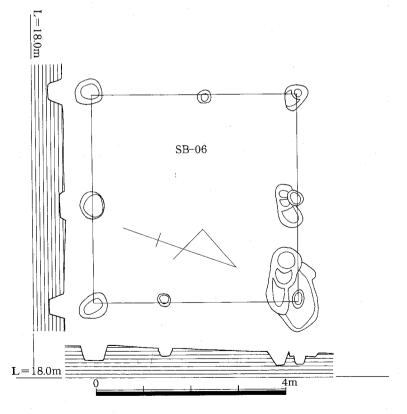


第 28図 A 地点竪穴式住居址(SC—05、06、55、59)遺構実測図(縮尺1/80)

(単位 m)

								(単位	m)
SCNO,	長 軸	短軸	床面までの深さ	Pitの深さ	主柱穴数	切り合い関係	方 位	時 期	挿図
		7.00. 1,00	7(111)	2 10 - 100 -		20 7 11 12400	7.5	771	
A地点住居址			0.05	2.0		2.0.10		L. Driving Ch. 46 Her	10
S C -01	3.9	3.2	0.25	0.6	4	S C -17	N -58° - W	古墳時代前期	12
S C - 02	4.4	4.1	0.24	0.7	2	S C - 54	N -81° -W	古墳時代前期	27
S C -03	5.6	5.0	0.3	0.6	2		N - 53° - E	古墳時代前期	13
S C -04	6.6	4.0	0.16	0.4	4	S C -25	N - 78° - W	古墳時代前期	14
S C -05	2.6+ €	3.0	0.11	0.4		S C -02,54	N -63° -W		15
SC-06	2.5+£		0.13	0.18		- +,	N-33° - E		15
S C -07	5.1	5.1	0.22	0.7	4	SC-09	N-80° -W	古墳時代前期	15
S C -08	4.0	3.4	0.17	0.68	2	S C - 15, 16	N-15° - E	古墳時代前期	12
SC-09	6.2	6.0	0.23	0.66		S C -07	N - 75° - W	古墳時代前期	15
S C -10_	4.0	3.3+£	0.38	0.7	2	S C -51, 52, 53, 12	N-6°-E	古墳時代前期	16
S C -11									
S C -12	4.7		0.22	0.48	2	SC-51,52,53,10	N - 69° - W	弥生時代後期後半	16
S C -13	7.8+ £	6.4	0.20	0.70	4	S C -14	N -82° - W	古墳時代前期	17
S C -14	4.3	3.6+ £	0.20	0.9	4	S C -13	N-28° - E	古墳時代前期	17
						S C -08.16	N-23° - E		12
S C -15	5.0	5.0	0.16	0.2	4			弥生時代後期後半	
S C -16	6.0	3.7	0.12			S C -08,15	N-21° - E	弥生時代後期後半	12
S C -17	5.2	5.0	0.34	0.44	4	S C -01,02,54	N -31° - W	弥生時代後期後半	18
S C - 18	4.7	4.4	0.15	0.60	4		N-40° -W		17
SC-19	$7.0+\alpha$	4.8	0.20	0.76	4	S C -20,22	N - 77° - W	弥生時代後期後半	19
S C -20	5.0	4.9	0.22	0.64	4	S C -19,22	N - 79° - W	弥生時代後期後半	19
		4.0				-50 10,44			20
S C -21	4.7		0.16	0.46	4	0.0.10.00		古墳時代前期	
S C -22	4.7	4.0+£	0.36	0.56	4	S C - 19,20	N - 70° - W	弥生時代後期後半	19
S C -23	3.9+£	2.2+ €	0.16			S C - 47	N -70° - W	弥生時代後期後半	18
S C -24		4.8	0.30	0.74		S C -47,29	N -60° - W	古墳時代前期	21
S C -25						S C - 04			1
S C -26	<u> </u>			<b>!</b>	<del>                                     </del>	- <del></del>	<del> </del>		<del>                                     </del>
	4.4	11	0.24	0.4	+ ,	S.C20	N _ 4° 117		20
S C -27	4.4	4.4	0.24	0.4	4	S C -28	N-4°-W		22
S C -28	$4.6 + \alpha$	4.3	0.24	0.5	4	S C -27	N -82° -W		22
S C -29		1		l		S C -35	N -61° - W	古墳時代前期	21
S C -30	5.0	4.0	0.18	0.36	4	S C -29	N-45° - W	古墳時代前期	20
S C - 31	5.0	4.8	0.3	0.50	4	S C -58,34	N - 25° - E	古墳時代前期	23
S C -32	4.5	4.2+£	0.26	0.45	<del> </del>	S C -33,34,58	N-18° - E	古墳時代前期	23
		***************************************							
S C -33	4.5	3.9	0.24	0.20	4	S C -32,34,58	N-9°-W	古墳時代前期	23
S C -34	5.5	3.5+£	0.22	0.75		S C -33,58	N -20° - W	古墳時代前期	23
S C - 35						S C -29	N-21° - E	占墳時代前期	21
S C -36	4.7		0.19	0.5		S C -41	N −5° − E	弥生時代後期後半	26
S C -37	1,,,			0.0	<u> </u>		1-7	77 = 37 40507153	+
S C -38	5.8	5.1	0.35	0.40	2	S C -44	N -50° - W	弥生時代後期後半	25
S C -39	6.1	5.5+£	0.24	0.70	4	S C -40,45,43	N -88° - E	古墳時代前期	24
S C -40	6.9	3.0+£	0.26	0.30	4	S C -39,43	N - 73° - W	古墳時代前期	24
S C -41	5.0	1.0	0.35	0.63	4	S C -36	N-78° - E	弥生時代後期後半	26
S C -42								弥生時代後期後半	24
S C -43	3 0 ± C	1.0+£	0.24	<del></del>	<del>                                     </del>	S C -39,40	N - 74° - E	Digg-roll viewsies 1	24
					+ .			34-44-3+ 45-50 #050 W	
S C - 44		3.4+£			4	S C -38,46	N - 5° - W	弥生時代後期後半	25
S C -45		4.4+ £		0.70	L	S C - 39	N-8°-W	古墳時代前期	24
S C -46		2.1+£				S C -44	N-86° - E		25
S C -47	3.9+£	2.2+£	0.16	0.20		S C -24	N-67° - W		21
S C -48	1		1			T	T		
S C -49	<b>†</b>	<del> </del>	T	1		1			1
S C -50	+	<del> </del>			+	<del>                                     </del>	<del> </del>	l	1
	2.0	-	0.01	0.00	<del> </del>	0.0 10 10 50 50	NT CO 121	十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十十	110
S C -51	3.8	ļ	0.21	0.68	2	S C - 10,12,52,53	N -5° - W	古墳時代前期	16
S C -52	5.1	1	0.11	0.60		S C - 10,12,51,53	N -5° -W	弥生時代後期後半	16
S C -53	1		1		4	S C -10,12,51,52		古墳時代前期	16
S C -54	5.0	4.1	0.3	0.20	4	S C -02	N - 76° - W	弥生時代後期後半	27
S C -55	4.5	4.2	0.21	0.30	4		N-56° - E		28
S C -56	1.0	7.6	0.21	0.00	+	<del>                                     </del>	1 00 E	<del> </del>	100
	+	17:0	0.0	<del> </del>	<del> </del>		N 00 T	Latente (1) secutor	+10
S C -57	13.6+ €	1.7+£		<del> </del>		1	N-3° - E	古墳時代前期	18
S C -58	1	L	0.40	0.60		S C - 32,33,34		古墳時代前期	23
S C -59	4.0	3.3	0.08	0.10			N −26° − E		28
S C -60		1				1		弥生時代後期後半	1
S C -61	5.2	4.3	0.15	0.35	4		N -81° -W	弥生時代後期後半	27
		1.0	0.10	0.00	+ -1	+	14 O1 W	カ・エ・サーマスを対して十	+41
B地点住居址		1.0	10.10	0.00	<del> </del>	0.0.00	11 000	Lithers (D. ac. see	+
S C -01	4.4	4.0	0.18	0.30	2	S C -02	N -89° - W	古墳時代前期	53
S C -02	5.4	4.1	0.18	0.31	4	S C -01,03,04	N -85° - E	古墳時代前期	53
S C -03	4.6	3.0+ £		0.30	1	S C -02,04	N -82° - W	古墳時代前期	53
S C -04	4.9	3.3+ £				S C -02,03	N -67° - W	弥生後期~古墳前期	
S C -05	6.6		0.34	10.4	1 4		N-24° -W	弥生後期後半	
		5.0		0.4	4	S C - 06			55
S C -06	4.2	3.6	0.22	0.32	2	S C -05	$N-14^{\circ}-W$	古墳時代前期	55
S C −07	欠番				1			l	
S C - 08	5.3	4.4	0.33	0.58	2		N-41° -W	弥生後期後半	56
S C - 09	4.2	3.8	0.08	0.40	2	-	N-50° - E		56
	<u> </u>	10.0	1 - 1 - 1	0.10	_i	.4	1 11 00 1	LI-LENNIER T	100





第 29図 A 地点掘立柱建物 (SB-01、06) 遺構実測図 (縮尺1/80)

## 掘立柱建物

## 掘立柱建物

掘立柱建物は、台地下北側、西側と東側とに区別できる。東側の谷部には、上下二段に柱穴が検出され、柱穴数も多数あるが、規則的に並ぶものはなく、現場での検討、図面上の検討でも建物として確認できるのは少数しかない。掘立柱建物の大多数が西、北側で認められた。A 地点の掘立柱総数は28棟である。なお柱穴の建物等は Tab. ②~④に記載した。

SB-01、06 (第29図、付図-2、Tab. 1)

SB—01は、SC—03と SC—13に隣接し、 $2 \times 2$  間である。方向は N— 7° —W である。Pit—66から、弥生土器片が出土している。

SB—06は、SC—02と SC—04に隣接し、南西隅に位置し、 $2 \times 2$  間で桁行の柱穴が小さく方行がずれている。Pit55から土師器片が出土している。方向は N—70°—E である。

SB-02、04 (第30図、付図-2、Tab. 2、PL.6-6)

SB—02は、SC—18と SX—07に隣接し、南西隅に位置する。方位 N—75°—W で、  $2\times 3$  間 である。柱穴自体が小さく梁行の間隔が異なる。

SB—04は、南西隅に位置し SC—02と SC—05にまたがる。  $1\times3$  間の建物で方位 N—87° — W である。

SB-03、12、16 (第31図、付図-2、Tab. 2、PL.6-6)

SB—03は、SC—18に隣接する。 $2 \times 2$  間の総柱建物である。方位は N— $21^\circ$ —W を計り、出土遺物から弥生時代後期後半に位置付けられる。

SB—12は、SB—03に隣接し、SB—02を切る。  $1 \times 1$  間の建物であるが柱穴の大きさから竪穴式住居址の可能性もある。方位 N—87°—E をとる。Pit107から弥生土器が出土している。

SB—16は、1 × 2 間で SC—41に隣接し、SC—33を切る。方位は N—90°—E で、Pit162、171から土師器片が出土している。

SB--05、08(第32図、付図--2、Tab. 2)

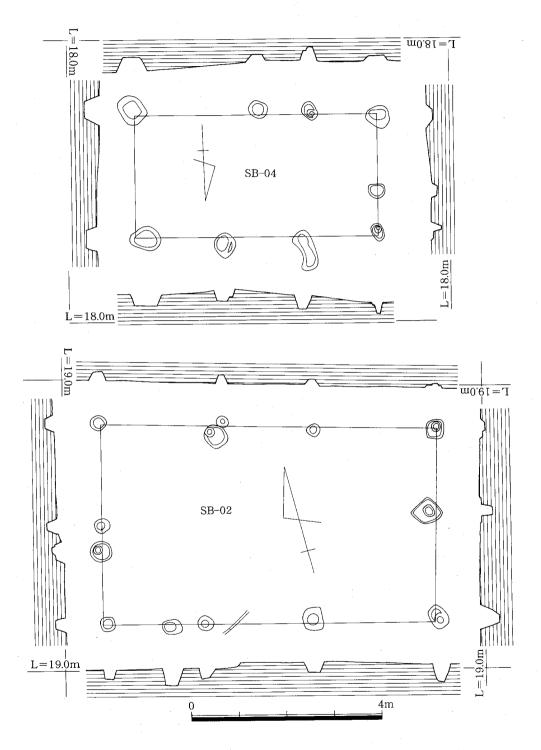
SB-05は、SX-03に接し、SC-03を切る。  $2 \times 3$  間の建物で、桁行の中央部がズレる形態をとる。柱穴が小さく、鎌倉〜室町時代の遺構である。方位 N-44°-W をとる。

SB-08は、2×2間の建物で梁行間隔が2.8m、桁行が2.1m 間隔である。SC-21に隣接しSC-30を切る。方位 N-33°-E をとる。

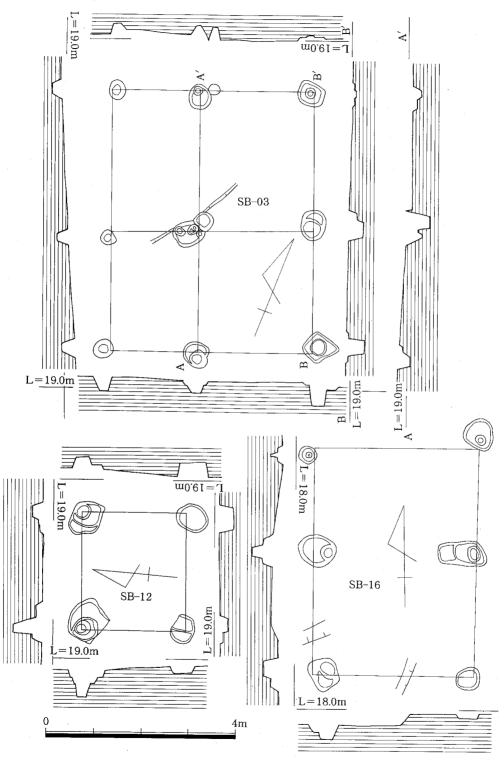
SB-07、18(第33図、付図-2、Tab. 2)

SB--07は、SB--10を切り SC--04に接する位置にある。 $2 \times 3$  間で梁行の間隔が2.9m、桁行の間隔が1.8m で、Pit51から土師器片が出土している。方位 S--67°-W をとる。

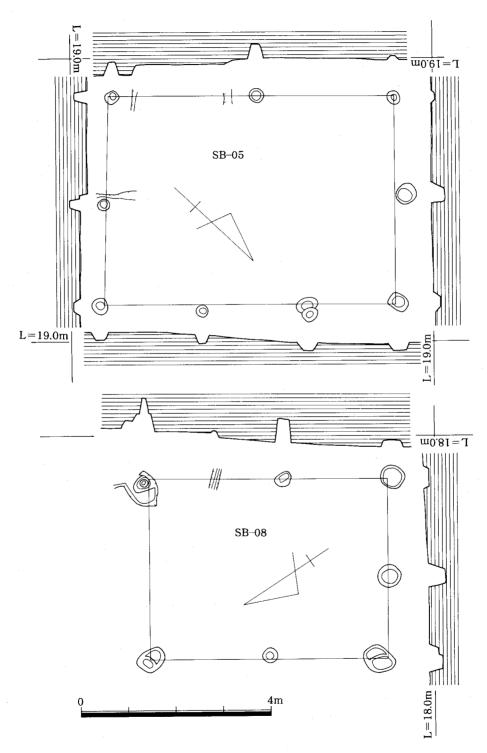
SB-18は、1×2間の小型の建物である。SC-44を切り、SC-39に接する。



第 30図 A 地点掘立柱建物 (SB-02、04) 遺構実測図 (縮尺1/80)



第 31図 A 地点掘立柱建物 (SB-03、12、16) 遺構実測図 (縮尺1/80)



第 32図 A 地点掘立柱建物(SB-05、08)遺構実測図(縮尺1/80)

SB-09、21 (第34図、付図-2、Tab. 2)

SB—09は、 $2 \times 3$  間の建物で、SC—28を切り SC—27に近接する。梁行の間隔2.3m、桁行は 2.2m である。方位は N—46° —W をとる。

SB-21は、 $2 \times 2$  間である。北東側の段落ち部分にあたり、SB-19、20に近接する。梁行の間隔が異なり2.36m、1.68m である。Pit1050から弥生土器片が出土している。

SB—10、11(第35図、付図—2、Tab. 2)

SB-10は、1 × 2 間の建物で、SC-21に近接し SC-20を切る。梁行2.5m、1.5m、桁行2.48 m である。pit45、47から弥生土器片が出土している。

SB-11は、段落ち部分により詳細は不明であるが、現況では 1 × 2 間以上と考えられる。pit 120、121、123~125、128から土師器片弥生土器片が出土し、方位は N-58°-E をとる。

SB—15、20、22(第36図、付図—2、Tab. 2)

SB—15は、SC—31を切り、北側中央部に位置する。  $2 \times 2$  間の建物で梁行の間隔が異なり、3.1m、2.48m となる。方位は N—64°—E である。

SB-20は北東側、段落ち部分により全容を知ることができない。現況では  $2 \times 1 + \alpha$  間である。方位は N-89°-E をとる。Pit1047から弥生土器片が出土している。

SB—22は、 $1 \times 2$  間の建物で、柱穴が大きい。梁行の柱間は2.0m、1.6m である。Pit1042から土師器片が出土し、これから古墳時代初期と考えられる。方位 N—83°—E をとる。

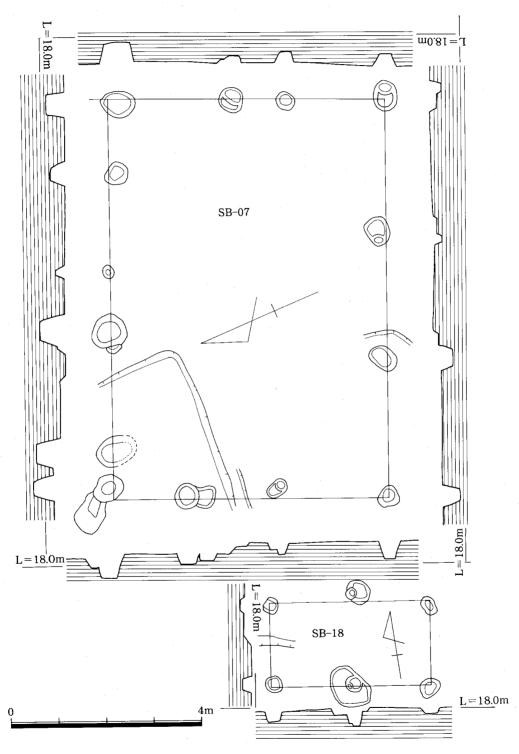
SB—**13、14、17、19**(第37図、付図—2、Tab. 2)

SB—13は、 $1 \times 2$  間の建物で SC—21を切る。梁行間隔が2.1m で、方位は N—34°—E である。SC—21を切ることから古墳時代以降と考えられる。

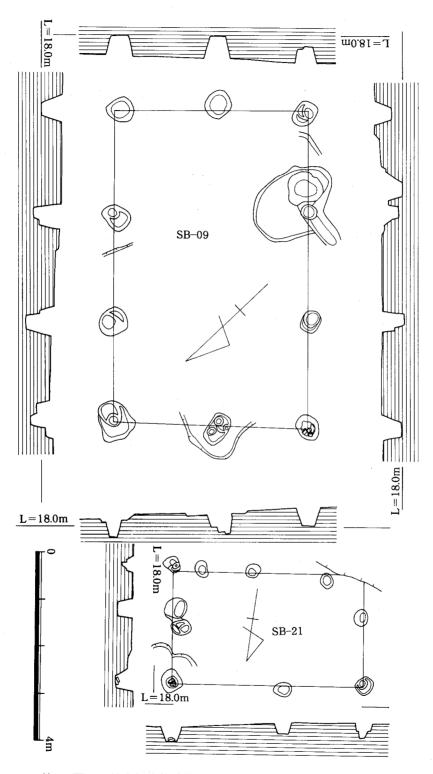
SB—14は、北西隅に位置し  $1 \times 1$  間の建物である。柱穴が大きく  $1 \times 1$  間であることから住居址の主柱穴とも考えられる。SC—33を切る。方位は N—54°—E をとる。

SB-17は、1×2間の建物で SC-38に隣接し、Pit170から須恵器片が出土。方位 N-31°-W。 SB-19は、段落ち部分にかかるもので、北東側隅から検出された。SB-22に近接し、2×3間の建物で、梁行の柱間が不揃いである。方位 N-54°-W をとり、Pit1042から土師器片が出土。 SB-23 (第38図、付図-2、Tab. 2)

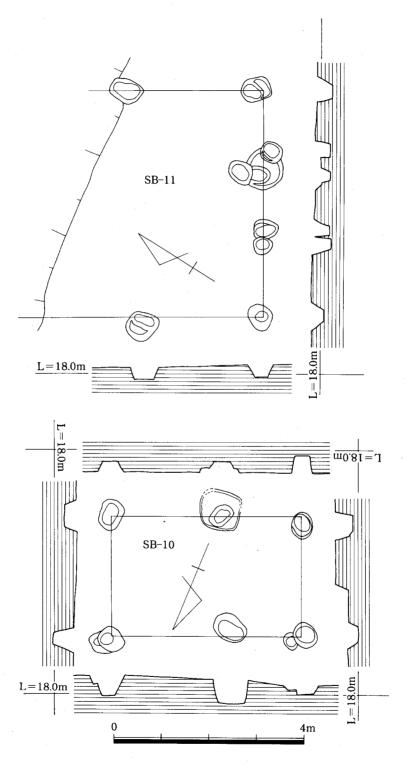
SB—23は、台地東側の谷部上面遺構により検出した。台地下に溝が巡るが、その下端に谷部全体に配置されている。  $7 \times 3$  間 $+\alpha$  の建物であるが、明治以降の開墾によって削平されているための部分が、どれだけ伸びているか不明である。梁行の間隔が1.65m で桁行は2.2m である。この建物が最大で、SB—28と SD—05、06と関係が重要な位置付けとなる。方位は $3+\alpha$ を梁行とすると、N—44°—W の方位をとる。Pit—332から出土している土器は、弥生時代後期後半の土器である所から、ほぼこの時期以降と考えられる。



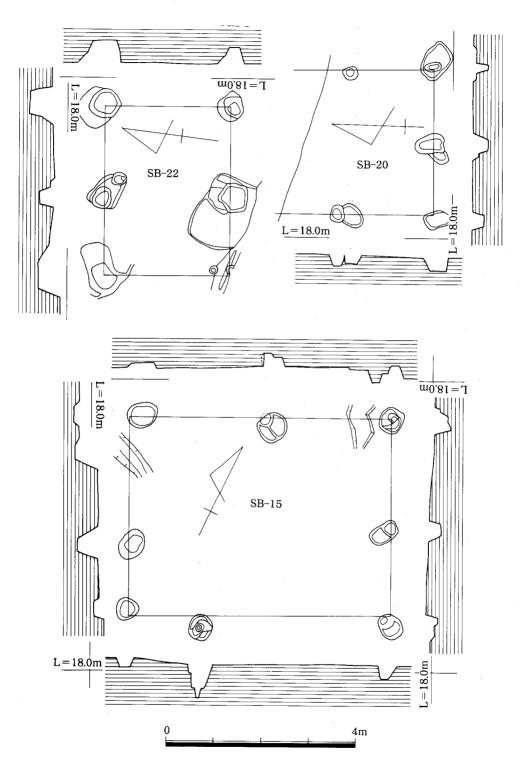
第 33図 A 地点掘立柱建物 (SB-07、18) 遺構実測図 (縮尺1/80)



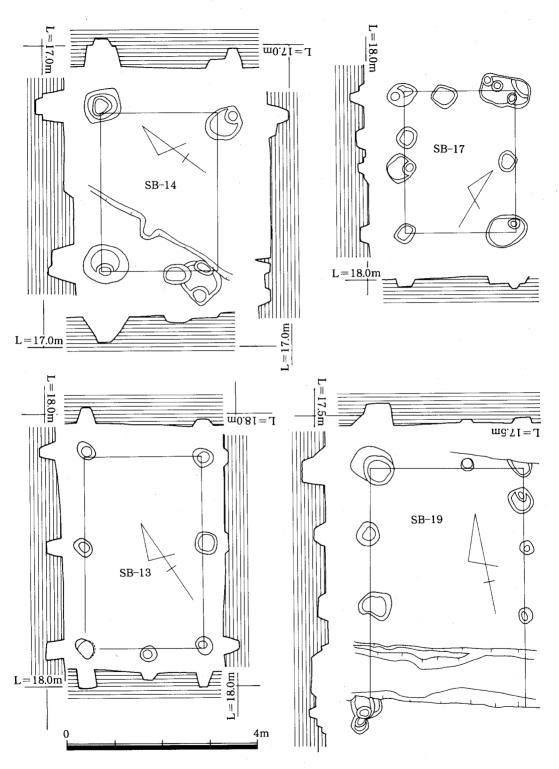
第 34図 A 地点掘立柱建物 (SB-09、21) 遺構実測図 (縮尺1/80)



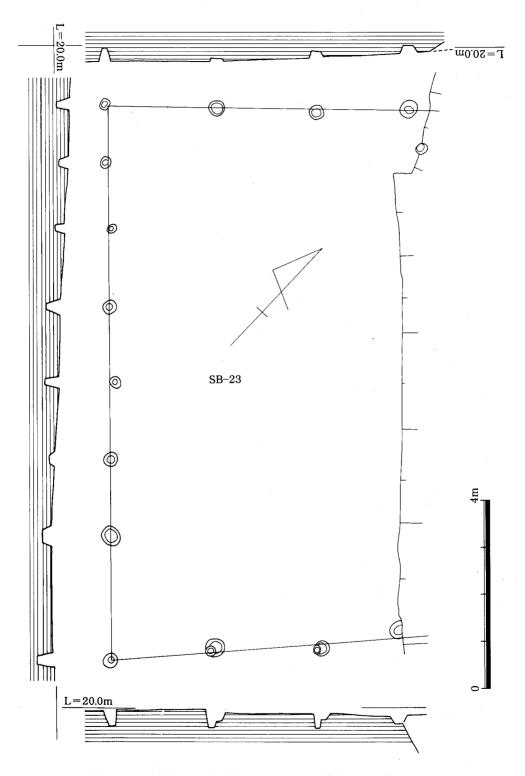
第 35図 A 地点掘立柱建物 (SB-10、11) 遺構実測図 (縮尺1/80)



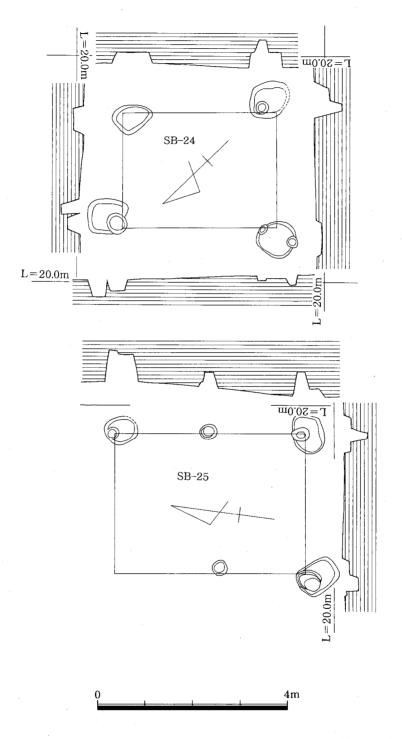
第 36図 A 地点掘立柱建物 (SB-15、20、22) 遺構実測図 (縮尺1/80)



第 37図 A 地点掘立柱建物 (SB-13、14、17、19) 遺構実測図 (縮尺1/80)



第 38図 A 地点掘立柱建物 (SB-23) 遺構実測図 (縮尺1/80)



第 39図 A 地点掘立柱建物(SB-24、25)遺構実測図(縮尺1/80)

## SB-24、25 (第39図 付図-2 Tab. 2 PL. 10-6)

SB—24は、 $1 \times 1$  間の柱穴の大きい建物である。この $1 \times 1$  間は、そのほとんどが、同じ形状を呈することから、竪穴式住居址の主柱穴の可能性も考えられる。方位 N—45°—E をとる。SB—25は、 $1 \times 2$  間の建物で梁行の中間柱穴が小さい。支柱としての役割を持つものかもしれない。方位 N—7°—W にとり、Pit181から土師器片が出土している。

## SB-26、27 (第40図 付図-2 Tab. 2)

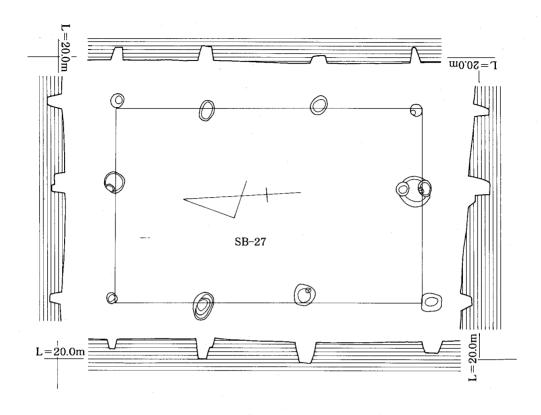
SB—26は、段落ち部分により、その全容が不明である。梁行 2 間  $+\alpha$ 、桁行 2 間である。柱穴の深さのレベルが異なる。方位 N—45°—E をとる。

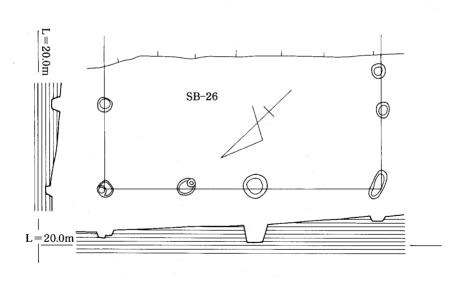
SB—27は、小さな柱穴によって形成された建物で $2 \times 3$ 間である。方位は N—4°—E をとる。 SB—28(第41図 付図—2 Tab. 2 PL. 10—4)

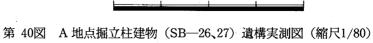
SB—28は谷部に位置するが、南北の斜面にそって溝(SD—05、06)が走り、北側部分で中央部が切れる溝の内に位置する。  $4\times3$ 間の建物である。SB—23とは、方向が多少異なるが、同時期の建物と考えられる。方位 N—35°—E をとり、西側の溝が両落溝の役割をしているものと思われる。

Tab. 2 掘立柱建物計測一覧

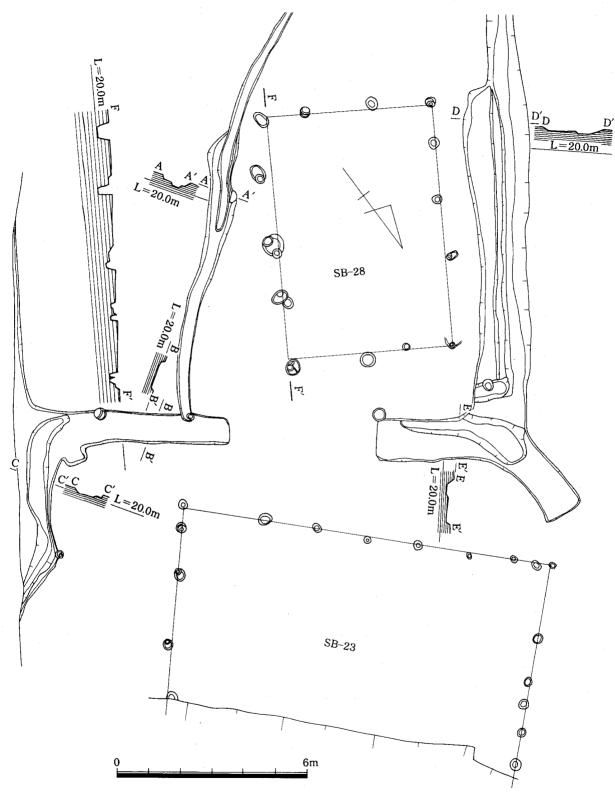
SBNo.	出土地点	長 軸	短 軸	pitの深さ	方 位	挿図番号	時 期
S B - 01	A地点	$3.0 \times 2.6$	1.78×2.1	0.4	N - 7° - W	29	弥生後期
SB-02	A地点	$2.54 \times 2.3 \times 2.1$	$2.12 \times 2.14$	0.4	N - 75° - W	30	古墳前期
SB-03	A地点	$2.94 \times 2.6$	2.0×2.4	0.5	N-21° -W	31	弥生後期
SB-04	A地占	$1.6 \times 1.7 \times 1.8$	2.6	0.3	N 87° W	30	鎌倉~室町
SB-05	A地点	3.1×2.9	2.3×2.13	0.4	N-44°-W	32	
SB-06	A地点	$2.4 \times 2.0$	1.5×2.8	0.3	N-70° - E	29	古墳前期
SB-07	A地点	$2.9 \times 2.7 \times 2.8$	$1.6 \times 1.8 \times 2.4$	0.5	N - 67° - W	33	古墳前期
SB-08	A地点	2.8×2.2	2.1×1.8	0.9	$N-33^{\circ}-E$	32	古墳前期
SB-09	A地点	$2.3 \times 2.2 \times 2.16$	2.2×1.9	0.6	N-46° W	34	古墳前期
SB-10	A地点	$2.5 \times 1.5$	2.48	0.5	N-68° - E	35	弥生後期
SB-11	A 地点	$1.55 \times 1.6 \times 1.6$	2.55× -	0.4	N −58° − E	35	奈良~平安
SB-12	A地点	2.5	2.2	0.6	N −87° − E	31	古墳前期
SB-13	A地点	$2.0 \times 2.1$	2.4	0.32	$N-34^{\circ}-E$	37	古墳前期
SB-14	A地点	3.35	2.0	0.54	N −54° − E	37	古墳前期
SB-15	A地点	$3.1 \times 2.48$	1.9×2.3	0.76	$N-64^{\circ}-E$	36	古墳前期
SB - 16	A地点	$2.2 \times 2.64$	3.4	0.6	N-90° - E	31	古墳前期
SB-17	A地点	$1.0 \times 0.65 \times 1.4$	2.3	0.35	N −31° −W	37	古墳前期
SB-18	A地点	1.8×1.55	1.76	0.36	N 83° W	33	古墳前期
SB-19	A地点	1.4×1.6	2.0×1.2	0.5	N - 54° - W	37	古墳前期
SB-20	A地点	1.5×1.6	2.0	0.34	N -89° - E	36	弥生後期
S B - 21	A地点	$2.36 \times 1.68$	0.8×1.6	0.6	$N-82^{\circ}-E$	34	弥生後期
SB-22	I A地点	2.0×1.6	2.66	0.5	N -83° - E	36	弥生後期
S B - 23	A地点	$1.25 \times 1.4 \times 1.65$	$2.2 \times 2.25 \times 1.6$	0.4			鎌倉~室町
1		×1.6×1.65×			N-44° -W	38	1
		$1.65 \times 2.6$					
SB-24	A地点	3.4	2.5	0.6	$N-45^{\circ}-E$	39	鎌倉~室町
SB-25	A地点	4.0	3.0	0,66	N −7° −W	39	鎌倉~室町_
SB-26	A地点	3.2×2.6	1.8×-	0.4	N-45° - E	40	鎌倉~室町
SB-27	A地点	$1.85 \times 2.1 \times 2.48$	2.4×1.74	0.48	N-4° - E	40	鎌倉~室町
SB-28	A地点	$1.3\times1.2\times1.34\times$	$1.05 \times 1.4 \times 1.2$	0.48	N -35° - E	41	鎌倉〜室町
		1.5×0.6				1	
SB-29	欠 番				<u> </u>		
SB-30	B地点	1.8×2.0	1.8×2.2	0.4	N -90° -W	59	古墳前期
S B - 31	B地点	$1.57 \times 1.9 \times 3.66$	$1.7 \times 1.2 \times 1.8$	0.24	N-40° - E	58	弥生後期
$SB-\overline{32}$	B地点	4.0×3.2	2.5×1.8	0.46	N -53° - E	58	弥生後期
SB-33	」 B 地点	$2.1 \times 2.4 \times 3.3$	3.8	0.3	N-47° -W	58	古墳前期
S B − 34	B地点	1.9×1.9	3.0	0.2	N-40° -W	59	古墳前期
SB-35	B地点	2,5	2.4	0.2	N-48° - E	59	古墳前期
SB - 36	B地点	1.6×1.6	1.3	0.32	N-35° -W	59	弥生後期



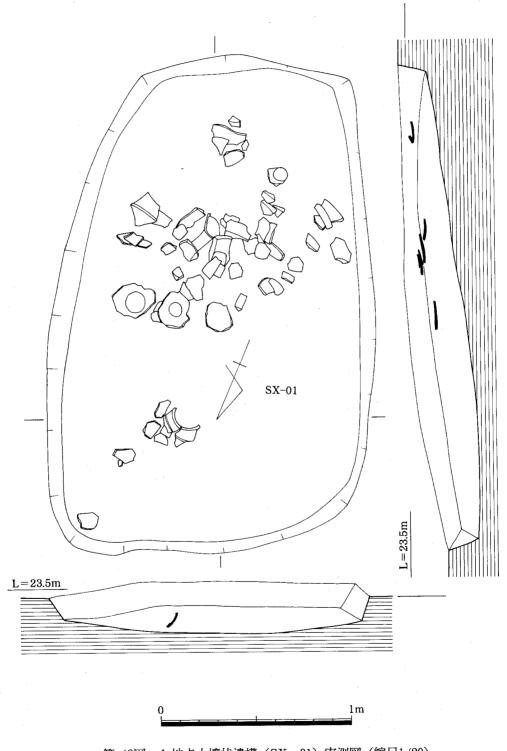




4m



第 41図 A 地点掘立柱建物 (SB-28) 遺構実測図 (縮尺1/120)



第 42図 A 地点土壙状遺構(SX—01)実測図(縮尺1/20)

# その他の遺構

その他の遺構として、意味不明な土壙状遺構(SX)、井戸状遺構(SE)、土壙状遺構(SK)が上げられる。

意味不明な土壙状遺構 (SX)

SX-01 (第42図 Tab. 16)

台地東側の谷部に検出された遺構で、土器が多量に包蔵されていたが、出土した遺物は、床面に接するものではなく、浮いた状態で出土した。形状は隅丸長方形を呈する。

土壙墓とも考えたが、斜面が強すぎたことで意味不明な土壙遺構(SX)とした。出土した土器は弥生後期IV様式に属するタイプであったが、軟弱で取り上げがかろうじてできるものの、表面剝落が著しく土器の洗浄もできない状態であった。長軸2.63m、短軸1.7m、深さ0.26mを測る。

SX-02~09 (第43、44、46図 Tab. 16 PL. 6-5)

SX-02は、溝状遺構とも考えられたが、つながりがないことから SX とした。長軸3.35m、短軸1.0m を測り、深さ0.2m である。出土遺物は第95図-90035の高坏の脚部が出土している。 SX-03は SC-18附近から検出された遺構である。 長軸1.7m、 短軸0.7m、 深さ0.8m を測る。

SX-04は SX-03に切られた状態で検出された。長軸1.7m、短軸0.8m、深さ0.1m を測る。 SX-06は柱穴とも考えたが、 $4\sim5$  段掘りが行なわれている。長軸1.5m、短軸1.1m、深さ0.5m を測る。

SX-07、08は近接して、07が08を切る形をとる。浅い凹状を呈する。07は長軸2.4m、短軸1.8m、深さ0.2m、08は長軸3.5m、短軸3.3m、深さ0.37mを測る。

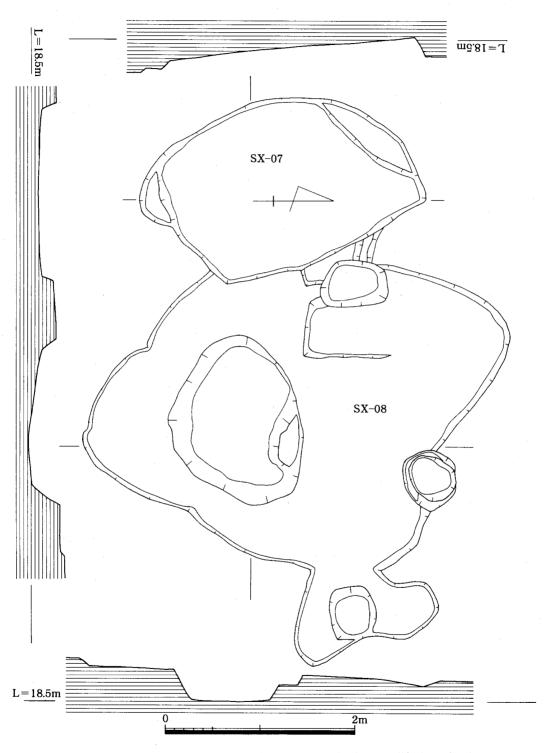
SX-09、試掘調査によって破壊されている。長軸1.8m、短軸0.6m、深さ0.35m を測る。

SE-01、02、SE-01は西側段落ち附近に検出された。井戸としては浅い。他の遺構とも考えられる。SE-02も同様で柱穴かもしれない。SE-01の長軸1.85m、短軸1.75m、深さ0.8m、SE-02は長軸1.73m、短軸1.2m、深さ0.55m を測る。

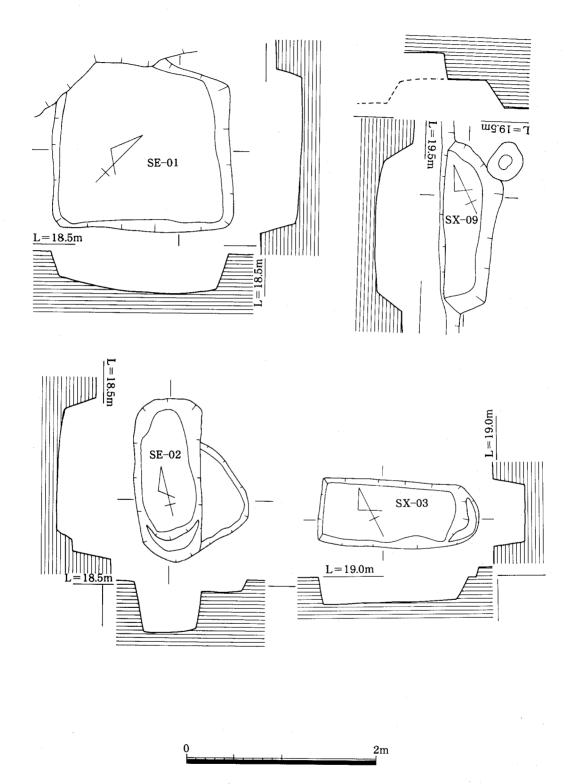
SK--02~05 (第45、46図 Tab. 16)

SK—02は台地東側の谷部から検出された。隅丸長方形を呈し、形状的な判断だけで、土壙とした。長軸1.03m、短軸0.65m、深さ0.23m である。03も同様な理由しかない。長軸0.95m、短軸0.6m、深さ0.12m である。

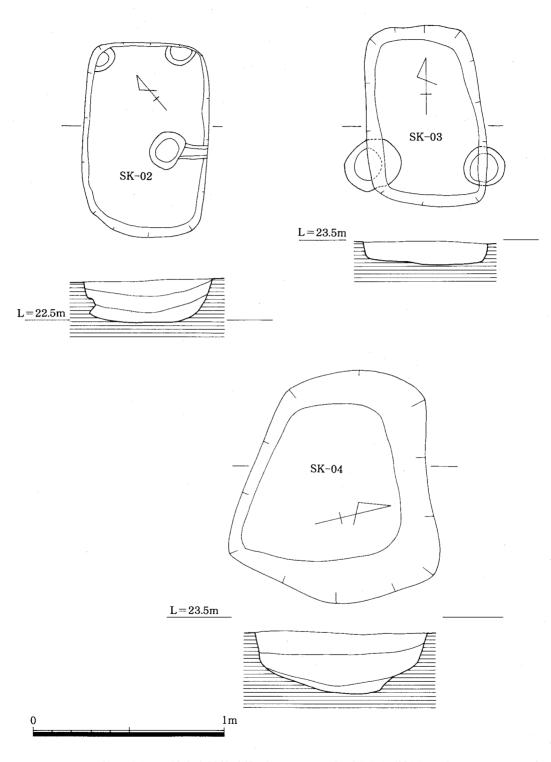
SK-05は上部に石積が行なわれ、小型ではあるが、土壙とした。長軸1.55m、短軸0.65m、深さ0.23m を測る。



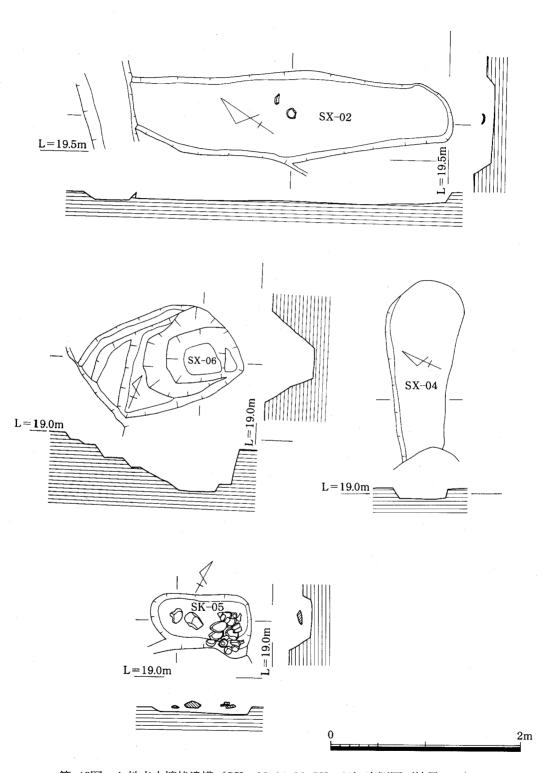
第 43図 A 地点土壙状遺構 (SX-07、08) 実測図 (縮尺1/40)



第 44図 A 地点土壙状遺構(SE-01、02、SX-03、09)実測図(縮尺1/40)



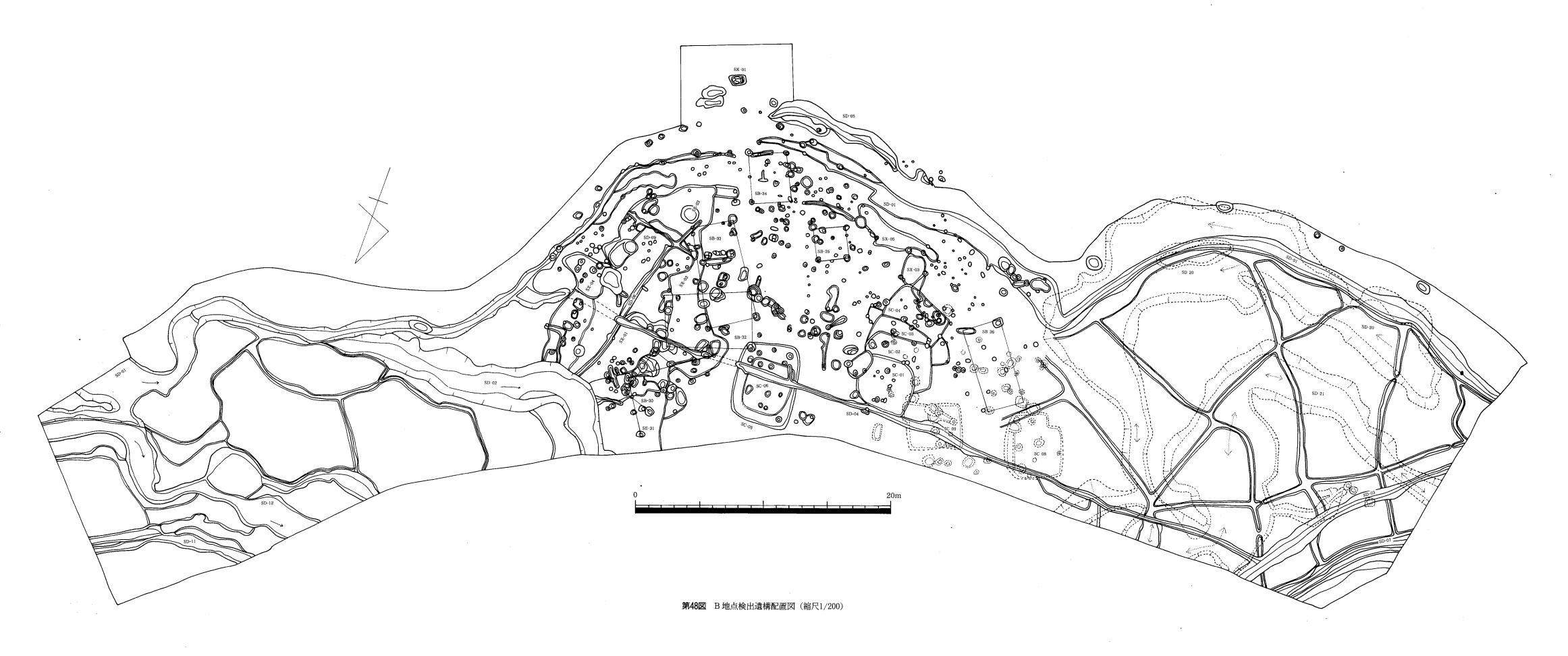
第 45図 A 地点土壙状遺構(SK-02~04)実測図(縮尺1/20)



第 46図 A 地点土壙状遺構 (SX-02、04、06、SK-05) 実測図 (縮尺1/40)



第 47図 野方久保遺跡 B 地点遺構図(縮尺1/200)



# 3. B 地点の調査

## 調查概要

B地点の東側は、野方観進遺跡をのせる標高25mの扇状地で久保遺跡1次A地点までつづく台地である。その北西側の直下、比高差5~6mにB地点がある。

B地点の調査対象面積は、10,000m²以上であったが、盛土(残土置場)が2.5m~3mあり、これを排除するのにかなりの時間が必要であった。このため一番遺構密度の高い部分約3,241 m²を調査した。他の部分には試掘トレンチを入れ、遺構の確認を行ない、ほぼ全域に遺構面を確認できたが、時期・内容については明らかではない。遺構は3面検出され、奈良時代から平安時代にかけての水田址18枚、溝4条が検出された。中央部に布留併行期の溝2条、住居址6軒、掘立柱建物6棟と井戸等が検出され、最下層に弥生後期の住居址2軒、溝状遺構1条、掘立柱建物が検出された。また東側台地を削り、甕棺幕1基が埋葬されていた。

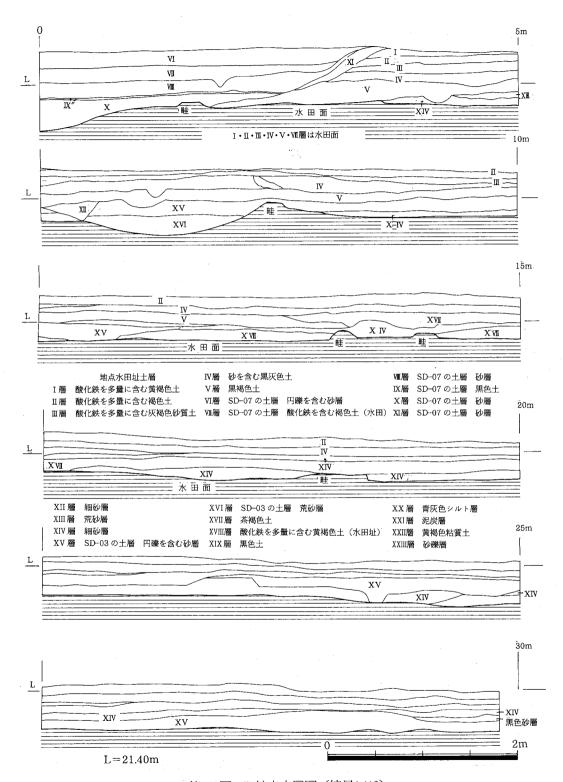
### 土層 (第49、50図)

第49図の土層中 0~3 m に溝が一条入るが、砂の堆積が厚い。最下層の面が第51~第53図に示す水田面である。表土、耕作土、床土、暗褐色土層(40cm)は図上にはない。第 1 水田面からの土層図である。 I~IV層は酸化鉄を多量に含む褐色土で、III、IV層上面には細砂が 2~3 cmを覆っている。0~3 m の水田面は第 2 面の水田面とつながるものである。第 V層は黒褐色土で、これは水田面ではない。VI層、VII層は荒砂、細砂で、約10~20cm覆われている。この VII層はぐと、最下層の水田面となり、畔、水路等が検出される。水田面は、5 面検出されたが、時期的には、最下の水田面が、奈良から平安時代にかけての水田址と考えられるくらいで、上部の水田址は、それ以降としか判断できない。

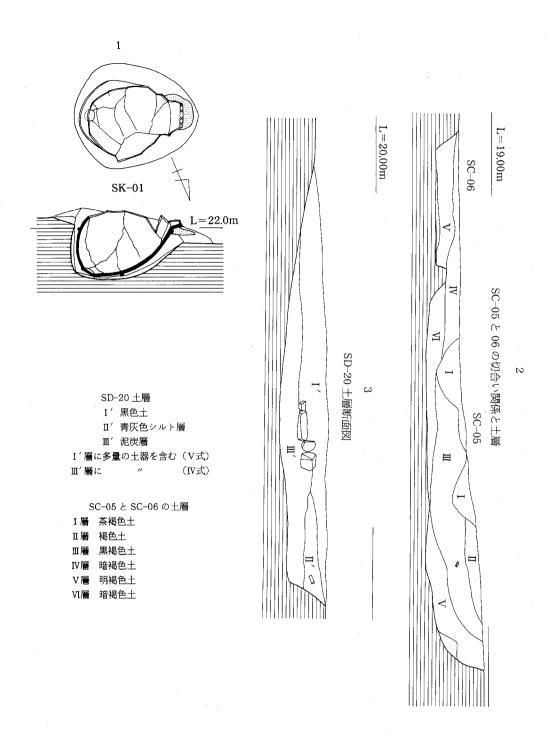
第50図─2 は、SC─05、06との住居址の切合い関係を図示したものである。土層から SC─06 が05を切る。50図─3 は、水田下の溝状遺構(SD─20)の土層断面である。 I 層は黒色土で、この層の中に多量の庄内併行期の土器を含み、 II 層の青灰色シルト層中にも同器種がみとめられる。 III 層は泥炭層である。 IV 層は砂礫層で、 III 層、 IV 層との間に(III 層の最下面)に弥生後期のIV様式の土器群が出土した。

# **小児甕棺墓(SK─01**)(第50図─1 PL. 12─5、12─6)

東側台地の崖面を削り平坦面として、甕棺墓を埋葬している。上甕は大形壺形土器の頸部上位を打ちかき、下甕の内に入れこむ呑口式である。周辺部を粘土で固めている。下甕の埋葬角度は底部より121度である。墓壙は、楕円形を呈し、大きさは、0.6m×0.57m×0.37mである。甕棺内部から第107図の70001の勾玉70002~21のガラス玉が出土した。甕棺墓の時期はいわゆる西新式と呼ばれる甕形土器を使用しているところから弥生後期末に位置付けられる。

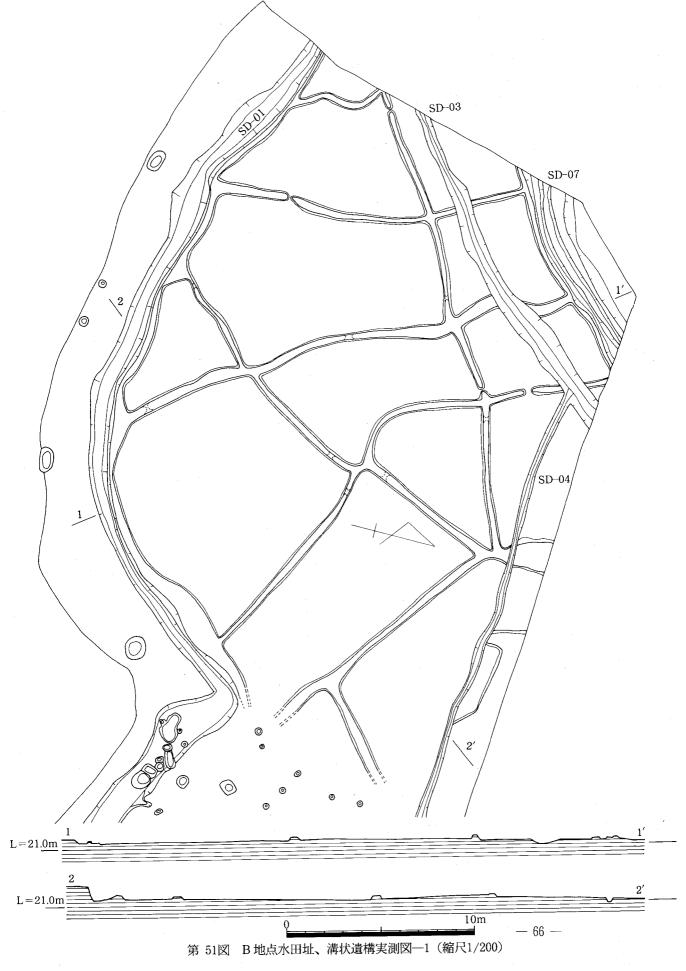


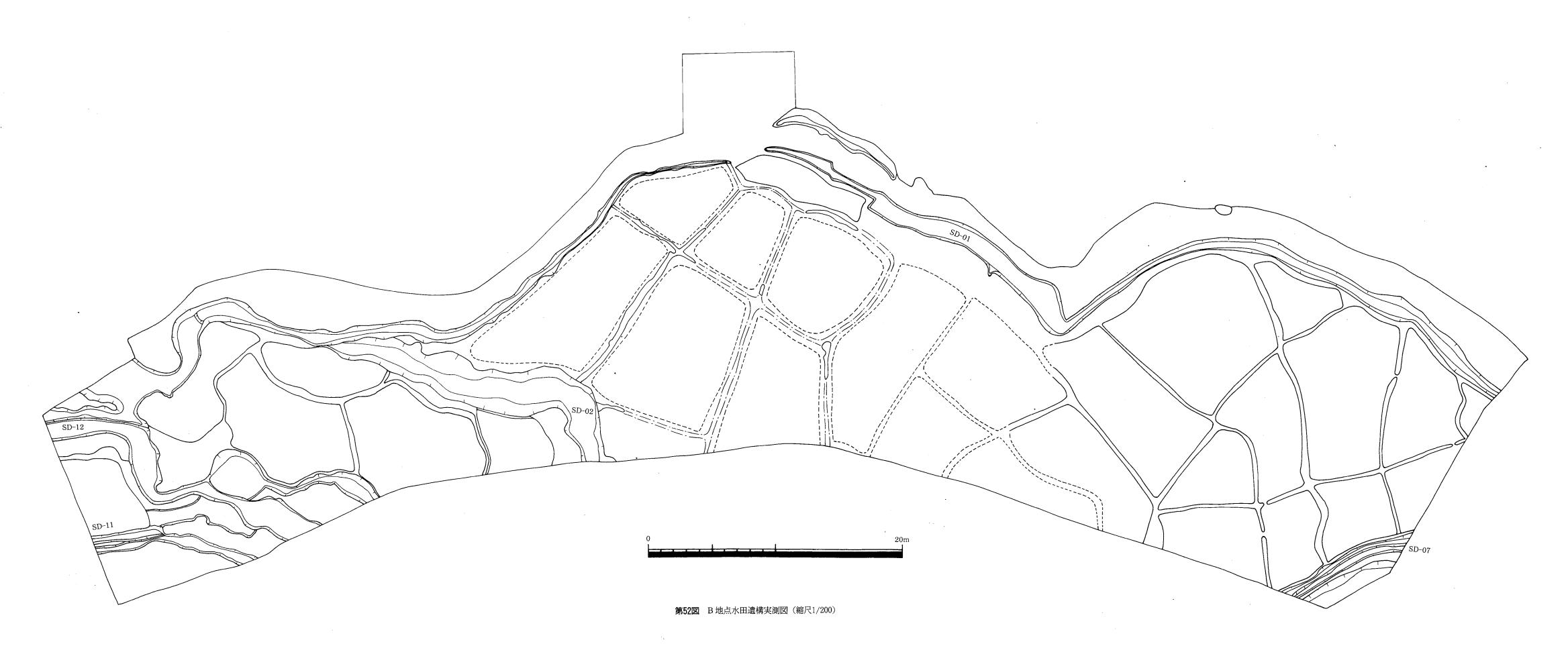
第 49図 B地点土層図(縮尺1/40)





第 50図 B 地点土層図、甕棺墓(SK-01) 実測図(縮尺1/20)







水田址 (第48、51~53図 PL.11—1~11—4)

水田址は、土層断面観察から5面を確認したが、最下面の遺構(上部水田は、砂の堆積が少なく、遺構検出時は、確認できず、土層断面で確認した。)を図示した。東側台地下にそって溝を掘り(SD—01)台地からの雨水等を受ける状況を造り、水田の畔を巡らす。水田は、中央部に認められないが、溝状遺構等をたどっていくと、第52図のごとく推定できる。ただ SD—04を基準としたもので、これは4面目の水田部とも考えられる。SD—04の遺物(第99図)をみると、すべて弥生時代後期の遺物しかないが、SC—01からの遺物の中に高台付塊が認められ、奈良~平安時期の遺物(SE—01より出土の須恵器蓋等)であるところから、この時期を設定した。また他の出土遺物からも(須恵器、板目の土師器皿等)この時期を設定でき、また SD—02、SD—06等の遺物は弥生から古墳の時期の遺物しか出土していない点も考え合わせると SD—04が水田址を切ることから、古墳時代前期の水田と考えた。

水田址一枚の規模は、大小様々で、大きいものは約 $24m^2$ 、小さいものは約 $5.5m^2$ である。水田址西側から十郎川までは10m もない距離で、北西側の溝(SD-07)は、十郎川からの水の中の取り入れ施設と思われる。中央部は、住居址等のため、水田遺構は検出されなかったが、北側では、SD-02を境として SD-01はさらに台地下を続き、SD-12と合流するものと推定できる。SD-12は SD-02と同様に西へ流れる様相を示す。SD-02と SD-12との間に 8 枚の水田址が検出された。SD-02は SD-01より低く、流れは西の方向へと続く。

他に北西側に二条の溝があり、その北側にも水田が広がっている。

この他、中央部に SD-01から枝別れした溝 (SD-08) や SD-02に流れこむ SD-06がある。 **溝状遺構** (第48図 Tab. 16 PL. 11-5、11-6、12-1~12-3)

- SD-01 台地の裾を巡る溝で、中央部で切れる(むしろ中央部から両側に流れ出す状況をとらえた方が良い)。幅1.1m、深さ0.6m である。
- SD-02 北側水田と中央部の境界となる溝で、SD-01と合流し、SD-01が流れ込み、西側へと続く。幅3.3m、深さはSD-01との合流地点で0.5m、西側隅で0.43mを測る。
- SD-03 水田面より上層の溝で南西から北東へ流れる。SD-04が流れ込む状況である。幅 1.0m、深さ0.3m を測る。
- SD-04 東西に流れる溝で最下水田面や SC-05等を切り SD-01の枝別れした SD-03に、結ばれるものと推定できる。溝幅0.5~1.0m、深さ0.2m を測る。
- SD-05 最下水田面に伴う溝である。溝上に畦畔が続くことからその状況が明らかである。 溝幅1.1m、深さ0.65m である。
- SD—12 調査区の東側に位置する溝で、SD—01と接する。蛇行しながら北西に流れ、SD—02との間に水田面8面がある。

# B 地点の住居址

B地点の住居址は、中央部の高い部分に6軒と東側水田面下の下層部分に2軒検出した。中央部には、住居址のほかに凹地が2ヶ所(SX—01、02)不整形土壙状遺構が、4ヶ所ある。このほかに北側に溝が2条検出されている。

SC-01~04 (第54図 Tab. 1 PL.11-6、12-4 付図-3)

SC $-01\sim04$ は、切合い関係である。新しい順から SC $-01\rightarrow02\rightarrow03\rightarrow04$ であるが、 $02\geq04$ によって切られる遺構がある。

#### SC-01

SC-01は、SD-04と土壙状遺構によって切られる。一辺4.4mの方形を呈し、主柱穴2本である。遺存状態は良好とはいえない。出土遺物からVII様式の古墳時代前期と考えられる。

## SC-02

SC—02は、SC—01から切られ、SC—03、04を切る。やや不整な形状を呈する長軸5.4m、短軸4.1m で、主柱穴は、4本柱と推定される。SC—02が遺存状態が良好で深さ0.30m を測る。出土した遺物は、少量であったことと細片であったため図示しなかったが、口縁部、底部の破片から見るとVII様式の古墳時代前期に属する。

#### SC-03

SC-03は、SC-02から切られ、04を切る。検出された遺構残存部分が少ないため、その規模は不明であるが、短軸 $3.0+\alpha$ m、長軸推定4.6m を測る長方形の竪穴式住居址である。出土遺物からV様式の古墳時代と考えられるが、細片のため明確に判断はできない。

#### SC-04

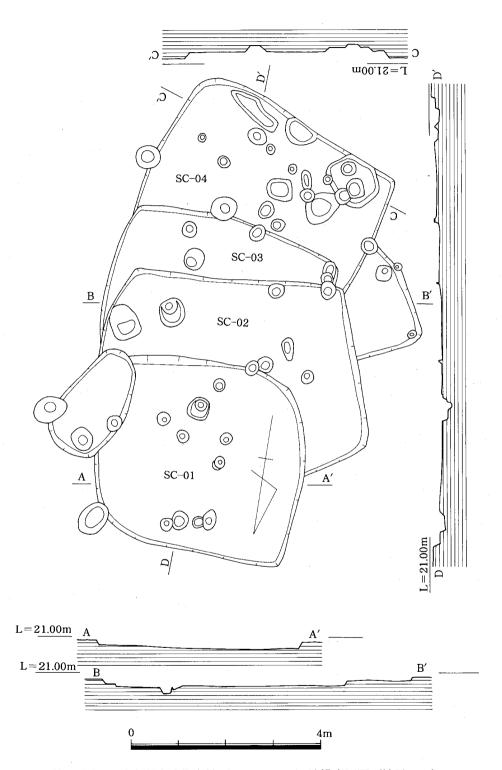
SC-04は、SC-02、03から切られ、形態は、おそらく長方形を呈すると思われる。短軸3.3+ $\alpha$ m、長軸推定4.9mを測り、主柱穴は4本柱である。この住居址からも出土遺物は少なく、図示できる遺物はないが、細片を見るとIV様式からV様式の時期に位置付けられる。

SC-05·06 (第55、96図、Tab. 1 PL. 11-6 付図-3)

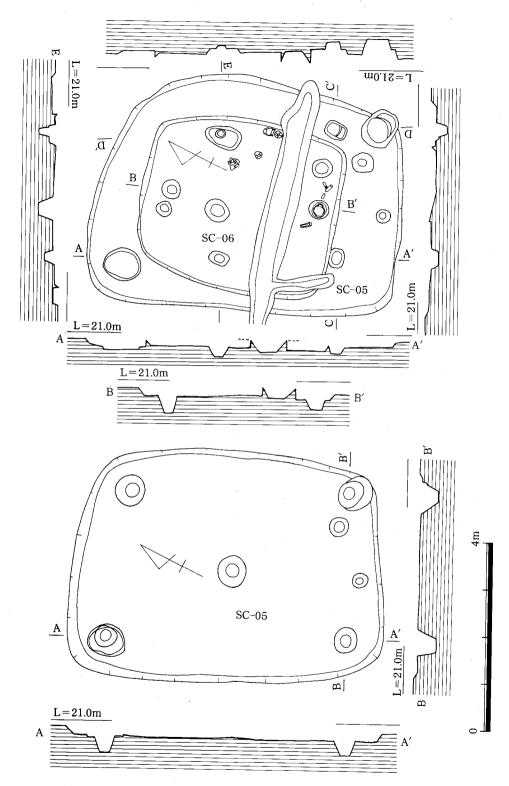
SC—05・06は、中央部の北側に位置し、SC—01~04の東側、SX—02の西側に位置する。SC —05・06とも SD—04によって中央部を切られ破壊されている。SC—05は SC—06によって中央部を破壊されている。発掘調査時は、同一遺構で周辺にベット状遺構を配すると考えたが、調査が進むにつれ、ベット状遺構ではなく別の遺構で住居址であることが判明した。 SC の番号が逆についたのはそのためである。

# SC--06

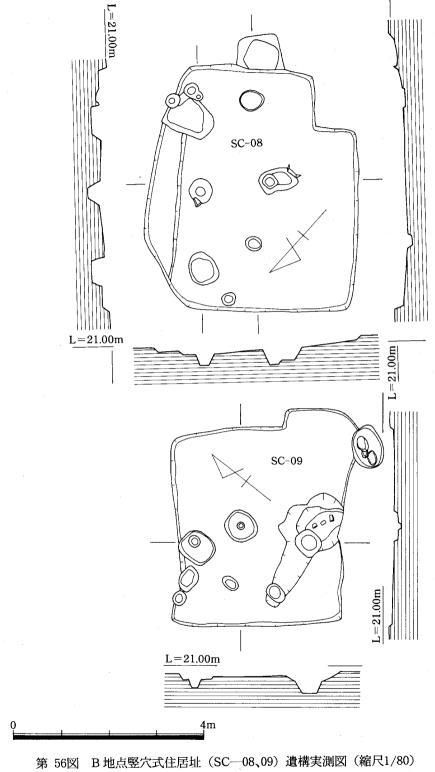
SC-06は、SD-04によって中央部を切られる。中央部の北側隅に検出した。削平を受けてい

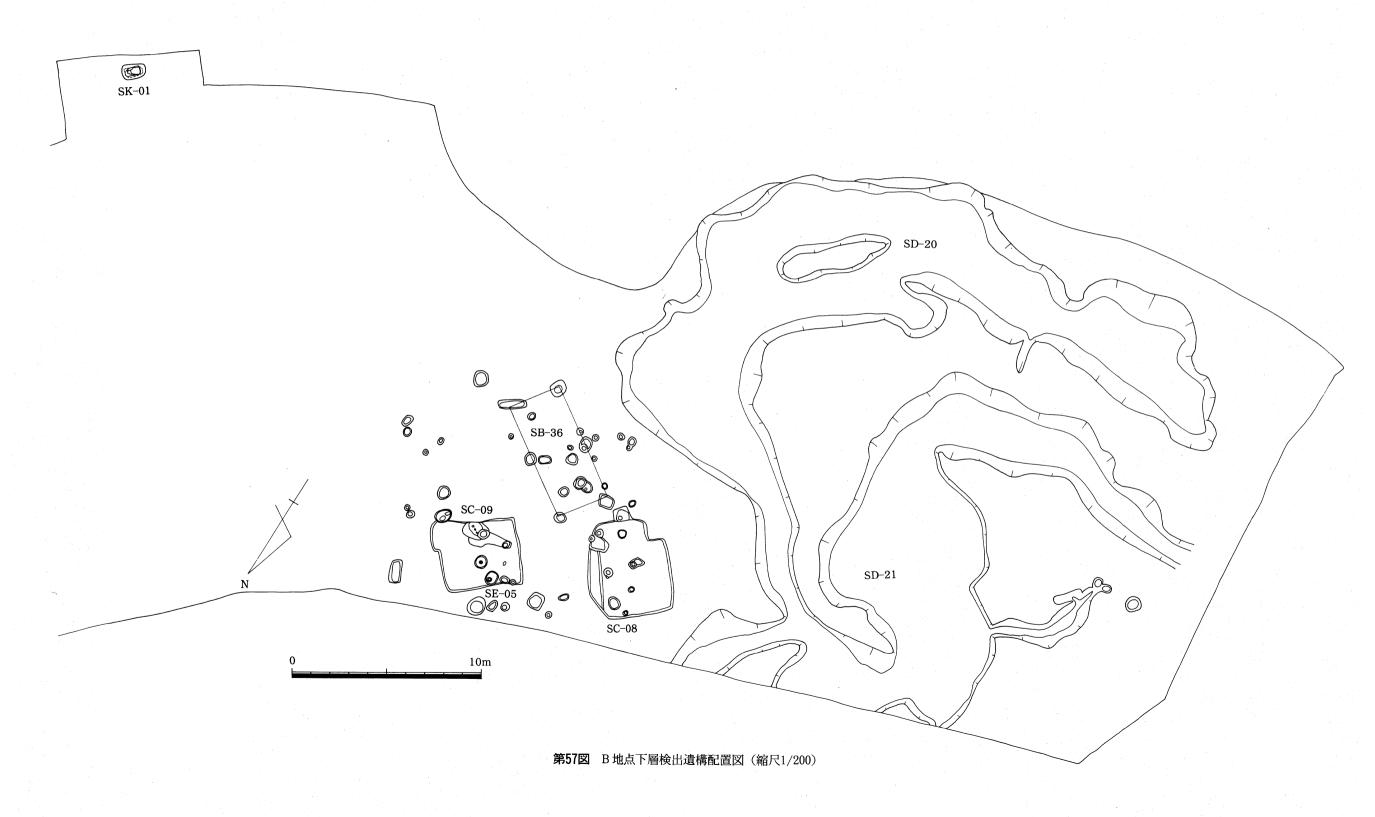


第 54図 B 地点竪穴式住居址 (SC-01~04) 遺構実測図 (縮尺1/80)



第 55図 B 地点竪穴式住居址 (SC-05、06) 遺構実測図 (縮尺1/80)





るため壁面の残りは悪い。主柱穴は2 本柱で中央部に配置されている。形状は、隅丸方形を呈し、4.2m×3.6m を測る。1 本の柱穴内から96図—50603の甕形土器が出土している。このほかにも床面に遺物が出土している。これらの遺物からSC—06の時期は、WI様式に属する。

# SC-05

SC—05は、SC—06により中央部を破壊されているが、周辺部の遺存状態は、良好であった。SC—06、SD—04を取りはずした図(55図下段)から主柱穴は4本柱であり、形状は隅丸長方形を呈する。 長軸6.6m、 短軸5.0m を測る。 出土遺物は、第96図に図示したように(50501~50506)甕形土器、壺形土器の口縁部のみであるが、このほか器台・高坏等の破片も出土している。これらの土器のほかに他の時期の遺物は混入していないことから住居址の時期も弥生時代後期後半の時期Ⅲ様式に比定できる。

SC-08·09 (第56、57、96図、Tab. 1 PL. 12-4 付図-3)

SC-08・09は、上面調査終了後、下層面の調査を実施した段階で検出した遺構で、このほかに SB-36、SD-20、21柱穴等を検出した。

### SC-08

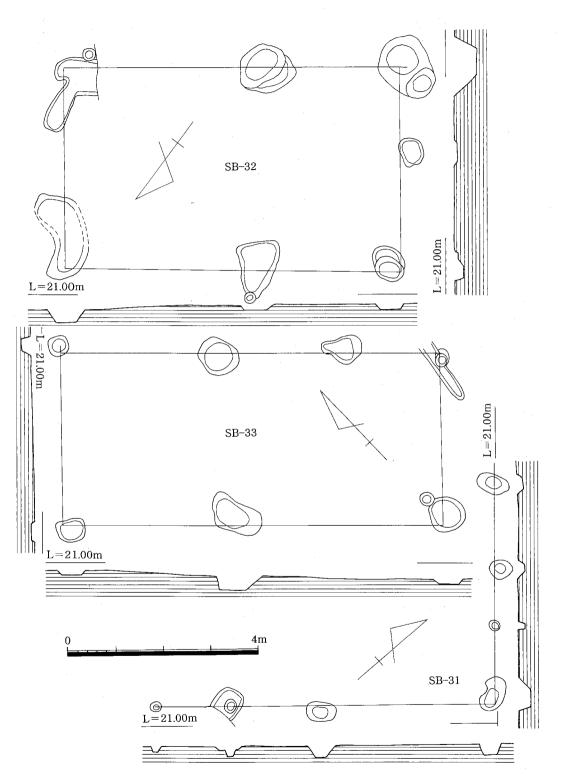
SC—08は、水田面下層より検出された。SD—20・21の東側に位置する。形状は南東部が、張り出し部分を持ち、東側にベット状遺構を有する。北東隅は、ベット状遺構のためやや不整形を呈する。削平を受けているが他の住居址にくらべれば残りの良い方である。主柱穴は、2本で、長軸方向に位置している。長軸5.3m、短軸4.4m、ベット状遺構の幅0.5m、長さ3.1+ $\alpha$ mを測る変則長方形を呈する。

出土遺物は、図示しなかったが、土器の細片を見るかぎり、弥生時代後期後半の時期IV様式に位置付けられる。

#### SC--09

SC—09は、SC—08の東側に位置し、長軸方向は、北東部から南西部にあり、東隅に張り出し部分を有する。形状は、長方形を呈し、長軸4.2m、短軸3.8m、張り出し部分の幅0.4m、長さ1.6mを測る。主柱穴は、短軸方向に2本と考えられる。短軸方向では、建てにくいとの建築家の意見もあるが、調査した範囲では、2本しか検出されていない。住居址周辺部にも柱穴がない。

出土遺物は、第96図―50901の1点を図示したが、他のほかにも細片は出土している。これらの土器から弥生時代後期後半の時期IV様式に位置付けられる。



第 58図 B 地点掘立柱建物 (SB—31~33) 遺構実測図 (縮尺1/80)

# 掘立柱建物とその他の遺構

## 掘立柱建物 (第58、59図 Tab. 2)

B地点の掘立柱建物は、6 棟検出した。柱穴が多く、これ以上建つと思われるが、現場で確認できた遺構だけを図示した。 遺構ナンバーは、 A 地点との混乱を防ぐために SB—30から始めている。

# SB--30

SB—30は、SD—02の南西側、SC—05の東側に位置する。2 間 $\times 2$  間 $+\alpha$  と推定できる。 $+\alpha$  とした部分は、北西側が削平され、柱穴の痕跡が確認できなかったためである。2 間 $\times 2$  間の柱間は、南北に1.8m、2.2m、東西1.8m、2.0m を測る。

### SB-31

SB-31は、SB-30と重複して建つ。柱間の間隔は不揃いであるが、2間×2間の建物と考えられる。折返し部分は、SB-30と同様に削平が著しく、確認は出来なかった。柱間の間隔は、北東から南西方向が、3.5m、2.0m で、北西から北東方向が2.9m、1.8m の間隔である。

### SB-32

SB-32は、SC-05と SX-01の遺構を切る形で検出された。 SC-05の上面に柱穴が確認されたことから、SC-05より新しい遺構である。2 間 $\times$  2 間の建物で、梁行の間隔が、3.2m、4.0m で、桁行が、1.8m、2.5m を測る。

### SB-33

SC-32と重複する1 間 $\times$  3 間の建物である。西側の架行は、3 本の柱で構成されるが、中間に支柱穴が認められ、これによって建物と確定した。東側の柱間隔は4.5m、3.5m を測る。

# SB-34

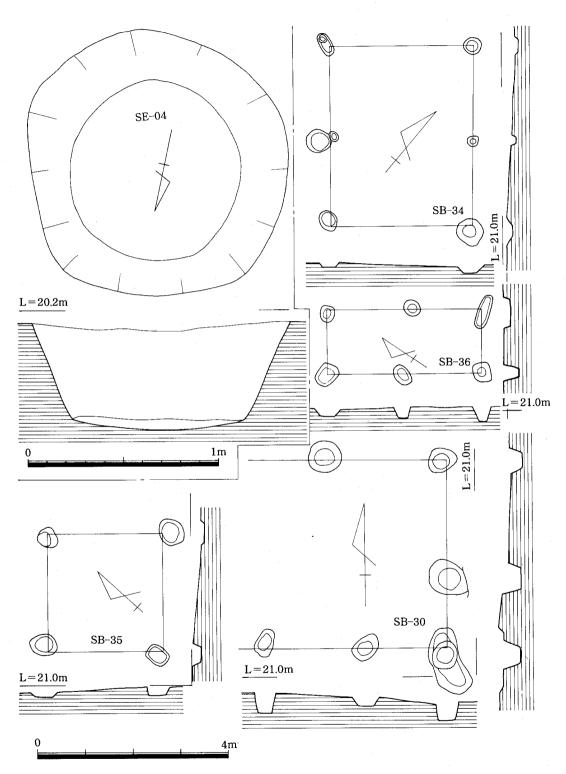
SB-34は、SD-01と SD-10の間に 1 間 $\times$  2 間の建物として検出した。梁行が西に約 $41^\circ$ 傾き、中央部の柱痕が小さい。桁行3.0m、梁行1.8m、1.8m の建物である。

#### SB--35

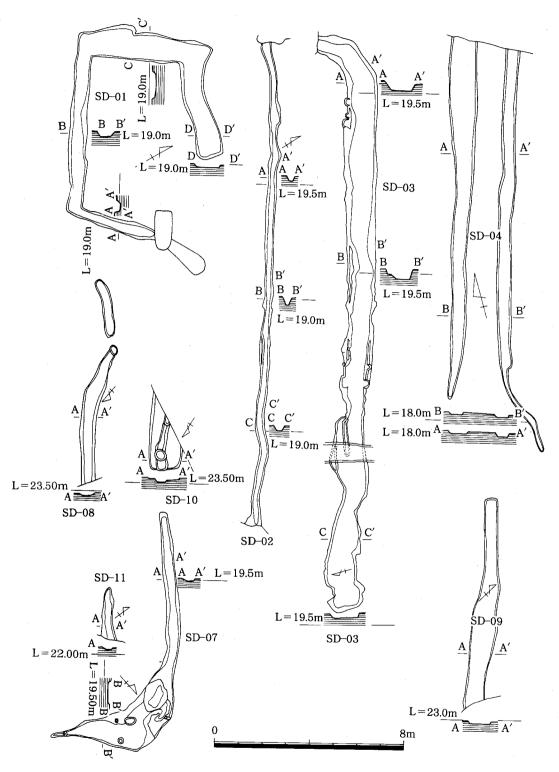
SX-05、SD-10の北側に検出された1間×1間の建物である。住居址の主柱穴とも考えられ、周辺部の柱穴から円形住居址とも推定したが、壁面が遺存していないこともあり、掘立柱建物とした。柱穴内出土遺物から弥生時代後期後半の時期IV様式と考えられる。

#### sc-36

SC─36は、SC─08の南東側に位置する 1 間× 2 間の掘立柱建物である。梁行は、南東から北西方向にとり、柱間隔は、3.0m、3.4m で桁行は、2.6m を測る。柱穴内出土遺物から古墳時代前期、Ⅷ様式と考えられる。



第 59図 掘立柱建物・井戸状遺構 (SB-30、34、35、SE-04) 実測図 (縮尺1/20、1/80)



第 60図 A 地点溝状遺構実測図 (SD-01~04、07~11) (縮尺1/160)

### その他の遺構

B地点には、井戸(SE)溝(SD)のほか、不整形の遺構(SX)がある。

井戸 (SE-04) (第59図 Tab. 16 PL. 11-5、11-6)

SE-01は、SX-02の上面から出土した。井戸にしては、浅いが、調査時には、湧水があり、おそらく井戸としての機能を有していたと考え、SE-01を付した。出土遺物に須恵器の坏蓋が出土しているが、これはSD-06の遺物と同時期であることから、SD-06の遺物の可能性を持つ。他の遺物は、第101図に図示したごとく、弥生時代後期に位置付けられる遺物ばかりである。

不整形遺構 (SX) (第47、48、98、99、101図 Tab. 16 PL. 11—5、11—6)

B地点からは、不整形な遺構は、5つ検出した。SX—01は、SX—02の上面に検出され、不整形な形状を呈し、長さ14m、幅8mで、中央部をSD—04、06、09によって切られる。出土遺物は、弥生時代後期から古墳時代前期の遺物が出土している。SX—02は、SX—01、SD—04、06、09、SE—01等によって切られる。SX—01とは覆土が異なり、SX—01が暗褐色土に対し、SX—02は、黄褐色土を呈する。浅い皿状を呈し、長さ17.5m、幅13mを測る。出土遺物は、弥生時代後期後半の遺物しか出土していない。

**溝状遺構** (第60、99~106図 Tab. 16 PL. 10—1~10—6、4—2、4—5、4—6)

第60図には、A 地点の溝状遺構(SD)を図示した。SD—01、02、04~10までは、住居址を切る形(SD—01、04等)を呈し、明らかに時期差を窺わせる遺構で、遺物もそのことを証明している。SD—03は、他の溝状遺構とは異なり、谷部からの排水溝的役目を持つ溝と考えられ、時期的にも古墳時代前期に位置付けられる。このほか SD—07~10までは、谷部の両側に配置された溝で、両側の台地より流れ込む雨水溝と区割溝の役目を持つもので、溝内部に掘立柱建物 SB—23、28がある。出土遺物から平安時代~鎌倉時代にかけての時期と考えられる。

B 地点の溝状遺構(第47、48、51~53図 Tab. 16 PL. 11・12—1~12—4)

B地点には、SD—01~21まで(SD—17~19は欠番)の19本の溝がある。SD—01は、南側の台地下にそって造られた溝で、中央部で切れ、両側に深く流れ込む。南西側のSD—01は、水田址の溝となり十郎川に漑ぐと考えられる。SD—02は、東側水田址と中央部とを切断する溝で、SD—01から流れ込む水を北西側へと流す。SD—03、04は、水田面を切るため上面の水田址の排水溝と考えられ、出土遺物から奈良時代~平安時代にかけての溝と考えられる。

SD—16は、図示した水田面の排水溝で、出土遺物は細片で弥生時代~古墳時代までの遺物が 混在している。時期的には、古墳時代中期~奈良期までの溝と考えてよい。

SD-20、21は、水田面下層から検出した溝で、第49図に図示した土層状態である。SD-20、21は合流するが、SD-20は、山間からの始まりで北へ流れる。時期は、出土遺物から弥生時代後期~庄内併行期と考えてよい。

Tab. 3 野方久保遺跡Pit計測一覧

itNo.	出土地点	出土遺物	時 期	形状	規 模 幅×長さ×深さ(単位cm)	掘出柱建物
1	A地点	土師器	古墳初期	楕円	$82 \times - \times 34$	
3	A地点 A地点		中期 古墳初期	精円 精円	$72 \times - \times 31$	
4	A地点	十師器	古墳初期	円形 円形	$ \begin{array}{c cccc} 145 \times 165 \times & 6 \\ 44 \times & 54 \times & 9 \end{array} $	
5	A地点	土師器	古墳初期		$52 \times 64 \times 7$	
6	A地点	土師器	古墳初期	楕円	$35 \times 62 \times 14$	
7	A地点	須恵器	古墳	楕円	$68 \times 92 \times 28$	
8	A地点	上師器	古墳初期	<u>精円</u>	$35 \times 43 \times 16$	
9	A地点 A地点	弥生土器 土師器	後期後半 古墳初期	楕円	66×104× 10	
11	A地点	上師器	古墳初期	円形	$64 \times 67 \times 40$ $62 \times 65 \times 10$	
12	A地点		後期後半	精円	$39 \times 57 \times 43$	
13	A地点	土師器	古墳初期	楕円	$42 \times 54 \times 24$	
14	A地点	弥生土器	後期後半	楕円	- × - × -	
15	A地点	弥生土器	後期後半	楕円	$50 \times 15 \times 20$	
16 17	A地点 A地点	上師器	古墳初期	楕円	42× 45× 14	
18	A地点	土師器 弥生土器	古墳初期 後期後半	円形	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	
19	A地点	弥生土器	後期中頃	<u> </u>	$57 \times 96 \times 28$	-
20	A地点	土師器	古墳初期	円形	$20 \times 25 \times 32$	
21	A地点	弥生土器	後期後半	楕円	88×123× 7	
22	A地点	弥生土器	後期後半	楕円	53× 59× 34	
23	A地点	弥生土器	中期	円形	28× 30× 28	-
$\frac{24}{25}$	A地点 A地点	土師器 弥生土器	古墳初期 後期後半	楕円 円形	$\begin{array}{c} 33 \times 58 \times 14 \\ 34 \times 35 \times 22 \end{array}$	
26	A地点	<u> </u>	後期後半	<u>育</u>	$25 \times 33 \times 17$	
$\frac{20}{27}$	A地点	弥生十器	後期後半	楕円	$50 \times 54 \times 31$	
29	A地点	弥生土器	後期後半	楕円	82× 46× 31	
30	A地点	弥生土器	中期	円形	$25 \times 26 \times 15$	
31	A地点	土師器	古墳初期	円形	$32 \times 33 \times 27$	
32 33	A地点 A地点	土師器	古墳初期 鎌倉~室町	楕円 楕円	$\begin{array}{c cccc} 27 \times & 46 \times & 25 \\ 32 \times & 80 \times & 24 \end{array}$	- O.D. 04
34	A地点	土師器 弥生土器		円形	32 × 80 × 24 45 × 50 × 8	S B -04
35	A地点	十師器	古墳初期	楕円	$53 \times 112 \times 28$	
36	A地点	土師器	奈良~平安	楕円	$31 \times 60 \times 16$	
37	A地点	土師器	鎌倉~室町	円形	19× 21× 9	
38 39	A地点	弥生土器	中期	円形	58× 67× 5	
40	A地点 A地点	弥生土器 弥生土器	後期後半 後期後半	精円 精円	50× 67× 4	-
41	A地点	<u> </u>	後期後半	<u>精口</u> 楕円	$\begin{array}{c} 38 \times 49 \times 19 \\ 47 \times 55 \times 44 \end{array}$	
42	A地点	土師器	古墳初期	円形	28× 33× 11	
43	A地点	弥生土器	後期後半	円形	38× 43× 15	
44	A地点	上師器	古墳初期	円形	$36 \times - \times 15$	
45	A地点	弥生土器	後期後半	楕円	$43 \times 50 \times 36$	SB-10
46	A 地点 A 地点	土師器 弥生土器	古墳初期 後期後半	精円 楕円	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	C.D. 10
48	A地点	土師器	古墳初期	<u>精</u> 円	44× ? × 15	SB-10
49	A地点	弥生土器	後期後半	権円	60× 84× 61	
50	A地点	弥生土器	後期後半	円形	$42 \times 44 \times 23$	
51_	A地点	土師器	古墳初期	円形	68× 73× 53	SB-07
52 53	A地点	弥生土器 土師器	後期後半	<u>精円</u>	48× 74× 28	
54	A地点 A地点	土師器	古墳初期 奈良~平安	円形 円形	$\begin{array}{c cccc} 47 \times 50 \times 8 \\ 24 \times 26 \times 17 \end{array}$	-
55	A地点	土師器	古墳初期	楕円	$24 \times 26 \times 17$ $43 \times 53 \times 17$	S B = 06
56	A地点	須恵器	古墳	楕円	$64 \times 69 \times 25$	3.0 00
57	A地点	弥生十哭	後期後半	楕円	$28 \times - \times -$	
58	A地点	土師器	古墳初期	円形	$33 \times 39 \times 12$	
59 60	A地点	土師器	古墳初期	円形	23× 22× 8	
61	A地点 A地点	弥生土器 弥生土器	後期後半 後期後半	楕円 円形	$68 \times 103 \times 10$ $32 \times 35 \times 19$	1
62	A地点	土師器	奈良~平安		$32 \times 35 \times 19$ $32 \times 10 \times 5$	1
63	A地点	上師器	古墳初期	楕円	$95 \times - \times 13$	1
64	A地点	弥生土器	中期	円形	40× 42× 26	
65	A地点	弥生土器	後期後半	楕円	$45 \times 62 \times 12$	
66	A地点	弥生土器	後期後半	<b>楕円</b>	35× 48× 8	SB-01
67 68	A地点 A地点	弥生土器 弥生土器	後期後半	円形	51 × 54 × 24	
69	A地点	- 弥生工裔 - 弥生土器	<ul><li>後期後半</li><li>後期後半</li></ul>	円形 楕円	$\begin{array}{c} 60 \times 64 \times 37 \\ 26 \times 34 \times 16 \end{array}$	

Tab. 4 野方久保遺跡 Pit 計測一覧

itNo.	出土地点	出土遺物	時 期	形 状	規 模幅×長さ×深さ(単位cm)	掘出柱建物
70	A地点	土師器	古墳初期	円形	$56 \times 72 \times 24$	
71	A地点	弥生土器	後期後半	楕円	$46 \times 57 \times 13$	SB-09
72	A地点	弥生土器	後期後半	円形	56× 57× 48	SB-09
73 74	A地点 A地点	土師器 土師器	古墳初期 古墳初期	円形 楕円	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	
75	A地点	<u></u>	後期後半	<u>精円</u>	28× 34× 14	
76	A地点	土師器	古墳初期	<u>精円</u>	$\frac{26 \times 54 \times 14}{26 \times 53 \times 15}$	
77	A地点	土師器	古墳初期	楕円	35× 15× 20	
78	A地点	弥生土器	後期後半	楕円	115× 30× 20	
79	A地点	弥生土器	後期後半	楕円	44× 55× 29	SB−09
80	A地点	土師器	古墳初期	楕円	$47 \times 57 \times 33$	
81	A地点	弥生土器	後期後半	楕円	$69 \times 83 \times 21$	
82	A地点	上師器	古墳初期	円形	35× 38× 16	
83	A地点	弥生土器	後期後半	<b>楕円</b>	$\begin{array}{c cccc} 142 \times & 41 \times & 13 \\ 50 \times & 20 \times & 16 \end{array}$	
84 85	A地点 A地点	土師器 土師器	京良 古墳初期		$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	
86	A地点	<u> </u>	後期後半	<u></u>	$30 \times 10 \times 5$	
87	A地点	<u> </u>	後期後半	<u>精円</u>	50× 20× 15	+
88	A地点	干師哭	古墳初期	円形	46× 53× 29	
89	A地点	土師器	古墳初期	円形	60× 60× 18	
90	A地点	土師器	古墳初期	円形	37× 41× 19	
91	A地点	土師器	古墳初期	楕円	$43 \times 73 \times 26$	
92	A地点	土師器	奈良	楕円	50×132× 22	
93	A地点	弥生土器	後期後半	楕円	53×103× 21	
94	A地点	上師器	古墳初期	楕円	40× 43× 13	
95	A地点	弥生土器	後期後半	円形	$31 \times 34 \times 30$	SB-09
96 97	A地点 A地点	土師器 _ 弥生土器	古墳初期 後期後半	<u></u>	$50 \times 90 \times 20$ $207 \times 268 \times 22$	
98	A地点	- <u>外生工器</u> - 弥生土器	後期後半	<u>桐口</u> 楕円	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	
99	A地点	土師器	古墳初期	権円	41× 56× 41	
100	A地点	上師器	古墳初期	円形	30× 31× 36	
101	A地点	弥生土器	後期後半	楕円	65×121× 34	
102	A地点	十師器	古墳初期	楕円	60× 40× 15	
103	A地点	土師器 弥生土器	古墳初期	楕円	$40 \times 10 \times 5$	
103	A地点	- 弥生土器	後期後半	楕円	$50 \times 15 \times 10$	
104	A地点	弥生土器	後期後半	楕円	$60 \times 73 \times 26$	
105	A地点	土師器 弥生土器	古墳初期	<u>椿円</u>	$32 \times 40 \times 14$	SB-03
106 107	A地点 A地点	弥生工裔   弥生土器	後期後半	精円 精円	50 × 25 × 30 90 × ? ×	SB-03 SB-12
109	A地点	土師器	古墳初期	<u>精円</u>	27× 39× 18	3 B - 14
110	A地点	土師器	古墳初期	円形	$35 \times 37 \times 47$	
111	A地点	<u>赤生土器</u>	後期後半	円形	31× 31× 35	
112	A地点	土師器	古墳初期	円形	57× 57× 43	
113	A地点	土師器	古墳初期	円形	35× 37× 23	
114	A地点	上師器	古墳初期	円形	48× 49× 36	SB-08
115	A地点	弥生土器	後期後半	円形	62× 73× 33	
116	A地点	弥生土器 弥生土器	後期後半	円形	53× 54× 20	
117 118	A地点 A地点	上師器	後期後半 古墳初期	精円 精円	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	SB-08
119	A地点	土師器	古墳初期	<u>精円</u>	$61 \times 70 \times 27$	3 5 00
120	A地点	- 弥生土器	後期後半	楕円	$50 \times 62 \times 35$	SB-11
121	A地点	土師器	古墳初期	円形	43× 47× 30	SB-11
122	A地点	土師器	古墳初期	楕円	52× 66× 64	
_123	A地点	弥生土器	後期後半	楕円	_ 80× 85× 11	SB-11
124	A地点	土師器	古墳初期	楕円	$37 \times 53 \times 15$	SB-11
125	A地点	弥生土器	後期後半	円形	40 × 40 × 33	SB-11
126	A地点	弥生土器	後期後半	楕円 田平	53× 65× 46	
127 128	A地点 A地点	上師器 土師器	古墳初期   奈良~平安	円形 楕円	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	S B - 11
129	A地点	工師器   弥生土器	後期後半	円形	$48 \times 53 \times 21$ $45 \times 50 \times 39$	30-11
130	A地点	弥生土器	後期後半	<u> </u>	$39 \times 42 \times 23$	
131	A地点	土師器	古墳初期	円形	45× 45× 20	
132	A地点	弥生土器	後期後半	楕円	$30 \times 42 \times 22$	
134	A地点	十師器	古墳初期	円形	38× 70× 31	
135	A地点	弥生土器	後期後半	円形	38× 42× 29	
136	A地点	弥生土器	後期後半	精円	43× 53× 38	
137	A地点	弥生土器	後期後半	円形	42 × 45 × 35	
138 138	A地点 A地点	土師器 弥生土器	古墳初期後期後半	楕円	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	
139	A地点	土師器	古墳初期	精円 円形	$10 \times 35 \times 20$ $40 \times 41 \times 32$	
140	A地点		後期後半	<b>育</b> 四	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	

Tab. 5 野方久保遺跡 Pit 計測一覧

PitNo.	出土地点	出土遺物	時期	形状	規模 幅×長さ×深さ(単位cm)	掘出柱建物
142	A地点	弥生土器	後期後半	円形	55× 56× 20	
143	A地点	土師器	古墳初期	円形	$32 \times 36 \times 49$	
144 145	A地点 A地点	弥生土器	後期後半 古墳初期	楕円 円形	$\begin{array}{c} 48 \times 60 \times 49 \\ 50 \times 63 \times 11 \end{array}$	SB-09
146	A地点	土師器	古墳初期	<u></u>	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	SB-09
147	A地点	須恵器	古墳	円形	$\begin{array}{c} 07 \times 12 \times 32 \\ 41 \times 42 \times 16 \end{array}$	
148	A地点	弥生土器	後期後半	楕円	41× 48× 35	
149	A地点	土師器	古墳初期	楕円 一	135×170× 14	SB-08
150	A地点	土師器	古墳初期	円形	33× 35× 8	
151 152	A地点 A地点	土師器 土師器	古墳初期 古墳初期	楕円 円形	$\begin{array}{c} 95 \times - \times 20 \\ 41 \times 42 \times 39 \end{array}$	
153	A地点	选出主要	百項初期   後期後半	円形	$33 \times 38 \times 22$	
154	A地点	九年五年 土師器 土師器 土師器 土師器	後期後平 古墳初期	円形	75× 85× 8	
155	A地点	土師器	古墳初期	円形	$38 \times 40 \times 42$	
156	A地点	土師器	古墳初期	円形	$22 \times 26 \times 13$	
157	A地点	土師器	古墳初期	楕円	43× 51× 29	
158 159	A地点 A地点	上	古墳初期	<b>楕円</b>	44× 54× 52	
160	A地点	土師器	古墳初期 古墳初期	楕円 円形	$ \begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	
161	A地点	土師器	古墳初期	<u>精円</u>	$70 \times 25 \times 25$	
162	A地点	土帥器	古墳初期	楕円	$62 \times 30 \times 15$	S B -16
163	A地点	須恵器	古墳	楕円	$34 \times 65 \times 36$	- 22 10
164	A地点	弥生土器	後期後半	円形	$20 \times 23 \times 10$	
165	A地点	土師器	古墳初期	円形	$40 \times 41 \times 28$	
166 166	A地点 A地点	<u>弥生土器</u> 土師器	後期後半 古墳初期	楕円 楕円	29× 48× 38	
167	A地点	工 <u>炉</u> 荷重男	古墳	<u>育</u> 门	$\begin{array}{c} 35 \times 80 \times 35 \\ 31 \times 42 \times 21 \end{array}$	
168	A地点	須恵器 土師器	古墳初期	楕円	$31 \times 42 \times 21$ $32 \times 40 \times 18$	
169	A地点	十師器	古墳初期	楕円	$52 \times 62 \times 21$	
170	A地点	須恵器 土師器	古墳	楕円	$63 \times 106 \times 14$	SB-17
170	A地点	上師器	奈良~平安	楕円	$60 \times 90 \times 20$	
171	A地点	土師器	古墳初期	円形	46× 50× 10	SB-17,1
172 173	A地点 A地点	須恵器 弥生土器	古墳 後期後半	精円 楕円	$60 \times 85 \times 15$ $80 \times 100 \times 9$	
174	A地点	弥生土器	後期後半	円形	$\begin{array}{c} 80 \times 100 \times 9 \\ 36 \times 43 \times 15 \end{array}$	
175	A地点	弥生土器	後期後半	楕円	30× 59× 12	
176	A地点	土師器	古墳初期	円形	$35 \times 41 \times 22$	
178	A地点	上師器	古墳初期	円形	$37 \times 40 \times 36$	
179	A地点	弥生土器	後期後半	<u> 楕円</u>	$25 \times 50 \times 18$	
180 181	A地点 A地点	弥生土器	<ul><li>│ 後期後半</li><li>│ 奈良~平安</li></ul>	<b>楕</b> 円	35× 55× 14	
183	A地点 A地点	土師器 土師器	古墳初期	円形 円形	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	SB-25
184	A地点	十師哭	古墳初期	円形	52× 55× -	S B -09
185	A地点	土師器 土師器	古墳初期	円形	50× 60× 35	3 D 00
186	A地点	弥生土器	後期後半	楕円	53× 65× 16	
187	A地点	須恵器	古墳	楕円	46× 63× 27	
188	A地点	土師器	古墳初期	円形	45× 40× 30	
189 190	A地点 A地点	弥生土器 土師器	後期後半 古墳初期	円形 円形	$\begin{array}{c} 35 \times 40 \times 25 \\ 34 \times 37 \times 10 \end{array}$	
191	A地点	上師器	古墳初期	<u> </u>	$\begin{array}{c} 54 \times 37 \times 10 \\ 50 \times 20 \times 10 \end{array}$	-
192	A地点	弥生土器	後期後半	楕円	$15 \times 35 \times 5$	
193	A地点	弥生土器	後期後半	円形	$30 \times 30 \times 18$	
194	A地点	弥生土器	後期後半	円形	$45 \times 40 \times 20$	
195	A地点	土師器	古墳初期	円形	35× 32× 15	
<u>196</u> 197	<u>A地点</u> A地点	<u>弥生土器</u> 土師器	後期後半 奈良	円形 円形	$40 \times 40 \times 20$	
227	A地点	<u> </u>	後期後半	<u> </u>	$\begin{array}{c cccc} 19 \times 21 \times 25 \\ 15 \times 40 \times 10 \end{array}$	
302	A地点	弥生土器	後期後半	精円	$19 \times 40 \times 10$ $19 \times 40 \times 13$	
450	A地点	土師器	古墳初期	楕円	$37 \times 46 \times 7$	
451	A地点	弥生土器	後期後半	楕円	$24 \times 34 \times 35$	
453	A地点	土師器	古墳初期	円形	24× 25× 20	
454 455	A地点	弥生土器	後期後半	円形	24× 26× 32	
456	A地点 A地点	弥生土器   土師器	▲ 後期後半 古墳初期		$\begin{array}{c} 36 \times 38 \times 25 \\ 26 \times 30 \times 26 \end{array}$	
457	A地点	弥牛十器	後期後半	円形	$20 \times 30 \times 26$ $20 \times 24 \times 38$	
458	A地点		後期後半	円形	$24 \times 25 \times 26$	<del> </del>
459	A地点	弥生土器	後期後半	楕円	$20 \times 25 \times 38$	-
460	A地点	上師器	古墳初期	楕円	$36 \times 56 \times 21$	
461	A地点	)弥生土器	後期後半	楕円	$50 \times 12 \times 20$	

Tab. 6 野方久保遺跡Pit計測一覧

503         A地点         弥生土器         後期後半         楕円         35×43×15           504         A地点         弥生土器         後期後半         円形         32×36×20           505         A地点         弥生土器         後期後半         円形         31×35×16           506         A地点         弥生土器         後期後半         円形         41×48×17           507         A地点         弥生土器         中期         円形         36×42×32           508         A地点         弥生土器         長期後半         楕円         64×67×22           509         A地点         弥生土器         後期後半         楕円         64×67×22           510         A地点         弥生土器         後期後半         桐円         30×39×27           510         A地点         弥生土器         後期後半         円形         55×62×18           511         A地点         弥生土器         後期後半         有円         18×27×14           512         A地点         弥生土器         後期後半         円形         32×32×47           514         A地点         弥生土器         後期後半         円形         32×32×19           515         A地点         弥生土器         後期後半         円形         30×36×26           518         A地点         弥生土器         <	PitNo.	出土地点	出土遺物	時 期	形状	規 模 幅×長さ×深さ(単位cm)	掘出柱建物
466   A 地点   上卸器				後期後半			
466   A地点		A地点		古墳初期		$23 \times 24 \times 12$	
462   入地点   か呼生器   古墳和脚   楕円   20× 26× 18   462   入地点   か生土器   後期後半   内形   21× 22× 33   477   入地点   か生土器   後期後半   内形   21× 22× 34   477   入地点   か生土器   後期後半   内形   29× 31× 25   25   475   入地点   五垣器   古墳初期   内形   39× 41× 20   477   入地点   か生土器   後期後半   内形   29× 33× 16   477   入地点   か生土器   後期後半   内形   29× 33× 16   477   入地点   か生土器   後期後半   内形   29× 33× 16   479   入地点   か生土器   後期後半   内形   29× 33× 16   479   入地点   か生土器   後期後半   内形   29× 33× 16   479   入地点   か生土器   後期後半   内形   25× 26× 23   479   入地点   か生土器   後期後半   内形   25× 25× 20   483   入地点   か生土器   後期後半   内形   30× 32× 20   483   入地点   か生土器   後期後半   内形   30× 32× 20   483   入地点   か生土器   後期後半   内形   30× 32× 7   485   入地点   か生土器   後期後半   内形   30× 32× 7   486   入地点   か生土器   後期後半   内形   30× 32× 7   486   入地点   か生土器   後期後半   内形   40× 50× 22   489   入地点   か生土器   後期後半   内形   30× 32× 7   486   入地点   か生土器   後期後半   内形   30× 32× 7   486   入地点   か生土器   後期後半   内形   23× 25× 29   489   入地点   か生土器   後期後半   内形   23× 25× 30   484   入地点   か生土器   後期後半   内形   23× 25× 30   489   入地点   か生土器   後期後半   内形   23× 25× 30   489   入地点   か生土器   後期後半   内形   23× 25× 30   489   入地点   か生土器   後期後半   内形   33× 50× 48   489   入地点   か生土器   後期後半   内形   33× 50× 48   489   入地点   か生土器   後期後半   内形   33× 50× 48   489   入地点   か生土器   後期後半   内形   33× 30× 34   493   入地点   か生土器   後期後半   内形   33× 30× 34   493   入地点   か生土器   後期後半   内形   33× 30× 31   494   入地点   か生土器   後期後半   内形   33× 30× 31   494   入地点   か生土器   後期後半   内形   33× 30× 30× 31   494   入地点   か生土器   後期後半   内形   33× 30× 30× 31   494   入地点   か生土器   後期後半   内形   33× 30× 30× 31   494   入地点   か生土器   後期後半   内形   33× 30× 30× 31   494   入地点   か生土器   後期後半   内形   33× 30× 30× 31   494   入地点   か生土器   後期後半   内形   33× 30× 30× 31   494   入地点   か生土器   後期後半   内形   33× 30×		A地点	土帥器		精円   円形	$32 \times 56 \times 10$	
469   A地点   弥生土器   後期後半   桐円   30×60×15     469   A地点   弥生土器   後期後半   桐円形   1×2×2×35     470   A地点   弥生土器   後期後半   桐円形   49×72×24     471   A地点   弥生土器   後期後半   桐円形   49×72×24     462   A地点   环生土器   後期後半   桐円形   49×72×24     462   A地点   五年経器   古墳初期   円形   29×31×25     476   A地点   須恵器   古墳初期   円形   29×31×25     477   A地点   郊生土器   後期後半   円形   29×33×46     478   A地点   郊生土器   後期後半   円形   29×33×46     478   A地点   郊生土器   後期後半   円形   29×33×46     479   A地点   弥生土器   後期後半   円形   29×31×25     440   A地点   弥生土器   後期後半   円形   29×31×25     440   A地点   弥生土器   後期後半   円形   29×31×25     441   A地点   弥生土器   後期後半   円形   29×31×25     442   A地点   郊生土器   後期後半   円形   29×31×25     443   A地点   郊生土器   後期後半   円形   30×32×7     444   A地点   郊生土器   後期後半   円形   30×30×32×7     445   A地点   郊生土器   後期後半   円形   30×30×32×7     446   A地点   郊生土器   後期後半   円形   30×30×32×7     447   Au点   郊生土器   後期後半   円形   30×30×32×7     448   A地点   郊生土器   後期後半   円形   30×30×32×7     448   A地点   郊生土器   後期後半   円形   29×35×22     449   A地点   郊生土器   後期後半   円形   29×35×22     449   A地点   郊生土器   後期後半   円形   29×35×22     449   A地点   郊生土器   後期後半   円形   29×35×27     449   A地点   郊生土器   後期後半   円形   30×33×33     490   A地点   郊生土器   後期後半   円形   30×33×33     491   Au点   郊生土器   後期後半   円形   30×33×33     492   A地点   郊生土器   後期後半   円形   30×33×33     493   Au点   郊生土器   後期後半   円形   30×33×33     494   A地点   郊生土器   後期後半   円形   30×33×34     495   Au点   郊生土器   後期後半   円形   30×33×34     496   A地点   郊生土器   後期後半   円形   30×33×40×8     497   Au点   郊生土器   後期後半   円形   30×33×40×8     499   A地点   郊生土器   後期後半   円形   30×33×40×8     490   A地点   郊生土器   後期後半   円形   30×33×40×8     500   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×33×40×8     501   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×33×40×8     502   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×33×40×8     503   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×33×40×8     504   Au点   弥生土器   後期後半   円形   30×33×40×8     505   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×33×40×8     507   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×33×40×8     508   Au点   弥生土器   後期後半   円形   30×33×40×8     509   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×33×40×8     500   A地点   弥生土器   後期後半		A地点	<u> </u>	後期後半		30× ? × 47	
40回   A地点   弥生土器   後期後半   円形   21×22×33   21×22×34   470   A地点   弥生土器   後期後半   楕円形   49×72×24   471   A地点   弥生土器   後期後半   楕円形   49×72×24   471   A地点   か生土器   後期後半   楕円形   49×72×24   476   A地点   五山宮   古墳初期   円形   39×41×20   31×25   31×25   31×35   31			上 脚 奋				
470 A 地点   効生上器 後期後半 楕円形 49×72×24 471 A 地点   効生上器 後期後半 楕円 14×35×12 462 A 地点 上間器 古墳初期 円形 29×31×25 476 A 地点 須息器 古墳初期 円形 32×46×32 477 A 地点 須息器 古墳初 1円形 25×26×23 478 A 地点 淡生土器 後期後半 円形 25×26×23 479 A 地点 淡生土器 後期後半 円形 25×26×23 480 A 地点 淡生土器 後期後半 円形 28×34×16 481 A 地点 淡生土器 後期後半 円形 28×34×16 481 A 地点 淡生土器 後期後半 円形 30×32×20 482 A 地点 孪生土器 後期後半 円形 30×32×20 483 A 地点 孪生土器 後期後半 円形 30×32×20 484 A 地点 孪生土器 後期後半 円形 30×32×20 485 A 地点 孪生土器 後期後半 円形 30×32×20 486 A 地点 孪生土器 後期後半 円形 30×32×20 487 A 地点 沙生土器 後期後半 円形 30×32×20 488 A 地点 沙生土器 後期後半 円形 30×32×27 487 A 地点 沙生土器 後期後半 円形 30×32×27 488 A 地点 学生土器 後期後半 円形 23×25×29 489 A 地点 ※生土器 後期後半 円形 23×25×29 489 A 地点 沙生土器 後期後半 円形 25×25×30 491 A 地点 沙生土器 後期後半 円形 25×35×32 493 A 地点 沙生土器 後期後半 円形 25×35×30 493 A 地点 沙生土器 後期後半 円形 25×35×30 494 A 地点 沙生土器 後期後半 円形 25×35×30 495 A 地点 沙生土器 後期後半 円形 25×35×30 496 A 地点 沙生土器 後期後半 円形 30×33×33 493 A 地点 沙生土器 後期後半 円形 30×33×33 493 A 地点 沙生土器 後期後半 円形 39×30×31 493 A 地点 沙生土器 後期後半 円形 39×30×30×31 494 A 地点 沙生土器 後期後半 円形 39×30×30×31 495 A 地点 沙生土器 後期後半 円形 39×30×30×31 496 A 地点 沙生土器 後期後半 円形 39×30×30×31 497 A 地点 沙生土器 後期後半 円形 33×40×8 499 A 地点 沙生土器 後期後半 円形 33×40×8 500 A 地点 沙生土器 後期後半 円形 33×40×8 501 A 地点 沙生土器 後期後半 円形 33×40×8 501 A 地点 沙生土器 後期後半 円形 118×126×111 S 500 500 A 地点 沙生土器 後期後半 円形 32×32×15 501 A 地点 沙生土器 後期後半 円形 30×35×16 501 A 地点 沙生土器 後期後半 円形 32×32×15 501 A 地点 沙生土器 後期後半 円形 32×32×15 501 A 地点 沙生土器 後期後半 円形 32×32×15 502 A 地点 沙生土器 後期後半 円形 32×32×15 503 A 地点 沙生土器 後期後半 円形 32×32×15 504 A 地点 沙生土器 後期後半 円形 32×32×15 505 A 地点 沙生土器 後期後半 円形 32×32×15 507 A 地点 沙生土器 後期後半 円形 32×32×15							
471 A 地点		A地占	弥生十罢			49 × 72 × 24	
402   A地点   上師器   古墳初明   円形   29×31×25   29×41×20   476   A地点   須恵器   古墳初明   円形   39×41×20   477   A地点   須恵器   古墳   楕円   32×46×32   32×46×32   477   A地点   郊生土器   後期後半   円形   25×36×23   478   A地点   郊生土器   後期後半   円形   25×36×23   479   A地点   郊生土器   後期後半   円形   25×36×23   489   A地点   郊生土器   後期後半   円形   25×36×23   480   A地点   郊生土器   後期後半   円形   28×34×16   5×44×48   A地点   郊生土器   後期後半   円形   30×32×20   32×20   480   A地点   郊生土器   後期後半   円形   30×32×20   32×20   483   A地点   郊生土器   後期後半   円形   30×32×20   30×22×7   485   A地点   郊生土器   後期後半   円形   30×30×21   485   A地点   郊生土器   後期後半   円形   30×30×21   486   A地点   郊生土器   後期後半   円形   30×30×21   487   A地点   郊生土器   後期後半   円形   30×30×27   488   A地点   郊生土器   後期後半   円形   23×25×29   489   A地点   郊生土器   後期後半   円形   23×25×29   489   A地点   郊生土器   後期後半   円形   23×25×29   489   A地点   郊生土器   後期後半   円形   23×35×27   489   A地点   郊生土器   後期後半   円形   30×33×33   349   A地点   郊生土器   後期後半   円形   30×33×33   493   A地点   郊生土器   後期後半   円形   30×35×27   491   A地点   郊生土器   後期後半   円形   39×50×48   495   A地点   郊生土器   後期後半   円形   39×50×48   496   A地点   郊生土器   後期後半   円形   33×40×8   500   40×40   30×40×10   50×20×7   500   A地点   郊生土器   後期後半   円形   33×40×15   500   A地点   郊生土器   後期後半   円形   32×32×15   500   A地点   郊生土器   後期後半   円形   30×30×27   500   500   A地点   郊生土器   後期後半   円形   32×32×15   500   A地点   郊生土器   後期後半   円形   30×30×27   500   500   Au点   郊生土器   後期後半   円形   30×30×27   500   Au点   郊生土器   後期後半   日田   33×40×16   50×20×10   500   Au点   郊生土器   後期後半   和田   33×40×16   50×20×10   500   Au点   郊生土器   郊生土器   後期後半   和田   30×30×30×30   30×30×30   30×30×30   30×30×30			弥生十器				
1476   入地点   上師器   古墳初期   円形   39×41×20   39×41×20   4176   入地点   効生土器   後期後半   円形   29×33×16   32×46×32   4178   入地点   効生土器   後期後半   円形   29×33×16   32×46×32   4179   入地点   効生土器   後期後半   円形   29×33×16   32×46×32   4179   入地点   効生土器   後期後半   円形   27×31×25   32×35   4490   入地点   効生土器   後期後半   円形   27×31×25   32×30   4490   入地点   小型生土器   後期後半   円形   30×32×20   32×30   4481   入地点   九型点   小型点   九型点   小型点   九型点   小型点			土師器	古墳初期		29× 31× 25	
4476   A地点   須良器   古墳   梅円   32×46×32   4477   A地点   弥生土器   後期後半   円形   29×33×16   4478   A地点   弥生土器   後期後半   円形   25×26×23   34   479   A地点   弥生土器   後期後半   円形   25×26×23   34   479   A地点   弥生土器   後期後半   円形   28×34×16   34   34   34   34   34   34   34   3	475	A地点	土師器		円形	$39 \times 41 \times 20$	
479 A地点 弥生土器 後期後半 円形 27×31×25 480 A地点 弥生土器 後期後半 円形 27×31×25 480 A地点 弥生土器 後期後半 円形 28×34×16 481 A地点 弥生土器 後期後半 円形 30×32×20 483 A地点 外生土器 後期後半 円形 30×32×20 485 A地点 上部器 古規初期 楕円 40×50×22 486 A地点 外生土器 後期後半 円形 30×30×21 485 A地点 が生土器 後期後半 円形 30×30×21 486 A地点 弥生土器 後期後半 円形 30×30×27 486 A地点 弥生土器 後期後半 円形 30×30×27 487 A地点 弥生土器 後期後半 円形 30×30×27 488 A地点 弥生土器 後期後半 円形 30×30×27 489 A地点 弥生土器 後期後半 円形 23×35×29 489 A地点 弥生土器 後期後半 円形 25×35×29 489 A地点 弥生土器 後期後半 円形 25×30×20 490 A地点 弥生土器 後期後半 円形 25×35×20 491 A地点 弥生土器 後期後半 円形 30×35×27 491 A地点 弥生土器 後期後半 円形 30×35×27 491 A地点 弥生土器 後期後半 円形 30×35×27 50×48 493 A地点 弥生土器 後期後半 円形 30×35×27 50×48	476	A地点	<b>須恵器</b>		楕円	$32 \times 46 \times 32$	
490   A 地点   弥生土器   後期後半   円形   27×31×25     481   A 地点   大型器   古墳切別   桁目   52×-×8     482   A 地点   大型器   古墳切別   桁目   52×-×8     483   A 地点   大型器   古墳切別   桁目   50×32×20     484   A 地点   大型器   古墳切別   桁目   40×50×22     484   A 地点   大型器   古墳切別   桁目   40×50×22     485   A 地点   大型器   後期後半   円形   30×33×7     486   A 地点   大型器   古墳切別   円形   30×33×7     486   A 地点   大型器   古墳切別   円形   44×45×35     487   A 地点   弥生土器   後期後半   円形   23×25×29     488   A 地点   弥生土器   後期後半   円形   29×35×22     489   A 地点   弥生土器   後期後半   円形   29×35×22     490   A 地点   弥生土器   後期後半   円形   30×33×33     491   A 地点   弥生土器   後期後半   円形   30×33×33     492   A 地点   弥生土器   後期後半   円形   30×33×33     493   A 地点   弥生土器   後期後半   円形   30×33×33     494   A 地点   弥生土器   後期後半   円形   30×33×33     495   A 地点   弥生土器   後期後半   円形   30×33×33     496   A 地点   弥生土器   後期後半   円形   30×33×33     497   A 地点   弥生土器   後期後半   円形   30×33×33     498   A 地点   弥生土器   後期後半   円形   30×33×33     498   A 地点   弥生土器   後期後半   円形   27×30×34     499   A 地点   弥生土器   後期後半   円形   27×30×34     499   A 地点   弥生土器   後期後半   円形   35×33×9     499   A 地点   弥生土器   後期後半   円形   35×33×9     499   A 地点   弥生土器   後期後半   円形   35×43×15     501   A 地点   弥生土器   後期後半   円形   35×43×15     502   A 地点   弥生土器   後期後半   円形   35×43×15     503   A 地点   弥生土器   後期後半   円形   30×39×77     507   A 地点   弥生土器   後期後半   円形   30×39×77     508   A 地点   弥生土器   後期後半   円形   30×39×77     510   A 地点   弥生土器   後期後半   円形   30×39×77     511   A 地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×30×31     512   A 地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×30×30     513   A 地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×30     514   A 地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×30     515   A 地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×30     516   A 地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×30     517   A 地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×30     518   A 地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×30     519   A 地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×30     520   A 地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×30     521   A 地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×30     522   A 地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×30     523   A 地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×30     524   A 地点   弥生土器   後期後半		A地点	弥生土器	後期後半			
480   A地点   弥生土器   後期後半   楕円   28×34×16     481   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×32×20     483   A地点   九重器   古規初期   楕円   40×50×22     484   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×21     485   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×7     485   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×7     485   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×7     486   A地点   弥生土器   後期後半   円形   29×35×29     487   A地点   弥生土器   後期後半   円形   29×35×22     489   A地点   弥生土器   後期後半   円形   29×35×27     490   A地点   弥生土器   後期後半   円形   29×35×27     491   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×33×33     492   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×33×33     493   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×33     494   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×33     494   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×33     495   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×4     496   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×4     497   A地点   弥生土器   後期後半   円形   33×140×8     498   A地点   弥生土器   後期後半   円形   33×140×8     499   A地点   弥生土器   後期後半   円形   33×140×8     499   A地点   弥生土器   後期後半   円形   33×140×8     499   A地点   弥生土器   後期後半   円形   33×140×8     490   A地点   弥生土器   後期後半   円形   33×140×8     491   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×30     496   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×30     496   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×30     501   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×20     502   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×20     503   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×20     504   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×20     505   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×20     506   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×20     510   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×20     511   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×20     512   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×20     513   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×20     514   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×20     515   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×20     516   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×20     517   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×20     518   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×20     519   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×20     510   A地点   弥生土器   後期後半			弥生土器				
481   A地点   土師器   古墳別期   楕円   52× × 8     482   A地点   大座書   佐野隆半   円形   30× 32× 20     483   A地点   外生上器   後期後半   円形   30× 30× 21     484   A地点   外生上器   後期後半   円形   30× 30× 21     485   A地点   外生上器   後期後半   円形   30× 30× 21     486   A地点   外生上器   佐野俊半   円形   30× 30× 21     487   A地点   外生土器   佐野俊半   円形   23× 25× 29     488   A地点   外生土器   佐野俊半   円形   29× 35× 22     489   A地点   外生土器   佐野俊半   円形   29× 35× 22     490   A地点   外生土器   佐野俊半   円形   30× 33× 33     491   A地点   外生土器   佐野俊半   円形   30× 33× 33     492   A地点   外生土器   佐野俊半   円形   30× 33× 33     493   A地点   外生土器   佐野俊半   円形   30× 33× 33     493   A地点   外生土器   佐野俊半   円形   30× 33× 33     494   A地点   外生土器   佐野俊半   円形   30× 33× 34     495   A地点   外生土器   佐野俊半   円形   27× 30× 34     496   A地点   外生土器   佐野俊半   円形   27× 30× 34     497   A地点   外生土器   佐野俊半   円形   27× 30× 34     498   A地点   外生土器   佐野俊半   円形   27× 30× 34     499   A地点   外生土器   佐野俊半   円形   27× 40× 21     501   A地点   外生土器   佐野俊半   円形   30× 30× 21     502   A地点   外生土器   佐野俊半   円形   30× 30× 15     503   A地点   外生土器   佐野俊半   円形   30× 30× 15     504   A也点   外生土器   佐野俊半   円形   30× 30× 20     505   A也点   外生土器   佐野俊半   円形   30× 30× 20     506   A也点   外生土器   佐野俊半   円形   31× 35× 16     507   A也点   外生土器   佐野俊半   円形   31× 35× 16     508   A地点   外生土器   佐野俊半   円形   30× 30× 27     510   A也点   外生土器   佐野俊半   円形   30× 30× 27     511   A也点   外生土器   佐野俊半   円形   30× 30× 27     512   A也点   外生土器   佐野俊半   円形   30× 30× 27     513   A也点   外生土器   佐野俊半   円形   30× 30× 27     514   A也点   外生土器   佐野俊半   円形   30× 30× 27     515   A也点   外生土器   佐野俊半   円形   30× 30× 27     516   A也点   外生土器   佐野俊半   円形   30× 30× 27     517   A也点   外生土器   佐野俊半   円形   30× 30× 27     518   A也点   外生土器   佐野俊半   円形   30× 30× 30× 30× 30× 30× 30× 30× 30× 30×			<u> </u>	後期後半		$27 \times 31 \times 25$	
482   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×32×20   30×32×20   484   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×21   485   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×21   486   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×32×7   486   A地点   弥生土器   後期後半   円形   44×45×35   35×22   489   A地点   弥生土器   後期後半   円形   22×25×29   32×25×29   32×25×29   32×25×29   32×25×29   32×25×29   32×25×29   32×25×29   32×25×29   32×25×29   32×25×29   32×25×29   32×25×29   32×25×29   32×25×29   32×25×29   32×25×20   32×25×29   32×25×20   3			弥生土器	後期後半	<b>精円</b>		
484   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×21   485   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×21   486   A地点   土師器   土埔郡   円形   44×45×35   487   A地点   弥生土器   後期後半   円形   23×25×29   2888   A地点   弥生土器   後期後半   円形   25×25×30   299   A地点   弥生土器   後期後半   円形   25×25×30   299   A地点   弥生土器   後期後半   円形   25×25×30   299   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×35×27   291   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×35×24   292   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×35×24   293   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×35×24   293   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×35×24   294   295   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×35×38×9   295   2		A地点		古墳初期		$52 \times - \times 8$	
484   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×21   485   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×21   486   A地点   土師器   土埔郡   円形   44×45×35   487   A地点   弥生土器   後期後半   円形   23×25×29   2888   A地点   弥生土器   後期後半   円形   25×25×30   299   A地点   弥生土器   後期後半   円形   25×25×30   299   A地点   弥生土器   後期後半   円形   25×25×30   299   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×35×27   291   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×35×24   292   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×35×24   293   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×35×24   293   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×35×24   294   295   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×35×38×9   295   2				<b>皮期後半</b>		30 × 32 × 20	
486   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×32×7   7   486   A地点   弥生土器   後期後半   円形   23×35×29   488   A地点   弥生土器   後期後半   円形   23×35×22   488   A地点   弥生土器   後期後半   円形   25×25×30   490   A地点   弥生土器   後期後半   円形   25×25×30   490   A地点   か生土器   後期後半   円形   30×35×27   491   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×35×27   492   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×35×33   33×33   493   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×35×33   494   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×35×33   494   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×35×34   495   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×35×34   496   A地点   弥生土器   後期後半   円形   31×30×34   496   A地点   弥生土器   後期後半   円形   31×30×34   496   A地点   弥生土器   後期後半   円形   31×30×34   498   A地点   弥生土器   後期後半   円形   31×3140×8   498   A地点   弥生土器   後期後半   円形   32×32×15   499   A地点   弥生土器   後期後半   円形   31×35×16   501   A地点   弥生土器   後期後半   円形   21×20×2   21×502   A地点   弥生土器   後期後半   円形   31×35×16   503   A地点   弥生土器   後期後半   円形   31×35×16   504   A地点   弥生土器   後期後半   円形   31×35×16   506   A地点   弥生土器   校期後半   円形   31×35×16   506   A地点   弥生土器   校期後半   円形   31×35×16   507   A地点   弥生土器   校期後半   円形   30×39×27   510   A地点   弥生土器   校期後半   円形   30×39×27   510   A地点   弥生土器   校期後半   円形   32×32×47   511   A地点   弥生土器   校期後半   円形   32×32×47   512   A地点   弥生土器   校期後半   円形   32×32×47   513   A地点   弥生土器   校期後半   円形   32×32×47   514   Au点   弥生土器   校期後半   円形   32×32×47   515   Au点   弥生土器   校期後半   円形   32×32×47   516   Au点   弥生土器   校期後半   円形   32×32×47   517   Au点   弥生土器   校期後半   円形   32×32×47   518   Au点   弥生土器   校期後半   円形   32×32×47   519   519   Au点   弥生土器   校期後半   円形   32×32×47   519			上	白垻初期			+
486		A地占	<u> </u>	後期後生	田形		+
488   A地点   弥生土器   後期後半   円形   23×25×29   488   A地点   弥生土器   後期後半   円形   29×35×22   489   A地点   弥生土器   後期後半   円形   25×25×30   490   A地点   弥生土器   後期後半   円形   25×25×30   490   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×35×27   491   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×35×27   492   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×33×33   392   494   A地点   弥生土器   後期後半   円形   39×50×48   494   A地点   弥生土器   後期後半   円形   39×50×48   495   A地点   弥生土器   後期後半   円形   39×30×34   496   A地点   弥生土器   後期後半   円形   35×33×9   497   A地点   弥生土器   後期後半   円形   35×32×15   498   A地点   弥生土器   後期後半   円形   32×32×15   499   A地点   弥生土器   後期後半   円形   32×32×15   501   A地点   弥生土器   後期後半   円形   32×32×15   502   A地点   弥生土器   後期後半   円形   118×126×111   S   503   A地点   弥生土器   後期後半   円形   31×35×48   5504   A地点   弥生土器   後期後半   円形   32×36×20   505   A地点   弥生土器   後期後半   円形   32×36×20   506   A地点   弥生土器   後期後半   円形   32×36×20   507   A地点   弥生土器   後期後半   円形   32×36×20   508   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×39×27   510   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×39×27   511   A地点   弥生土器   後期後半   円形   36×42×32   511   A地点   弥生土器   後期後半   円形   36×32×47   511   A地点   弥生土器   後期後半   円形   34×42×16   515   A地点   弥生土器   後期後半   円形   34×42×16   515   A地点   弥生土器   後期後半   円形   34×42×16   516   A地点   弥生土器   後期後半   円形   34×42×16   517   Au点   弥生土器   後期後半   円形   34×42×16   518   Au点   弥生土器   世期   円形   36×23×31   519   Au点   弥生土器   世期後半   円形   36×23×31   511   Au点   弥生土器   世期後半   円形   31×35×31				古墳初期	田影	44 × 45 × 35	<del>                                     </del>
488		A地点		後期後半		23× 25× 29	1
499   A地点		A地点					
490   A地点   土部器   古墳初期   円形   30×35×27     491   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×35×27     492   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×33×33     493   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×48     494   A地点   弥生土器   後期後半   円形   39×50×48     495   A地点   弥生土器   後期後半   円形   39×50×48     496   A地点   弥生土器   後期後半   円形   27×30×34     496   A地点   弥生土器   後期後半   円形   35×38×9     497   A地点   弥生土器   伊期   円形   33×32×15     498   A地点   弥生土器   伊期   円形   32×32×15     499   A地点   弥生土器   後期後半   円形   20×20×?     501   A地点   弥生土器   後期後半   円形   20×20×?     502   A地点   弥生土器   後期後半   円形   20×20×?     503   A地点   弥生土器   後期後半   円形   32×36×20     504   A地点   弥生土器   後期後半   円形   33×35×16     504   A地点   弥生土器   後期後半   円形   31×35×16     505   A地点   弥生土器   後期後半   円形   31×35×16     506   A地点   弥生土器   後期後半   円形   31×35×16     507   A地点   弥生土器   後期後半   円形   31×35×16     508   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×39×27     510   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×39×27     511   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×39×27     512   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×39×27     513   A地点   弥生土器   後期後半   円形   32×32×19     514   A地点   弥生土器   後期後半   円形   32×32×19     515   A地点   弥生土器   後期後半   円形   32×32×19     516   A地点   弥生土器   後期後半   円形   32×32×19     517   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×2×32×19     518   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×3×3×3     519   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×3×3×3     520   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×3×3×3     521   A地点   弥生土器   伊期   円形   25×25×35     522   A地点   弥生土器   伊期   円形   25×25×35     523   A地点   弥生土器   伊期   円形   25×25×35     524   A地点   弥生土器   伊期   円形   25×25×35     525   A地点   弥生土器   伊期   円形   25×25×35     526   A地点   弥生土器   伊期   円形   25×25×35     527   A地点   弥生土器   伊期   円形   25×25×35     528   A地点   弥生土器   伊期   円形   25×25×35     529   A地点   弥生土器   伊期   円形   25×25×35     520   A地点   弥生土器   伊期   円形   25×25×35     521   A地点   弥生土器   伊期   円形   25×25×35     522   A地点   弥生土器   伊期   円形   25×25×35     523   A地点   弥生土器   伊期   円形   25×25×35     524   A地点   弥生土器   伊期   円形   25×25×35     525   A地点   弥生土器   伊期   円形   25×25×35     526   A地点   弥生土器   伊期   円形   20×32×20     527   A地点   弥			弥生土器				1
491 A地点 弥生土器 後期後半 門形 30×33×33 493 A地点 弥生土器 後期後半 門形 39×50×48 494 A地点 弥生土器 後期後半 門形 39×50×48 494 A地点 弥生土器 後期後半 形 25×35×24 495 A地点 弥生土器 後期後半 形 27×30×34 496 A地点 弥生土器 後期後半 円形 35×38×9 497 A地点 弥生土器 後期後半 円形 35×38×9 497 A地点 弥生土器 後期後半 円形 35×38×9 498 A地点 弥生土器 後期後半 円形 32×32×15 501 A地点 弥生土器 後期後半 楕円 133×140×8 502 A地点 弥生土器 後期後半 円形 20×20×? 502 A地点 弥生土器 後期後半 円形 20×20×? 503 A地点 弥生土器 後期後半 円形 20×20×? 504 A地点 弥生土器 後期後半 円形 35×43×15 505 A地点 弥生土器 後期後半 円形 31×35×16 506 A地点 弥生土器 後期後半 円形 31×35×16 507 A地点 弥生土器 後期後半 円形 31×35×16 506 A地点 弥生土器 後期後半 円形 31×35×16 507 A地点 弥生土器 後期後半 円形 31×35×16 508 A地点 弥生土器 後期後半 円形 31×35×16 509 A地点 弥生土器 後期後半 円形 31×35×16 510 A地点 弥生土器 後期後半 楕円 64×67×22 509 A地点 弥生土器 後期後半 楕円 64×67×21 511 A地点 弥生土器 後期後半 楕円 18×27×14 512 A地点 弥生土器 後期後半 楕円 18×27×14 514 A地点 弥生土器 後期後半 月形 55×62×18 515 A地点 弥生土器 後期後半 月形 18×27×14 514 A地点 弥生土器 後期後半 月形 32×32×19 515 A地点 弥生土器 後期後半 月形 32×32×19 516 A地点 弥生土器 後期後半 円形 32×32×19 517 A地点 弥生土器 後期後半 円形 32×32×19 518 A地点 弥生土器 後期後半 円形 32×32×19 519 A地点 弥生土器 後期後半 円形 30×3×3×3×19 510 A地点 弥生土器 後期後半 円形 32×32×19 511 A地点 弥生土器 後期後半 円形 32×32×19 512 A地点 弥生土器 後期後半 円形 30×3×3×15 513 A地点 弥生土器 後期後半 円形 30×3×2×2×17 514 A地点 弥生土器 後期後半 円形 30×3×2×2×17 515 A地点 弥生土器 後期後半 円形 55×9×47 523 A地点 弥生土器 後期後半 円形 55×9×47 524 A地点 弥生土器 後期後半 円形 55×9×47 525 A地点 弥生土器 後期後半 円形 55×3×35 526 A地点 弥生土器 後期後半 円形 18×27×16 527 A地点 弥生土器 後期後半 円形 18×27×16 528 A地点 弥生土器 後期後半 円形 18×27×16 529 A地点 弥生土器 後期後半 円形 18×27×16 520 A地点 弥生土器 後期後半 円形 18×27×16 521 A地点 弥生土器 後期後半 円形 18×27×16 522 A地点 弥生土器 後期後半 円形 18×27×16 523 A地点 弥生土器 後期後半 円形 18×27×16 524 A地点 弥生土器 伊期 17形 15×19×18 525 A地点 弥生土器 伊期 17形 15×19×18 526 A地点 弥生土器 伊期 17形 15×19×18 527 A地点 弥生土器 長期後半 円形 15×19×18 528 A地点 弥生土器 伊期 17形 15×19×18	490	A地点	土師器	古墳初期	円形	$30 \times 35 \times 27$	
493       A地点       弥生土器       後期後半       円形       25×36×24         494       A地点       弥生土器       後期後半       円形       27×30×34         495       A地点       弥生土器       後期後半       円形       35×38×9         497       A地点       弥生土器       後期後半       梅円       133×140×8         498       A地点       弥生土器       後期後半       梅円       133×140×8         499       A地点       弥生土器       後期後半       梅円       27×46×21         501       A地点       弥生土器       後期後半       月形       20×20×?         502       A地点       弥生土器       後期後半       円形       31×35×16         503       A地点       弥生土器       後期後半       円形       31×35×16         504       A地点       弥生土器       後期後半       円形       31×35×16         505       A地点       弥生土器       後期後半       円形       31×35×16         506       A地点       弥生土器       後期後半       円形       31×35×16         507       A地点       弥生土器       後期後半       円形       44×48×17         507       A地点       弥生土器       後期後半       イ門       30×39×27         508       A地点       弥生土器       後期後半		A地点	弥生土器	後期後半	楕円		
494   A地点   弥生土器   後期後半   形   25×35×24     495   A地点   弥生土器   後期後半   円形   27×30×34     496   A地点   弥生土器   後期後半   円形   35×38×9     497   A地点   弥生土器   後期後半   楕円   133×140×8     498   A地点   弥生土器   後期後半   楕円   133×140×8     499   A地点   弥生土器   後期後半   円形   32×32×15     501   A地点   弥生土器   後期後半   円形   20×20×?     502   A地点   弥生土器   後期後半   円形   20×20×?     503   A地点   弥生土器   後期後半   円形   31×35×16     504   A地点   弥生土器   後期後半   円形   33×43×15     505   A地点   弥生土器   後期後半   円形   31×35×16     506   A地点   弥生土器   後期後半   円形   31×35×16     507   A地点   弥生土器   後期後半   円形   31×35×16     508   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×39×27     509   A地点   弥生土器   後期後半   楕円   30×39×27     510   A地点   弥生土器   後期後半   梅円   64×67×22     508   A地点   弥生土器   後期後半   梅円   64×67×22     509   A地点   弥生土器   後期後半   梅円   64×67×22     511   A地点   弥生土器   後期後半   円形   55×62×18     511   A地点   弥生土器   後期後半   円形   32×32×17     513   A地点   弥生土器   後期後半   円形   32×32×19     514   A地点   弥生土器   後期後半   円形   32×32×19     515   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×26     516   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×26     517   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×30×26     518   A地点   弥生土器   後期後半   円形   41×42×15     519   A地点   弥生土器   後期後半   円形   41×42×24     518   A地点   弥生土器   後期後半   円形   28×30×34     520   A地点   弥生土器   後期後半   円形   28×35     521   A地点   弥生土器   後期後半   円形   28×35     522   A地点   弥生土器   後期後半   円形   28×35     523   A地点   弥生土器   後期後半   円形   49×55×45     524   A地点   弥生土器   後期後半   円形   49×55×45     525   A地点   弥生土器   後期後半   円形   29×32×24     527   A地点   弥生土器   後期後半   円形   29×32×24     528   A地点   弥生土器   後期後半   円形   29×32×24     529   A地点   弥生土器   後期後半   円形   29×32×24     520   A地点   弥生土器   後期後半   円形   29×32×24     521   A地点   弥生土器   後期後半   円形   29×32×24     522   A地点   弥生土器   後期後半   円形   29×32×24     523   A地点   弥生土器   後期後半   円形   29×32×24     524   A地点   弥生土器   後期後半   円形   29×32×24     525   A地点   弥生土器   後期後半   円形   29×32×24     526   Au点   弥生土器   後期後半   円形   29×32×24     527   A地点   弥生土器   後期後半   円形   29×32×24     528   Au点   弥生土器   後期後半   円形   29×32×24     529   Au点   弥生土器   後期後半   円形		A地点	弥生土器	後期後半			
495   A地点   弥生土器   後期後半   円形   35×38×9     497   A地点   弥生土器   後期後半   円形   35×38×9     498   A地点   弥生土器   伊那   133×140×8     498   A地点   弥生土器   伊那   円形   32×32×15     501   A地点   弥生土器   後期後半   円形   20×20×?     502   A地点   弥生土器   後期後半   円形   20×20×?     503   A地点   弥生土器   後期後半   円形   35×43×15     504   A地点   弥生土器   後期後半   円形   35×43×15     505   A地点   弥生土器   後期後半   円形   33×36×20     505   A地点   弥生土器   後期後半   円形   31×35×16     506   A地点   弥生土器   後期後半   円形   31×35×16     507   A地点   弥生土器   後期後半   円形   31×35×16     508   A地点   弥生土器   伊那   円形   36×42×32     508   A地点   弥生土器   伊那   円形   36×42×32     509   A地点   弥生土器   後期後半   南円   64×67×22     509   A地点   弥生土器   後期後半   南円   64×67×22     510   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×39×27     511   A地点   弥生土器   後期後半   円形   55×62×18     511   A地点   弥生土器   後期後半   円形   32×32×47     513   A地点   弥生土器   後期後半   円形   32×32×47     514   A地点   弥生土器   後期後半   円形   32×32×19     516   A地点   弥生土器   後期後半   円形   32×32×19     517   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×36×26     519   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×36×26     520   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×36×26     521   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×36×26     522   A地点   弥生土器   後期後半   円形   28×30×34     523   A地点   弥生土器   後期後半   円形   28×30×34     524   A地点   弥生土器   後期後半   円形   28×35     525   A地点   弥生土器   長期後半   円形   28×36×40     526   A地点   弥生土器   長期後半   円形   28×36×40     527   A地点   弥生土器   長期後半   円形   29×32×24     530   A地点   弥生土器   長期後半   円形   29×32×24     531   A地点   弥生土器   長期後半   円形   29×32×24     532   A地点   弥生土器   長期後半   円形   29×32×24     533   A地点   弥生土器   長期後半   円形   29×32×24     544   A地点   弥生土器   長期後半   円形   25×28×28     525   A地点   弥生土器   長期後半   円形   29×32×24     527   A地点   弥生土器   長期後半   円形   29×32×24     530   A地点   弥生土器   長期後半   円形   29×32×24     541   A世点   弥生土器   長期後半   円形   29×32×24     542   A世点   弥生土器   長期後半   円形   29×32×24     543   A世点   弥生土器   長期後半   円形   29×32×24     544   A世点   弥生土器   長期後半   円形   29×32×24     545   A世点   弥生土器   長期後半   円形   29×32×24     546   A世点   弥生土器   長期後半   円形   29×32×24     547   A世点   小田   日本社   日本社   日本社   日本			弥生土器	後期後半			
496   A地点   弥生土器   後期後半   円形   35×38×9     497   A地点   弥生土器   後期後半   楕円   133×140×8     498   A地点   弥生土器   位期   円形   32×32×15     499   A地点   弥生土器   後期後半   楕円   27×46×21     501   A地点   弥生土器   後期後半   円形   20×20×?     502   A地点   弥生土器   後期後半   円形   20×20×?     503   A地点   弥生土器   後期後半   円形   35×43×15     504   A地点   弥生土器   後期後半   円形   32×36×20     505   A地点   弥生土器   後期後半   円形   32×36×20     506   A地点   弥生土器   後期後半   円形   31×35×16     507   A地点   弥生土器   後期後半   円形   31×35×16     508   A地点   弥生土器   後期後半   円形   41×48×17     507   A地点   弥生土器   後期後半   円形   46×67×22     508   A地点   弥生土器   後期後半   円形   36×42×32     508   A地点   弥生土器   後期後半   円形   36×42×32     509   A地点   弥生土器   後期後半   円形   32×32×17     510   A地点   弥生土器   後期後半   円形   55×62×18     511   A地点   弥生土器   後期後半   円形   58×75×37     512   A地点   弥生土器   後期後半   円形   32×32×47     513   A地点   弥生土器   後期後半   円形   32×32×47     514   A地点   弥生土器   後期後半   円形   32×32×19     516   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×7×13     517   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×36×26     519   A地点   弥生土器   後期後半   円形   30×36×26     520   A地点   弥生土器   後期後半   円形   41×42×15     519   A地点   弥生土器   後期後半   円形   41×42×15     519   A地点   弥生土器   後期後半   円形   41×42×15     520   A地点   弥生土器   後期後半   円形   28×30×34     521   A地点   弥生土器   後期後半   円形   28×30×34     522   A地点   弥生土器   後期後半   円形   28×30×34     523   A地点   弥生土器   後期後半   円形   28×36×40     525   A地点   弥生土器   後期後半   円形   25×25×35     524   A地点   弥生土器   後期後半   円形   25×25×35     525   A地点   弥生土器   使期   円形   25×25×35     526   A地点   弥生土器   使期   円形   25×28×28     527   A地点   弥生土器   使期   円形   29×32×24     529   A地点   弥生土器   使期   円形   29×32×24     529   A世点   弥生土器   使期   円形   29×32×24     520   A世点   弥生土器   使期   円形   21×23×33     531   A世点   弥生土器   後期後半   円形   30×35×48     532   A世点   弥生土器   後期後半   円形   21×23×33     531   A世点   弥生土器   後期後半   円形   30×35×48     532   A世点   弥生土器   後期後半   円形   26×29×20		A地点	- 弥生土器		形	25 × 35 × 24	
497 A A 地点				後期後半			
498       A地点       弥生土器       使期後半       楕円       27×46×21         501       A地点       弥生土器       後期後半       円形       20×20×?         502       A地点       弥生土器       後期後半       円形       118×126×111       S         503       A地点       弥生土器       後期後半       円形       35×43×15       5         504       A地点       弥生土器       後期後半       円形       35×43×15       5         504       A地点       弥生土器       後期後半       円形       33×35×16       6         505       A地点       弥生土器       後期後半       円形       31×35×16       6         506       A地点       弥生土器       使期後半       円形       31×35×16       6         507       A地点       弥生土器       使期後半       円形       31×35×16       6         507       A地点       弥生土器       後期後半       円形       41×48×17       7       7         508       A地点       弥生土器       後期後半       有円       64×67×22       2       6       50       8       20       39×27       7       1       4       4       7       7       7       1       4       8       7       2       2       2       2<			<u>外生土器</u>				
		A地点	<u> </u>				
501         A地点         弥生土器         後期後半         円形         20×20×?           502         A地点         弥生土器         後期後半         円形         118×126×1111         S           503         A地点         弥生土器         後期後半         円形         32×36×20         50           506         A地点         弥生土器         後期後半         円形         31×35×16         50           506         A地点         弥生土器         後期後半         円形         31×35×16         50           507         A地点         弥生土器         後期後半         円形         41×48×17         41×48×17           507         A地点         弥生土器         後期後半         円形         36×42×32         50           508         A地点         弥生土器         後期後半         楕円         64×67×22         50           509         A地点         弥生土器         後期後半         角円         30×39×27         55         62×18           510         A 地点         弥生土器         後期後半         角円         30×39×27         14         41         51         41         42×14         51         51         A地点         弥生土器         後期後半         内形         33×32×32×19         41         42×12         16         51 <td< td=""><td></td><td></td><td><u>沙土工品</u></td><td></td><td></td><td></td><td></td></td<>			<u>沙土工品</u>				
502         A地点         弥生土器         後期後半         円形         118×126×111         S           503         A地点         弥生土器         後期後半         楕円         35×43×15         S           504         A地点         弥生土器         後期後半         円形         32×36×20         D           505         A地点         弥生土器         後期後半         円形         31×35×16         D           506         A地点         弥生土器         後期後半         円形         41×48×17         D           507         A地点         弥生土器         後期後半         円形         36×42×32         D           508         A地点         弥生土器         後期後半         桶円         64×67×22         D           509         A地点         弥生土器         後期後半         桶円         30×39×27         D           510         A地点         弥生土器         後期後半         円形         30×39×27         D           510         A地点         弥生土器         後期後半         円形         30×39×27         D           510         A地点         弥生土器         後期後半         円形         30×39×27         D         D         D         D         D         D         D         D         D         D         <				後期後半	田形		
503         A地点         弥生土器         後期後半         楕円         35×43×15           504         A地点         弥生土器         後期後半         円形         31×36×20           505         A地点         弥生土器         後期後半         円形         31×35×16           506         A地点         弥生土器         後期後半         円形         41×48×17           507         A地点         弥生土器         後期後半         円形         36×42×32           508         A地点         弥生土器         後期後半         楕円         64×67×22           509         A地点         弥生土器         後期後半         月形         36×42×32           510         A地点         弥生土器         後期後半         円形         30×39×27           510         A地点         弥生土器         後期後半         円形         18×27×14           511         A地点         弥生土器         後期後半         円形         18×27×14           512         A地点         弥生土器         後期後半         円形         32×32×47           513         A地点         弥生土器         後期後半         円形         32×32×19           514         A地点         弥生土器         後期後半         円形         32×32×19           515         A地点         弥生土器			弥生十器	後期後坐	田形		S E -03
504         A地点         弥生土器         後期後半         円形         32×36×20           505         A地点         弥生土器         後期後半         円形         31×35×16           506         A地点         弥生土器         後期後半         円形         41×48×17           507         A地点         弥生土器         使期後半         有円         64×67×22           508         A地点         弥生土器         後期後半         楕円         64×67×22           509         A地点         弥生土器         後期後半         月形         30×39×27           510         A地点         弥生土器         後期後半         月形         55×62×18           511         A地点         弥生土器         後期後半         月形         55×62×18           511         A地点         弥生土器         伊期         楕円         18×27×14           512         A地点         弥生土器         伊期         4月         58×75×37           513         A地点         弥生土器         後期後半         月形         32×32×47           514         A地点         弥生土器         後期後半         月形         32×32×19           515         A 地点         弥生土器         後期後半         月形         30×2×2×13           516         A 地点         弥生土器		A地点	弥生土器	後期後半			3 12 00
505         A地点         弥生土器         後期後半         円形         31×35×16           506         A地点         弥生土器         後期後半         円形         41×48×17           507         A地点         弥生土器         伊期         円形         36×42×32           508         A地点         弥生土器         後期後半         楕円         64×67×22           509         A地点         弥生土器         後期後半         楕円         30×39×27           510         A地点         弥生土器         後期後半         円形         55×62×18           511         A地点         弥生土器         後期後半         楕円         38×27×14           512         A地点         弥生土器         後期後半         梅門         58×75×37           513         A地点         弥生土器         後期後半         円形         32×32×47           514         A地点         弥生土器         後期後半         円形         34×42×16           515         A地点         弥生土器         後期後半         円形         32×32×19           516         A地点         弥生土器         後期後半         円形         30×7×13           517         A地点         弥生土器         後期後半         円形         41×42×24           518         A地点         弥生土器 <t< td=""><td></td><td></td><td>弥生土器</td><td></td><td></td><td></td><td></td></t<>			弥生土器				
506         A地点         弥生土器         後期後半         円形         41× 48× 17           507         A地点         弥生土器         中期         円形         36× 42× 32           508         A地点         弥生土器         後期後半         楕円         64× 67× 22           509         A地点         弥生土器         後期後半         桶円         30× 39× 27           510         A地点         弥生土器         後期後半         円形         55× 62× 18           511         A地点         弥生土器         後期後半         円形         18× 27× 14           512         A地点         弥生土器         伊期         58× 75× 37         513           513         A地点         弥生土器         後期後半         円形         32× 32× 47           514         A地点         弥生土器         後期後半         円形         32× 32× 19           515         A地点         弥生土器         後期後半         円形         32× 32× 19           516         A地点         弥生土器         後期後半         円形         30× 32× 32× 19           517         A地点         弥生土器         後期後半         円形         41× 42× 15           518         A地点         弥生土器         後期後半         円形         41× 42× 15           518         A地点	505	A地点	弥生土器	後期後半		$31 \times 35 \times 16$	
508         A地点         弥生土器         後期後半         楕円         64×67×22           509         A地点         弥生土器         後期前半         楕円         30×39×27           510         A地点         弥生土器         後期後半         円形         55×62×18           511         A地点         弥生土器         後期後半         楕円         18×27×14           512         A地点         弥生土器         伊期         楕円         58×75×37           513         A地点         弥生土器         後期後半         円形         32×32×47           514         A地点         弥生土器         後期後半         円形         32×32×19           515         A地点         弥生土器         後期後半         円形         32×32×19           516         A地点         弥生土器         後期後半         円形         30×?×13           517         A地点         弥生土器         後期後半         円形         41×42×24           518         A地点         弥生土器         後期後半         円形         41×42×24           518         A地点         弥生土器         後期後半         円形         41×42×15           519         A地点         弥生土器         後期後半         円形         30×36×26           520         A地点         弥生土器 <t< td=""><td></td><td></td><td>  弥生土器</td><td>後期後半</td><td>円形</td><td></td><td></td></t<>			弥生土器	後期後半	円形		
509         A地点         弥生土器         後期前半         楕円         30×39×27           510         A地点         弥生土器         後期後半         円形         55×62×18           511         A地点         弥生土器         後期後半         楕円         18×27×14           512         A地点         弥生土器         中期         楕円         58×75×37           513         A地点         弥生土器         後期後半         円形         32×32×47           514         A地点         弥生土器         後期後半         円形         34×42×16           515         A地点         弥生土器         後期後半         円形         32×32×19           516         A地点         弥生土器         後期後半         円形         30×7×13           517         A地点         弥生土器         後期後半         円形         41×42×24           518         A地点         弥生土器         後期後半         円形         41×42×15           519         A地点         弥生土器         使期後半         円形         30×36×26           520         A地点         弥生土器         後期後半         円形         23×28×35           521         A地点         弥生土器         後期後半         円形         28×30×34           522         A地点         弥生土器 <t< td=""><td></td><td>A地点</td><td>弥生土器</td><td>中期</td><td></td><td></td><td></td></t<>		A地点	弥生土器	中期			
510         A地点         弥生土器         後期後半         円形         55×62×18           511         A地点         弥生土器         後期後半         楕円         18×27×14           512         A地点         弥生土器         中期         楕円         58×75×37           513         A地点         弥生土器         後期後半         円形         32×32×47           514         A地点         弥生土器         後期後半         円形         34×42×16           515         A地点         弥生土器         後期後半         円形         32×32×19           516         A地点         弥生土器         後期後半         円形         30×7×13           517         A地点         弥生土器         後期後半         円形         41×42×15           518         A地点         弥生土器         後期後半         円形         41×42×15           518         A地点         弥生土器         後期後半         円形         41×42×15           519         A地点         弥生土器         中期         円形         30×36×26           520         A地点         弥生土器         後期後半         円形         23×28×35           521         A地点         弥生土器         後期後半         円形         28×30×34           522         A地点         弥生土器		A地点	弥生土器	後期後半	楕円		
511       A地点       弥生土器       後期後半       楕円       18×27×14         512       A地点       弥生土器       中期       楕円       58×75×37         513       A地点       弥生土器       後期後半       円形       32×32×47         514       A地点       弥生土器       後期後半       円形       32×32×19         515       A地点       弥生土器       後期後半       円形       32×32×19         516       A地点       弥生土器       後期後半       円形       30×2×13         517       A地点       弥生土器       後期後半       円形       41×42×24         518       A地点       弥生土器       後期後半       円形       41×42×15         519       A地点       弥生土器       後期後半       円形       30×36×26         520       A地点       弥生土器       後期後半       円形       28×30×34         521       A地点       弥生土器       後期後半				後期前半	<u> 精円</u>	$30 \times 39 \times 27$	
512         A地点         弥生土器         中期         楕円         58×75×37           513         A地点         弥生土器         後期後半         円形         32×32×47           514         A地点         弥生土器         後期後半         円形         32×32×19           515         A地点         弥生土器         後期後半         門形         32×32×19           516         A地点         弥生土器         後期後半         桐円         30×?×13           517         A地点         弥生土器         後期後半         円形         41×42×24           518         A地点         弥生土器         後期後半         円形         41×42×15           519         A地点         弥生土器         後期後半         円形         41×42×15           519         A地点         弥生土器         後期後半         円形         30×36×26           520         A地点         弥生土器         後期後半         円形         23×28×35           521         A地点         弥生土器         後期後半         円形         28×30×34           522         A地点         弥生土器         中期         円形         25×29×47           523         A地点         弥生土器         後期前半         楕円         28×36×40           525         A地点         弥生土器		A地点					
513         A地点         弥生土器         後期後半         円形         32×32×47           514         A地点         弥生土器         後期後半         円形         34×42×16           515         A地点         弥生土器         後期後半         円形         32×32×19           516         A地点         弥生土器         後期後半         梅門         30×7×13           517         A地点         弥生土器         後期後半         円形         41×42×24           518         A地点         弥生土器         後期後半         円形         41×42×15           519         A地点         弥生土器         中期         円形         30×36×26           520         A地点         弥生土器         後期後半         円形         23×28×35           521         A地点         弥生土器         後期後半         円形         28×30×34           522         A地点         弥生土器         中期         円形         25×29×47           523         A地点         弥生土器         古墳初期         円形         25×29×47           523         A地点         弥生土器         後期後半         円形         49×55×45           524         A地点         弥生土器         後期後半         円形         49×55×45           525         A地点         弥生土器		A地点	<u> </u>		1 <b>稍</b> 円		
514       A地点       弥生土器       後期後半       円形       34×42×16         515       A地点       弥生土器       後期後半       円形       32×32×19         516       A地点       弥生土器       後期後半       楕円       30×2×13         517       A地点       弥生土器       後期後半       円形       41×42×24         518       A地点       弥生土器       後期後半       円形       41×42×15         519       A地点       弥生土器       伊期       円形       30×36×26         520       A地点       弥生土器       後期後半       円形       28×35         521       A地点       弥生土器       後期後半       円形       28×30×34         522       A地点       弥生土器       伊期       円形       25×29×47         523       A地点       弥生土器       後期後半       内形       25×25×35         524       A地点       弥生土器       後期後半       梅円       28×36×40         525       A地点       弥生土器       後期後半       円形       49×55×45         526       A地点       弥生土器       後期後半       円形       49×55×45         527       A地点       弥生土器       後期後半       円形       29×32×24         528       A地点       弥生土器       後期後半 <t< td=""><td></td><td></td><td>  <u>外生工</u></td><td>  中期                                      </td><td></td><td></td><td></td></t<>			<u>外生工</u>	中期 			
515         A地点         弥生土器         後期後半         円形         32×32×19           516         A地点         弥生土器         後期後半         楕円         30×?×13           517         A地点         弥生土器         後期後半         円形         41×42×15           518         A地点         弥生土器         後期後半         円形         41×42×15           519         A地点         弥生土器         中期         円形         30×36×26           520         A地点         弥生土器         後期後半         円形         23×28×35           521         A地点         弥生土器         後期後半         円形         28×30×34           522         A地点         弥生土器         中期         25×29×47           523         A地点         土師器         古墳初期         円形         25×25×35           524         A地点         弥生土器         後期後半         楕円         28×36×40           525         A地点         弥生土器         後期後半         月形         28×36×40           526         A地点         弥生土器         伊期         18×55×45           526         A地点         弥生土器         伊期         18×55×45           527         A地点         弥生土器         後期後半         円形         29×32×24			<u> </u>				
516         A地点         弥生土器         後期後半         楕円         30×?×13           517         A地点         弥生土器         後期後半         円形         41×42×24           518         A地点         弥生土器         後期後半         円形         41×42×15           519         A地点         弥生土器         中期         円形         30×36×26           520         A地点         弥生土器         後期後半         円形         23×28×35           521         A地点         弥生土器         後期後半         円形         28×30×34           522         A地点         弥生土器         中期         円形         25×29×47           523         A地点         土地器         古墳初期         円形         25×29×47           523         A地点         弥生土器         後期後半         有円         28×36×40           524         A地点         弥生土器         後期後半         円形         28×36×40           525         A地点         弥生土器         後期後半         円形         49×55×45           526         A地点         弥生土器         中期         18×27×16           527         A地点         弥生土器         伊期後         25×28×28           528         A地点         弥生土器         伊期         円形         29×3				後期後半			
518       A地点       弥生土器       後期後半       円形       41× 42× 15         519       A地点       弥生土器       中期       円形       30× 36× 26         520       A地点       弥生土器       後期後半       円形       23× 28× 35         521       A地点       弥生土器       後期後半       円形       28× 30× 34         522       A地点       弥生土器       中期       円形       25× 29× 47         523       A地点       弥生土器       後期前半       楕円       28× 36× 40         524       A地点       弥生土器       後期後半       円形       49× 36× 40         525       A地点       弥生土器       中期       49× 36× 40         526       A地点       弥生土器       中期       49× 36× 40         527       A地点       弥生土器       後期後半       円形       25× 28× 28         528       A地点       弥生土器       伊期       円形       29× 32× 24         529       A地点       弥生土器       後期後半       円形       15× 19× 18         530       A地点       弥生土器       後期後半       円形       30× 35× 48         531       A地点       弥生土器       後期後半       円形       30× 35× 48         532       A地点       弥生土器       後期後半       府円			弥生主製	後期後半			+
518       A地点       弥生土器       後期後半       円形       41× 42× 15         519       A地点       弥生土器       中期       円形       30× 36× 26         520       A地点       弥生土器       後期後半       円形       23× 28× 35         521       A地点       弥生土器       後期後半       円形       28× 30× 34         522       A地点       弥生土器       中期       円形       25× 29× 47         523       A地点       弥生土器       後期前半       楕円       28× 36× 40         524       A地点       弥生土器       後期後半       円形       49× 36× 40         525       A地点       弥生土器       中期       49× 36× 40         526       A地点       弥生土器       中期       49× 36× 40         527       A地点       弥生土器       後期後半       円形       25× 28× 28         528       A地点       弥生土器       伊期       円形       29× 32× 24         529       A地点       弥生土器       後期後半       円形       15× 19× 18         530       A地点       弥生土器       後期後半       円形       30× 35× 48         532       A地点       弥生土器       後期後半       円形       30× 35× 48         532       A地点       弥生土器       後期後半       府円			弥生王器			41× 42× 24	1
519     A地点     弥生土器     中期     円形     30×36×26       520     A地点     弥生土器     後期後半     円形     23×28×35       521     A地点     弥生土器     後期後半     円形     28×30×34       522     A地点     弥生土器     中期     円形     25×29×47       523     A地点     大生土器     大田路     古墳初期     円形     25×25×35       524     A地点     弥生土器     後期前半     梅円     28×36×40       525     A地点     弥生土器     後期後半     円形     49×55×45       526     A地点     弥生土器     中期     18×27×16       527     A地点     弥生土器     後期後半     円形     25×28×28       528     A地点     弥生土器     中期     円形     29×32×24       529     A地点     弥生土器     後期後半     円形     15×19×18       530     A地点     本地点     弥生土器     後期後半     円形     30×35×48       531     A地点     弥生土器     後期後半     円形     30×35×48       532     A地点     弥生土器     後期後半     梅円     26×29×20			弥生土器				
520     A地点     弥生土器     後期後半     円形     23×28×35       521     A地点     弥生土器     後期後半     円形     28×30×34       522     A地点     弥生土器     中期     円形     25×29×47       523     A地点     土邮器     古墳初期     円形     25×25×35       524     A地点     弥生土器     後期前半     楕円     28×36×40       525     A地点     弥生土器     夜期後半     円形     49×55×45       526     A地点     弥生土器     中期     有円     18×27×16       527     A地点     弥生土器     中期     月形     25×28×28       528     A地点     弥生土器     中期     円形     29×32×24       529     A地点     弥生土器     後期後半     円形     15×19×18       530     A地点     土師器     古墳初期     円形     21×23×33       531     A地点     弥生土器     後期後半     円形     30×35×48       532     A地点     弥生土器     後期後半     楕円     26×29×20	519	A地点	弥生土器		円形	30× 36× 26	1
522     A地点     弥生土器     中期     円形     25× 29× 47       523     A地点     土師器     古墳初期     円形     25× 25× 35       524     A地点     弥生土器     後期前半     楕円     28× 36× 40       525     A地点     弥生土器     後期後半     円形     49× 55× 45       526     A地点     弥生土器     中期     6円     18× 27× 16       527     A地点     弥生土器     後期後半     円形     25× 28× 28       528     A地点     弥生土器     中期     円形     29× 32× 24       529     A地点     弥生土器     後期後半     円形     15× 19× 18       530     A地点     赤生土器     透り期     円形     21× 23× 33       531     A地点     弥生土器     後期後半     円形     30× 35× 48       532     A地点     弥生土器     後期後半     楕円     26× 29× 20			弥牛十器		円形	23× 28× 35	
523     A地点     土師器     古墳初期     円形     25×25×35       524     A地点     弥生土器     後期前半     楕円     28×36×40       525     A地点     弥生土器     後期後半     円形     49×55×45       526     A地点     弥生土器     中期     18×27×16       527     A地点     弥生土器     後期後半     円形     25×28×28       528     A地点     弥生土器     中期     円形     29×32×24       529     A地点     弥生土器     後期後半     円形     15×19×18       530     A地点     土師器     古墳初期     円形     21×23×33       531     A地点     弥生土器     後期後半     円形     30×35×48       532     A地点     弥生土器     後期後半     楕円     26×29×20			- 弥生土器				
524     A地点     弥生土器     後期前半     楕円     28×36×40       525     A地点     弥生土器     後期後半     円形     49×55×45       526     A地点     弥生土器     中期     橋円     18×27×16       527     A地点     弥生土器     後期後半     円形     25×28×28       528     A地点     弥生土器     中期     円形     29×32×24       529     A地点     弥生土器     後期後半     円形     15×19×18       530     A地点     土師器     古墳初期     円形     21×23×33       531     A地点     弥生土器     後期後半     円形     30×35×48       532     A地点     弥生土器     後期後半     楕円     26×29×20							
525     A地点     弥生土器     後期後半     円形     49×55×45       526     A地点     弥生土器     中期     楕円     18×27×16       527     A地点     弥生土器     後期後半     円形     25×28×28       528     A地点     弥生土器     中期     円形     29×32×24       529     A地点     弥生土器     後期後半     円形     15×19×18       530     A地点     土師器     古墳初期     円形     21×23×33       531     A地点     弥生土器     後期後半     円形     30×35×48       532     A地点     弥生土器     後期後半     楕円     26×29×20							
526     A地点     弥生土器     中期     楕円     18×27×16       527     A地点     弥生土器     後期後半     円形     25×28×28       528     A地点     弥生土器     中期     円形     29×32×24       529     A地点     弥生土器     後期後半     円形     15×19×18       530     A地点     赤生土器     古墳初期     円形     21×23×33       531     A地点     弥生土器     後期後半     円形     30×35×48       532     A地点     弥生土器     後期後半     楕円     26×29×20					情円		
527     A地点     弥生土器     後期後半     円形     25×28×28       528     A地点     弥生土器     中期     円形     29×32×24       529     A地点     弥生土器     後期後半     円形     15×19×18       530     A地点     土師器     古墳初期     円形     21×23×33       531     A地点     弥生土器     後期後半     円形     30×35×48       532     A地点     弥生土器     後期後半     楕円     26×29×20							+
528     A地点     弥生土器     中期     円形     29×32×24       529     A地点     弥生土器     後期後半     円形     15×19×18       530     A地点     上師器     古墳初期     円形     21×23×33       531     A地点     弥生土器     後期後半     円形     30×35×48       532     A地点     弥生土器     後期後半     楕円     26×29×20							-
529     A地点     弥生土器     後期後半     円形     15×19×18       530     A地点     土師器     古填初期     円形     21×23×33       531     A地点     弥生土器     後期後半     円形     30×35×48       532     A地点     弥生土器     後期後半     楕円     26×29×20						29× 32× 24	
530     A地点     土師器     古墳初期     円形     21×23×33       531     A地点     弥生土器     後期後半     円形     30×35×48       532     A地点     弥生土器     後期後半     楕円     26×29×20		A地点	弥生十累		日形	15× 19× 18	<u> </u>
531     A 地点     弥生土器     後期後半     円形     30×35×48       532     A 地点     弥生土器     後期後半     楕円     26×29×20					一百彩		+
532 A地点 弥生土器 後期後半 楕円 26×29×20							
529 人物占 冼开工里 後期後火 団花 00~00~0	532		弥生土器	後期後半	楕円		
900   A.地点	533	A地点	弥生土器	後期後半	円形	22× 23× 8	
534 A 地点			弥生土器	後期後半	円形	18× 22× 17	
535     A地点     土師器器     古墳初期     円形     26×31×22       536     A地点     弥生土器     後期後半     円形     37×37×8				古墳初期		26× 31× 22	

Tab. 7 野方久保遺跡Pit計測一覧

itNo.	出土地点	出土遺物	時 期	形状	規 幅×長さ×深さ(単位cm)	掘出柱建物
537	A地点	弥生土器	後期後半	円形	30× 32× 15	
538	A地点	弥生土器	後期後半 後期後半	円形	$25 \times 27 \times 10$	
539 540	A地点 A地点	弥生土器 弥生土器	後期後半 後期後半	円形円形	$\begin{array}{c} 29 \times 33 \times 23 \\ 25 \times 28 \times 23 \end{array}$	
541	A地点	<u>弥生工品</u> 弥生土器	後期後半	円形	33× 38× 18	
542	A地点	土師器	古墳初期	精円	$20 \times 45 \times 20$	
542	A地点	弥生土器	後期後半	楕円	$18 \times 40 \times 15$	
543	A地点	弥生土器	後期後半	円形	$44 \times 50 \times 26$	
544	A地点	弥牛十器	後期後半	円形	34× 35× 8	
545	A地点	弥生土器	後期後半	円形	$23 \times 24 \times 20$	
546	A地点	弥生土器	後期後半	円形	23× 25× 13	
547 549	A 地点 A 地点	弥生土器 土師器	後期後半 古墳初期	精円 円形	$93 \times 116 \times 10$ $20 \times 24 \times 31$	
550	A地点	<u> </u>	後期後半	<u> </u>	$23 \times 35 \times 12$	_
551	A地点	弥生土器	後期後半	精円	$27 \times 36 \times 20$	
552	A地点		後期後半	<b>精</b> 円	15× 50× 9	
553	A地点	弥生土器	後期後半	楕円	$20 \times 52 \times 18$	
554	A地点	弥生土器	後期後半	楕円	13× 47× 23	
556	A地点	弥生土器 弥生土器	後期後半	円形	40× 40× 9	
557	A地点	弥生土器	中期	円形	$46 \times 52 \times 24$	
558	A地点	弥生土器	後期後半	円形	$40 \times 40 \times 21$	
559	A地点	弥生土器	中期	円形	26× 26× 35	
560	A地点	弥生土器	後期後半	円形	23× 24× 19	
561_	A地点	<u>弥生土器</u>	後期後半	円形	30× 35× 16	
562 563	A地点 A地点	土師器 弥生土器	古墳初期 後期後半	円形円形	$\begin{array}{c} 25 \times 30 \times 25 \\ 32 \times 34 \times 25 \end{array}$	
564	A地点	<u> </u>	後期後半	<u>育形</u>	$24 \times 34 \times 25$ $24 \times 34 \times 15$	
566	A地点	弥生土器	中期	円形	$24 \times 24 \times 22$	-
567	A地点	弥生土器	中期	円形	19× 24× 35	
569	A地点	弥生土器	後期後半	円形	$25 \times 27 \times 29$	
570	A地点	弥生土器	後期後半	楕円	$40 \times 57 \times 45$	
571	A地点	弥生土器	中期	円形	$30 \times 36 \times 28$	
572	A地点	弥生土器	後期後半	円形	$25 \times 25 \times 14$	
573	A地点	弥生土器	後期後半	円形	22× 29× 20	
574	A地点	土師器 弥生土器	古墳初期	円形	$32 \times 37 \times 50$	
575	A地点	<u> </u>	後期後半	円形	21× 22× 23	
576 577	A地点 A地点	<u>弥生土器</u>	後期後半 古墳初期	円形 楕円	$24 \times 26 \times 21$ $32 \times 43 \times 18$	
578	A地点	土師器 弥生土器 弥生土器	後期後半	<u>精円</u>	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	
579	A地点		後期後半	円形	51× 55× 26	
580	A地点	弥生土器	中期		$25 \times 27 \times 26$	
581	A地点	弥生十器	後期後半	円形	29× 30× 34	
582	A地点	弥生土器	中期	楕円	21× 25× 31	
583	A地点	弥生土器	後期後半	円形	$25 \times 29 \times 29$	
584	A地点	弥生土器	後期後半	円形	$32 \times 36 \times 29$	
585	A地点	弥生土器	後期後半	円形	33× 35× 22	
586	A地点	弥生土器	後期後半	円形	$24 \times 25 \times 22$	
587	A地点	弥生土器	後期後半	円形	20× 21× 18	
588	A地点 A地点	弥生土器 弥生土器	後期後半	精円 田平	$73 \times 142 \times 58$	
<u>589</u> 590	A地点		後期後半 後期後半	円形 精円	$\begin{array}{c cccc} 20 \times & 24 \times & 21 \\ 25 \times & 37 \times & ? \end{array}$	
591	A地点	土師器	古墳初期	円形	$40 \times 41 \times 28$	-
592	A地点	弥生土器	中期	<u> </u>	$73 \times 99 \times 25$	
593	A地点	<u>弥生土器</u>	後期後半	円形	22× 25× 19	~
594	A地点	弥生土器	中期	円形	34× 35× 25	
595	A地点	弥生土器	後期後半	円形	20× 23× 10	
596_	A地点	弥生土器	中期	円形	82× 82× 20	
597	A地点	弥生土器	後期後半	円形	27× 27× 35	
598_	A地点	弥生土器 弥生土器	後期後半	円形	20× 21× 27	
599 600	A 地点 A 地点	弥生土器   弥生土器	後期前半 後期後半	精円 円形	$27 \times 48 \times 18$ $41 \times 43 \times 26$	-
601	A地点	- 弥生工命 - 弥生土器	後期中頃	円形	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	
603	A地点	<u>弥生工器</u> 弥生土器	後期後半	精円	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	
604	A地点		後期後半	円形	$30 \times 72 \times 28$ $30 \times 30 \times 12$	
605	A地点	須恵器	古墳	円形	47× 57× 45	
606	A地点	弥生土器	後期後半	精円	$72\times100\times17$	
607	A地点	弥生土器	後期後半	円形	45× 55× 22	
609	A地点	土師器	奈良	円形	24× 27× 11	
610	A地点	弥生土器	後期後半	円形	13× 16× 17	
611	A地点	弥生土器	後期後半	円形	$30 \times 30 \times 32$	
612	A地点	弥生土器	後期後半	円形	$36 \times 40 \times 32$	

Tab. 8 野方久保遺跡 Pit 計測一覧

PitNo.	出土地点	出土遺物	時 期	形状	規 模 幅×長さ×深さ(単位cm)	掘出柱建物
614	A地点	弥生土器	後期後半	楕円	19× 32× 10	
615	A地点	弥生土器	後期後半	円形	× × 60×120× 46	S B -22
617 618	A地点 A地点	弥生土器 須恵器	後期後半 古墳	格円 円形	$35 \times 40 \times 20$	3 D - 22
619	A地点	須思 <u>研</u> 土師哭	古墳初期	円形	$20 \times 20 \times 15$	
620	A地点	土師器 弥生土器	後期後半	楕円	$35 \times 45 \times 13$	
622	A地点	<u> </u>	後期後半	円形	40× 43× 18	-
623	A地点	土師器	古墳初期	円形	$21 \times 21 \times 14$	
624	A地点	上師器	古墳初期	円形	30× 31× 16	
626	A地点	十師器	古墳初期	円形	23× 27× 11	
629	A地点	弥生土器 弥生土器	後期後半	楕円	60× 95× 47	
630	A地点	弥生土器	後期後半	円形	$30 \times 31 \times 25$	
631	A地点	弥生土器	後期後半	円形	27× 31× 21	
1001	A地点	弥生土器	後期後半	楕円	$20 \times 45 \times 15$	
1002	A地点	弥生土器	後期後半	円形	$30 \times 32 \times 20$	
1003	A地点	弥生土器	後期後半	円形	35× 36× 15	-
1004	A地点	須恵器	古墳	楕円	18× 40× 18	
1005	A地点	弥生土器	後期後半	円形	38× 40× 20	
1006	A地点	土師器	古墳初期	円形	42× 40× 15	
1007	A地点	土師器	古墳初期	円形	$\begin{array}{c} 25 \times 28 \times 15 \\ 20 \times 42 \times 10 \end{array}$	
1008	A地点	土師器	古墳初期	楕円 円形	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	
1009	A地点	弥生土器	後期後半 古墳初期	円形 精円	$\begin{array}{c} 30 \times 32 \times 18 \\ 15 \times 40 \times 20 \end{array}$	
1010 1011	A地点 A地点	上師器 弥生土器	後期後半	円形	$35 \times 32 \times 15$	
1012	A地点	<u> </u>	後期後半	円形	$33 \times 32 \times 13$ $41 \times 40 \times 20$	
1012	A地点	土師器	占墳初期	円形	$41 \times 40 \times 20$ $42 \times 40 \times 18$	
1014	A地点	須恵器	古墳	楕円	$18 \times 43 \times 20$	
1015	A地点	弥生土器	後期後半	楕円	15× 42× 15	<u> </u>
1016	A地点	上師器	古墳初期	楕円	$19 \times 35 \times 10$	
1018	A地点		後期後半	楕円	15× 30× 5	
1019	A地点	弥生土器	後期後半	円形	$30 \times 32 \times 15$	-
1020	A地点	弥生土器	後期後半	円形	$35 \times 37 \times 20$	
1021	A地点	土師器 土師器	古墳初期	円形	$32 \times 33 \times 20$	
1022	A地点	土師器	古墳初期	楕円	15× 38× 18	
1023	A地点	土師器	古墳初期	楕円	19× 41× 15	
1024	A地点	弥生土器	後期後半	楕円	$13 \times 35 \times 10$	
1025	A地点	土師器	鎌倉	円形	32× 32× 20	
1026	A地点	土師器	古墳初期	円形	35× 36× 15	
1027	A地点	土師器	古墳初期	円形	40× 41× 4	
1028	A地点	弥生土器 弥生土器	後期後半 後期後半	円形円形	$\begin{array}{c} 33 \times 35 \times 34 \\ 35 \times 38 \times 23 \end{array}$	
1029 1031	A地点 A地点	- <u>外生工</u> 薪 - 土師器	古墳初期	円形	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	
1031	A地点	土師器	古墳初期	楕円	$17 \times 19 \times 20$ $15 \times 40 \times 20$	
1032	A地点	弥生土器	後期後半	<b>楕円</b>	$20 \times 42 \times 15$	
1034	A地点	弥生土器	後期後半	楕円	18× 38× 15	
1035	A地点	弥生土器	後期後半	円形	35× 35× 20	
1036	A地点	土師器	古墳初期	円形	$47 \times 46 \times 15$	
1037	A地点	土師器	古墳初期	円形	29× 34× 33	
1038	A地点	土師器	古墳初期	楕円	$39 \times 50 \times 24$	
1039	A地点	土師器	古墳初期	楕円	81× 93× 40	
1040	A地点	須恵器	古墳	円形	31× 35× 33	
1041	A地点	弥生土器	後期後半	楕円	62× 83× 7	S B -22
1042	A地点	土師器	古墳初期	円形	45× 45× 48	SB-19
1043	A地点	弥生土器	後期後半	<u>精円</u>	$37 \times 39 \times 28$	
1044	A地点	弥生土器	後期後半	楕円	35× 43× 29	
1045	A 地点	弥生土器 弥生土器	後期後半	円形	30× 30× 13	C D At
1046	A地点	弥生土器	後期後半	円形	15× 17× 21	SB-21 SB-20
1047	A地点	弥生土器	後期後半	格円 佐田	$37 \times 61 \times 25$ $30 \times 40 \times 17$	3 D - 20
1048	A地点	弥生土器	後期後半 古墳初期	精円 精円	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	
1049 1050	A地点 A地点	土師器 弥生土器	後期後半	円形	$32 \times 43 \times 2$	S B -21
1050	A地点 A地点	<u>外生工</u>	鎌倉	円形	$32 \times 43 \times 2$ $40 \times 42 \times 23$	. SD 21
1051	A地点	上師器	古墳初期	円形	$35 \times 35 \times 20$	
1052	A地点	土師器	古墳初期	楕円	18× 40× 18	
1054	A地点	土師器	古墳初期	精円	19× 41× 15	
1056	A地点	弥生土器	後期後半	一円形	40× 40× 20	
1083	A地点	須恵器	古墳	十一円形	32× 33× 15	
1100	A地点	弥生土器	後期後半	一一一一	40× 41× 20	

Tab. 9 野方久保遺跡 Pit 計測一覧

PitNo.	出土地点	出土遺物	時 期	形状	規 模幅×長さ×深さ(単位cm)	掘出柱建物
1	3地点	弥生土器	後期後半	円形	21× 21× 11	
3	3 地点	土師器	古墳初期	楕円	30× 40× 19	
13 14	3地点	弥生土器 弥生土器	後期後半 後期後半	円形 楕円	$\begin{array}{c} 22 \times 22 \times 9 \\ 41 \times 65 \times 22 \end{array}$	
19	3 地点 3 地点	土師器	古墳初期	円形	$25 \times 30 \times 22$	
20	3 地点	土師器	古墳初期	円形	15× 18× 20	
21	3 地点	弥生土器	後期後半	楕円	$24 \times 25 \times 24$	
23	3 地点	上師器	古墳初期	楕円	$23 \times 29 \times 17$	
27	3 地点	上	古墳初期	楕円	23× 28× 31	
28	3 地点	土師器	古墳初期	円形	25× 29× 43	
35	3 地点	土師器	古墳初期 後期後半	楕円	55× 68× 15	
37	3地点	弥生土器 弥生土器	後期後半	円形	37× 39× 28	
38	3地点		後期後半	円形	$\begin{array}{c} 30 \times 30 \times 20 \\ 21 \times 23 \times 18 \end{array}$	
39 40	3 地点 3 地点	土師器 弥生土器	古墳初期 後期後半	円形	$21 \times 23 \times 18$ $24 \times 26 \times 15$	
42	3地点	土師器	古墳初期	円形	$26 \times 26 \times 27$	
43	3地点		後期後半	円形	30× 32× 26	
44	3地点	土師器	古墳初期	一円形	29× 35× 28	
46	3 地点	十師器	古墳初期	円形	29× 30× 36	
47	3 地点	土師器	古墳初期	楕円	29× 42× 14	
48	3 地点	主師器 土師器	古墳初期	円形	27× 30× 25	
49	3 地点	土師器	古墳初期	円形	$25 \times 26 \times 20$	
51_	3地点	弥生土器	後期後半	楕円	29× 30× 14	
56	3地点	土師器	古墳初期	楕円	$30 \times 45 \times 56$	
57 60	3 地点 3 地点	弥生土器 弥生土器	後期後半 後期後半	円形	$\begin{array}{c} 27 \times 30 \times 31 \\ 33 \times 36 \times 23 \end{array}$	
61	3地点	土師器	古墳初期	円形	$30 \times 30 \times 27$	
64	3 地点	- 弥生土器	後期後半	円形	$20 \times 20 \times 22$	
66	3 地点	十師哭	古墳初期	一円形	25× 26× 18	
68	3 地点	土師器 弥生土器 弥生土器	古墳初期	楕円	$30 \times 52 \times 10$	
77	3 地点	弥生土器	後期後半	楕円	28× 45× 21	
78	3 地点	弥生土器	後期後半	円形	20× 20× 17	
79	3 地点	弥生土畚	後期後半	円形	$20 \times 20 \times 43$	
80	3 地点	土師器	古墳初期	楕円	20× 31× 18	
81	3地点	弥生土器	後期後半	楕円 円形	26× 34× 37	
84 87	3 地点 3 地点	土師器	古墳初期 古墳初期	円形	$33 \times 34 \times 33$ $30 \times 31 \times 38$	
89	3地点	土師器	古墳初期	一円形	$26 \times 26 \times 65$	
91	3 地点	弥生土器	後期後半	一一一	$21 \times 21 \times 12$	
92	3地点	十師器	古墳初期	一円形	$30 \times 30 \times 41$	
95	3 地点	土師器	古墳初期	円形	33× 36× 39	
96	3 地点	土師器	古墳初期	円形	23× 24× 37	
97	3 地点	弥生土器	後期後半	円形	20× 22× 36	
99	3 地点	土師器	古墳初期	円形	28× 29× 26	
101	3 地点	弥生土器 弥生土器	後期後半	円形	17× 18× 15	
106	3 地点	<u> </u>	後期後半	楕円	$27 \times 34 \times 11$ $27 \times 28 \times 44$	
107 108	3 地点 3 地点	弥生土器 弥生土器	後期後半 後期後半	円形 精円	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	
108	3 地点	- 弥生工器 - 弥生土器	後期後半	円形	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	
110	3 地点	弥生十器	後期後半	楕円	$17 \times 22 \times 45$	
111	3 地点	弥生土器 弥生土器	後期後半	円形	$22 \times 22 \times 24$	
112	3 地点	<b>」 弥生土器</b>	後期後半	円形	$30 \times 32 \times 34$	
114	3 地点	土師器	古墳初期	円形	$35 \times 35 \times 30$	
122	3 地点	土師器	古墳初期	円形	29× 30× 16	
123	3 地点	土師器	古墳初期	円形	$32 \times 31 \times 19$	
124	3地点	土師器	古墳初期	<b>楕円</b>	24 × 30 × 50	
126	3 地点	土師器	古墳初期	円形 円形	21 × 25 × 18	
127 131	3 地点 3 地点	土師器 土師器	古墳初期 古墳初期	円形	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	
133	3地点	土師器	古墳初期	円形	30× 32× 48	-
133	3地点		後期後半	円形	40× 42× 19	
134	3地点	- 弥生土器	後期後半	一百形	$35 \times 35 \times 20$	
140	3 地点	弥生土器 弥生土器	後期後半	円形	35× 38× 14	
142	3 地点	弥生土器	後期後半	円形	$35 \times 35 \times 18$	
143	3 地点	土師器	古墳初期	円形	40× 40× 19	
144	3地点	土師器	古墳初期	円形	$30 \times 30 \times 59$	
145	3地点	土師器	古墳初期	円形	$32 \times 30 \times 35$	
146	3地点	土師器	古墳初期	円形	$25 \times 27 \times 40$	
147 149	3 地点 3 地点	土師器 弥生土器	古墳初期 後期後半	円形円形	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	
140	ひ地は	7小工.上.砳	古墳初期	1 17/12	40 ^ 41 ^ 30	

Tab. 10 野方久保遺跡 Pit計測一覧

itNo.	出土地点	出土遺物	時 期	形状	規 幅×長さ×深さ(単位cm)	掘出柱建物
151	3 地点	弥生土器	後期後半	円形	$25 \times 26 \times 29$	
152	3 地点	上師器	古墳初期半	楕円	19× 36× 21	
153	3 地点	弥生土器	後期後半	円形	$20 \times 22 \times 33$	
154	3 地点	弥生土器	後期後半	円形	30× 31× 36	
155	3 地点	弥生土器	後期後半	楕円	21× 35× 17	
156	3 地点	弥生土器	後期後半	円形	$25 \times 25 \times 19$	
157	3 地点	土師器	古墳初期	円形	$33 \times 32 \times 23$	
158	3地点	上師器	古墳初期	円形	40× 40× 25	
159	3 地点	上師器	古墳初期	円形	38× 45× 53	
160	3地点	弥生土器 弥生土器	後期後半	円形 円形	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	
161	3 地点	<u>外生工</u> 奋	★期後半 古墳初期	<u>育形</u>	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	
162	3 地点 3 地点	土師器	古墳物場	<b>精門</b>	$20 \times 30 \times 23$ $20 \times 32 \times 30$	
163 165	3 地点	須恵器 土師器	古墳初期	円形	$20 \times 32 \times 30$ $20 \times 22 \times 15$	
166	3 地点	土師器	古墳初期	十二 <u>十</u>	$44 \times 50 \times 52$	
167	3地点	土師器	古墳初期	円形	23× 25× 18	
168	3地点	土師器	古墳初期	円形	$40 \times 41 \times 20$	
169	3 地点		後期後半	円形	18× 18× 15	
170	3地点	弥生土器	後期後半	一一円形	13× 15× 15	
171	3地点	弥生土器	後期後半	円形	20× 21× 30	
172	3地点	弥生土器	後期後半	一	21× 25× 14	-
174	3地点	土師器	古墳初期	円形	33× 37× 27	
175	3地点	上師器	古墳初期	楕円	34× 37× 23	
177	3地点	十師哭	古墳初期	一円形	15× 15× 25	
178	3地点	弥生土器	後期後半	精円	$34 \times 50 \times 16$	1
179	3地点	弥生土器	後期後半	円形	20× 20× 18	
180	3地点		後期後半	一一一一一	30× 31× 18	1
181	3地点	土師器	古墳初期	楕円	33× 46× 27	S B -25
184	3 地点	土師器	古墳初期	円形	46× 48× 5	
185	3 地点	土師器	古墳初期	円形	30× 35× 20	
186	3 地点	十師器	古墳初期	楕円	25× 30× 35	
188	3 地点	弥生土器	後期後半	円形	29× 30× 12	
189	3地点	弥生土器	後期後半	円形	20× 29× 12	
191	3 地点	十師器	古墳初期	円形	25× 27× 21	
192	3 地点	土師器	古墳初期	円形	28× 30× 15	
193	3 地点	弥生土器	後期後半	円形	40× 42× 19	
195	3 地点	土師器	古墳初期	円形	18× 19× 15	
196	3 地点	弥生土器	後期後半	円形	$21 \times 22 \times 22$	
197	3 地点	弥生土器	後期後半	楕円	59× 70× 20	
199	3 地点	上師器	古墳初期	円形	$37 \times 43 \times 4$	
200	3 地点	弥生土器	後期後半	円形	$31 \times 33 \times 32$	SB-25
201	3 地点	弥生土器	後期後半	円形	26× 26× 24	
204	3 地点	弥生土器	後期後半	円形	$29 \times 32 \times 16$	
206	3 地点	土師器	古墳初期	円形	32× 33× 30	
207	3 地点	弥生土器	後期後半	円形	$35 \times 36 \times 18$	
208	3 地点	土師器	古墳初期	円形	40× 42× 20	
219	3地点	土師器 土師器	古墳初期	円形	24× 25× 17	
234	3地点	工即器	古墳初期	楕円 mr	20× 29× 21	
237	3地点	土師器	古墳初期	円形	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	
238	3 地点 3 地点	土師器 須恵器	古墳初期 古墳	楕円 円形	$44 \times 63 \times 40$ $40 \times 41 \times 32$	
239 244	3 地点	須思 <u>奋</u> 上無聖	古墳初期	円形	$10 \times 41 \times 32$ $23 \times 24 \times 22$	-
244	3地点	土師器 弥生土器	後期後半	<u>育形</u> 精円	23× 24× 22 26× 63× 8	S B -26
248	3 地点	<u> </u>	後期後半	円形	$39 \times 40 \times 20$	3 D - 20
248	3地点	弥生工裔   弥生土器	後期後半	円形	$39 \times 40 \times 20$ $30 \times 35 \times 7$	
250	3地点	弥生土器	後期後半	円形	32× 31× 13	
252	3地点	弥生工器	後期後半	円形	19× 19× 15	
255	3地点	土師器	古墳初期	<u>精円</u>	29× 30× 26	
256	3地点	上師器	古墳初期	円形	31× 33× 17	
257	3地点	土師器	古墳初期	円形	19× 20× 16	
259	3地点	土師器	古墳初期	一円形	$32 \times 31 \times 15$	
260	3地点	土師器	古墳初期	一円形	25× 29× 62	
261	3地点	弥生土器	後期後半	一円形	30× 34× 28	1
262	3地点		後期後半		14× 14× 27	
264	3地点	土師器	古墳初期	一一円形	38× 37× 22	
265	3地点	土師器	古墳初期	十一一	25× 30× 12	S B -28
266	3地点	土師器	古墳初期	円形	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	- 2 20
267	3地点	弥生土器	後期後半	椿円	$27 \times 50 \times 11$	
268	3地点	弥生土器	後期後半	円形	$28 \times 29 \times 20$	
269	3 地点	弥生土器	後期後半	精円	85× 90× 48	
270	3 地点	弥生土器	後期後半	円形	$35 \times 36 \times 20$	
271	3 地点	土師器	古墳初期	楕円	$61 \times 72 \times 31$	SB-24

Tab. 11 野方久保遺跡 Pit 計測一覧

PitNo.	出土地点	出土遺物	時 期	形状	規模 幅×長さ×深さ(単位cm)	掘出柱建物
272	3地点	弥生土器	後期前半	楕円	87× 95× 18	
273 274	3 地点 3 地点	弥生土器 	後期後半	精円 	55× 60× 23	
275	3地点		後期後半 後期後半	楕円 円形	$\begin{array}{c} 85 \times 85 \times 21 \\ 30 \times 32 \times 10 \end{array}$	- C.D. 00
276	3地点	弥生土器	後期後半	円形	$16 \times 18 \times 21$	SB-26
277	3 地点	弥生土器	後期後半	円形	$20 \times 21 \times 23$	
278	3 地点	弥生土器	後期後半	一一一	17× 19× 13	
279	3 地点	弥生土器	後期後半	円形	$24 \times 25 \times 13$	-
280	3 地点	弥生土器	後期後半	円形	$30 \times 31 \times 16$	S B -26
281	3地点	弥生土器	後期中頃	円形	$21 \times 20 \times 30$	
282	3 地点	弥生土器	後期後半	楕円	$46 \times 62 \times 19$	
283 284	3 地点 3 地点	弥生土器 弥生土器	後期後半	円形	30× 30× 24	
285	3 地点	- 弥生工品 - 弥生土器	後期後半	円形	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	
286	3 地点	土師器	古墳初期	円形	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	
287	3地点	弥生土器	後期後半	精円	$28 \times 35 \times 29$	
288	3 地点	十師器	古墳初期	円形	23× 23× 5	<del> </del>
289	3 地点	弥生土器 弥生土器	後期後半	円形	$35 \times 35 \times 5$	
290	3 地点	弥生土器	後期後半	円形	$34 \times 35 \times 51$	
291	3 地点	上師器	古墳初期	円形	$31 \times 32 \times 4$	
292	3 地点	土師器	古墳初期	円形	76× 79× 17	S B -24
293 294	3 地点 3 地点	弥生土器 弥生土器	後期後半	円形	63× 72× 15	S B -27
294	3 地点 3 地点	<u> </u>	後期前半	楕円	$\begin{array}{c cccc} 41 \times & 50 \times & 21 \\ 27 \times & 28 \times & 28 \end{array}$	
296	3 地点		後期後半 古墳初期	円形	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	
297	3 地点	上師器	古墳初期	円形	28 × 29 × 24 18 × 20 × 14	
298	3 地点	土師器	古墳初期	円形	$30 \times 30 \times 4$	S B -28
299	3 地点	弥生土器	後期前半	一円形	23× 23× 16	3 B - 20
300	3 地点	土師器	古墳初期	楕円	26× 36× 41	+
301	3 地点	土師器	古墳初期	円形	30× 30× 20	SB-28
303	3 地点	弥生土器	後期後半	円形	$45 \times 48 \times 9$	S B -28
304	3 地点	弥生土器	後期後半	楕円	$34 \times 52 \times 33$	
305	3 地点	弥生土器	後期後半	楕円	$40 \times 58 \times 54$	
306	3 地点 3 地点	上師器	古墳初期	楕円	41 × 48 × 38	
308	3 地点	弥生土器 弥生土器	後期後半 後期前半	<b>楕円</b>	$72 \times 79 \times 37$	SB-24
309	3 地占	土師器	古墳初期	楕円 円形	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	SB-27
310	3 地点 3 地点	<u>弥生土器</u>	後期後半	円形	$40 \times 41 \times 40$	
311	3 地点	弥生土器	後期後半	円形	$22 \times 25 \times 22$	
312	3 地点	土師器	古墳初期	円形	34× 35× 48	<del></del>
313	3 地点	土師器	古墳初期	円形	$31 \times 32 \times 37$	
314	3 地点	弥生土器	後期後半	精円	$45 \times 45 \times 36$	<del></del>
315	3地点	上師器	古墳初期	楕円	$73 \times - \times 50$	
316	3地点	弥生土器	後期後半	楕円	76×106× 44	S B -24
316 317	3 地点 3 地点	土師器	古墳初期	円形	32× 31× 20	
318	3 地点	土師器 弥生土器	古墳初期	楕円	$27 \times - \times 67$	
319	3 地点	<u>奶生工器</u> 弥生土器	後期後半 後期後半	円形 楕円	$32 \times 36 \times 56$ $101 \times 104 \times 65$	+
320	3 地点	土師器	古墳初期	円形	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	-
321	3 地点	土師器	古墳初期	円形	$33 \times 40 \times 5$	S B -26
322	3 地点	弥生土器	後期後半	円形	46× 50× 36	SB-26
323	3 地点	十師哭	古墳初期	円形	20× 24× 19	SB-27
324	3 地点	弥生土器	後期後半	円形	20× 20× 17	
325	3地点	- 弥生土器	後期後半	円形	$25 \times 30 \times 34$	
327 328	3地点	土師器	古墳初期	円形	$41 \times 44 \times 28$	SB-27
329	3 地点 3 地点	<u>弥生土器</u> 土師器	後期後半	精円 四形	43× 62× 42	
330	3地点	工	古墳初期 後期後半	円形 楕円	$ \begin{array}{c cccc} 19 \times & 23 \times & 17 \\ 45 \times & 45 \times & 29 \end{array} $	
331	3 地点	<u>- 外生工器</u> - 弥生土器	後期後半	上 作円 楕円	$31 \times 31 \times 32$	
332	3 地点	<u>- 水土工館</u> - 弥生土器	後期後半	円形	$31 \times 31 \times 32$ $35 \times 40 \times 19$	S B -23
333	3 地点	土師器	古墳初期	一円形	$39 \times 42 \times 25$	3 D = 43
334	3 地点	土師器	古墳初期	楕円	$31 \times 31 \times 17$	+
335	3 地点	弥生土器	後期後半	円形	23× 23× 20	
336	3地点	土師器	古墳初期	円形	$27 \times 32 \times 18$	
337	3地点	- 弥生土器	後期後半	楕円	24× 33× 14	
339	3地点	土師器	鎌倉	円形	31× 31× 26	
343	3地点	弥生土器	後期後半	円形	15× 17× 19	
344	3 地点 3 地点	<u>弥生土器</u>	後期後半	<b>椿円</b>	37× 45× 19	
346	3地点	古墳土師器 弥生土器	古墳初期 後期後半	楕円 田形	$24 \times 30 \times 16$	1
	3 地点	<u>- か生工器</u> 弥生土器	後期後半	円形 円形	$\begin{array}{c} 24 \times 25 \times 31 \\ 26 \times 36 \times 23 \end{array}$	
347	அவை					

Tab. 12 野方久保遺跡 Pit 計測一覧

PitNo.	出土地点	出土遺物	時 期	形状	規 模 幅×長さ×深さ(単位cm)	掘出柱建物
349	3 地点	土師器	古墳初期	楕円	35× 58× 15	
350	3地点	上 無器	古墳初期	楕円	50× 66× 18	
352	3地点	土師器	古墳初期	楕円 楕円	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	
353 354	3 地点 3 地点	<u>弥生土器</u> 土師器	後期後半 古墳初期	円形	$\frac{31 \times 33 \times 12}{28 \times 30 \times 23}$	
355	3 地点	土師器	古墳初期	精円	28× 37× 40	
356	3地点	土師器	古墳初期	楕円	$32 \times 35 \times 72$	
357	3 地点	弥牛十器	後期後半	円形	22× 22× 37	
358	3 地点	弥生土器	弥生後期後	楕円	30× 44× 18	
359	3地点	土師器	古墳初期	円形 円形	24 × 31 × 53 30 × 36 × 46	
360 361	3 地点 3 地点	弥生土器 土師器	弥生後期後 古墳初期	1 <u>円形</u> 精円	$36 \times 52 \times 22$	
363	3地点	土師器	古墳初期	精円 精円	$24 \times 35 \times 20$	
364	3地点	弥生土器	弥生後期後	楕円	$28 \times 50 \times 12$	
365	3 地点	弥生土器	弥生後期後	楕円	55× 83× 14	
366	3 地点	弥生土器	弥生後期後	円形	46× 47× 25	
367	3地点	弥生土器	弥生後期後	楕円	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	
368 368	3 地点 3 地点	土師器 弥生土器	古墳初期 弥生後期後	円形円形	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	
369	3 地点	土師器	古墳初期	円形	$25 \times 35 \times 20$	
370	3地点	十師器	古墳初期	円形	$94 \times 90 \times 22$	<u> </u>
371	3 地点	弥生土器	弥生後期後	楕円	29× 42× 25	
373	3地点	弥生土器	弥生後期後	楕円	23× 34× 18	
374	3 地点	土師器	古墳初期	精円 四形	$30 \times 31 \times 20$	
375	3 地点 3 地点	土師器	古墳初期 古墳初期	円形 楕円	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	
376 377	3 地点 3 地点	土師器 土師器	古墳初期	作円 精円	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	
379	3 地点	土師器	古墳初期	円形	29× 29× 39	
380	3地点	上師器	古墳初期	楕円	75× 99× 15	
381	3 地点	弥生十器	弥生後期後	円形	24× 28× 27	
382	3 地点	土師器	古墳初期	円形	25× 27× 16	
383	3地点	土師器	古墳初期	円形円形	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	
384 385	3 地点 3 地点	弥生土器 土師器	弥生後期後 古墳初期	精円	$20 \times 30 \times 15$	
386	3 地点	土師器	古墳初期	円形	$30 \times 30 \times 32$	
387	3 地点	土師器	古墳初期	楕円	46× 50× 9	
388	3 地点	土師器	古墳初期	円形	$30 \times 30 \times 28$	
389	3 地点	弥生土器	<u>弥生後期後</u>	楕円	25× 30× 23	
390	3地点	弥生土器	弥生後期後	円形	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	
391 392	3 地点 3 地点	弥生土器 弥生土器	<u>弥生後期後</u> 弥生後期後	円形 精円	33× 43× 19	-
393	3 地点	弥生土器	弥生後期後	椿円	31× 44× 28	
394	3 地点	土師器	古墳初期	円形	$35 \times 40 \times 13$	
395	3 地点	弥生土器	弥生後期後	円形	38× 40× 12	
396	3 地点	弥生土器	弥生後期後	円形	$20 \times 20 \times 7$	
398	3 地点	弥生土器	弥生後期後	楕円   円形	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	
399 400	3 地点 3 地点	土師器 弥生土器	古墳初期 弥生後期後	円形	$22 \times 26 \times 18$	
402	3地点	<u> </u>	弥生後期後	楕円	13× 17× 24	
403	3地点	土師器	古墳初期	楕円	71× ? × 31	
404	3 地点	土師器	古墳初期	円形	$26 \times 26 \times 24$	
405	3地点	土師器	古墳初期	楕円	$30 \times 31 \times 38$	
406	3 地点	弥生土器 弥生土器	<u>弥生後期後</u> 弥生後期後	精円 円形	$\begin{array}{c} 39 \times 70 \times 28 \\ 40 \times 41 \times 29 \end{array}$	
407	3 地点 3 地点	<u> </u>		円形   円形	$32 \times 30 \times 18$	-
409	3地点	土師器	古墳初期	円形	28× 30× 14	
410	3 地点	土師器	古墳初期	円形	$30 \times 31 \times 15$	
410	3 地点	土師器	古墳初期	円形	25× 26× 13	-
410	3 地点	上師器	古墳初期	円形	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	
411	3 地点 3 地点	弥生土器 土師器		楕円     円形	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	
413	3 地点	工即益 弥生土器	□ □ □ □ 切 別 □ 弥生後期後	円形	$30 \times 32 \times 23$	
414	3地点	土師器	古墳初期	円形	$27 \times 28 \times 16$	
415	3 地点	土師器	古墳初期	楕円	$25 \times 60 \times 33$	
416	3 地点	土師器	古墳初期	楕円	$37 \times 60 \times 15$	
417	3地点	土師器	古墳初期	<b>精円</b>	$21 \times 25 \times 11$	
418	3 地点 3 地点	土師器 土師器	古墳初期 古墳初期	楕円 円形	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	
419 420	3 地点 3 地点	土師器	古墳初期	<u> </u>	22× 34× 13	
421	3地点	土師器	古墳初期	円形	$30 \times 35 \times 24$	
422	3地点	弥生土器	弥生後期後	円形	29× 30× 19	
423	3 地点	弥生土器	弥生後期後	円形	$30 \times 33 \times 10$	

Tab. 13 野方久保遺跡 Pit 計測一覧

PitNo.	出土地点	出土遺物	時 期	形状	規 模 幅×長さ×深さ(単位cm)	掘出柱建物
425	3 地点	上師器	古墳初期	円形	18× 19× 26	
426	3 地点	土師器	古墳初期	円形	14× 18× 7	
426	3 地点	土師器	古墳初期	円形	$23 \times 22 \times 18$	
427	3 地点	土師器	古墳初期	円形	$37 \times 42 \times 37$	
428	3 地点	土師器	古墳初期	楕円	25× 32× 38	
429	3 地点	土師器	古墳初期	楕円	$46 \times 54 \times 21$	
430	3 地点	土師器	古墳初期	円形	$34 \times 36 \times 18$	
431	3 地点	土師器	古墳初期	楕円	$25 \times 23 \times -8$	
432	3 地点	土師器	古墳初期	楕円	$45 \times 244 \times 11$	
433	3 地点	土師器	古墳初期	円形	26× 28×	
434	3 地点	土師器	古墳初期	円形	$36 \times 36 \times 39$	
435	3 地点	土師器	古墳初期	楕円	$50 \times 136 \times 13$	
436	3 地点	弥生土器	弥生後期後	楕円	120×130× 28	
437	3 地点	弥生土器	弥生後期後	楕円	$29 \times 34 \times 47$	
438	3 地点	土師器	古墳初期	円形	40× 42× 13	
440	3 地点	土師器	古墳初期	円形	29× 30× 18	
441	3 地点	土師器	古墳初期	円形	$35 \times 36 \times 16$	
442	3 地点	土師器	古墳初期	円形	27× 28× 31	
443	3 地点	弥生土器	弥生後期後	楕円	33× 44× 14	
444	3 地点	弥生土器	弥生後期後	円形	$26 \times 32 \times 50$	
445	3 地点	土師器	古墳初期	円形	46× 46× 34	
446	3 地点	弥生土器	弥生後期後	円形	24× 27× 29	
447	3 地点	弥生土器	弥生後期後	円形	29× 31× 11	
448	3 地点	土師器	古墳初期	円形	$26 \times 30 \times 23$	
449	3 地点	弥生土器器	弥生後期後	楕円	$33 \times 50 \times 13$	
473	3 地点	- 弥生土器	弥牛後期後	円形	$20 \times 21 \times 10$	
478	3 地点	弥生土器	弥生後期後	円形	$35 \times 35 \times 18$	
500	3 地点	弥生土器	弥生後期後	円形	42× 40× 20	
548	3 地点	弥生土器	弥生後期後	円形	15× 15× 10	
565	3 地点	弥生土器	弥生後期後	円形	18× 18× 18	
608	3 地点	土師器	古墳初期	円形	40× 42× 20	
616	3 地点	土師器	古墳初期	円形	$22 \times 20 \times 10$	
1004	3 地点	土師器	古墳初期	円形	21× 19× 8	
1007	3 地点	土師器	古墳初期	円形	$35 \times 36 \times 13$	

PitNo.	出土地点	出土遺物	時 期	形状	規 幅×長さ×深さ(単位cm)	掘出柱建物
111	B地点	土師器	古墳初期	円形	$30 \times 34 \times 13$	
2	B地点	土師器	古墳初期	円形	26× 30× 17	
3	B地点	土師器	古墳初期	円形	$20 \times 26 \times 19$	
4	B地点	土師器	古墳初期	円形	10× 12× 7	
5	B地点	<b>  土師器</b>	古墳初期	円形	$36 \times 40 \times 10$	
6	B地点	<b>上師器</b>	古墳初期	円形	$26 \times 30 \times 20$	
7	B地点	土師器	古墳初期	円形	48× 54× 13	
8	B地点	上師器 上師器 上師器	古墳初期	円形	22× 22× 19	
9	B地点	土師器	古墳初期	楕円	16× 22× 11	
10	B地点	上	古墳初期	円形	$74 \times 72 \times 5$	
11	B地点	上師器 上師器	古墳初期	楕円	48×140× 8	
12	B地点	上師器	古墳初期	円形	46× 50× 27	
13	B地点	土師器	古墳初期	円形	$32 \times 36 \times 22$	
14	B地点	上師器 土師器	古墳初期	楕円	$48 \times 66 \times 23$	
15	B地点	土師器	□ 古墳初期	椿円	$24 \times 36 \times 15$	
16	B地点	土師器	古墳初期	円形	$20 \times 24 \times 16$	
17	B地点	弥生土器	弥生後期後	円形	16× 18× 18	
18	B地点	土師器	奈良	円形	46× 48× 20	
19	B地点	弥生土器	弥生後期後	円形	28× 30× 14	
20	B地点	土師器	古墳初期	円形	14× 14× 4	
$2\overline{1}$	B地点	土師器	古墳初期	円形	$22 \times 22 \times 12$	
22	B地点	土師器	古墳初期	円形	14× 16× 9	
23	B地点	土師器	古墳初期	楕円	$18 \times 24 \times 6$	
24	B地点	土師器	古墳初期	円形	24× 26× 8	
25	B地点	土師器	古墳初期	円形	18× 20× 10	
26		弥生土器	弥生後期後	楕円	$34 \times 52 \times 13$	
27	B地点	弥生土器	弥生後期後	楕円	50× 58× 24	
28	B地点	弥生土器	弥生後期後	円形	$34 \times 36 \times 20$	
29	_B地点	弥生土器	弥生後期後	円形	$28 \times 32 \times 10$	
30	B地点	弥生土器	弥生後期後	円形	58× 60× 7	
31	B地点	弥生土器	弥生後期後	円形	20× 20× 15	
32	B地点	弥生土器	弥生後期後	楕円	36× 48× 10	
33	B地点	弥生土器	弥生後期後	円形	12× 12× 10	
34	B地点	土師器	古墳初期	楕円	$26 \times 34 \times 21$	

Tab. 14 野方久保遺跡 Pit 計測一覧

tNo.	出土地点	出土遺物	時 期	形状	規模 幅×長さ×深さ(単位cm)	掘出柱建物
35	B地点	土師器 弥生土器	古墳初期	円形	$22 \times 22 \times 18$	
36	B地点	弥生土器	弥生後期後	楕円	38× 60× 5	
37	B地点	土師器	古墳初期	円形	30× 30× 15	
38	B地点	土師器	古墳初期	円形	26× 28× 15	
39	B地点	十師器	古墳初期	円形	38× 40× 14	
40	B地点	土師器	古墳初期	円形	48× 54× 10	
41	B地点	土師器	古墳初期	円形	40× 41× 4	
42	B地点	上師器	古墳初期	円形	30× 34× 18	
43	B地点	土師器	古墳初期	円形	56× 55× 16	
44	B地点	十師器	古墳初期	楕円	$34 \times 60 \times 13$	
45	B地点	上師器 弥生土器	古墳初期	円形	$34 \times 44 \times 9$	SB-34
46	B地点	弥生十器	弥生後期後	円形	48× 54× 8	SB-34
47	B地点	弥生土器	弥生後期後	円形	10× 10× 10	
48	B地点	弥生土器	弥生後期後	円形	$48 \times 54 \times 12$	
49	B地点	土師器	古墳初期	円形	$24 \times 24 \times 17$	
50	B地点	土師器	古墳初期	円形	29× 29× 16	
51	B地点	弥生土器	弥生後期後	精円	$76 \times 90 \times 5$	
		沙生工品	弥生後期後	円形	34× 34× 8	SB-34
52	B地点	弥生土器 弥生土器	弥生後期後	円形	18× 18× 23	- J B 01
53_	B地点		- 外生技別技	<b>精円</b>	$30 \times 44 \times 14$	-
54	B地点	弥生土器	弥生後期後	接面		
55	B地点	土師器	古墳初期	楕円	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	
56	B地点	上師器	古墳初期	円形		
57	B地点	弥生土器	弥生後期後	楕円	50× 92× 6	
58	B地点	弥生土器	弥生後期後	円形 一	18× 18× 6	
59	B地点	上師器	古墳初期	楕円	24× 84× 24	
60	B地点	弥生土器	<b>弥生後期後</b>	円形	$34 \times 34 \times 26$	
61	B地点	弥生土器	弥生後期後	楕円	$50 \times 72 \times 17$	
62	B地点	弥生土器	弥生後期後	円形	$42 \times 48 \times 23$	
63	B地点	弥生土器	弥生後期後	楕円	44× 54× 9	
64	B地点	土師器	古墳初期	円形	$22 \times 26 \times 10$	
65	B地点	土師器	古墳初期	円形	18× 20× 15	
66	B地点	弥生土器	弥牛後期後	楕円	$25 \times 38 \times 6$	
67	B地点	弥生十器	弥生後期後	円形	$31 \times 31 \times 17$	
68	B地点	弥生土器	弥生後期後	楕円	$25 \times 37 \times 12$	
69	B地点	弥生土器	弥生後期後	円形	$35 \times 36 \times 12$	
70	B地点	弥生土器	弥生後期後	円形	40× 41× 8.	
71	B地点	土師器	古墳初期	一円形	35× 38× 15	
72	B地点	土師器	古墳初期	精円	40× 82× 10	
73	B地点	土師器	古墳初期	楕円	35× 62× 8	
$\frac{73}{74}$	B地点	土師器	古墳初期	精円	30× 58× 8	
75	B地点	- 弥生土器	弥生後期後	円形	40× 41× 12	
76		弥生土器	弥生後期後	一円形	45× 44× 13	
	B地点 B地点	土師器	古墳初期	円形	$40 \times 40 \times 15$	
77		上即奋	古墳初期	円形	$35 \times 36 \times 10$	
78	B地点	土師器	古墳初期	円形	30×31×10	
79	B地点	上師器		円形	33×33× 5	
80	B地点	弥生土器	弥生後期後		38×38×10	
81	B地点	弥生土器	弥生後期後	円形	$38 \times 38 \times 10$ $40 \times 41 \times 10$	
82	B地点	弥生土器	弥生後期後	円形		
83	B地点	弥生土器	弥生後期後	円形	31 × 31 × 8	
84	B地点	土師器	古墳初期	楕円	$20 \times 50 \times 10$	
85	B地点	弥生土器	弥生後期後	一 円形	38 × 39 × 10	
86	B地点	上師器	古墳初期	<b>精円</b>	35 × 55 × 6	
87	B地点	上師器	古墳初期	円形	39 × 40 × 5	
88	B地点	- 弥生土器	弥生後期後	円形	25× 28× 5	·   ·
89	B地点	土師器	古墳初期	円形	$40 \times 41 \times 10$	
90	B地点	土師器	古墳初期	円形	33× 34× 10	
91	B地点	土師器	古墳初期	円形	25× 26× 5	
92	B 地点	弥生土器	弥生後期後	楕円	20× 35× 5	
93	B地点	弥生土器	弥生後期後	楕円	$24 \times 55 \times 5$	_
84	B地点	弥生土器	弥生後期後	楕円	140×110× 46	SB-32
95	B地点	十師器	古墳初期	楕円	$115 \times 60 \times 27$	SB-33
96	B地点	弥生土器	弥生後期後	円形	$50 \times 50 \times 22$	
97	B地点	弥生土器 弥生土器	弥生後期後	楕円	110× 81× 44	SB-32
98	B地点	弥生王器	弥生後期後	円形	$55 \times 56 \times 22$	
99	B地点	弥生土器	弥生後期後	円形	$35 \times 36 \times 20$	
100	B地点		弥生後期後	一一円形	40× 41× 10	İ
101	B地点	弥生土器	弥生後期後		42× 43× 7	
102	B地点	土師器	古墳初期	一円形	88× 74× 7	S B -33
103	B地点	弥生土器	弥生後期後	円形	60× 61× 8	-   = 2 00
104	B地点	土師器	古墳初期	円形	52× 53× 10	-
105	B地点		弥生後期後	円形	74× 84× 12	SB-33
100	B地点	土師器	古墳初期	円形	44× 44× 11	0.0

Tab. 15 野方久保遺跡 Pit 計測一覧

PitNo.	出土地点	出土遺物	時 期	形状	規模 幅×長さ×深さ(単位cm)	掘出柱建物
107	B地点	弥生土器	弥生後期後	円形	50× 50× 2	
108	B地点	弥生土器	弥生後期後	円形	$70 \times - \times 5$	
109 110	B地点 B地点	土師器 弥生土器	古墳初期	楕円	22× 32× 11	
111	B地点		弥生後期後 弥生後期後	円形	$\begin{array}{c cccc} 24 \times & 30 \times & 13 \\ 20 \times & 20 \times & 9 \end{array}$	
112	B地点	<u> </u>	弥生後期後	円形	$\begin{array}{c} 20 \times 20 \times 9 \\ 28 \times 30 \times 13 \end{array}$	
113	B地点	弥生土器	弥生後期後	円形	18× 24× 10	
114	B地点	弥生土器	弥生後期後	円形	$104 \times 107 \times 17$	
115	B地点	弥生土器	弥生後期後	円形	35× 35× 19	
116	B地点	弥生土器	弥生後期後	円形	$23 \times 24 \times 20$	
117	B地点	弥生土器	弥生後期後	円形	19× 20× 15	-
119	B地点	弥生土器	弥生後期後	楕円	$38 \times 55 \times 18$	
120	B地点	弥生土器	弥生後期後	円形	40× 40× 15	
121	B地点	弥生土器 弥生土器	弥生後期後	円形	$35 \times 32 \times 10$	
122	B地点	- 弥生土器	弥生後期後	円形	$25 \times 23 \times 13$	
123 124	B地点 B地点	<u>弥生土器</u> 弥生土器	弥生後期後	円形	50× 54× 15	
125	B地点		弥生後期後 弥生後期後	円形	28× 30× 7	
126	B地点		<u> </u>	楕円 円形	$70 \times 150 \times 13$ $38 \times 40 \times 20$	
127	B地点	弥生土器	- 弥生後期後	円形	40× 42× 8	
128	B地点	弥牛十器	弥生後期後	円形	$40 \times 42 \times 36$	
129	B地点	弥生土器	弥生後期後	円形	$38 \times 40 \times 9$	
130	B地点	弥生土器	弥生後期後	円形	22× 24× 7	
131	B地点	弥生土器 弥生土器	弥生後期後	円形	44× 46× 15	
132	B地点	弥生土器	弥生後期後	円形	$24 \times 26 \times 10$	
133	B地点	- 弥生土器	弥生後期後	楕円	$28 \times 50 \times 10$	
134	B地点	土師器	古墳初期	円形	$30 \times 32 \times 10$	
135	B地点	弥生土器	弥生後期後	楕円	$38 \times 50 \times 36$	
136	B地点	弥生土器	弥生後期後	円形	$26 \times 28 \times 20$	
137	B地点	弥生土器	弥生後期後	円形	40× 40× 15	
138 139	B地点 B地点	弥生土器 弥生土器	弥生後期後	円形	40× 40× 20	S B -31
140	B地点	<u>- 外生工器</u> 弥生土器	弥生後期後 弥生後期後	円形 円形	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	0 D 00
141	B地点	<u> </u>	弥生後期後	<u>精円</u>	$\frac{70 \times 70 \times 58}{40 \times 70 \times 23}$	SB-30 SB-31
142	B地点	弥生土器	弥生後期後	円形	$22 \times 22 \times 83$	S B - 31
143	B地点	弥生土器	弥生後期後	円形	$70 \times 70 \times 18$	3 D - 31
144	B地点	土師器	古墳初期	円形	$38 \times 40 \times 10$	
145	B地点	十師器	古墳初期	円形	34× 44× 17	
146	B地点	土師器	古墳初期	楕円	40×104× 16	
147	B地点	土師器	古墳初期	円形	$52 \times 56 \times 40$	SB-30
148	B地点	弥生土器	弥生後期後	円形	70× 71× 8	S B −32
149	B地点	弥生土器	弥生後期後	楕円	40× 30× 17	
150	B地点	弥生土器	弥生後期後	円形	44× 44× 8	
15 <b>1</b> 15 <b>2</b>	B地点 B地点	弥生土器 弥生土器	弥生後期後	楕円 存用	54× 74× 52	1
153	B地点 B地点	外生土器 弥生土器	弥生後期後 弥生後期後	精円 円形	42× 60× 66	S B -30
154	B地点	<u> 弥生工器</u>	<u> </u>	<u>円形</u> 円形	60× 60× 19	C.D. OI
155	B地点			<u></u> 育形 楕円	$\begin{array}{c ccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	S B -31
156	B地点	<u> </u>	弥生後期後	<u>稍</u> 円	34× 58× 46	S B -30
157	B地点	<u> </u>	弥生後期後	<u></u>	76×146× 9	3 5 - 30
158	B地点	弥生土器	弥生後期後	円形	40× 44× 20	S B - 33
159	B地点	弥生土器	弥生後期後	精円	70×110× 5	55 60
160	B地点	弥生土器	弥生後期後	円形	40× 41× 15	
161	B地点	土師器	古墳初期	円形	$30 \times 30 \times 28$	
162	B地点	<u>弥生土器</u>	弥生後期後	円形	18× 20× 18	
163	B地点	- 弥生土器	弥生後期後	円形	$26 \times 26 \times 23$	
164	B地点	弥生土器	<u> 弥生後期後</u>	楕円	$16 \times 24 \times 22$	
165	B地点	弥生土器	弥生後期後	<u> 円形</u>	20× 22× 10	
1000 1001		土師器	古墳初期	円形	51× 51× 23	
1001	B地点	弥生土器 弥生土器	弥生後期後 弥生後期後	円形 楕円	$42 \times 41 \times 10$	C.D. 00
1002	B地点	<u>- 外生工器</u> 弥生土器		<u></u>	57 × 68 × 37	SB-36
1008	B地点	土師器	古墳初期	円形	$\begin{array}{c cccc} 41 \times 60 \times & 5 \\ 102 \times 104 \times & 66 \end{array}$	-
1012	B地点	上師器	古墳初期	円形	$26 \times 29 \times 42$	+

Tab. 16 野方久保遺跡土壙·不整形土壙計測一覧

SK•SX•SENo.	出土地点	長 軸	短 軸	深さ	挿図番号	時 期
S K -01	B地点	1.2	0.8	0.40	第50図	弥生時代後期後半
S K -02	A地点	1.03	0.65	0.23	第45図	
S K -03	A地点	0.95	0.6	0.12	第45図	
S K -04	A地点	1.2	1.1	0.32	第45図	
S K - 05	A地点	1.05	0.65	0.23	第46図	
S X -01	A地点	2.36	1.7	0.26	第42図	弥生時代後期後半
S X - 02	A地点	3.35	1.0	0.2	第46図	弥生時代後期後半
S X -03	A地点	1.7	0.7	0.8	第44図	
S X - 04	A地点	1.7	0.8	0.1	第46図	
S X - 05	A地点	1.08	0.6	0.10	<u> </u>	
S X -06	A地点	1.5	1.1	0.5	第46図	
S X - 07	A地点	2.4	1.8	0.2	第43図	
S X - 08	A地点	3.5	3.3	0.37	第43図	
S X - 09	A地点	1.8	0.6	0.35	第44図	
S E -01	A地点	1.85	1.75	0.4	第44図	
S E - 02	A地点	1.73	1.2	0.55	第44図	
S E -03	B地点	1.90	1.80	0.44		弥生時代後期後半
SE-04	B地点	0.74	1.75	0.54	第59図	
S E - 05	B地点	1.40	1.20	0.52		
SE-06	B地点	1.10	0.66	0.23		
S E −07	B地点	0.97	0.62	0.13		
SE-08	B地点	1.25	1.00	0.32		
S X -01	B地点	14.0	8.00	0.13		
S X -02	B地点	17.50	13.0	0.10		
S X -03	B地点	2.3	1.7	0.16		
S X -04	B地点	4.0	2.3	0.23		
S X -05	B地点	7.4	1.5	0.05	<u> </u>	

## 溝状遺構計測一覧

SDNo.	検出地点	長さ	幅	深さ	挿図番号	時	期	土器形式分類
S D -01	A地点	20.0	1.28	0.22	第60図付図-2	鎌倉~室町		
SD-02	A地点	20.8	0.44	0.26	第60図付図-2	鎌倉~室町		
SD - 03	A地点	25.8	1.20	0.40	第60図付図-2	古墳		VII
S D −04	A地点	17.6,15,4	0.64,1.04	0.16	第60図付図-2	鎌倉~室町	·	
S D -05	A地点	26.2	1.0 1.8	0.18	付図-2	鎌倉~室町		
SD-06	A地点	32.5	0.4 1.0	0.27	付図-2	鎌倉~室町		
SD-07	A地点	12.9	0.64	0.08	第60図付図-2	鎌倉~室町		
SD-08	A地点	8.9	0.76	0.08	第60図付図-2	鎌倉~室町		
SD - 09	A地点	8.4	0.72	0.16	第60図付図-2	鎌倉~室町		
S D - 10	A地点	2.4	0.40	0.20	第60図付図-2	鎌倉~室町		
S D - 11	A地点	2.24	0.48	0.08	第60図付図-2	鎌倉~室町		

S D -01	B地点	130.0	1.10	0.60	第48,51,53図	奈良~平安	
S D -02	B地点	25.1	3.3	0.50	第48,52図	弥生中期~後期	I ~IV
S D - 03	B地点	19.2	0.40~1.60	0.30	第48,51,52図	平安以降	
SD - 04	B地点	50.2	1.00	0.20	第48,51図	平安以降	
S D -05	B地点	13.20	0.60~1.1	0.65	第48,52図	奈良~平安	
SD-06	B地点	11.0	0.60	0.28	第48,52図	弥生後期	IV
S D - 07	B地点	24.0	0.40	0.22	第48,51,52図	弥生後期以降	
SD - 08	B地点						
SD - 09	B地点	6.1	0.4	0.1	第48図	弥生後期	IV
S D - 10	B地点	4.5	0.4	0.04	第48図	弥生後期	IV
SD-11	B地点	11.0	0.60	0.20	第48,52,53図	弥生後期	IV
S D - 12	B地点	26.4	0.60~1.40	0.56	第48,52,53図	弥生後期	IV
S D -20	B地点	56.0	0.10~8.0	0.75	第48,52,57図	弥生後期~古墳初期	<b>Ⅲ~VI</b>
S D -21	B地点	36.0	1.40~9.0	0.80	第48,57図	弥生後期~古墳初期	II ~ VI

## 第V章 出土遺物

A 地点、B 地点の住居址・溝、古墳、土壙状遺構等から多量の土器・石器が出土した。特に SC-03、07、41、45等、現位置を保った状態で出土した。土器は、各遺構ごとに図示し、石器、金属期は、一括して図示している。なお、野方中原遺跡から出土した土器で特殊な利用方法がなされた遺物であることが、本田光子によって指摘されたため、同時期の久保遺跡の中に収録することにした。各遺物の特徴等については Tab. 18~Tab. 24に示した。

## 土 器

## A 地点出土の土器

第1号墳出土の土器 (第61図、Tab. 18、PL. 17)

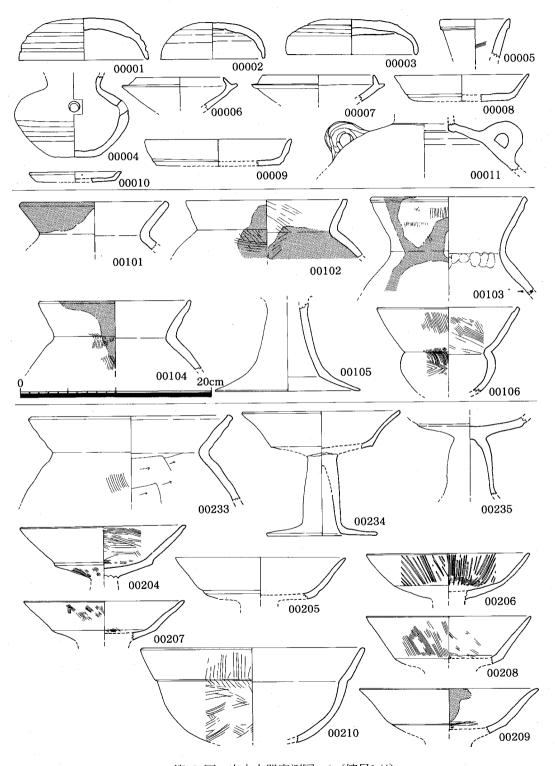
第61図の00001~00011までは、第1号墳出土の土器である。01~03は、須恵器の坏蓋である。6、7は坏身で、蓋と対になる。11は、横瓶の胴部で、両側に把手がつく。8~10は、土師皿である。8は口径14cm、9は15.4cm、10は9.6cmで、3点とも板目痕が底部につく。08には、内外に赤色顔料が認められる。

**住居址の土器**(第61~95図、Tab. 18~29、PL. 17~46 付図—3)

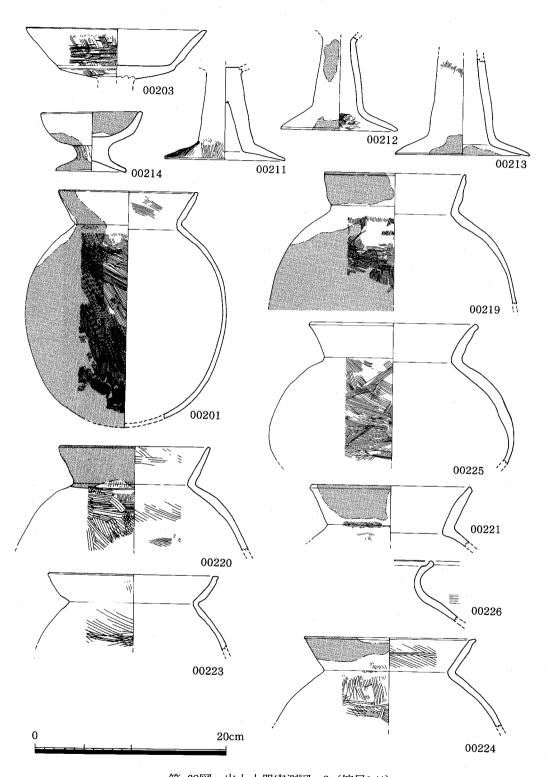
SC-01からは、00101~00106の6点を図示した。101、102、104は、断面「く」の字口縁を呈する甕形土器である。103は、口縁部が、外反する直口壺であろう。105は高坏の脚部、106は口縁が大きく外反する小型丸底壺である。

SC―02からは、34点図示した。甕は、口縁部が「く」の字を呈し、その中で口縁部が、直線的に外反する(220、224、233)タイプとわずかに内湾する(201、223)タイプ、肉厚で口縁端部がさらに外反する(221、225)がある。壺は、直口壺タイプでやや外反しながら直線的に立上る(219)タイプと大きく外反し口縁が短かいタイプ(226)がある。高坏は、坏部と脚部があるが、坏部は若干の差異はあるが、端部に稜を持つタイプ(204、205、207、234)となだらかに立上がるタイプ、小型で肉厚なタイプ(214)がある。

大型の広口の鉢 (210) や大、小の丸底壺が、12点出土した。口縁部の造りから2つのタイプに大別できる。胴部からやや外反しながら直線的に延び、口縁部が短かい直口壺に近い形態を持つ (202、216、217、218、228、230、231、232) タイプと口縁部がやや口傾しながら大きく広がる (215、227、229) タイプがある。



第 61図 出土土器実測図一1 (縮尺1/4)



第 62図 出土土器実測図一2 (縮尺1/4)

SC-03の土器 (第13、63~67図、Tab. 19、PL. 19~23、付図-3)

SC-03の遺物出土状態は、第13図に図示したごとく、張り出し部分に一括して土器が検出された。図示した29点の内、一括土器は(301、302、304、305、306、307、309、311、312、313、315、316、321、323、325、326、327、328、329、330)の20点である。このほかベット状遺構上に308、310、317、319、331床面に小型丸底壺の318、324が出土している。

甕形土器は、305、307、308、310、311、312、317、321、327、330、331の11点が出土した。 口縁部の形態から4タイプに大別できる。

「く」の字口縁を呈するが、直線的に伸びる(310、312、317、330)タイプ1と、内弯ぎみに立ち上り端部がつまみ上げられる(308、311、331)タイプ2、端部が外反する(327)タイプ3、複合口縁の流れをもつ(305、321)タイプ4がある。これらの土器は、内面へラケズリで外面は刷毛目を施し、球胴形の胴部から底部まで丸味を持つ形態を呈する。

タイプ4は、山陰系で、西新町遺跡(福市報79集、1982)出土の西新町IV式に比定できる。 壺形土器は、5つのタイプに大別できる。304、306の大型で口縁部がやや外反しながら立ち 上り口縁端部で大きく外反する(304、306、309)タイプIと直口する(315)のタイプII、口 縁が直すぐ立ち上り、端部が内弯しながら鋭くおさめるタイプII、頸部がしまり、内弯しなが ら外へ大きく広がる(326)タイプIVがある。タイプVは、小型丸底壺で、これも口縁が直立す る320、324と「く」の字状口縁を持つ318、323に分けられる。

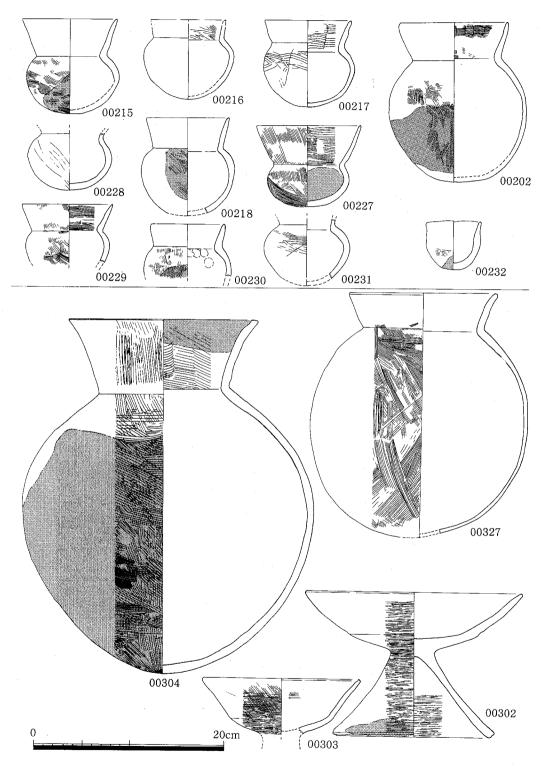
鉢形土器は、3つに大別できる。大形で深い形状を呈する301と平底で底部から内弯しながら伸びておさめるタイプ322、底部は丸底を呈し、急激に立ち上がるタイプ (319、321) がある。 高坏は、2点出土した。302は、形態的特徴から愛知県廻間遺跡から出土した高坏に類似し内外面とも丁寧なヘラミガキを施す。 303も在地系の高坏ではなく、 東海地方の系統かもしれない。

SC-03は、一括土器を含め、図示したものはすべて床面張付の土器であるが、拡張された部位に土器群がおかれた状態から2つの時期を考えた方がよいかもしれない。

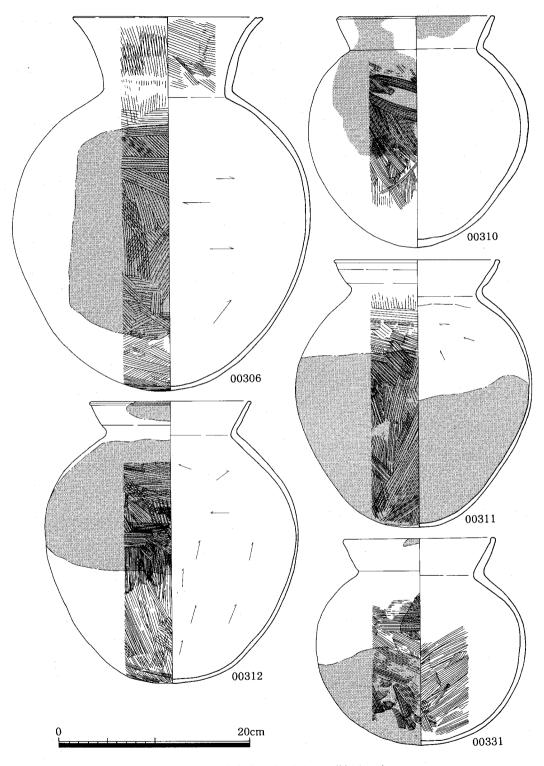
SC-04の土器(第67図 Tab. 19 PL. 24)

SC-04は、試掘調査のトレンチにより、中央部分を破壊され、東側にも土壙状遺構によって 一部を破壊されている。これにより、出土した遺物も少なく、甕形土器 2 点と器台 1 点を出土 したにとどまった。

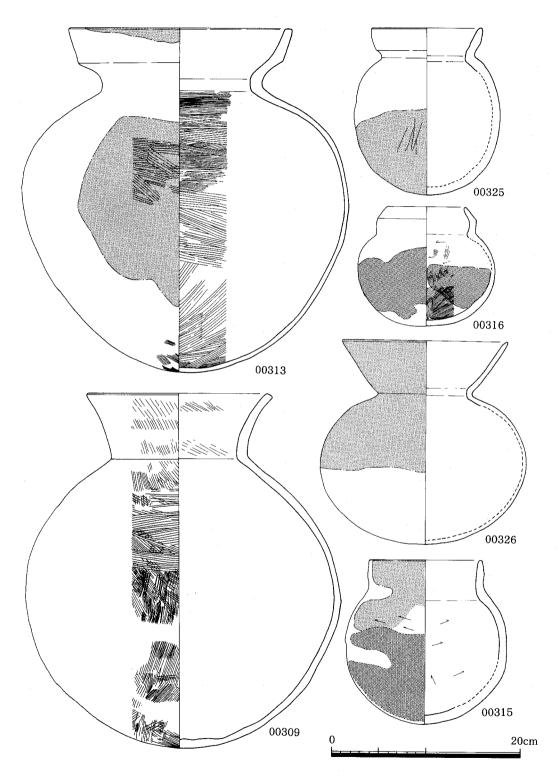
甕形土器は、内面へラケズリ、外面、刷毛目調整を行なった「く」の字状口縁の甕形土器である。 404は、壺とも甕ともつかない形態を示す。形状からすれば、長胴をする甕形土器と考えられ るが、口縁部は、直すぐ立ち上り、端部で大きく外反する壺形土器の口縁を呈する。一応甕形 土器の範中に入れる。器台は、内外面をも刷毛目で、端部に刻目を入れる。



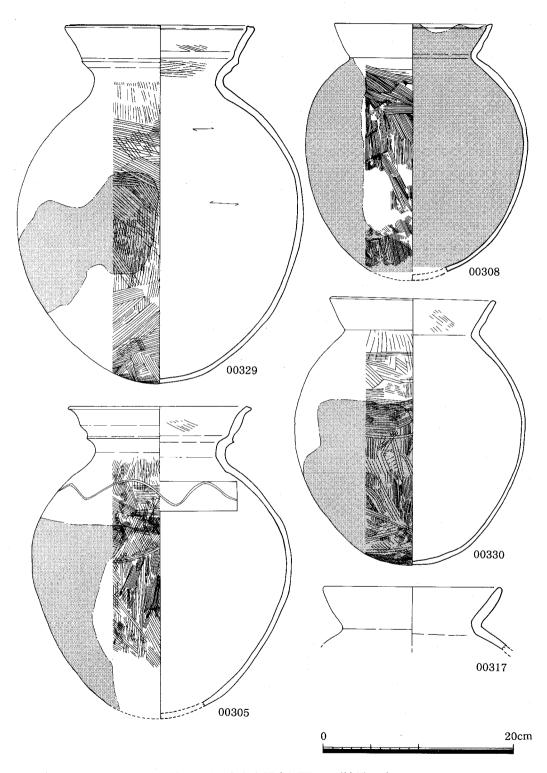
第 63図 出土土器実測図―3 (縮尺1/4)



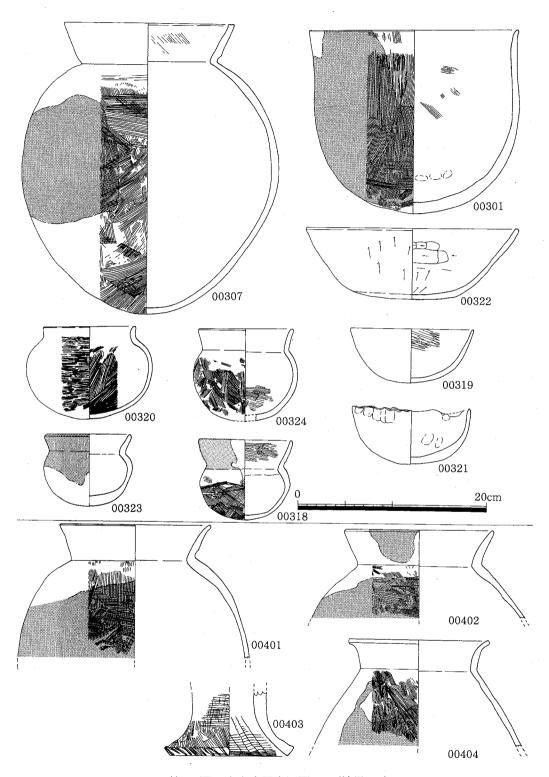
第 64図 出土土器実測図―4 (縮尺1/4)



第 65図 出土土器実測図—5 (縮尺1/4)



第 66図 出土土器実測図―6 (縮尺1/4)



第 67図 出土土器実測図-7 (縮尺1/4)

SC-05、06は、溝や、試掘トレンチ等により破壊され、図示できる遺物はない。

SC-07の土器 (第15、68~71図 Tab. 19、20 PL. 24~28 付図-3)

SC-07からも多量の遺物が出土した。SC-03も07も、炭化した木材が検出され、火災により崩壊したものと考えられる。

出土した土器の内、図示したのは39点である。**甕形土**器と壺形土器の区別が明確にできない ものもある。

**甕形土器** 口縁は「く」の字状を呈し、胴部は、球胴形を呈する。底部が平底のタイプ I (729, 731, 732) と、口縁が複合口縁状を呈し、胴部は球胴で底部も丸底を呈するタイプ II (733, 734) がある。また口縁部が内弯しながら端部で内側につまみ出され、肩部が張り、胴部へ直線的におりるタイプ III (735) がある。タイプ IV は直立しながら立ち上がった口縁部が、端部で外反するもので、胴部は球胴形を呈する (737, 738) がある。

**壺形土器** 壺形土器は、大別して3つに区分される。大型で口縁部が直立する736、749のタイプと、頸部があまり屈曲せず、そのまま立ち上がるタイプ701、702、721、723、726と、頸部から大きく外反するタイプ711、718、724、727、728がある。

**鉢形土器** 5点出土した。それぞれ形態が異なり、明らかに底部を意識した720がある。739 は、鉢形土器の甑である。

高坏形土器 高坏は、受部、脚部の形態からほぼ2種類に大別できる。タイプ I は、脚部下端で段を持たず、末広がりにおさまり、受部は、脚部からやや肉傾しながら伸び、ゆるやかな立ち上りを持ちながら口縁部でわずかに外反しおさめる。タイプ II は脚部下端に一段の稜を有し大きく折れまがる。受部は、脚部から横に伸び、急に立ち上がるため、段を有し、やや外反しながら大きく伸び、口縁端部を丸くおさめる。

SC-08の土器 (第71、72図 Tab. 20、21 PL. 28)

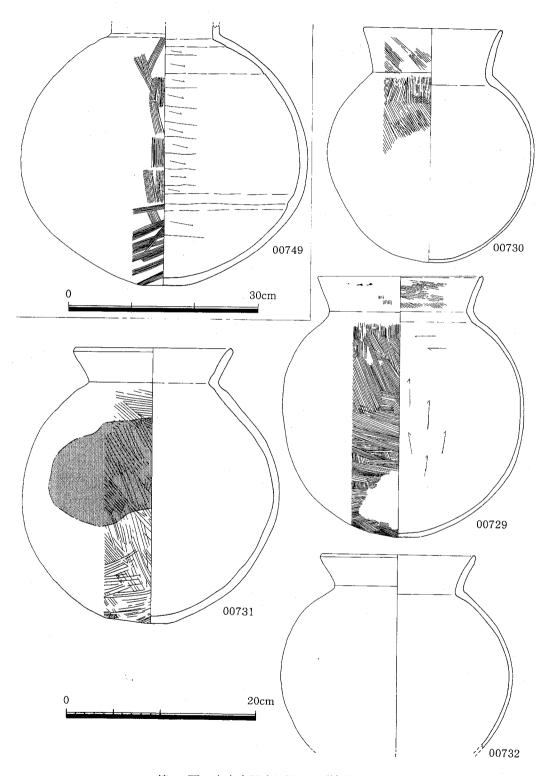
SC-08は、SC-15~17の住居址を切り、最上部に位置している遺構である。そのため、弥生後期後半の土器をも出土している。これら弥生後期の土器は SC-15~17の土器と考えられる。

**甕形土器** 布留式併行期の変形土器で器厚が薄く「く」字状口縁を呈し、口縁端部を外側につまみあげておさめるタイプ802、803がある。これに対し、「く」字状口縁ではあるが、肉厚で口縁端部を内におさめるタイプ805がある。また頸部のしまりがない801タイプもある。

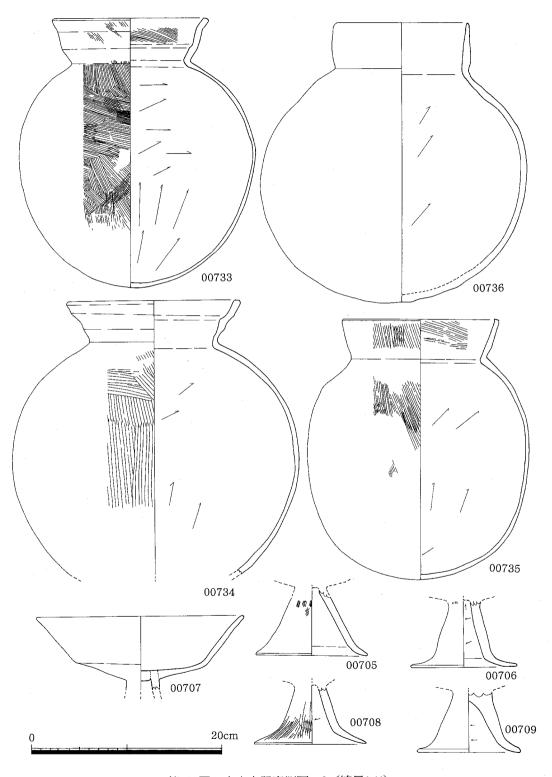
**壺形土器** 弥生後期後半にみられる袋状口縁壺である808と、その底部と考えられる812がある。811は弥生後期後半の、底部が平底になるタイプである。

布留併行期の壺は、806の小型丸底壺と呼称している土器がある。

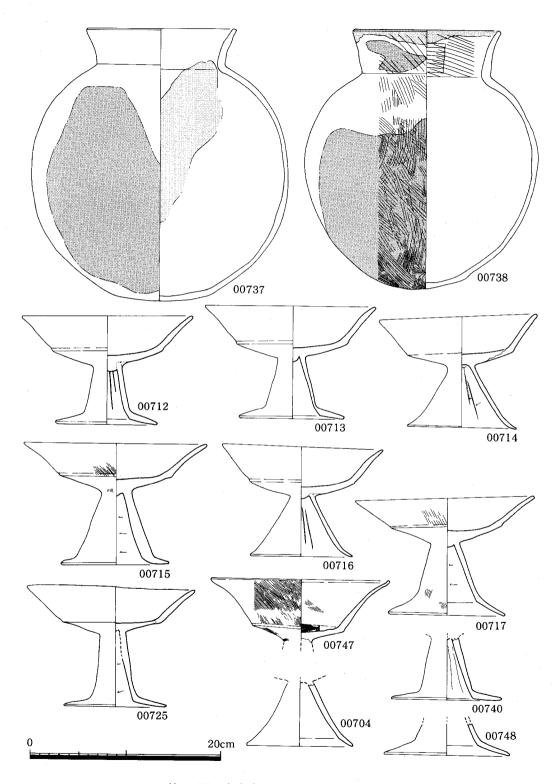
高坏形土器 813が一点出土している。弥生後期にみられる形態で808等と同一時期である。 鉢形土器 807も高坏と同じ後期後半、816の器台も同様な位置付けができる。



第 68図 出土土器実測図—8 (縮尺1/4、1/6)



第 69図 出土土器実測図―9 (縮尺1/4)



第 70図 出土土器実測図—10 (縮尺1/4)

SC-09の土器 (第72図 Tab. 21 PL. 28、29)

SC-09は SC-07、土壙状遺構、pit 等によって切られているため、弥生後期後半の遺物から、板目のある土師皿まである。

**土師皿** 916の皿は、底部に板目痕があるもので、口径13.5cmを測る。

**弥生後期土器** 908~911が弥生後期後半の土器である。908が高杯の脚部、909、911が壺形土器、910が甕形土器の底部である。住居の切合関係から SC-09の時期は、この時期に比定できると考えられる。

布留式併行期の土器 901~907、912~915がある。甕形土器906、912、壺形土器903、907、913、914、915がある。901、902は高杯で、SC—07に同タイプの高杯がある。鉢形土器に904、905がある。

SC-10の土器 (第73図 Tab. 21、22 PL. 29、30、43)

SC-10は、SC-51、52を切る形で検出された。南西隅からの検出であるため半分以上は調査できていない。1007、1009、1013、1014は弥生後期の時期で、SC-51の遺物とも考えられる。

**甕形土器** 1005に代表される甕で、口縁が「く」の字状を呈し、薄手の器厚を呈する。口縁端は内側につまみ出され、内面へラ削り、外面刷毛目を施すタイプと、胴部が球胴形を呈し、器厚が厚いタイプがある。

SC-12の土器 (第74図 Tab. 22 PL. 30)

SC-12は SC-52、53から切られる。出土した土器は、弥生後期後半の土器である。1203、1204、1205が壺形土器で、04、05は袋状口縁土器である。甕形土器は1206の 1 点出土している。これらの土器から弥生後期後半の時期と考えられる。

SC-13の土器 (第74図 Tab. 22 PL. 30)

SC—13は、SC—14、土壙状遺構等によって切られている。1306、1307は口縁部が直立する壺形土器である。1305は丸底壺、他は、SC—07で出土したタイプ II に属するもので受部下端に稜を有するタイプである。

SC-14の土器 (第74図、Tab. 22 PL. 30)

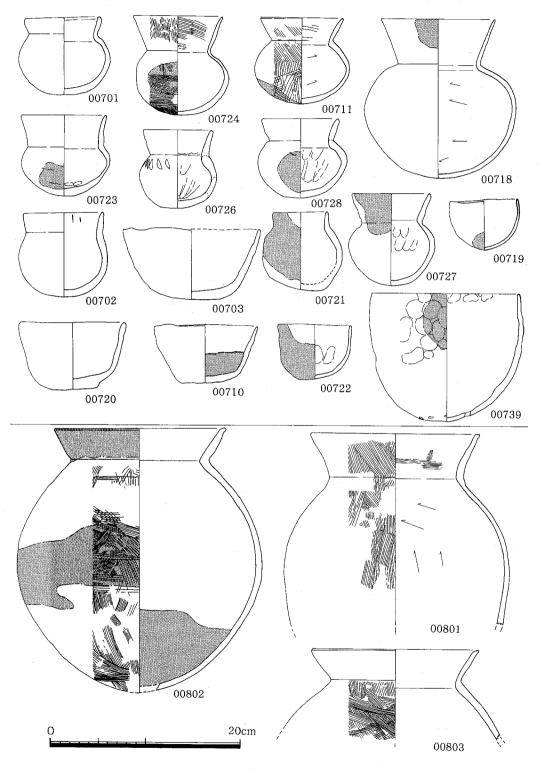
SC-14は SC-13を切る。出土遺物から見るかぎり時期的な差はあまり考えられない。

甕形土器は口縁が「く」の字状口縁を呈し、端部を外側につまみ出す。内面へラケズリ、外面 縦ハケメを施す。鉢形土器が3点(1402、1403、1406)出土している。小型丸底壺が2点出土。

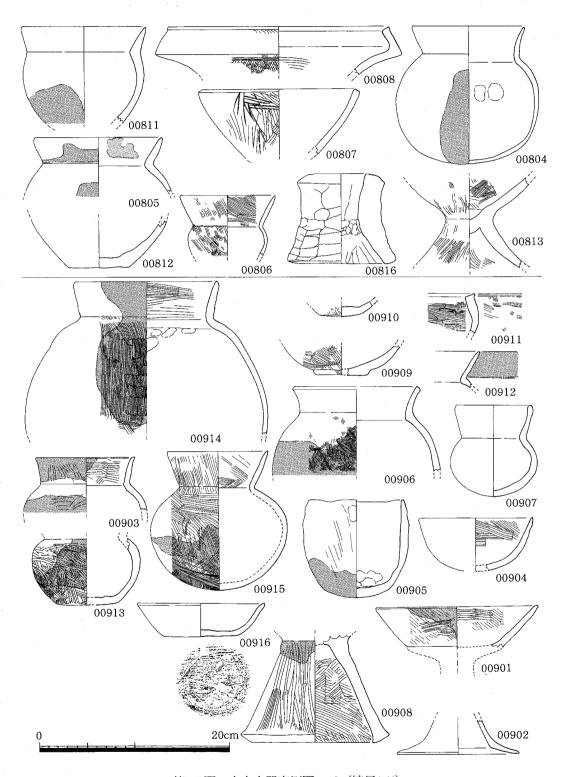
SC-15、16の土器(第75図 Tab. 22)

SC-15は SC-08、SD-02から切られ、SC-16を切る。出土土器も 4 点と少ない。甕形土器 (1503) 鉢形土器 (1501) 甕底部から弥生時代後期後半の住居址であろう。

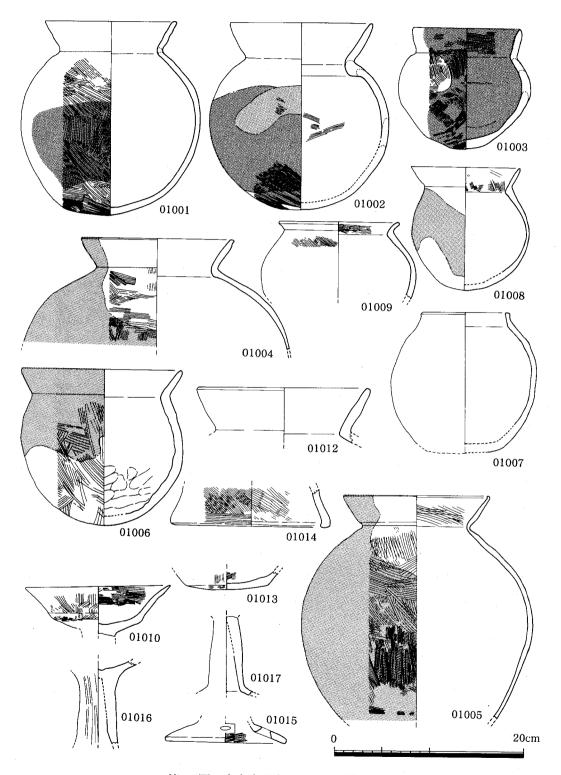
SC-16の土器も4点しか出土していない。壺形土器の胴部片(1601)、底部(1604)、と鉢形



第 71図 出土土器実測図―11 (縮尺1/4)



第 72図 出土土器実測図―12(縮尺1/4)



第 73図 出土土器実測図—13 (縮尺1/4)

十器の口縁 2点(1602、1603)がある。出土土器から弥生後期後半の住居址と考えられる。

SC-17の土器 (第75、76図 Tab. 22 PL. 31、32 付図-3)

SC-17の切合関係は SC-01、54から切られ、出土土器は、弥生後期後半に位置付られる。

**甕形土器** 口縁部が「く」の字状を呈し、内外面とも刷毛目を施すもので1705、1712がある。 底部は、やや丸みを持つ凸レンズ状を呈する。

**壺形土器** 1709、1710の口縁端部外面に刷毛櫛による刻目を持つ朝顔状に開く壺形土器と 1711の頸部がしまり口縁部が短かく大きく外反するタイプと小型の1706がある。

**鉢形土器**は、底部が平底の1707と、丸底の1708がある。器台は1703の1点が出土した。

1713は、器形的な観察から鉢形土器の頸部と考えられる。表面は、ナデ整形後刷毛状工具で羽状の施文を施し、さらに櫛歯状工具で(5~6本)区画する。屈曲する部位は縦方向のヘラミガキを施す。内面は横方向のヘラミガキ後縦方向にヘラミガキ整形を行なっている。これは在地系の土器には見られず、おそらく吉備・近畿からの搬入品であろう。

SC-18には図示できる資料は、出土しなかった。

SC-19の土器 (第76図 Tab. 23)

SC-19の切合い関係は、SC-20により中央部を切られる状態で検出された。出土した土器から弥生時代後期後半の遺物しか出土していない。1901、1902は平底の底部である。1903は高坏の受部、1904は壺形土器の胴部片である。

SC-20の土器 (第76図 Tab. 23)

SC-20からは、弥生後期後半の土器 6 点出土した。2005の甕形土器、2006の鉢形土器、他は壺・甕形土器の底部である。底部の形態から SC-19より古い段階の土器であることが知れる。

SC-21、22の土器(第76、77図 Tab. 23 PL. 32、33 付図-3)

SC-21に、切合関係はないが、SC-22は SC-19を切り土壙状遺構によって切られている。

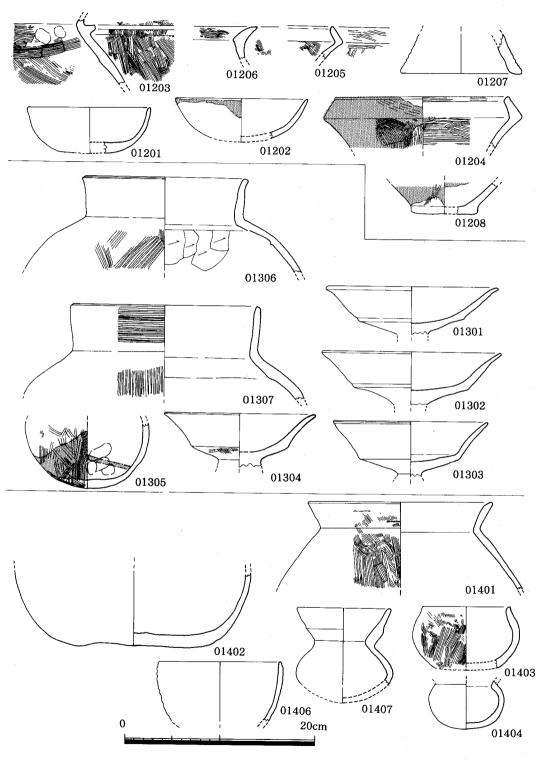
SC-21の土器は、2106の壺形土器から布留式併行期と考えられる。2101~2104の鉢形土器からも同様な結果が得られる。

SC-22は、11点図示した。土器から弥生後期後半に位置付けられる住居址であろう。

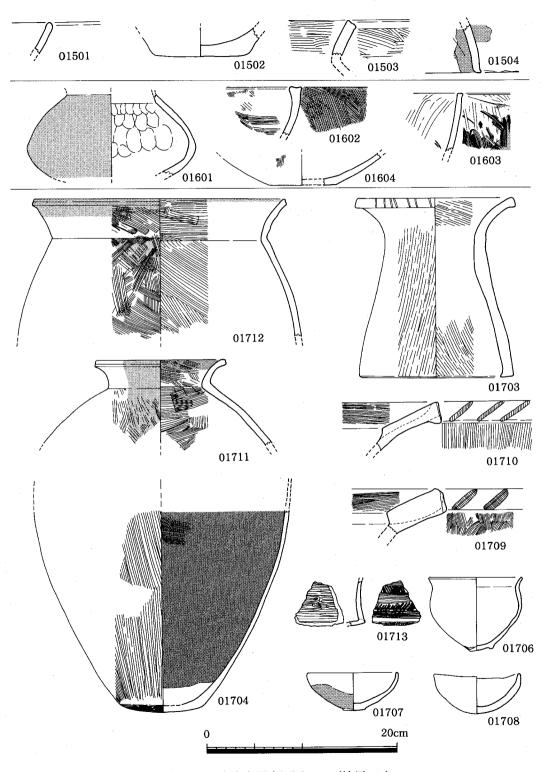
甕形土器 (2201、2205、2206、2207) は、口縁が「く」の字状を呈し、端部をナデ仕上げにより凹みを持ち、内外面とも丁寧な刷毛目を施す。壺形土器には、袋状口縁壺 (2204) や大型 壺 (2211) 等があり、鉢形土器 (2208)、支脚 (2210) 等も出土した。

SC-23の土器 (第77図 Tab. 23)

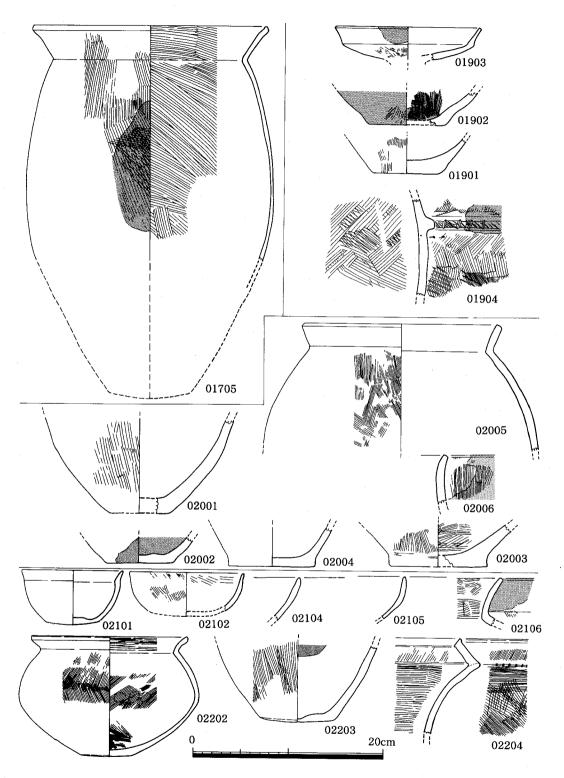
SC-23は西側の段落ち部分により破壊されており、約1/4程度しか現存しない。出土遺物は、 壺形土器の底部 2 点が出土している。これから弥生後期後半の住居址と考えられる。



第 74図 出土土器実測図-14 (縮尺1/4)



第 75図 出土土器実測図―15 (縮尺1/4)



第 76図 出土土器実測図―16 (縮尺1/4)

SC-24の土器 (第78図 Tab. 23 PL. 33)

SC—24の切合い関係は、SC—29に切られ、SC—47の大部分を切る。西側台地段落ち部分に位置する。出土遺物の内、2404、2405、2408、2409、2411ら弥生時代後期後半に位置付けられる遺物で、SC—47の遺物である可能性が高い。SC—24の遺物と考えられるものは、2401、2407に代表される布留式併行期の遺物と考えられる。

SC-25~28の遺物は、図示できるものはなかった。

SC-29の土器 (第78図 Tab. 23、24 PL. 33)

SC-29の切合い関係は、SC-35によって切られ、西側段落ち部分であるため約半分ほど崩壊している。出土遺物は2901~2903までは布留式併行期に位置付けてよい。2901、2902は高坏で脚部に段を有する形態を持つ。2903は、甕形土器で内面ヘラケズリを施し、「く」の字状口縁を呈する土器である。

SC-30、31の土器 (第78図 Tab. 22、24 PL. 31)

SC-30は、SC-29によって切られ、他にも溝状遺構・土壙状遺構によって寸断されている。 このためか出土遺物は少なく3点しか図示できなかった。

出土遺物は壺形土器 2 点 (3001、3002) と高坏脚部 1 点である。住居址の時期は、切合い関係、遺物から布留式併行期の可能性がある。

SC-31は、SC-34の大部分を切る。出土遺物の中で時期の異なる3107が1点出土している。 他はほとんど同時期と考えてよい。

**甕形土器** ほとんど同じ形態をするもので、口縁端部が外反したり、直線的であったりするが、同時期が考えられる。ここで特記すべきことは、手ずくね土器が4点出土していることである。今までの住居址にはなく SC—24に1点出土しているだけである。 時期的には布留式併行期より新しい時期と考えられる。

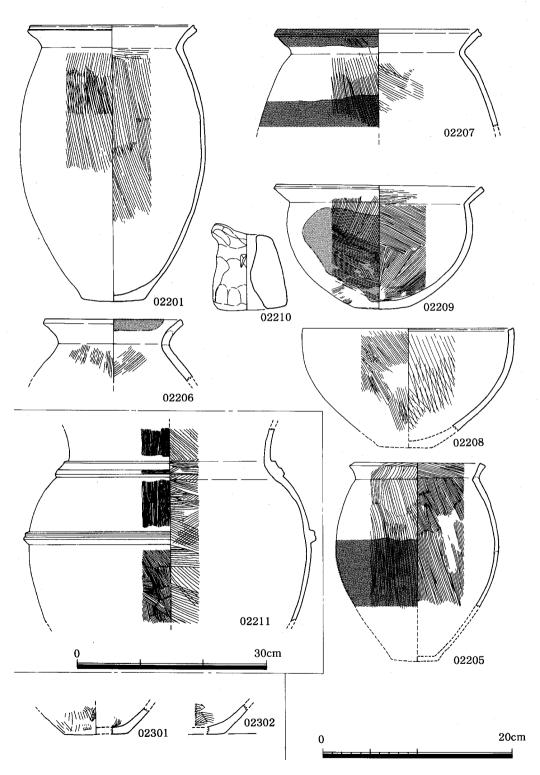
SC-32、33の土器 (第79図 Tab. 24、25 PL. 34、35)

SC-32の切合関係は、SC-33によってそのほとんどが切られている。出土遺物の内(3202~3204、3211)は、布留式併行期のもので SC-33の遺物と考えられる。他の遺物は、3206、3208に代表されるごとく弥生時代後期後半の遺物である。

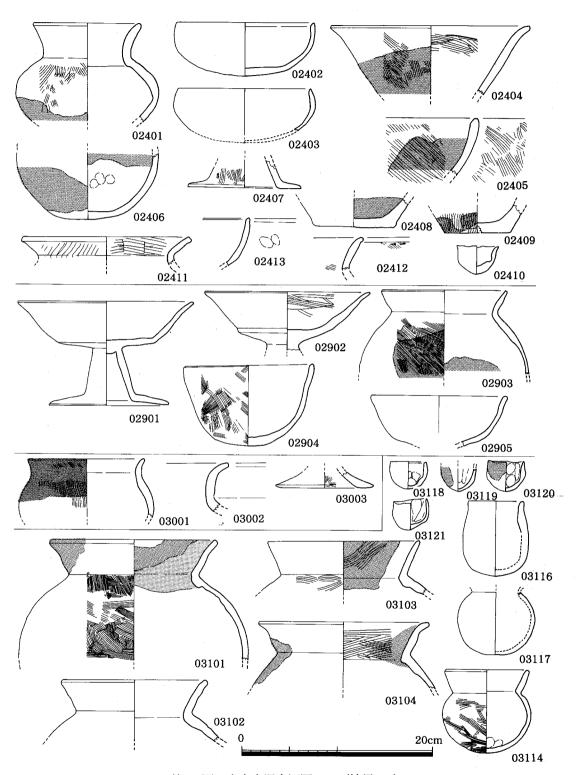
SC-33は、3301、3307に代表されるように布留式併行期に属する遺物である。3303~3305、3309、3311、3312は鉢形土器、3306、3310は壺形土器、3301、3302、3308が甕形土器である。

SC-35の土器 (第80図 Tab. 25 PL. 34、35)

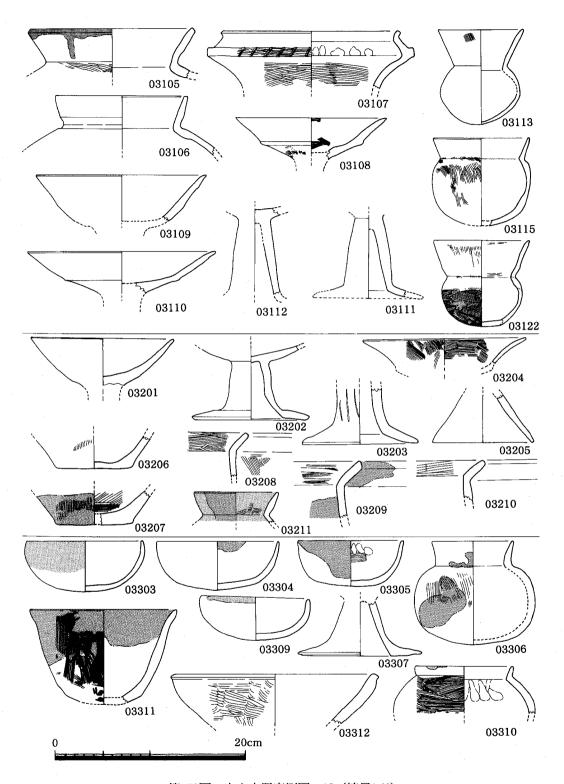
SC-35の切合い関係は、SC-29を切る。西側部分の段落ちのため約半分が破壊されている。 出土遺物の内、3505、3506、3508は弥生後期後半の遺物であり、SC-29の遺物の可能性がある。 3507は掘立柱建物の遺物、他は布留式併行期の遺物としてとらえられる。



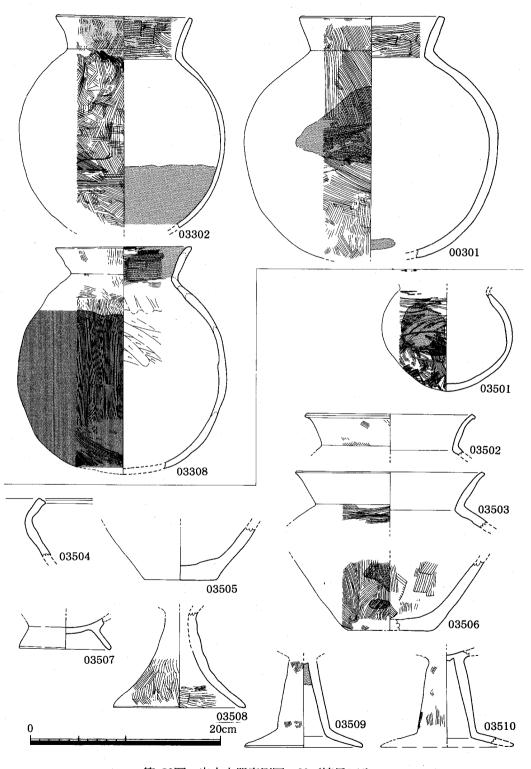
第 77図 出土土器実測図―17 (縮尺1/4、1/6)



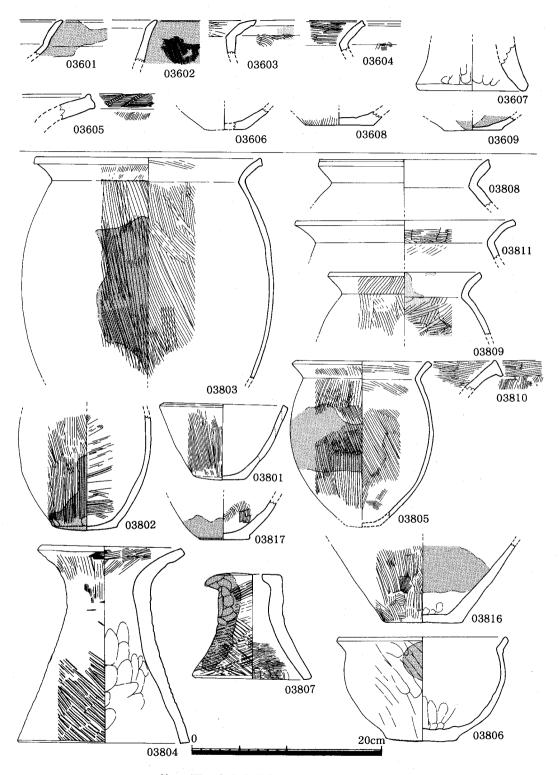
第 78図 出土土器実測図―18 (縮尺1/4)



第 79図 出土土器実測図―19 (縮尺1/4)



第 80図 出土土器実測図―20 (縮尺1/4)



第 81図 出土土器実測図―21 (縮尺1/4)

SC-36、38の土器 (第81、82図 Tab. 25 PL. 36 付図-3)

SC-36は SC-32、33、41から切られる。出土した遺物は、弥生後期後半の遺物ばかりで、この住居址の時期を決定付けている。

SC-38の切合い関係は、SC-44を切る。出土遺物は、甕形土器(3802、3803、3805、3808、3809、3811、3816、3817)、鉢形土器(3801、3806、3812、3813)、器台(3804)と壺形土器(3810)がある。底部の形態を見ると3802が、やや丸みを持つ凸レンズ状を呈するが3816の底部は、平底である。ただ、鉢、甕の底部をみるとやや丸みを持つ凸レンズ状が大勢をしめる様である。3818、3819は鞴の羽口である。全体が赤黒く焼けている。3814は、糸切り皿、3821はヘラ切りの高台付塊で、上部のPit より 2 点とも出土している。

SC-39の土器 (第82、83図 Tab. 25、26 PL. 37 付図-3)

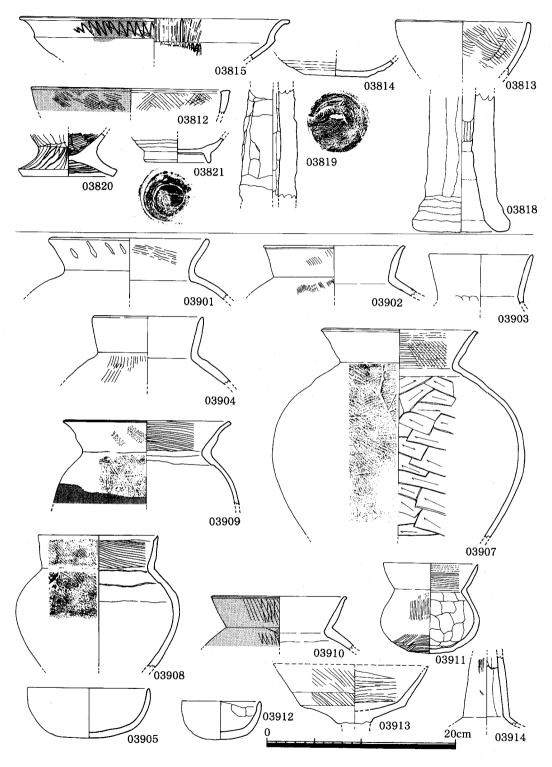
SC-39は SC-45、46に切られている。出土遺物は、そのほとんどが同一時期に比定できる 資料である。特に3906は、吉備地方の6期に位置付けられる土器と類似する。(内面へラ削りを 施し、外面を刷宅目で施文する方法と形態的に類似するが、頸部の二段にふくらむ形状は、吉 備の6期より新しい時期でこのことから布留式併行期に属する時期であろう。

SC-40の土器 (第83図 Tab. 26 PL. 38)

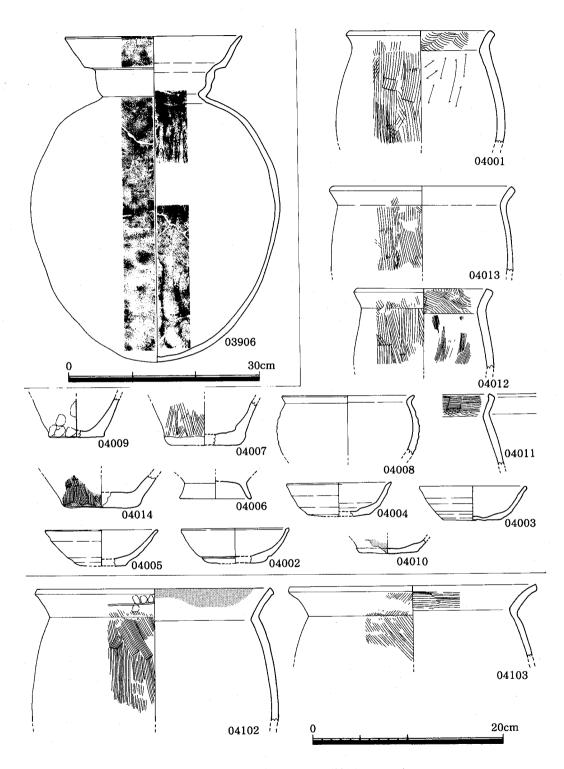
SC-40は、SC-39、43を切るが、SD-04によって切られる。出土遺物の4002~4006の5点はSD-04からの出土遺物である。SC-40からの遺物は、甕形土器の4001、4007、4009、4011~4014と、壺形土器4008、4010であり、弥生後期後半の時期に位置付けられる。

SC-41の土器 (第26、83~88図 Tab. 26、27 PL. 38~41 付図-3)

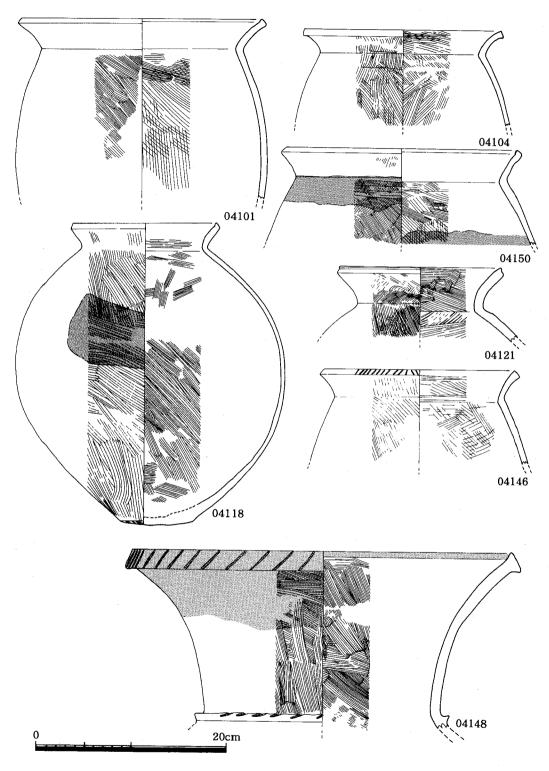
SC-41の切合い関係は、SC-33によって切られる。出土遺物は、一括して出土した土器群がほとんどであるが底部を見ると、4105、4111、4113、4152が平底で、立ち上りが鋭角である。他の底部は、凸レンズ状を呈する。甕形土器は、口縁部が「く」の字状を呈することは同じであるが、口縁端部の造りか内側につまみ上げるもの4101、4117、4118、4150と外側におさえるもの4102~4104、4119、4120、4121、4146とに区別できる。4152は大型壺形土器である。胴部中位と頸部に「コ」の字突帯を巡らし、櫛描工具によって施文する。口唇部にも同様の施文を行なう。内外面とも刷毛目を施す。4148は頸部に三角突帯を巡らし、施文具によって刻目を施す。4122は、袋状口縁壺の口縁部である。口唇部が垂直に立ち上る。4116、4124、4143は内外面に刷毛目を施す。4116、4124は、わずかに平底を残すが、4143は丸底である。4125は、広口の長頸壺である。頸部がしまりカーブを描きながら、接点で稜を持ち、そこからやや外反しながら口唇部へと続き端部がさらに外反する。底部は平底である。この形態は長頸壺からの流れと考えられる。このほか、高坏、器台、支脚の出土があるが、みな同一時期としてとらえられることができ、弥生後期後半 {ⅢB期、(田崎、柳沢編年)} に位置付けられる。



第 82図 出土土器実測図-22 (縮尺1/4)



第 83図 出土土器実測図―23 (縮尺1/4、1/6)



第 84図 出土土器実測図-24 (縮尺1/4)

高坏は、受部の形態から4つに区分できる。4130、4132に見られるごとく脚部から内弯しながら外へ広がり、口縁附近で外反しながら立ち上り、ここで内外面に稜を持ち、端部に近づくにつれさらに外反しておさめるタイプ I と4131のように口縁端部があまり立ち上がらず外反しておさめるタイプ II、さらに直線的に延びる形態を示すタイプ II 4147がある。タイプ IV は4145 のように脚部から直線的に延び口縁端部を内側にわずかにつまみ出し終了するものがある。ただこれは粘土つなぎ部分で終了している可能性もある。これから口縁部がさらに立ち上るものを考えた方が良いと思われる。さすれば、タイプ I に属するものと考えてよい。

器台は9点出土した。この器台の中で4135の外面にはタタキが施されている。他の器台とは 時期差がある。

**甕**の底部(4115)は、外面にタタキを施している。底部の形態は平底である。また鉢形土器 (4127) の中にも外面にタタキがある。

以上のことから、**甕、**壺の底部の形態、高坏の時期差、器台や鉢形土器の外面にみられるタタキ施文法等からわずかではあるが時期差が認められる。

SC-42、43、44の土器(第89図 Tab. 27 PL. 41、42 付図-3)

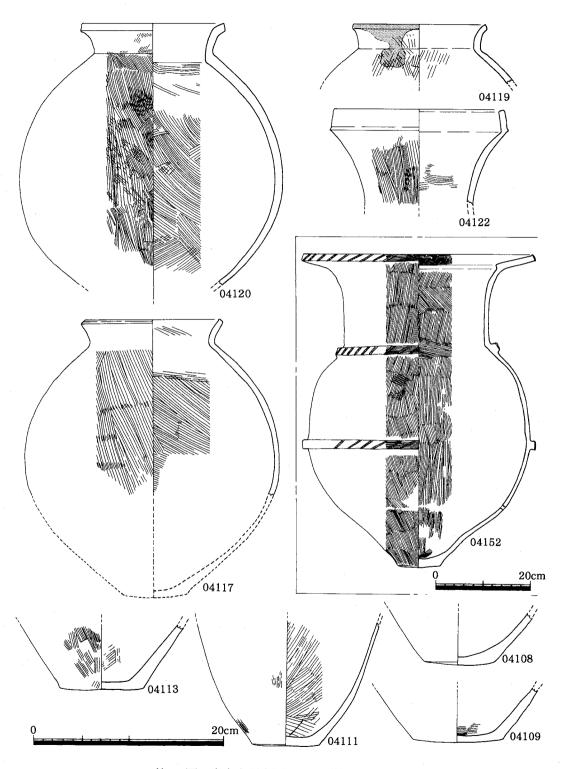
SC-42は、北側の SC-38の附近に位置するが、北側境界があり、1/6程度しか調査できていない。したがって出土した土器も4点しかない。出土した土器を見るかぎり、4202、4204等の 毒、甕等の形態から弥生時代後期後半の時期に比定してもよい。

SC—43の切合い関係は、SC—39、40、45、SD—04によって切られ、約1/5程度しか検出できなかった。 出土遺物を見ると4406は SD—04の溝内遺物であろう。 他は弥生時代後期後半にみられる甕形土器や鉢形土器である。ただ4402、4403は底部が凸レンズ状を呈するもので、他の遺物より新しい要素が認められる。

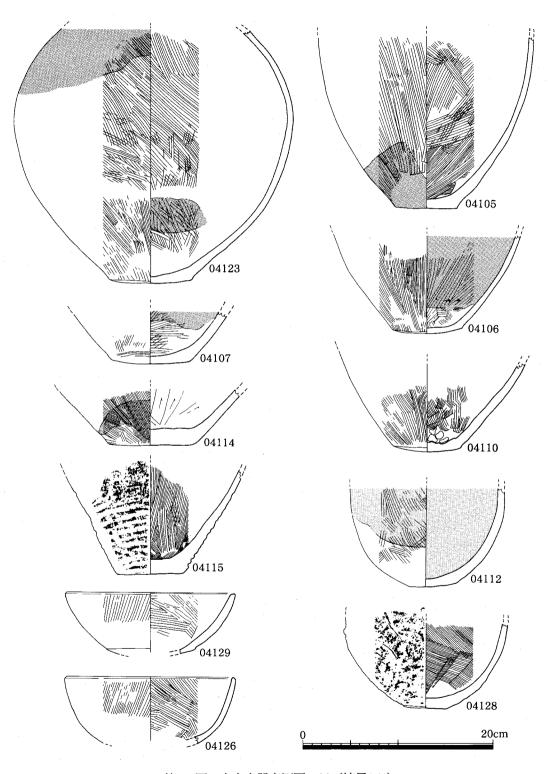
SC-45の土器 (第24、89~93図 Tab. 27~29 PL. 42~45 付図-3)

SC-45の切合い関係は、SC-39、40を切るが SC-46から切られる。出土遺物からも同様な結果が得られた。 4528、 4534は弥生時代後期の遺物であり、 SC-39の遺物と同時の遺物である。 4534は、袋状口縁壺である。 4528は、胴部は張らず、長胴形を呈する。口縁部は「く」の字状を呈する。内面はナデ、外面は、縦方向の刷毛目を施す。

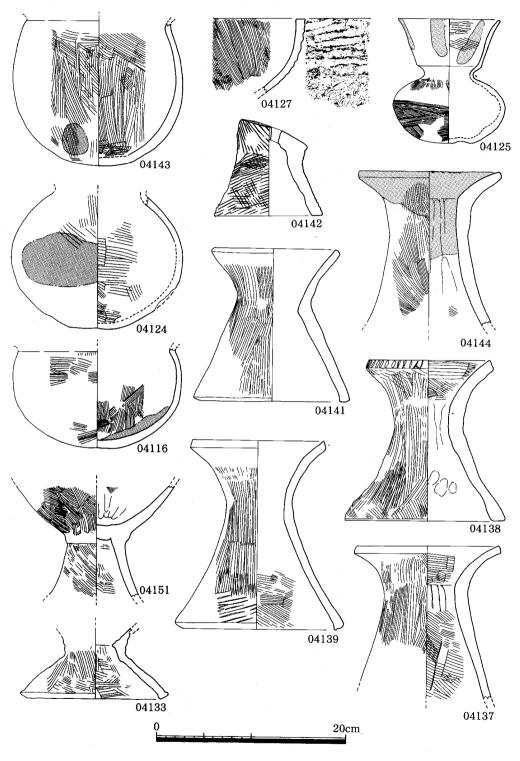
甕形土器4501は、口縁部が二段に外反するもので、山陰系の土器である。内面は、ナデ整形とへ ラ削りを施し、外面は、刷毛目調整を施す。他の甕形土器は、胴部が球形を呈する、4506、4512、4513、4520、4521、4522、4526、4527、4529、4530、4531、4533がある。底部も丸底を呈し、内面へ ラ削り、外面ハケメを施す。4532は胴部が球形を呈するが、肩が張るタイプと、口縁部が短かい4523、器厚が薄く、口縁部が外反し端部を丸くおさめる4524がある。



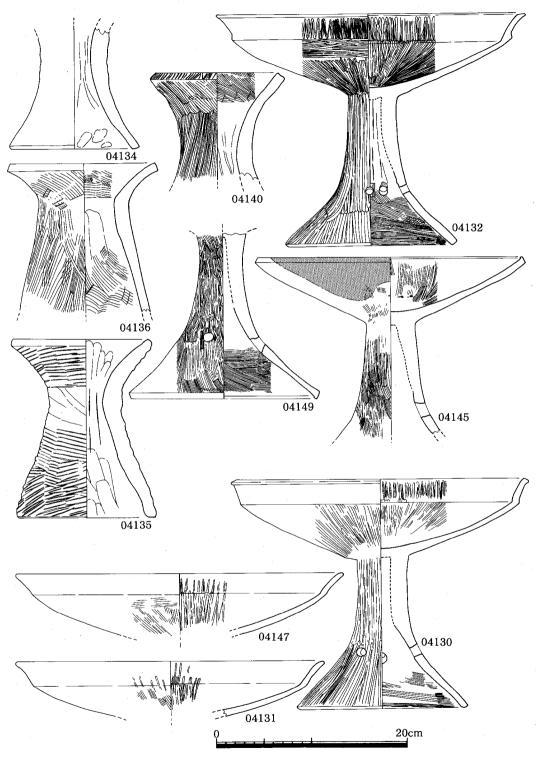
第 85図 出土土器実測図-25 (縮尺1/4、1/8)



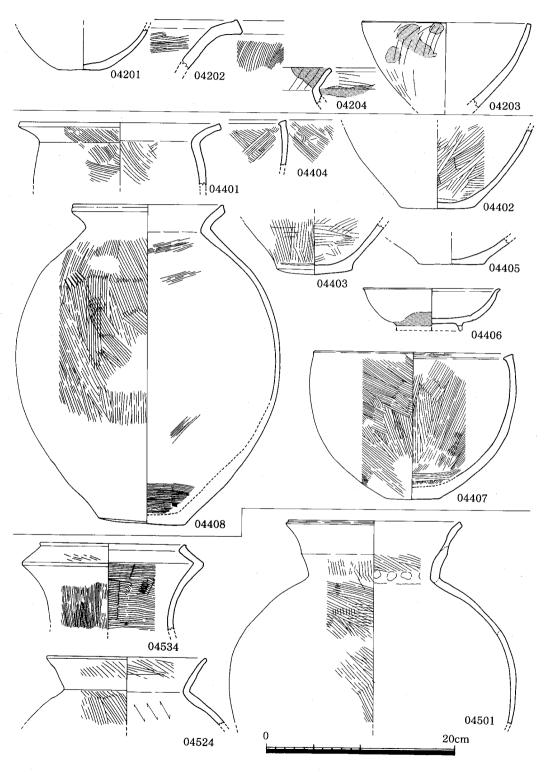
第 86図 出土土器実測図―26 (縮尺1/4)



第 87図 出土土器実測図—27 (縮尺1/4)



第 88図 出土土器実測図―28(縮尺1/4)



第 89図 出土土器実測図―29 (縮尺1/4)

壺の中で、小型の丸底壺がある。形態的に2つに区分できる。頸部から垂直に口縁部が立ち上るタイプ (04517、04538、04545) と、頸部から外反しながら立ち上る (04539、04540、04541、04542、04543、04544、04546、04547) がある。

鉢形土器04548は平底の底部をするが、底部に葉の圧痕が附着している。04549は、内外面とも刷毛目調整を施し、底部は凸レンズ状を呈する。これは04528と同様の弥生後期後半に位置付られる土器である。04550も底部が凸レンズ状を呈する鉢形土器である。時期的には、弥生後期後半の位置に相当するものと考えられる。

高坏、高坏は 7 点出土した。受部の形態は 3 つに大別できる。04535に代表される形態で、脚部は、裾広がりに開き、受部は、脚部からゆるやかに丸みをおびながら伸び、口縁端部でわずかに外反しおさめるタイプ  $\mathbf{I}$  と脚部から立ち上る部分に一条の稜線を巡らせ直線的に外反しながら伸び口縁端部に達するタイプ  $\mathbf{I}$  (04536、04537) がある。タイプ  $\mathbf{I}$  は、脚部から横に直線的に約 9 cm ほど伸び、そこからやや内弯しながら垂直に近い角度(約 $30^\circ$ )で立ち上る04505がある。脚部も三種類ある。1 はタイプ  $\mathbf{I}$  に付くもので、2 は、脚部の幅が広く、1 と 3 の中間的な形態を持ち、脚長も短かい。脚部裾は明確な稜は付かない。3 は脚部幅が細く、脚部裾で大きく開き、内面には明確な稜を持つ。

SC-51の土器 (第93、94図 Tab. 29 PL. 45、46 付図-3)

SC-51の切合い関係は、SC-10で切られ SC-52を切る形で検出した。出土遺物にも05104、05106の布留併行期の土器が出土しており、SC-10の遺物かもしれない。切り合い関係から、05101~05103、05106の時期が SC-51の時期と考えられる。05106は、袋状口縁壺で、後期中頃から後半に位置付けられ、05102、05103も平底の底部を持つことから弥生後期後半でも古い時期に位置付けられる。

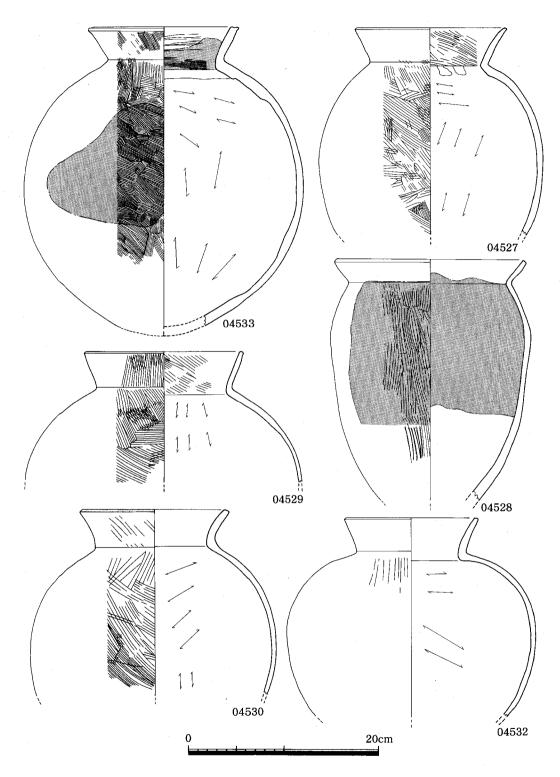
05104は、「く」の字状口縁を呈するが、口縁端部を内面につまみ出す。内面はヘラ削り、外面は横、縦の刷毛目を施す。05106は、口縁端部が大きく外反するタイプである。また器厚が厚く、底部は丸底を呈するものと思われる。

SC-52の土器 (第94図 Tab. 29 PL. 46 付図-3)

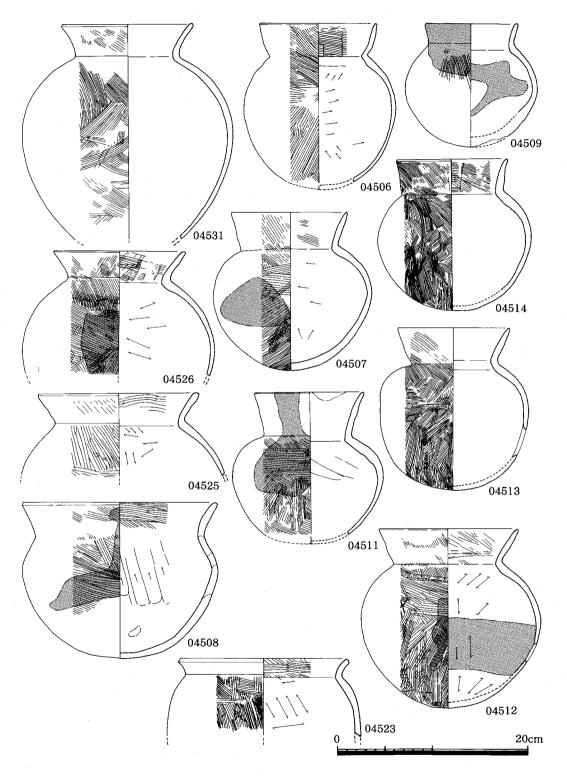
SC-52の切合い関係は、SC-51、53から切られ、SC-12を切る形で検出した。西南隅であることと、SC-51、53から大部分を破壊されている。

出土土器の内、図示できる遺物は、3点であった。05201は、壺形土器で、A地点の遺構から 出土した壺形土器で、一番古い時期に位置付けられる。05202は高坏であるが、これも壺形土器 と同様に一番古い時期に位置付けられ、後期初頭から中期に位置付けてよい。

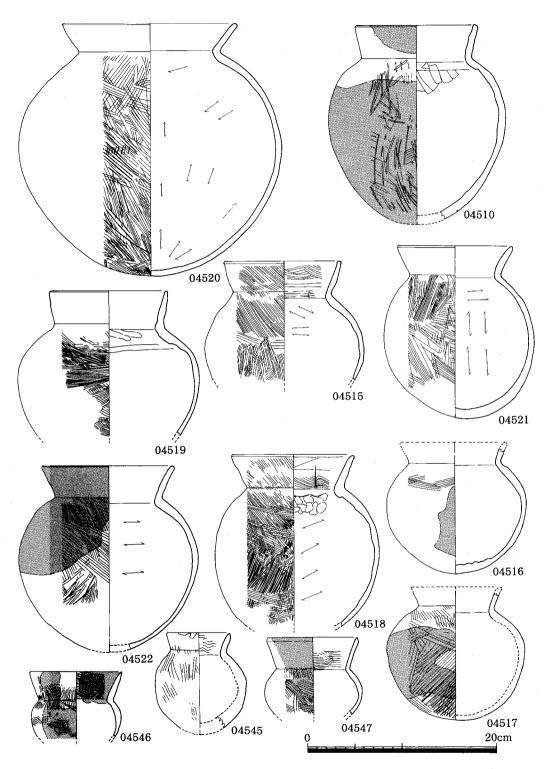
05203は、口径29.4cmの大形甕形土器である。形態的には、胴部は張らず垂直に立ち上り頸部で外反し口縁部は丸くおさめる。



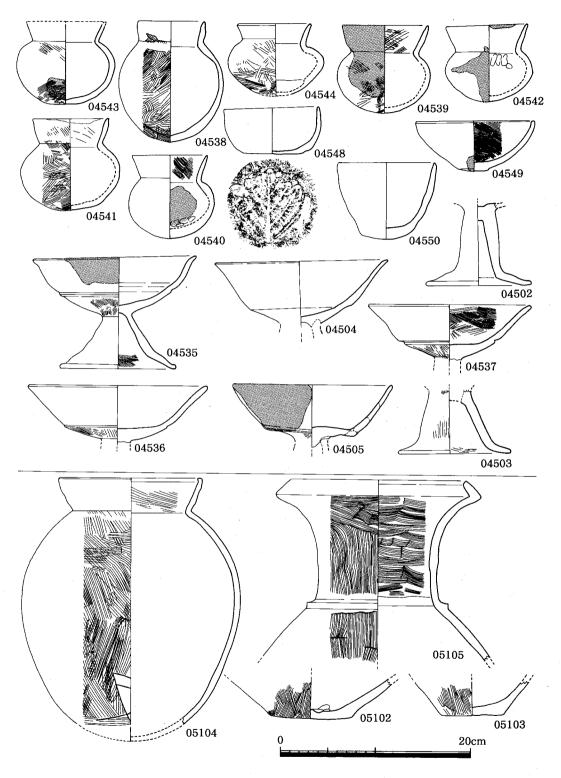
第 90図 出土土器実測図—30(縮尺1/4)



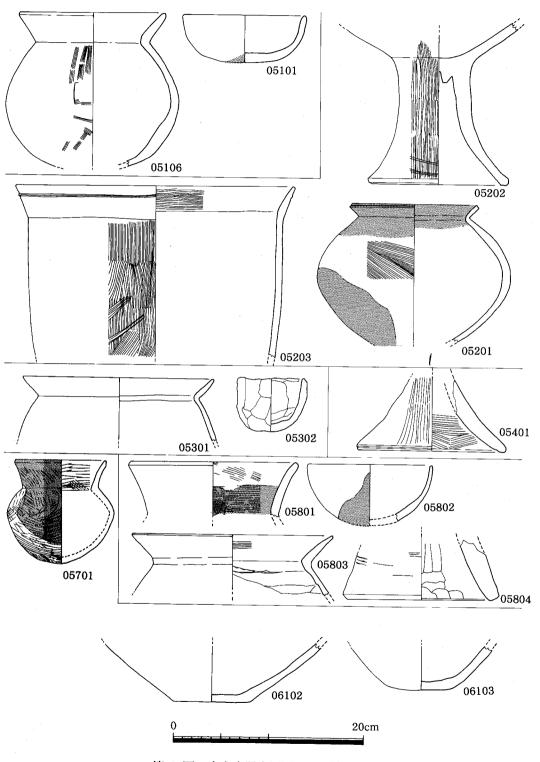
第 91図 出土土器実測図—31 (縮尺1/4)



第 92図 出土土器実測図-32 (縮尺1/4)



第 93図 出土土器実測図-33 (縮尺1/4)



第 94図 出土土器実測図―34 (縮尺1/4)

# SC-53の土器 (第94図 Tab. 29)

SC-53の切合い関係は SC-12、52を切るが、土壙状遺構に切られ、ほとんど破壊されている。したがって出土遺物も 2 点しか図化できなかった。05301は、「く」の字状口縁を呈する甕形土器である。表面は剝落しているため調整方法は不明であるが、内面はヘラ削りを施す布留併行期に属する土器である。05302は、手ずくね土器である。切合い関係出土遺物から布留併行期か、それより新しい時期と考えられる。

# SC-54の土器 (第94図 Tab. 29)

SC-54の切合い関係は、SC-02によって2/3ほど切られるが、SC-17、05、25を切る。出土 遺物は、05401の高坏脚部しか出土していない。高坏脚部は、外面に縦刷毛目、内面に横刷毛目 を施こし、肉厚な形態を持つ。弥生後期の遺物として考えてよい。

SC-55、56の土器の出土はないため、時期不明。

## SC-57の土器(第94図 Tab. 29 PL. 46)

西南部の SC—09の西側に検出されたが、約2/3は、段落ちのため崩壊している。出土した遺物は数点あるが、図化できるものは1点のみであった。05701は、小型丸底壺で、胴部中位で張り、頸部がしまり、外反しながら口縁端部へつづき、端部は丸くおさめる。

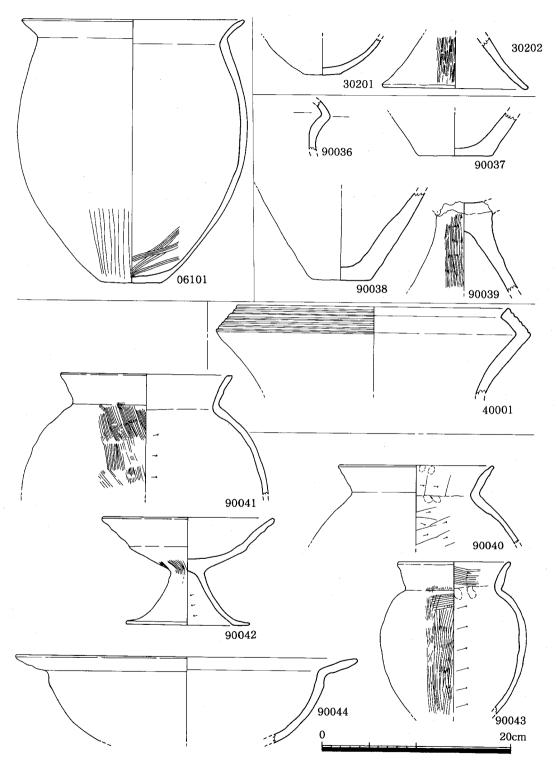
## SC-58の土器 (第94図 Tab. 29)

SC-58の切合い関係は、SC-32を切り、SC-33、土壙状遺構等によって切られている。出土遺物中、4点を図化した。05801は、口縁部がやや外反し、端部を丸くおさめているが、直口壺の口縁部と考えられる。05802は、鉢形土器で内外面をナデ仕上げを行なっている。05803は、「く」の字状口縁を呈する甕形土器である。内面はヘラ削りを行ない、外面刷毛目で仕上げている。器厚は薄く、口縁端部も鋭利に仕上げている。05804は、器台の脚部と考えられる外面はナデとタタキによって仕上げられ、内面はヘラ削りと指オサエを行なっている。時期的には、05803等から布留併行期に属すると考えられる。

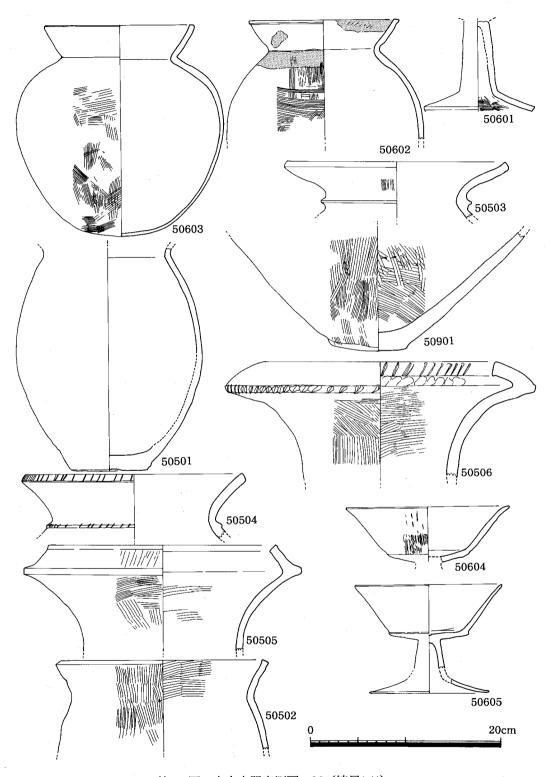
SC-59、60の出土遺物はなく、時期は不明。

# SC-61の土器 (第94、95図 Tab. 29 付図-3)

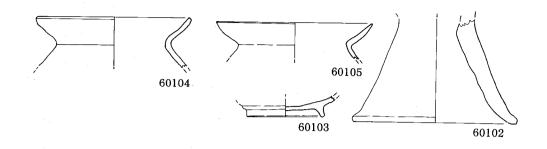
SC-61は、第1号墳をのせる台地の南側から1軒だけ検出された。SD-09によって中央部を横断されている。出土遺物は石器(70046、70068、70069)等が床面貼付で出土したが、土器は図示した以外にも多量に出土している。図化した3点の内06101は、断面「く」の字状を呈する甕形土器である。内面の上部は、表面剝落しているため明らかではないが、底部附近で刷毛目調整を行なっていることから、おそらく上部の調整も刷毛目であろう。外面も同様に底部附近で縦刷毛目が観察されるが、口縁部附近は、表面剝落している。これから口縁部附近も縦刷毛目と推定される。底部は平底である。口縁部は、外反しながら、端部附近でさらに外反し端部を

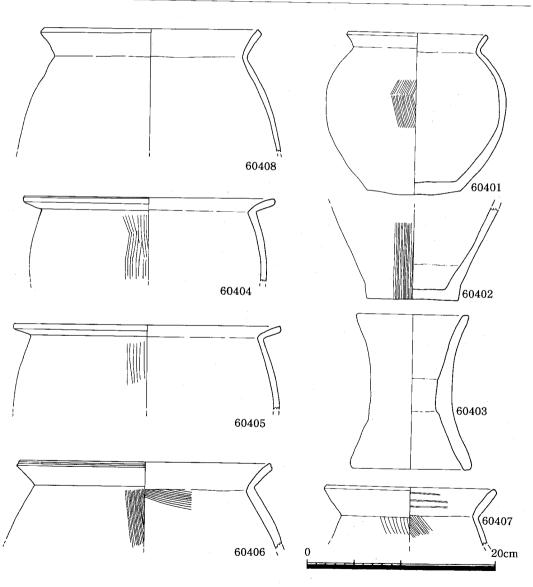


第 95図 出土土器実測図―35 (縮尺1/4) (40001は約1/6)

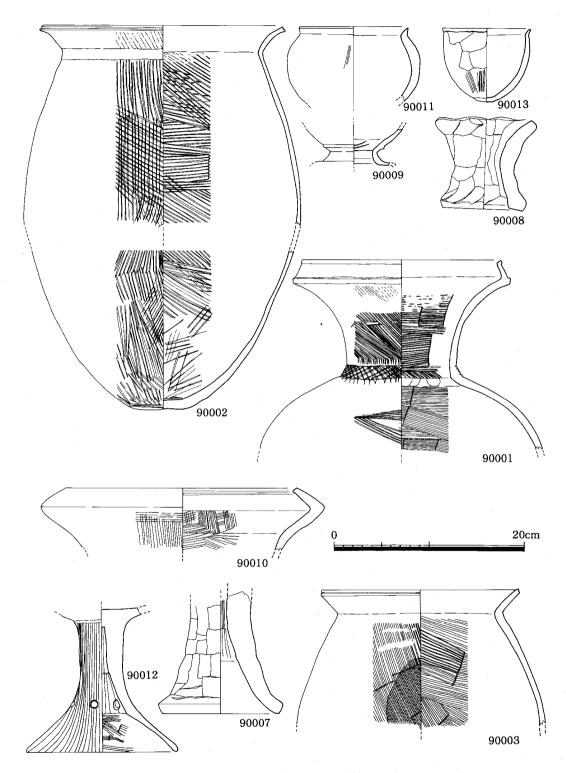


第 96図 出土土器実測図—36(縮尺1/4)

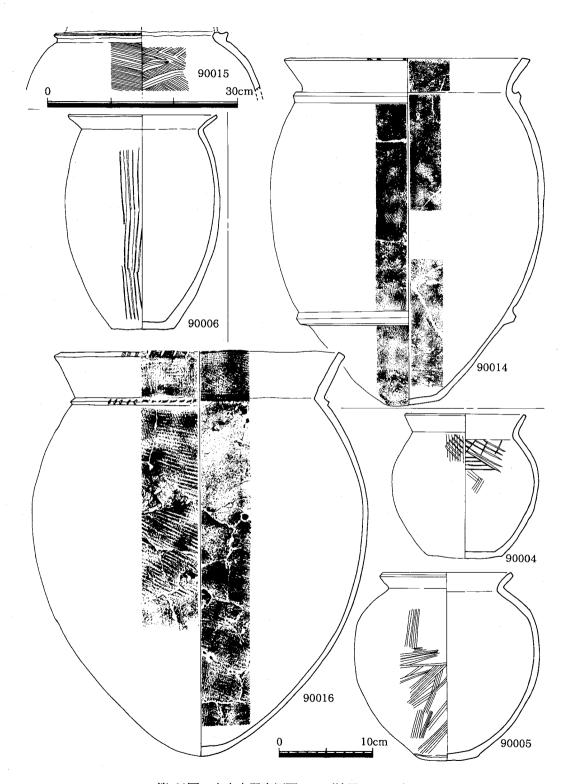




第 97図 出土土器実測図—37(縮尺1/4)



第 98図 出土土器実測図―38 (縮尺1/4)



第 99図 出土土器実測図—39 (縮尺1/4、1/6)

丸めている。06102は、壺形土器の底部である。平底を呈し、造りも丁寧で稜は鋭利である。06103は、甕形土器の底部である。06102とは異なり、底部が凸レンズ状に近い形態を示すが、終末期の底部までには達していない。時期的には弥生時代後期中頃に比定できる。

# SX-02出土の土器 (第95図 Tab. 29)

SX-02からは、2点図示した。30201は壺形土器の底部である。平底を呈し、内外面調整を施す。30202は、高坏の脚部であろう。内面ナデ調整、外面縦刷毛目を施す。時期的には弥生後期の範中に入る遺物である。

## SK-05出土の土器 (第95図 Tab. 32)

SK-05からは、4点図示した。90036は、袋状口縁壺の口縁部である。袋状になる部分が、角ばらずやや丸みを持つ。90037は、甕形土器の底部である。平底で稜も鋭利に仕上げられている。90038も甕形土器の底部である。肉厚であり、90037ほどシャープな造りではない。90039は、高坏の脚部である。外面は丁寧な縦刷毛目を施す。

# pit 出土の土器(第95、100図 Tab. 29 PL. 47、51)

40001は pit—1001から出土した土器であるが、礎板として置かれたものである。口径48cmと 大型の袋状口縁部で、端部に沈線を巡らす。四国の上野Ⅱ式に類似する。

## CE-06の土器 (第95図 Tab. 32 PL. 47)

SC-42と38の中間に一括で出土したものである。遺構内からではなく、一括で破棄された状態と考えられる。90040、90041、90043は、甕形土器である。口縁部の形態がわずかづつ異なるが、内面へラ削り、外面刷毛目を施すことは同じである。90042は、高坏である。脚部が開き、受部もなだらかな曲線を描く。90044は、鉢形土器か高坏の受部と考えられる内外面ともナデで仕上げている。

### B 地点出土の土器

#### 住居址出土の土器

### SC-06出土の土器 (第96図 Tab. 29 PL. 47)

SC-06の切合関係は、SC-07の中央部を切る。 5 点図示した。50601、50604、50605は、高 坏である。50601は、脚部で、受部から直線的におりるが、裾部附近で急激に広がる。

50604は受部である。 脚部からやや外反ぎみに横に伸び、 ややゆるやかに口縁部まで立ち上る。口縁端部は、さらに外反し、丸くおさめる。50605の受部は、50604より急角度で立ち上りそこに稜を有する。口縁部は、やや外反しながら直線的に伸び、口縁端部を丸くおさめている。 脚部は、50601と同様に裾部附近で大きく開くが、稜はもたずなだらかに広がる。

50602、50603は、甕形土器である。口縁部から頸部にかけては肉厚であるが、胴部から底部

にかけては薄く仕上がる。口縁部は「く」の字状口縁で、頸部から内弯しながら端部を内側におさめる。これらの土器から SC-06は、布留併行期に属すると考えられる。

SC-05の土器 (第96図 Tab. 29 PL. 47、48)

SC-05からは、甕形土器、50501、50502が出土した。50501は、口縁部を欠損しているが底部が平底を呈する。50502は、口縁部である。胴部も張らす、口縁もわずかに外反する。

50503~50506は、壺形土器の口縁部である。これから弥生後期後半に位置付けられる。

SC-09 の土器 (第96図 Tab. 29 PL. 48)

SC-09で図示したのは1点である。50901は、大型甕形土器の底部で、凸レンズ状に近い形態を示す。他の遺物と総合して弥生後期後半の時期と考えられる。

#### その他の遺構の出土土器

SD-01出土の土器 (第97図 Tab. 29、30)

4点図示した。60104、60105は、甕形土器の口縁部である。頸部から口縁部にかけてやや内弯しながら外反し、端部をつまみ上げている。60102は、器台の脚部である。内外面ともナデ仕上げを行なっている。60103は、SC-01が SD-04に切られた部分から出土したもので、遺構時には SD-04の遺物である。高台付の塊である。

SD-04の出土土器 (第97図 Tab. 30 PL. 48 付図-3)

SD—04は、SC—01、05、06、水田を切り、SD—01と接続する様な形で西から東に延びるが、SC—05、06を通り過ぎたあたりで切れている。出土遺物は、弥生時代後期のもので、図示できなかったが、須恵器の蓋が出土している。60402、60404~60408は「く」の字状口縁を呈する甕形土器片である。60401は壺形土器、60403は器台。一番新しい遺物からみて平安以降である。

SX-01出土の土器 (第98、99図 Tab. 32 PL. 49、50 付図-3)

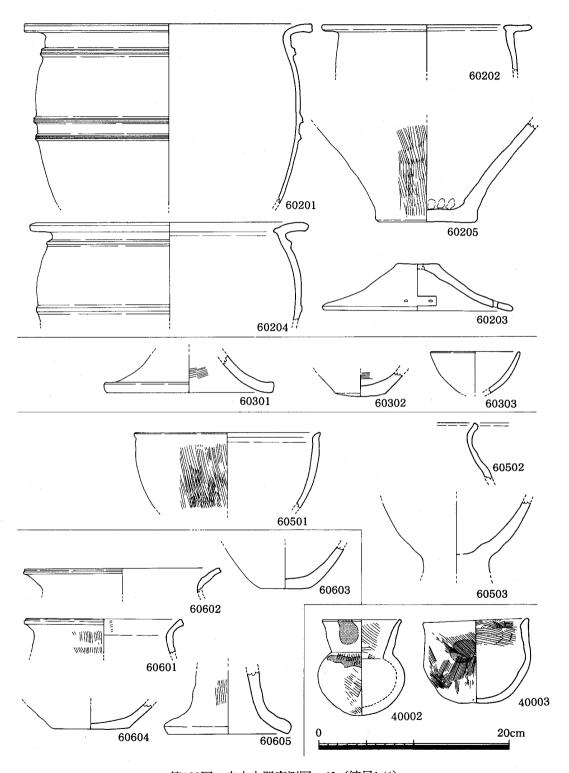
SX—01から出土した土器は、甕形土器(90002、90003、90006)袋状口縁壺(90001、90010) 壺形土器(90004、90005、90011、90013) 高坏(90012) 器台(90007、90008)がある。すべて 弥生後期の遺物であるが、90009の筒形器台が 1 点出土している。図化していない遺物はすべて 弥生後期の土器であり、90009がまざりこんだかもしれない。包含層の土器を 1 点収録した。これは遺構上面から出土したため、一応包含層として取り上げたが、SX—01内の遺物かもしれない。この他一括で取り上げた P—20がある。(62053)

SK—**01**(第99図 Tab. 32 PL. 50)

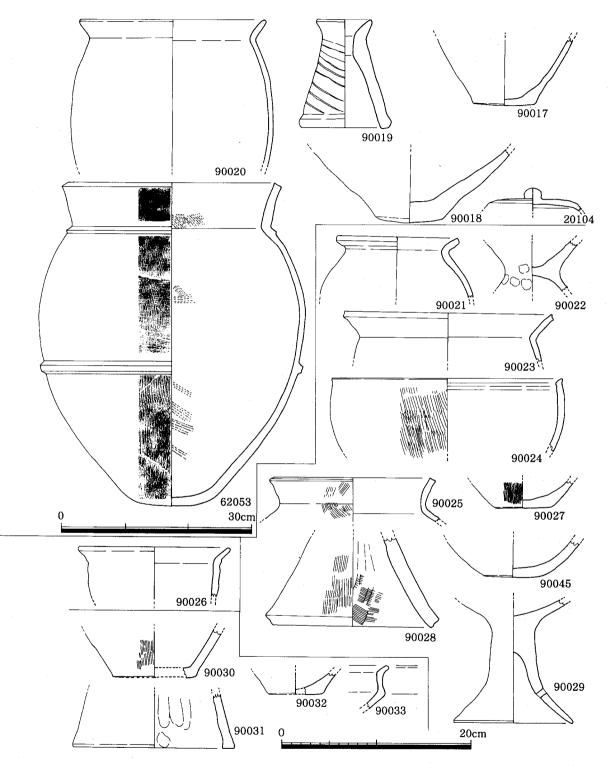
90014は、下甕で胴部下位と頸部に「コ」の字状突帯を巡らす。内外面とも刷毛目調整を施す。 90015は、上甕として使用した壺形土器である。頸部に「コ」の字状の突帯を巡らせる。

SD-02出土の土器 (第100図 Tab. 30 PL. 50、51 付図-3)

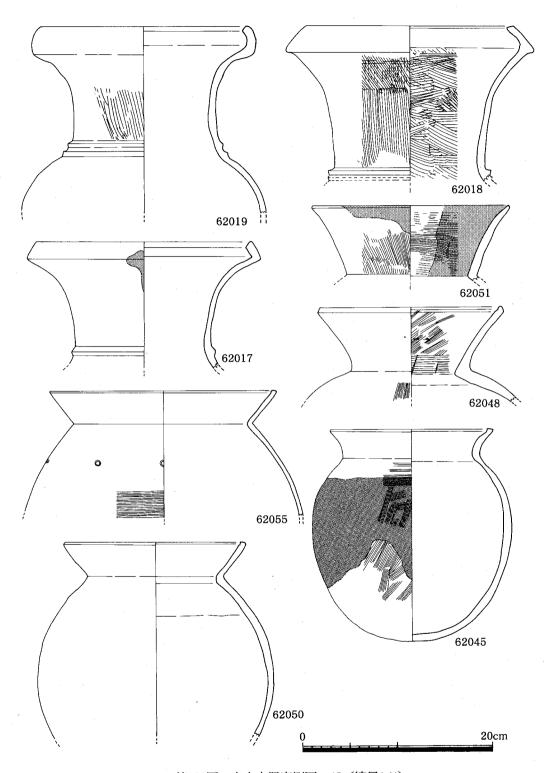
SD-02からは5点図示したが、他の遺物も同時期を示すもので、代表的な遺物を図示した。



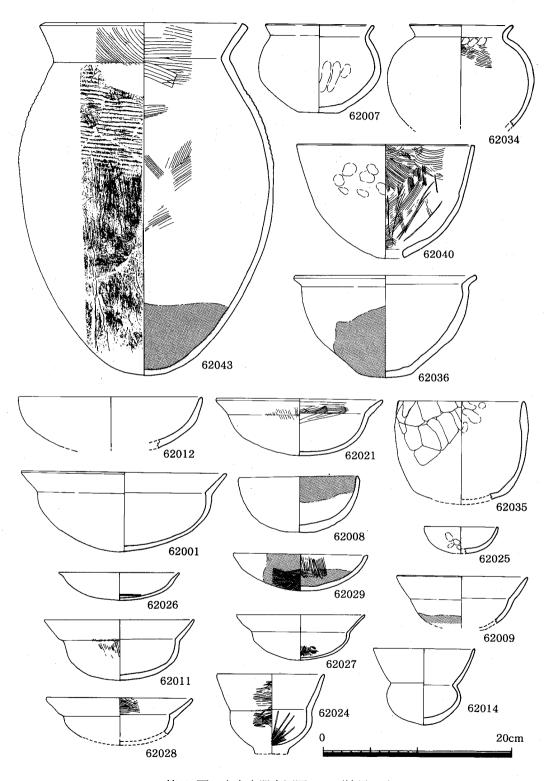
第100図 出土土器実測図―40(縮尺1/4)



第101図 出土土器実測図—41 (縮尺1/4、1/6)



第102図 出土土器実測図—42(縮尺1/4)



第103図 出土土器実測図—43(縮尺1/4)

甕形土器 (60201、60202、60204、60205) の内60202は、口縁部が「T」の字状口縁を呈するのに対し、60204はわずかにその名残りはみせるものの口縁端部が下りぎみとなる。60201は口縁部が「L」字形に近づき、三つの「コ」の字状突帯を巡らせる。60203は壺の蓋である。60205を除くすべてに丹塗りを施す。

SD-03、05、06出土の土器 (第100図 Tab. 30)

SD-03から3点図示した。60301は高坏、60302は甕形土器の底部で、凸レンズ状を呈する。60303は鉢形土器である。出土遺物から弥生後期後半に属すると考えられる。

SD-05は、SK-01の段落ち部分に作られた溝で、出土遺物は、60501が鉢形土器、60502は甕形土器、60503は高坏である。遺物等から弥生後期に属する。

SD-06は、SD-02に流れ込む溝であるが SX-01を切る。出土遺物から 4 点図示した。 60601、60602は甕形土器、60604は壺形土器の底部で平底を呈する。60605は高坏の脚部である。 SX-01を切ることから SD-06は、時期的に新しいと考えられ、出土遺物は SX-01の可能性がある。

SE-04出土の土器 (第101図 Tab. 32 PL. 52 付図-3)

非常に浅いが、湧水はある。出土遺物は、弥生後期の土器と奈良~平安にかけての須恵器が出土している。須恵器は、水田址に伴うSD—06の遺物と考えられる。

SX-02、05出土の土器(第101図 Tab. 32)

SX-02は、SX-01、SD-06、08、SE-01に切られる。ただ出土遺物には、混入はない。 甕形土器は、90023、90025、90026の3点を図示した。口縁部は「く」の字状口縁を呈するが、 それぞれ少しづつ異なる。90024は、鉢形土器、90022は、台付壺か高坏である。90027、90028 は、底部であるが、底部形態から平底を呈する。

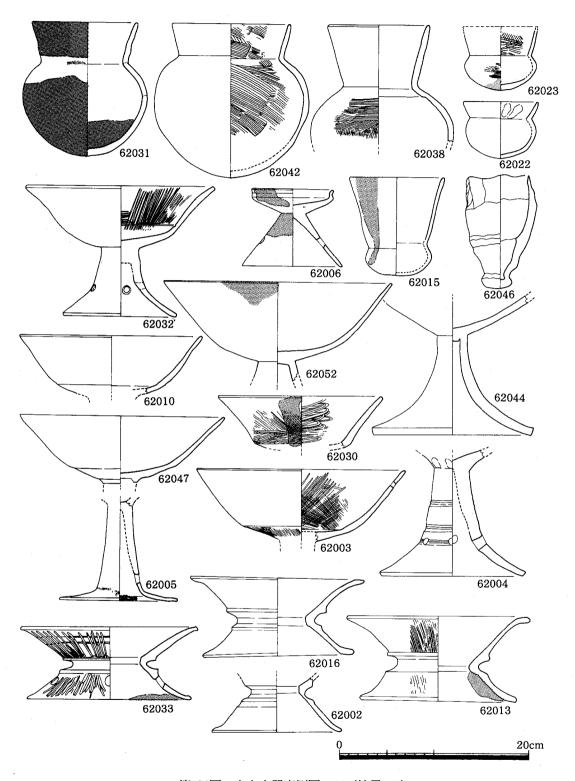
SX-05は、少量の遺物しか出土していない。図示した4点で、弥生後期に属する。

SD—20、21(第102~106図 Tab. 30~32 PL. 52~58 付図—3)

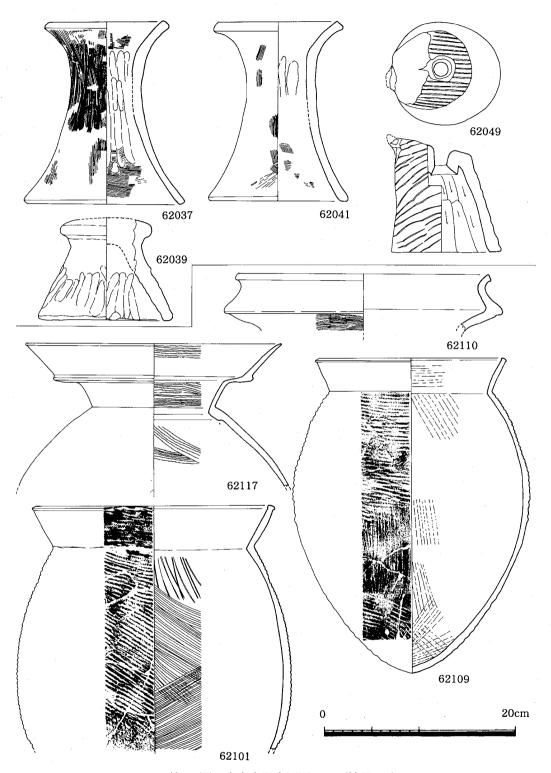
SD-20、21は、南側水田址の下層から検出された遺構(?)(よどみ状を呈し、出入口の確認ができなかった)から出土した。SD-20、21は、同一のものであり、出土遺物も弥生時代後期前半から布留併行期に属する遺物が出土している。

#### 弥生時代後期の土器

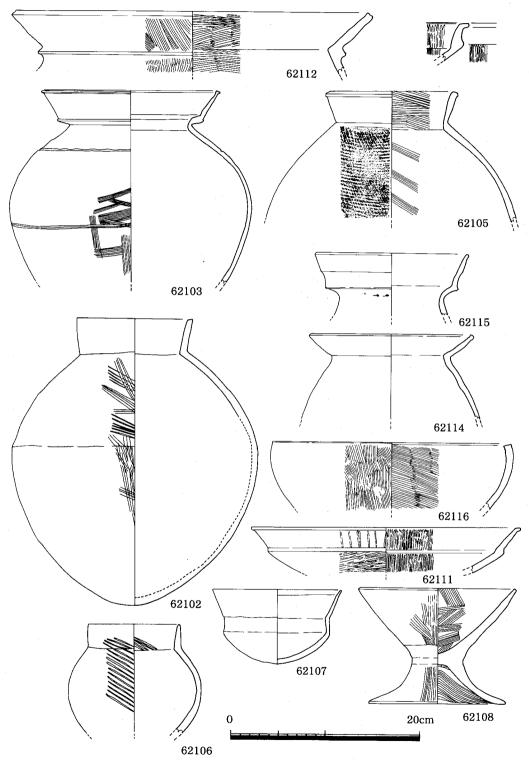
壺形土器 62017~62019は袋状口縁壺である。62019は、口縁部が袋状をなすが、口縁端が中に 折り曲る手前で終了し、頸部のしまりがないことから後期初頭まで下るものと考えられる。 62017、62018は、逆「く」の字状を呈する口縁部で頸部に三角突帯を巡らす。この他に62004、 62034の短頸壺がある。62007は、底部が平底を呈し、口縁の造りもしっかり造られている。SD —21からは、62102、62105、62106、62110、62112、62115の壺形土器がある。62110、62113は、



第104図 出土土器実測図―44(縮尺1/4)



第105図 出土土器実測図―45(縮尺1/4)



第106図 出土土器実測図—46(縮尺1/4)

口縁部が「S」字状を呈するもの、62112は、「く」の字状口縁を呈し、頸部に小さな「コ」の字状突帯を巡らす。62102、62105は、中型の直口壺で、62106は小型の直口壺である。62105の内面は、ナデと刷毛目で、外面は、横方向のタタキを施す。62102は、内外面刷毛目を施し、底部は丸底で卵形を呈する胴部である。

**甕形土器** 甕形土器には、62043と SD—21から62101、62109がある。62043は、「く」の字状口縁を呈し、底部は丸底である。卵形の形状を呈し、内面刷毛目、外面胴部上位が横タタキ、中位から底部にかけては、刷毛目とナデ仕上げを行なっている。62101、62109も同形態を示すが、62109は、ラグビーボール状の底部を呈する。

**鉢形土器** 鉢形土器は SD-20から62040、62036が、SD-21から62116が出土している。62040は、底部に焼成前に穿孔し甑として使用している。

**高坏**は、SD—20から、62004、62032、62044、62052が、SD—21から、62108、62111、62113が出土している。このほか器台、支脚等が出土している。

# 古墳時代前期の土器

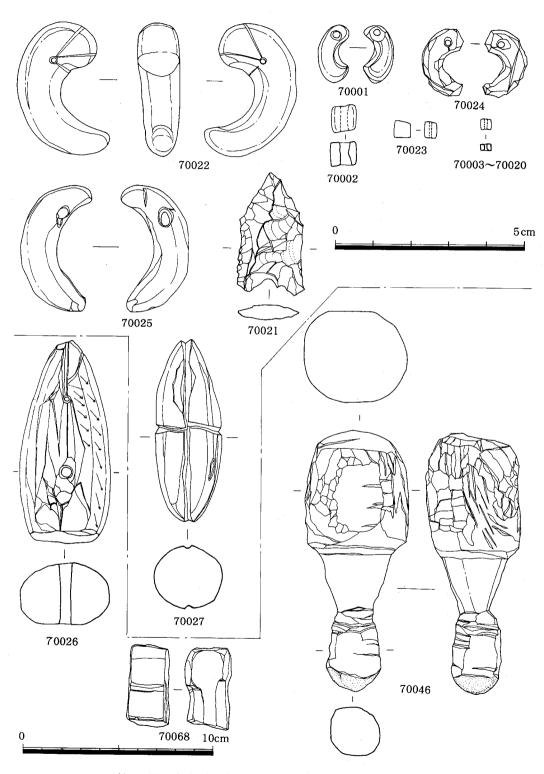
**甕形土器** SD—20からは、62045、62048、62051、62055、62058が、SD—21からは62114がある。**甕**形土器の内、62055は、器厚が薄く、「く」の字状口縁を呈し、端部で内傾につまみ出す。 胴部上位に竹筒文を配する。

**壺形土器** SD—20からは、62014、62022、62023、62024、62031、62042が、SD—21からは 62103、62107、62117が出土している。62103、62117は、二重口縁壺で、吉備、山陰地方にみられる系統である。62103より62117の壺が1段階古い様相を持つ。

**鉢形土器** SD—20から出土した鉢は、62001、62008、62009、62011、62012、62021、62025、62026、62027、62028、62029、62035がある。SD—21からは鉢の出土はない。

高坏 高坏は、SD-20から、62003、62005、62030、62047である。SD-21は出土していない。 器台 SD-20から62002、62006、62013、62016、62033がある。62006は受部付で、口縁の形 態脚部の造り方から弥生時代後期後半から庄内併行期に属するもので、形態から弥生後期後半 の可能性が高い。62002、62013、62016、62033は山陰系の筒形器台である。

62033には4つの穿孔があり、他はない。内外面ともヘラミガキを施す。



第107図 出土石器実測図―1 (縮尺1/1、1/2、70023は2倍)

# 石 器

A・B 両地点から出土した石器は、土器の量ほど多量ではない。 遺構に伴なったものを図示したが、そのほか縄文時代の石鏃、横匙、削器が出土しているためこれも図示した。

**勾玉・土製勾玉・ガラス玉類** (第107~110図 Tab. 33 PL. 14、59)

**勾玉**は、3点出土した。70022は、SC―17から出土したもので硬玉製の全長3.6cmで穿孔部分から放射状に凹線を三条巡らせる。研磨は普通である。

70001は、B 地点から検出した小児甕棺墓(SK—01)の副葬品である。70002~70020のねり 玉、ガラス玉を出土した。長さ1.5cmと小型で、石材はメノウである。穿孔部分は、大きく70022 の約3倍はある。

70024は、SC-39から出土した滑石製未製品の勾玉である。まだ加工途中で、研磨には至っていない。長さは、1.8cmで、70001より大きい。穿孔部分も加工を施こしており、これもかなり大きい。70022、70024は、布留式併行期に属する住居址から出土した。

70023は、SC-17から勾玉と-緒に出土したガラス玉である。長さ0.4cm、幅0.3cmのスカイブルーを呈する。70002から70020は、SK-01から出土したガラス玉で70003のみを図示した。色調は、スカイブルーとライトブルーとに別けられる。そのほとんどが、長さ0.4cm程度、幅0.3  $\sim 0.4$ cm程度である。70021は SK-01より出土したねり玉で、長さ0.7cm、幅0.6cmを測る。

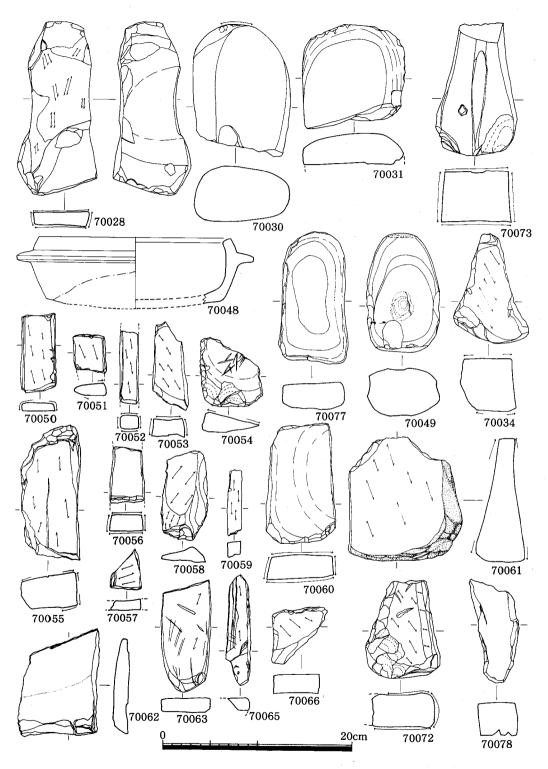
70025は、SC-07から出土した土製の勾玉である。全長3.4cmで、穿孔は主に右側から行なっている。

石鏃 第1号墳の墳丘から出土した。肩に張りを持つ三角鏃で加工が雑である。

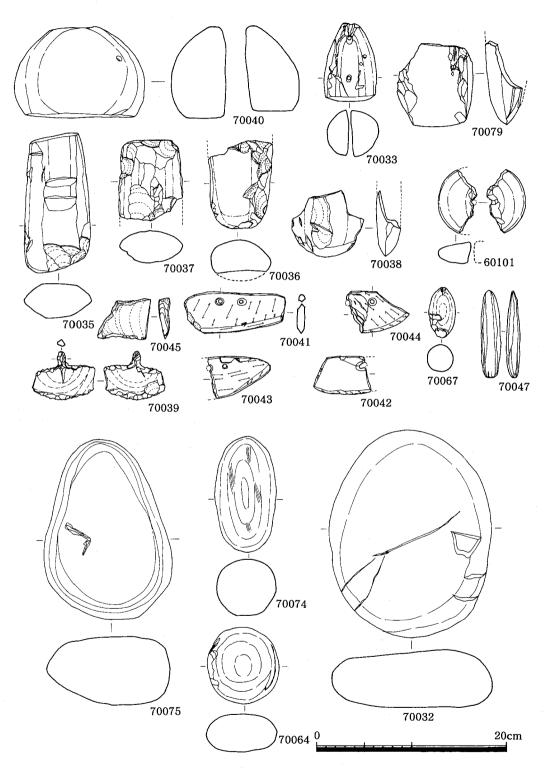
**石錘** 石錘は4点出土した。70026が SC─07から、70027が SC─02から出土し、70033が B 地点の SX─01より、70040が同じく B 地点の SD─20から出土している。形態的には、II a 類に属するのが70026、II c 類が70033、70040が I a 類、70027がIII b 類に属する石錘である(形態分類は「今宿五郎江遺跡 II 」1991、福岡市教委)。

磨製石斧・石庖丁 (第109図 Tab. 33 PL. 59、60)

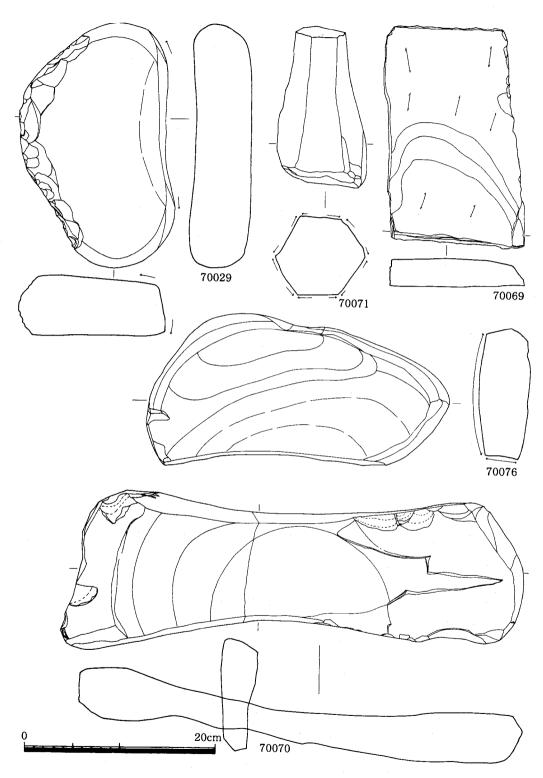
磨製石斧は、5点出土した。 $70035\sim70038$ は、玄武岩製の磨製石斧である。70035は、B 地点 SD—01からの出土で、638 g の重量がある。70036は B 地点 SD—03からの出土で基部を破損している。70037は、1 号墳墳丘からの出土で、刃部を破損している。70038は、B 地点 SD—21からの出土で、基部を破損している。70079は、SC—61からの出土で、この石斧だけが石材を異にする。石材は、凝灰岩で、基部を破損している。遺構を見るとそのほとんどが、弥生時代後期後半に属するもの(1 号墳出土は除く)である。



第108図 出土石器実測図―2(縮尺1/4)



第109図 出土石器実測図一3(縮尺1/4)



第110図 出土石器実測図―4 (縮尺1/4)

石庖丁は、4点出土した。70041は、両端が尖がらない形状を呈する。B 地点 SD—20から出土した。70042は、穿孔部分から割れているが、これも両端が尖がらない。70043、44は、両端が尖がる形状を呈するが、やはり半割している。70043は、B 地点 SX—01から出土。70044は、B 地点 SC—06から出土した。

# 横匙と削器 (第108、109図 Tab. 33 PL. 60)

横匙70031は、B 地点の包含層より出土した。つまみ部分がドリル状を呈し、両方の役割を持つものかもしれない。70045は下端縁部に主要剝離面側から剝離を加え削器としている。SC—37からの出土である。両方とも石材としてサヌカイトを使用している。

# 技弾と土製紡錘車 (第109図 Tab. 29、33 PL. 60)

土製品である。60101は B 地点の SD—01から出土した。投弾 (70060) は、SC—38からの出土。 石鍋 (70048) (第108図 Tab. 33 PL. 59)

A 地点 SC-27を切る井戸状遺構(SE-02)より出土した。滑石製で口径21cmを測る。時期は、鎌倉時代〜室町時代にかけての時期と考えられる。

# **異形石器** (70046、70068) (第107図 Tab. 33 PL. 14、59)

SC-61から出土した2点の石器は、砂岩製である。70068は、砥石とも考えられるが、中央部に段を有し、面取りしている部分は、全面に及ぶ。70046は、砧状を呈し、打烈面は平担である。下端は握り手部分と考えられ、細く握りやすい状態に仕上げている。上下両端は丸く仕上げている。

# 砥石·磨石 (第108~110図 Tab. 33 PL. 59、60)

砥石が多量に出土した。石材も砂岩・粘板岩・花崗岩の3種類ある。また形状も大形・中 形・小形とに区別できる。

砂岩の砥石は、荒砥ぎ用として使用されたもので、70029、70050、70051、70054、70056、70057、70060~70062、70066、70068~70073、70076、70077の18点出土した。特に70070の大型 砥石の使用頻度は高い。また70071のように6面体全体にわたって使用しているものもある。

粘板岩の砥石は、仕上げ用としての用途もあるので、70028、70052、70053、70055、70058、70059、70063、70065の8点がある。大型のものはなく10cm前後がほとんどである。

磨石・凹石は、70030、70031、70032、70034、70064、70074、70075の7点が磨石で、70049が凹石で上端部に打烈痕が認められ、下端部は研磨されている。石材は、花崗岩・玄武岩である。

70078は柱状石斧の未製品か仕上げ用の砥石と考えられるもので石材は、頁岩である。

## 野方久保遺跡出土の金属器について

大 庭 康 時

銅製品 (111図 Tab. 34 PL. 15)

銅鏃 第111図の80001、5~13は、有茎式の銅鏃である。80001、6、7、10、11、13は同一形式で、丸みを持った二等辺三角形の身部から、小さく返りを造って茎部につづく。80012には、明瞭な返しや区は見られず、身部下端は、緩い弧を描いてくびれて茎部となる。いずれも身部の中央には鎬が通り、菱形の断面を呈する。80012では、身部鎬の両側の面は、浅く凹んでいる。また、孤を描いて変形した80010では、身部中央の鎬は見られず、断面もレンズ状となる。鎬は茎に至ると鈍くなり、幅の狭い面状となる。茎の断面は、角を落した菱形を呈する。茎尻まで遺存するものは80012のみであるが、80006、11~13の茎下端をみると、茎尻は丸く面取りされていたことが知られる。なお、80001、11、12などでは、表裏の鋳型のづれによって、茎部の断面形はひずんでいる。また、80006、7、10、13では、鋳造時の銅の湯がかりが悪く、身部・茎部に欠けが見られる。80006、11、12には、身部に斜め方向の研磨痕がみられ、80001、6、10~13では、刃部が鋭く尖がっているのに対し、80007は身部の鎬が鈍く、刃も丸みを持っており、研磨以前の未製品と考えられるが、腐食が著しく、原形を知りえない。

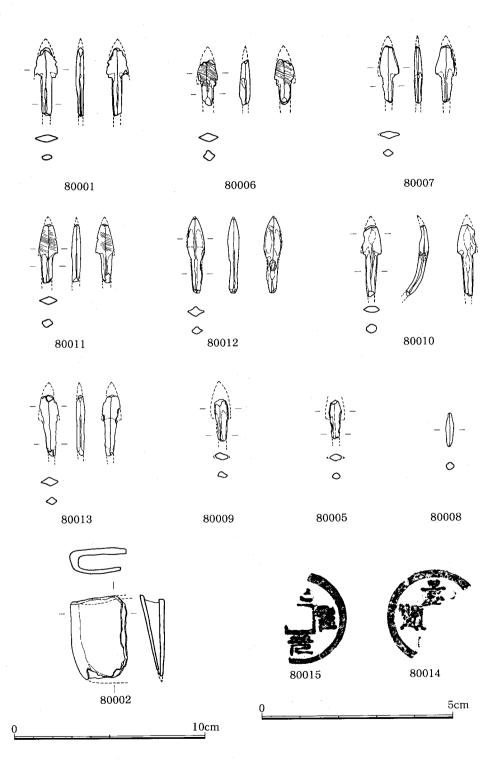
80001は、遺存長3.6cm、身幅1.2cmで SC—33出土である。80006、7、5 は、SC—38からの出土である。それぞれ遺存長2.4cm、3.0cm、2.05cm、身幅1.05cm、1.05cm、遺存幅0.65cmを測る。80011、12、10、9、8 は、SC—39出土である。それぞれ遺存長3.1cm、4.0cm、3.75cm(4.1cm)、2.2cm、1.7cmで、身幅0.95cm、0.95cm、1.0cm、遺存幅0.7cm、0.45cmを測る。80013は SC—41出土で、遺存長3.2cm、身幅1.0cmである。

銅製鋤先 80002は SC-35出土の銅製鋤先である。身部および刃先の大部分を欠失する。遺存状態は、比較的良好である。袋部の隅は丸みを持ち、U字形を呈する。幅は4.45cmを測り、刃先を推定復元すると4.65cmほどになろう。遺存長は3.0cmで、厚さは1.4cmである。

**銅銭** 80014、15は SD─02からの出土である。80015は「天聖通寳」(初鋳1023年)、80014は「景□□寳」である。

鉄製品(112図 Tab. 34 PL. 16)

鉄鏃 80004、41、65~69、70は、鉄鏃である。80026は、凹基式の三角鏃である。断面は、薄いレンズ状を呈する。長さ3.4cm、幅3.5cmを測る。SC—29出土。80004は、柳葉形の有茎鏃である。茎部は、欠失したものと考えられるが、保存処理を済ませた現況観察では、その折損部分を確認することは出来なかった。身部の断面は、薄い板状を呈する。遺存長(身部長)5.4cm、身幅1.4cmを測る。SC—38出土。80070は、頭部の2辺に刃を付けた有茎鏃である。身部の両側



第111図 出土金属器実測図-1(縮尺1/2、1/4)

縁は、内側に緩く孤を描いて幅をせばめ、小さく区を造って茎部につづく。茎尻は、折損する。 銹膨れが酷く、正確な断面形は分からない。現存長4.2cm、刃部長1.0cm、刃部幅1.4cmを測る。 SC-61からの出土である。

80065~69、41は、1号墳出土である。1号墳からは、このほか頸部・茎部の破片が出土しているが、完形に接合しうるものはなかった。図示したものを含めて身部の破片が5点、頸部から茎部にかけての区部の破片が12点と茎尻の破片が1点あり、少なくとも12本の鉄鏃が副葬されていたものと知られる。破片から見るかぎりでは、すべて長頸鏃と考えられる。刃は、頭部の2辺と、身部の両側縁に付けられ、小さな区をもって頸部となる。身部の断面は、レンズ状を呈する。断面長方形の頸部は、長く伸びて両側に張出した区を造って茎部につづく。茎部は、断面円形若しくは、いびつな長方形で細長く伸びる。茎部には矢柄の木質が残っており、比較的様子の良く分かる2点を図示した。80069は、矢柄の上に樹皮を巻きさらにその上を糸で締める。矢柄の直径は1.7cmを測る。90041でも矢柄の上に樹皮を巻いている。矢柄の断面は楕円形で径0.5cm~0.9cmである。

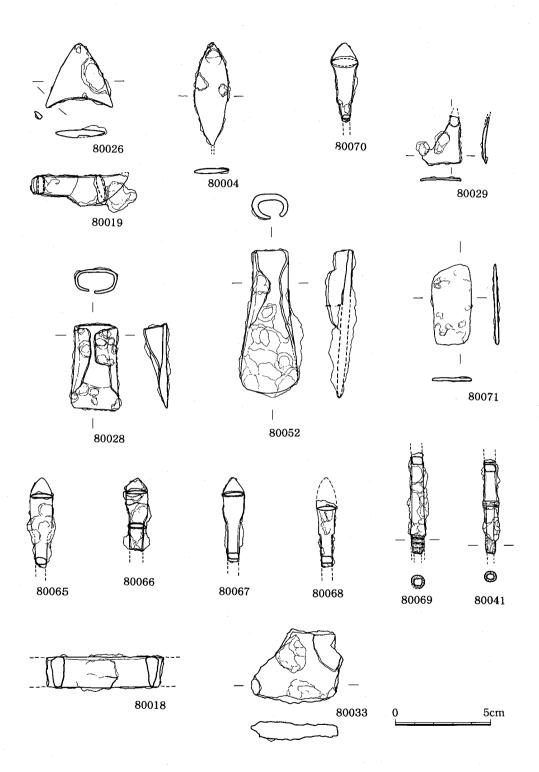
**刀子** 80018、19は、刀子である。80019は、SC—61からの出土で、銹膨れが酷くその外形すら知りがたいが、一応図示した形になろうと推定した。全長5.0cm、身部長2.45cm、区幅1.7cmを測る。

80018は1号墳からの出土で、刀子若しくは、小刀の刃部破片である。遺存長6.05cm、身幅1.6 cmである。銹膨れが酷く、正確な断面形を観察できない。一見したところでは、刃部側にも厚みがあり、茎部分の破片の可能性もある。

鉄斧 80028、52は、袋状鉄斧である。80028は、SC-45からの出土で、銹のつき方が少なく、遺存状態は比較的良好である。袋部は、両側縁を大きく曲げて造るが、両側は接していない。 刃部は、袋側を斜めにおとした片刃である。全長4.55cm、刃部幅2.55cm、袋部幅2.25cmを測る。 80052は SX-01 (Pit410) から出土した。銹膨れが著しく、刃部の形状の一部は推定による。 袋部は身部からの立上りが残っているものの、合わせ部分は殆ど欠損している。若干の推測を含めて、全長7.55cm、刃部幅2.75cm、袋部幅1.8cmを測る。

板状鉄製品 80029は、SC—45から出土した三角形の鉄片である。厚さ  $1 \sim 2 \, \text{mm}$  ほどの薄いもので、緩く反っている。80071は、SC—61から出土した。外形としては、小礼形をとるが、小札に不可欠の孔は、全く穿たれておらず、用途不明と言わざるを得ない。長さ $4.3 \, \text{cm}$ 、幅 $2.05 \, \text{cm}$ 、厚さ $0.7 \sim 1.0 \, \text{cm}$ を測る。銹による変形がみられる。用途不明だが、形状を見るかぎりひとつの鉄製品とは考えがたく鉄素材の可能性を考えたい。

このほか、銹により原形を知りがたいもの、鉄素材の可能性が想定できる板状鉄製品など多数出土している。図示に耐えないものが殆どでありその内訳を Tab. 29に示す。



第112図 出土金属器実測図―2(縮尺1/2)

### 野方中原遺跡出土の土器に付着した赤色顔料について

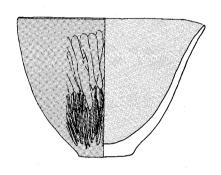
福岡市埋蔵文化財センター 本 田 光 子 宮内庁正倉院事務所 成 瀬 正 和

A 溝出土および 7、71号住居跡出土の土器片のそれぞれ内面に付着している赤色顔料について、その種類と状態を明らかにするために顕微鏡観察と X 線分析を行った。赤色顔料の分析結果とそれにより推定される赤色顔料の種類を表に示した。

試料 赤色は土器の内面に薄く残っているのだが、赤色顔料の粒子が単に付着していたり、 塗られているという状態ではなく、何等かの方法で磨り込まれたように密着して見える。土器 外面には煤が付着している。 X 線分析では土器片をそのままで測定した。 検鏡用には針先に付 く程度を採取し、プレパラートを作成した。

#### 顕微鏡観察

実体顕微鏡で土器片のまま観察した所、表面には赤色顔料の顕著な粒子がまったく認められなかった。プレパラートを透過光・反射光40~400倍で検鏡した所、わずかに顕著な朱粒子を認めたが、全体に赤色顔料粒子は非常に細かく、はっきりとは判断できなかった。



#### 蛍光 X 線分析

赤色顔料の主成分元素を検出する目的で蛍光 第113図 仙薬製造に使用されたと考えら X線分析を行った。理学電機工業(株)製蛍光 X れる片口鉢形土器(縮尺1/8) 線分析装置を用い、X線管球;クロム対陰極、印加電圧;40kV、印加電流20mA、分光結晶;フッ

化リチウム、検出器;シンチレーション計数管、ゴニオメーター走査範囲( $2\theta$ ); $10\sim65^\circ$ の条件で行った。その他の諸条件は適宜設定し、土器片の内外面を測定した。結果を表に示したが、赤色顔料の主成分元素である水銀および鉄のみを表中に記した。赤色顔料の主成分元素としては全試料について水銀と鉄が検出された。ストロンチウム、ルビジウムなどの元素が検出されるが、それらはみな主として土器胎土部分に由来するものなので、省略した。但し鉄については土砂部分にも必ず含まれるので、赤色顔料由来のものとの区別は困難である。

全試料とも内面の赤色部分からは水銀と鉄が、外面からは鉄が検出された。水銀は赤色部分に由来するものと考えられるが、鉄については赤色顔料と土器胎土のどちらに由来するものか 判断できない。

#### X線回折

赤色の由来となる鉱物成分の検出を目的として No.1 について X 線回折の測定を行った。 理学電機(株)製文化財測定用 X 線回折装置を用い、X 線管球;クロム対陰極、フィルター;バナジウム、印加電圧;25kV、印加電流;10mA、検出器;シンチレーション計数管、発散および受光側スリット;0.34°、照射野制限マスク(通路幅);4 mm、ゴニオメーター走査範囲(2 $\theta$ );30~170°の条件で行った。その他の諸条件は適宜設定した。結果を表に示したが赤色顔料の主成分鉱物である辰砂(Cinnabar)のみを表中に記した。この他、石英、長石などが確認されたが、それは主として土器胎土に由来するものなので省略した。

赤色の由来となる主成分鉱物としては、辰砂が同定され、赤鉄鉱は認められなかった。

No.	試 料	顕微鏡観察	蛍光 X 線分析	X 線回析	赤色顔料の種類
1	A溝出土片口鉢形土器	朱	水銀・鉄	辰砂	朱
2	7号住居跡出土土器片	朱	水銀・鉄	•••	朱
3	71号住居跡出土土器片	朱	水銀・鉄	•••	朱
4	71号住居跡出土土器片	朱	水銀・鉄	•••	朱

Tab. 17 赤色顔料の分折結果

#### まとめ

以上の結果から推定される赤色顔料の種類を Tab. 17に記した。 古代の赤色顔料としては朱(硫化第2水銀)、ベンガラ(酸化第2鉄)、鉛丹(四三酸化鉛)が考えられる。今回の試料は赤色の由来となる主成分元素は水銀で、主成分鉱物として No.1 に辰砂が同定されている。 No.1 とそれ以外の試料の赤色の状態はほぼ同じで、検鏡結果でも全試料に朱が認められているので、これらの赤色顔料は朱であると考えられる。

本例と同様な状態で内面に朱が付着している土器片は、弥生時代後期中頃から古墳時代前期に認められている。須玖永田遺跡では後期中頃の井戸跡等から小片も含めて60点余り出土している。内面は朱、外面は煤、多くが甕片である。佐賀県川寄吉原遺跡では、後期の井戸跡から、焼成前の甕を縦に半裁し鍋のような形で使われた土器が出土しているが、内面全体に厚く朱が残り外面には煤が付着している。弥生時代終末の、三輪町犬竹遺跡、瀬高町藤ノ尾遺跡、古墳時代初頭の博多遺跡群50、59、65次調査で出土している。

朱の残存状態や外面の煤及び注ぎ口を持つこと等から、これらが単に塗料としての朱の製造・精製・貯蔵に関る土器ではなく、例えば朱等を主成分とする仙薬製造などに関わるものではないかと考えられる。

Tab-18 野方久保遺跡出土遺物一覧

登録番号	挿図 番号	図版 番号	器種	器部	法	量	形態の特徴	胎	土	出土遺構	色 調	焼 成
00001	61 🗵		須恵器	蓋	□13.6	器4.3	回転切ばなし	1m前後の石英,	長石を含む	古墳	灰褐色	堅 徴
00002	"	PL.17	須恵器	蓋	□11	器3.8	停止ケズリ	"		"	"	"
00003	"	"	須恵器	蓋	□13.6	器3.6	へラ記号有, 回転ケズリ	"		"	" .	"
00004	"	"	須恵器	嘘			四年のスケ	,,		"	"	"
00005	"		"					"		<i>"</i>	"	"
00006	"		須恵器	坏身	□ 9.2			"		<i>"</i>	,,	,,,
00007	"		"		□11.8			"		"	"	,,
00008	, ,,		土師器	Ш.	□14.0	器2.8	底部に板目痕 有	内外面に赤色顔料	 以有	<i>"</i>	明褐色	良 好
00009	"		7.00,00		□15.4	器2.95	//	//	113	"	"	//
00010	,,	PL.17	"			器 1.1	"	"		, ,,	,,	"
00011	"	//	須恵器	横瓶	LJ 0.0	1947 I.I		//		"	灰褐色	堅 徽
00101	"			цили	□15		Ⅵ式~Ⅷ式	1m前後の石英,	長石を含む。 細か	SC-01 床	明褐色+黒斑(外)明褐	
	<i>"</i>		壺 //		□17		VIIX~VIIX	いウンモ混入		" JC-01 JK	色(内)	良好
00102	"				-						明茶褐色+黒斑(内外) 明茶褐色+黒色(外)暗	良好
00103			"		□16		VII式	" .		SC-01	茶褐色+暗褐色(内)	
00104	"	Dr	" THE CO	Sio .	□16 □215 0			//			明褐色(内外)	"
00105	"	PL.17	高坏の		底15.3		"	細砂及び微量の	ワンモを含む	"	明黄褐色(内外)	"
00106	"		小形丸		□15.0		″ 口縁の一部に	" 1~2mm どの石苗	長石を含む。ウン	"	"	"
00107			高坏	坏部	□17		円が付着VII	モ混入		" SC-02	″ 赤茶褐色+黒色(外)暗	"
00201	62 🗵	PL.18	壺		П14.7		VII.C.	細砂及びウンモ	を含む	P-5 SC-02	赤茶褐色(内)	"
00202	63 🗵	"	"		T111.5	器16.8	XIIV.			P-4	明褐色 黒色(外)明褐色(内)	"
00203	62 🗵	PL.17	高坏		□13.8		"	" .		SC-02	赤茶色(内外)	"
00204	61 図	"	"		□17.1		"	"		SC-02 P-14	暗赤茶色(内外)	"
00205	"		. "		□17.7		"	1~3mm大の石英, ウンモ混入	長石を多く含む。 	SC-02 P-12	淡赤褐色(内外)	"
00206	"		"		□17		"	"		SC-02 P-14	暗赤褐色(内外)	"
00207	"		"		□16.7		"	"		SC-02	暗赤茶色(内外)	"
00208	"		"		П17.2		"	"		"	明褐色	"
00209	"		"		□18.5		"	<i>"</i>		"	明褐色(外)明褐色(内)	"
00210	"		鉢形士:	**	□23.5		VI L	1~4mm大の石英 む。ウンモ混入	長石粒を多量含	"	淡桃色(内外)	ふつう
00211	62 図		高坏脚	部	底13		wii式	細砂及びウンモ	を含む。黒色粒混入	. "	暗赤茶色(内外)	良 好
00212	"	PL.17	"		底12.4		VII式	0.5㎜前後の石剪 モを含む	英, 長石粒及びウン	SC-02 P-2	明茶褐色+黒色	"
00213	"	"	"				WI式	0.5㎜前後の石芽 粒を含む。ウン	を,長石粒及び赤色 モ混入	SC-02	赤茶褐色+明褐色+黒斑(外)赤茶褐色+黒斑	"
00214	"	"	高坏	;	□10.7 底7.3	器 6.3	VI式	"		"	明褐色+黒褐色(内外)	"
00215	63 図	PL.18	小形丸	底壺	ГП10	器10	VII式	1~2㎜大の石英	. 長石粒	SC-02 P-7	明茶褐色+黒色(外)明 茶褐色(内)	"
00216	"		"				如式	1mm前後の石英, モ混入	長石を含む。 ウン	SC-02	赤褐色(外)黑褐色(内)	"
00217	"	P <b>L</b> .18	"		П 9.2	器9	"	"		SC-02 P-1	淡い明赤褐色	ふつう
00218	"	"	"		□ 8.8		"	"		SC-02	明赤茶色+暗赤茶(内外)	やや甘い
00219	62 🗵	"	壺		□15		VII式	"		SC-02 P-14	白灰褐色+黒色(外)明 褐色(内)	
00220	"		"		□16		"	"		SC-02 P-5	明褐色+黒色(外)黒褐色(内)	
00221	"	<b> </b>	"		□16.5		"	1~2㎜大の石英	,長石を含む。ウン	SC-02	明黄褐色+黒色(外)明黄褐色(内)	良好
00223	"		"		□18		"	<b>モ混入</b> ″		"	明黄茶褐色(外)明赤茶	"
00224	"		"		□18		"	<i>"</i>		"	褐色(内) 明褐色+明褐色(内外)	"
00225	"	PL.18			□17.5	·	<b>W</b> 重式	,		SC-02	灰褐色+黒褐色(外)明黄褐色(内)	
00226	"	2.10	"				VII式	"		P-8 SC-02 P-14	黄褐色(内) 明黄茶褐色	良好
00227	63 🗓	PL.18	-	底塞	□11	架の	vii式 i Vii式	0.5~1 mm 前後 ₫	)石灰,長石粒を含	SC-02	明黄褐色(外)明黄褐色+黒色(内)	
00441	03 X	1 L.16	小形头 "	山林、蓝	1 111	60° 0.0	//	む。ウンモ混入 1~2mm大の石英	粒を多く含む。ウン	P-14 SC-02		"
00228			. "		1		1 "	モ混入		13C~02	明赤茶褐色	1 "

## Tab-19 野方久保遺跡出土遺物一覧

登録 番号	挿図 番号	図版 番号	器種 器部	法	量	形態	の特徴	胎 土	出土遺構	色 調	焼	成
00230	63 図		小形丸底壺	□ 7.5		Ⅷ式		0.5㎜大の砂粒を含む。ウンモ混力	"	明褐色+黒色(外)暗灰褐色(内)	ふつう	
00231	"		"			ii		2~3mm大の石英粒を多く含む。ウモ混入	ン SC-02 P-14	汚白灰褐色(内外)		
00232	"	PL.18	ミニチュア土 器(鉢型)	□ 5.6	器5.25	手づく	ね	砂粒少量混入,金ウンモ微量混入		淡赤褐色(外)赤褐色(内)	良好	
00233	61 🗵		壶	□20.4		VII式		"		(P3)	"	
00234	"		高坏	□16.4		大w		"	"	"		
00235	"		// .	10.4		//		"	"	"		
		DI 10		F101 C	HH 10		177-14			黒赤褐色(外)淡褐色		
00301	67 🗵	PL.19	鉢	□21.6 □22.5	森18 器15.4	完形	VI式 VI式	モ微量混入 石英粒 (0.5~3mm大) 多量, 金ゥ	P-18	(内) 赤褐色(内外)淡赤褐色	良好	
00302	63 🗵	"	高坏	底15.9	11010.1	東海系		モ微量混入	P-15	(内)	"	
00303	"	PL.21	"	□16.2		"		砂粒少量混入、金ウンモ微量混入		淡褐色(内外)	"	
00304	"	PL.23	壶形土器	□19.6	37.6		VII式	石英粒(1~3mm)長石粒を含む。 ンモ混入	ウ SC-03 P-23	明褐色+黒色(外)暗褐色(内)	"	
00305	66 🖄	PL.21	<b>甕</b> 形土器	□18			VI式	1㎜前後の石英, 長石粒を含む。 ウンモ,金ウンモ混入	白 SC-03 P-17	明褐色+黒斑(外)明褐 色(内)	"	
00306	64 🗵	PL.23	壺形上器	18.5		ほぼ完	形 VII式	砂粒微量混入,金ウンモ微量混入	SC-03 P-21	淡褐色~褐色(内外)		
00307	67 🗵	PL.22	甕形土器	□17.8	器31	"	VII式	1~2m大の砂粒及び大粒(4~6mの石英,長石粒を含む。ウンモ油	i) SC-03 !入 P-22	明褐色+黒斑(外)明褐色(内)	良好	
00308	66 🗵	"	"			"	V式	細砂及びウンモ混入	SC-03 P-5	明褐色+黒色(外)黒色(内)	"	
00309	65 🖾	PL.23	壺形土器	□19.2	器28	VII式外		1㎜前後の石英,長石粒及び大粒(6㎜大)石英粒を含む。ウンモ混入		明褐色1部に黒斑あり	"	
00310	64 🗵	PL.21	甕形上器	□16	器24.2	"		1~2㎜大の石英、長石粒を含む。 ンモ混入		明褐色+淡赤褐色+黒色口 緑内外と胴部に丹塗りの痕 跡あり	"	
00311	"	"	<b>劉</b> 形土器	□17.1	器28.6	完形	WII式	石英粒(0.5~2mm大)少量,赤	色 SC-03	游あり   淡褐色(内外)	良好	
00312	"	PL.19	<b>翌</b> 形土器	□16.4	器30.1	"	VI式	料,ウンモ徽量混入 石英 <u>粒(1~3mm</u> 大)少量混入,金	P-28 ウ SC-03	"	"	
00313	65 🔀	PL.22	二重口級帝	□22.2	器36.8	"	VILC	ンモ徽量混入 砂粒少量混入(石英粒,金ウンモ	P-27 微 SC-03	赤褐色~褐色(内外)	"	
	00 [X]	FL.22					外来系	量混入) 石英粒(0.5~3mm)少量,金ウン	P-20			
00314			高坏	□16.6	器13.2	"		微量混入 石英粒 (1~4mm大) 多量混入,金	P-7	淡赤褐色(内外) 褐色~暗褐色(内外)良		•
00315	65 🗵	PL.20	小形壺	П11.3	器12.5	"	VII式	ンモ徽量混入	P-12	好	良 好	
00316	"	"	"	□ 7.8	器12.7		VII式 外来系	石英粒(2~3mm大)少量,金ウン 像量混入		淡赤褐色~淡褐色(内外)		
00317	66 🗵		甕形土器	□18.0			加式	石粒,石英粒少量,金ウンモ微量  入	P-1	淡褐色~褐色(内外)		
00318	67 🗵	PL.20	小形丸底壺	□ 9.4	器 8.6	完形	VII式	砂粒,石英粒多量混入,金ウンモ 量混入	微 SC-03 P-6	淡褐色~淡赤褐色(内 外)		
00319	"	"	鉢	□12.9	器 5.9	VI式		石英粒(0.5~2mm大)少量,金ウモ微量混入	> SC−03 P−4	赤褐色(内外)	良 好	
00320	"	"	小形短頸壺	□ 9.4	器10	完形 V	~vī式	石英粒(1~4mm大)少量,金ウン 微量混入	SC-03 P-8	暗褐色(外)灰褐色(内)	"	
00321	"		鉢	□12.3	器 6	完形	大IIV	石英粒(1~2mm大)少量,金ウン 微量混入	F SC−03 P−11	"	"	
00322	"		鉢	□21.4	器 7.6	加式		石英粒 (1~4mm大) 多量混入, 金 ンモ微量混入	ミウ SC-03 P-5	淡灰白色(外)淡褐色~ 暗褐色(内)	"	
00323	"	PL.20	小形丸底壺	□ 8.5	器 7.5	VII式		1mm前後の砂粒及びウンモ混入, 前後の石英粒を数粒含む		明褐色+黒斑	"	
00324	"	"	"	□ 9.5		"		1㎜前後の石英、 長石を含む。 組 なウンモ混入		淡明肌色(内外)	"	
00325	65 🗵	"		□11.5	器18	WII式		1mm前後の砂粒及び3~4mm大の	石 SC-03	黒褐色+明褐色(外)明	ふつう	
00326	"	PL.21	"	П17	器21.7	VI~V	I de ar	英,長石を多量含む。ウンモ混入  1~1.5mm大の石英,長石を含む。	ウ SC-03	褐色(内) 明茶褐色+黒褐色(外)	良好	
00327	63 🗵		<b>甕</b> 形土器	□15		VII式	外来系	ンモ混人   1~2mm大の石英、長石粒を含む。 粒(5mm)大の石英粒を数粒含と ウンモ混入	P-16 大 SC-03	明茶褐色(内) 思褐色(外)暗褐色+明	"	
00328			// Jast/10_1tutr	□16.6	器26	//		サンモ混入 1mm前後の石英, 長石粒を含む。 かいウンモ混入	** P-25 細 SC-03	褐色(内)   黒色スス+明褐色(外)	"	
00329	66 🗵	PL.23					形	かいウンモ混入 砂粒,石英粒少量混入。金ウンモ		明褐色(内)		
			二重口縁壺	□18.4	器38.2		形 外来系	入 1~3mm大の石英,長石粒を含む。	P-19	淡褐色(内外)黒斑あり		
00330	"	PL.22	甕形土器	□17	器28	VII式		かいウンモ混入 1~4mm大の石英,長石粒を含む。	P-26	明淡茶褐色+黒色 暗褐色+黒色(外)明褐	良好	-
00331	64 図	PL.19	"	□15.3	器22	WI式		ンモ混入	P-2	色(内)	"	
00401	62 🗵	PL.24	"	□16		"		1~2㎜大の石英、長石粒を含む。ンモ混入	P-2	明褐色+黒色(外)明褐色(内)	"	
00402	"	"	"	□15.5		"		1~2mm大の石英, 長石粒を多くむ。ウンモ混入	P-1	明褐色+黒色(外)明褐色(内)	ふつう	
00403	"		器 台	底12.5		IV式		1㎜前後の石英, 長石粒を多く含ウンモ混入	OC 04	明褐色(内外)	良好	:
00404	"		壺形土器	□14.8		VI式		1~3㎜大の石英粒を含む。ウンモ 入	Pit - 56	明褐色+黒色(外)暗褐 色(内)	ふつう	
00701	71 図	PL.27	小形丸底壺	□ 7.5	器8.35	完形	WI式	砂粒少量混入,金ウンモ微量混力	SC-07 P-6	淡褐色~淡赤褐色(外) 淡赤褐色(内)	良 好	:
00702	"	<i>"</i>	小形丸底壺	□ 8.1	器9.1	"	•	砂粒少量混入,石英粒,金ウンモ 量混入		淡赤褐色(内外)	"	
00703	"	"	鉢	□13.9	器7.65	"		石英粒少量混入,金ウンモ微量液	SC 07	淡赤褐色(内外)黒斑あ	"	
00704	70 図		高坏(胸部)	脚裾部1	1.1	VII式		石英粒(1㎜)少量混入,金ウン 黒ウンモ微量混入		淡赤褐色(内外)	"	
00705	69 🗵		"	脚裾部1		"		無サンモ版重進入   砂粒 (1~4mmø) 少量混入, 金サ   モ徽量混入		褐色~暗褐色(内外)	"	

## Tab-20 野方久保遺跡出土遺物一覧

登録 番号	挿図 番号	図版 番号	器種 器部	法 量	形態の特徴	胎 土	出土遺構	色 調	焼 成
00706	69 🖾		高坏(脚部)	脚裾部11.25	WII式	砂粒少量混入,金ウンモ微微量混入	SC-07	淡赤褐色(内外)	良好
00707	"		高坏 (坏)	□21.4	"	石英粒(1~3㎜)多量混入,金ウン モ微量混入	SC-07 P-18	淡白褐色(外)淡赤白色	"
00708	"		高坏(脚部)	脚裾部11.7	VII式	石英粒微量混入,金ウンモ微量混入	SC-07	淡褐色(内外)	"
00709	"		//	脚裾部10.5	"	石英粒少量混入,金黒ウンモ微量混	P-31 SC-07	赤褐色(内外)	
00710	71 図	PL.27	鉢形土器	口10.6 器6.3	手づくね品。	人   石英粒〔1.5~7㎜)少量混入,金ゥ	P-37 SC-07		
00711	/1 Z	F L.21			VIII式	ンモ混入	P-29 SC-07	暗褐色(内外)黒斑あり	良 好
00712			小形丸底壺	口8.45 器9.15		砂粒少量混入,金ウンモ微量混入 石英粒 (1mm) 少量,金ウンモ,黒	P-2 SC-07	褐色(内外)	が 良好(器面の 製離がいちじ るしい)
	70 🖾	DY 00	高坏	口17.8 器11.75	/加式	ウンモ微量混入 砂粒(0.5~1mm大)少量,金,黒ウ	P-11 SC-07	赤褐色(内外)	
00713		PL.26		口17.7 器12.1	完形 WII式	ンモ微量混入 石英粒 (2~5mm) 少量, 金黒ウンモ	P-47 SC-07	淡赤褐色(内外)	良 好
00714	"		<b>"</b>	口16.4 器12.3 口19.0 脚裾部	"	微量混入	P-18 P-23 SC-07	"	"
00715	"	PL.26	"	口16.5 器12.05	"	砂粒少量混入,金ウンモ微量混入 石英粒少量混入,金黒ウンモ微量混	P-32 SC-07		
00716	″ .		"	脚裾部10.7	"	入	P-22	赤褐色(内外)	"
00717	".	"	"	口18.5 器12.5 底12.1	VII式	石英粒少量混入,金ウンモ微量混入	SC-07 P-7	淡褐色(内外)	
00718	71 🗵	PL.27	壺	口11.9 器12.0	"	石英少量混入,金ウンモ微量混入	SC-07 P-35	淡褐色~淡赤褐色(内 外)	"
00719	"_		ミニチュア土 器(鉢)	口 7.1 器 5.4	"	石英粒微量混入,金ウンモ微量混入	SC-07 P-1	淡褐色~褐色(内外)	"
00720	"	PL.27	鉢形土器	口10.7 器 7.2	手づくね品 Wii式	石英粒少量混入,金ウンモ微量混入	SC-07 P-9	淡褐色(外)淡赤褐色 (内)	"
00721	"		小形壺	口 5.6 器 8.4		砂粒少量混入,金ウンモ微量混入	SC-07 住柱内	淡暗褐色(外)黒色~褐色(内)	"
00722	"		ミニチュア上 器(鉢)	口 7.4 器 5.9		石英粒(1~5㎜)少量,金ウンモ微 量混入	SC-07 P-3	赤褐色~黒褐色(外)赤褐色(内)	"
00723	"		小形丸底壺	口 8.7 器 8.6	Ⅷ式	石英粒少量混入,金ウンモ微量混入	SC-07 P-28	淡灰褐色(外)淡褐色 (内)黒斑あり	"
00724	"		"	口 9.1 器10.4	"	砂粒微量混入,金ウンモ微量混入	SC-07 P-16	暗褐色~褐色(外)褐色 (内)	"
00725	70 図	PL.27	高坏	□17.3 器13.1	"	石英粒(1~3mm)少量混入,金ウン   モ微量混入	SC-07 P-16	淡褐色~赤褐色(内外)	"
00726	71 図		小形丸底壺	口 7.1 器 8.2	"	砂粒少量混入,金ウンモ微量混入	SC-07 P-8	淡灰褐色(内外)	"
00727	"		変	口15.0 器19.5	"	砂粒少量混入,金ウンモ微量混入	SC-07 P-10	淡褐色(内外)	"
00728	"		小形丸底壺	口 7.95 器 8.3	"	砂粒少量混入,金ウンモ微量混入	SC-07	"	"
00729	68 🖾	PL.25	甕形上器	口16.7 器28	VIL式	砂粒(石英粒)少量混入,金ウンモ	P-13 SC-07	淡赤褐色(外)淡褐色	,,
00730	"	PL.26	//	口14.5 器25	VIII.X	微量混入   砂粒(石英粒)多量混入,金ウンモ	P-25 SC-07	(内) 淡赤褐色(内外)黒斑あ	,,
00731	"	PL.27	,,	口16.5 器29	VII~WEC	微量混入 1~3mm大の石英粒を多く含む。1~2	P-40 SC-07	り 明淡赤褐色, 胴部黒斑	
	"		"			mm大の赤色粒,ウンモ混入 1~2mm大の石英,長石粒を含む。ウ	P-38 SC-07	(外)淡褐色(内) 黄褐色+明黄茶褐色(内	ふつう
00732		PL.25	"	П16.2	大型 エーカ	ンモ混入 石英粒 (1~3mm) 少量混入, 金ウン	P-12 SC-07	外) 暗灰色~淡褐色(外)黒	
00733	69 🗵	PL.24		□15.5 器28.7		モ微量混入   石英粒 (2~3mm) 少量混入, 金ウン	P-39 SC-07	灰色~淡黒灰色(内)	やや不良
00734	"	"	"	П17.3 П10.7	"	モ微量混入   石英粒 (2~3mm) 少量混入, 金ウン	P-27 SC-07	褐色(内外)黒斑あり 淡褐色(外)淡暗赤褐色	良 好
00735	"	PL.26	"	器27.65	VII式	モ微量混入	P-41	(内)	やや悪い
00736		PL.24	壶	□13.3 器30	雑な造り	石英粒(1~3mm)少量混入,金ウン そ微量混入	SC-07 P-5	赤褐色(外)暗赤褐色内	良 好
00737	70 図	PL.25		□15.5 器28.0	内,外面の口縁部	2~4㎜大の石英,長石粒を多く含む。ウンモ混入	SC-07 P-18	明褐色+黒色+灰褐色 (人) 明褐色+赤褐色+ 黒褐色(内)黒斑あり	"
00738	. "	"	碰	口15.5 器27.6	に丹塗りと思われ る部分がある	色粒, ワンモ混入	SC-07 P-30	明褐色+赤茶+黒斑(外)暗褐色+赤茶(内)	ふつう
00739	71 図	PL.28	"	口15.8 器13.5	VI式	0.5~2mm大の石英、長石を含む。大 粒(4mm大)の石英粒含む。 微量の ウンモ混入	SC-07 P-34	明茶褐色+黒褐色(外) 明褐色+明茶褐色(内)	ふつう
00740	70 図		高坏	脚裾部12	WE式	1mm前後の石英, 長石粒を含む。 ウンモ混入	SC-07 P-43	黄褐色(内外)	良 好
00741				□20 器14.1		2~3㎜大の石英,長石粒を多く含む。ウンモ混入	SC-07 P-17	淡桃色+赤桃色(内外)	ふつう
00742				П18		1~2㎜大の石英,長石粒を多く含む。ウンモ混入	SC-07 P-39 又は37	黄褐色(内)黄褐色+茶褐色(外)	"
00743				П18		1㎜前後の石英, 長石粒を含む。 ウンモ混入	SC-07 P-5	黄茶褐色+黒色(内)黄 茶褐色+赤褐色(外)	良 好
00744				Г119		1~2㎜前後の石英,長石粒を含む。 ウンモ混入	SC-07	赤茶色+黒色(外)暗赤 茶褐色(内)	"
00745				□19.5		1㎜前後の石英,長石を含む。金ウンモ混入	SC-07 P-31	赤茶褐色(外)暗茶褐色	"
00746				□19.5 器 7.2	<u> </u>	1㎜前後の石英,長石を含む。白ウンモ,金ウンモ混入	SC-07	明褐色(内外)	"
00747	70 図		高坏	□18.2	VII式	石英粒 (1~3mm) 少量, 金ウンモ微	SC-07 P-36	淡赤褐色(内外)	
00748	"	<del> </del>	"	脚裾部13.5	"	量混入	SC-07	明黄茶褐色(内外)	やや甘い
00749	68 🖾	<del>                                     </del>	直口壺		VI式	1㎜前後の石英、長石粒を含む。ウ	P-33 SC-07	赤褐色(内外)	良好
00801	71 🛛	PL.28		□17.2	VIA VII式	ンモ混入 石粒 (石英粒を含む), 少量混入,	P-5 SC-08		以 好
-	11 🗵	// // // // // // // // // // // // //			<b>И</b>	金ウンモ微量混入 1~2mm大の石英、長石粒を多く含	SC-08	褐色~暗褐色(内外面)	
00802	上		壺	口18 器28		む。細かなウンモ混入	P-1	暗褐色+黒色(内外)	やや甘い

## Tab-21 野方久保遺跡出土遺物一覧

登録 番号	挿図 番号	図版 番号	器種 器部	法 量	形態の特徴	胎 土	出土遺構	色 調	焼 成
金子 00803	71 図	m 7	壺 口縁部	□17.5	VIII式	0.5㎜大の砂粒を含む。わずかに金 ウンモ含む	SC-08 P-1	黒褐色(内外)	良 好
00804	72 図	PL.28	壺	口11.8 器14.5	"	1㎜前後の石英,長石粒を含む。 ウンモ混入	SC-08 P-5	淡赤褐色+淡黒褐色 (外)赤褐色(内)	やや甘い
00805	"		整 口縁部	□ 13.5	VII式	1㎜前後の石英長石を含む。ウンモ 混入	SC-08	暗褐色に内面口縁部に 丹塗り痕跡有, 暗褐色	良好
00806	"		小形丸底壺	□ 10	"	細砂及びウンモ混入	"	明褐色(内外)外面の一部に黒斑有	, ,,
00807	"		鉢	□ 16.3	"	3㎜大の石英粒を数粒含む。ウンモ	"	明褐色(内外)	"
00808	"		壺 口縁部	□ 23.3	Ⅳ~V式	混人 2~3㎜大の石英を含む。細かなウン	,,	明黄褐色	"
00809			口縁部		., ,,,	<ul><li>モ混入</li><li>大粒 (3~5mm大) の石英粒を含む。</li></ul>	"	暗褐色(外)全体にスス	"
			口縁部			ウンモ混入 1~2mm大の砂粒を含む。ウンモ混入		明茶褐色(内外)	"
00810	20 W			П 19	VII式	1~2㎜大の石英を含む。ウンモ混入	,,	明褐色(内外)外面の一	<i>"</i>
00811	72 図		丸形壺	□ 13 □ co		1mm前後及び3~5mm大の石英、長石	,,	部に黒斑有 明茶褐色(内外)	ふつう
00812	"		壺 底部	底 6.3	IV式	を多く含む。ウンモ混入 1~2㎜前後の石英長石粒を含む。細	"		"
00813	"	ļ	台付壺		Ⅲ式	かなウンモ混入 Lmm前後の石英、長石粒を含む。4mm 大の石英粒と数粒含む。細かなウン 毛混入		明淡黄褐色(内外) 暗褐色+暗赤褐色(外)	"
00814			底部	底 4	の痕跡有	大の石英粒と数粒含む。細かなウンモ混入	"	明褐色(外)	
00815			壺 口縁部	□ 7.8		1~2㎜大の石英, 長石を含む。ウン モ混入	"	明褐色(内外)	"
00816	"		器台	口6 器 9.4 底 10	V式	2~3㎜大の石英粒を多く含む。細かなウンモ混入	"	明褐色(内外)	良 好
00901	72 図		高坏	□ 17.1	大IIV	1~3㎜大の石英,長石を含む。ウン  モ混入	SC-09	明茶褐色+黒斑,暗茶褐色(内)	"
00902	"		高坏 底部	底 13	"	細砂及びウンモを含む	"	淡黄褐色(外)黒灰褐色 (内)	ふつう
00903	"		壺 口縁部	□ 10.4	VI式	1~3㎜大の石英,長石を含む。ウン モ混入	"	茶褐色+黒斑(外)茶褐 色(内)	良好
00904	"		鉢	□ 12	VI式	1~2mm大の石英,長石及び赤色粒を 含む。ウンモ混入	"	明褐色(内外)	" "
00905	"	PL.29	小形鉢	口 10.2 器 10.3	手ずくね上器	1㎜前後の石英, 長石を含む。 ウン モ混入	SC-09 P-3	暗灰褐色+黒色(外)黒 色(内)	"
00906	"		壺 口縁部	□ 13	XIIIX	1~3mm人の石英粒を含む。ウンモ混入	SC-09	淡明褐色+黒色(外)明 褐色+暗褐色(内)	"
00907	"		小形丸底壺	口 8.1 器 9.6	VII式	1㎜前後の石英, 長石を含む。 赤色 粒を多く含む。 ウンモ混入	"	黒色(内外)	"
00908	"		台付壺	底 13	Ⅲ~Ⅳ式	2~3㎜大の石英, 長石を含む。ウン モ混入	"	暗褐色(内外)外面の一 部に黒斑有	"
00909	"	<u> </u>	壺▮底部	底 5.3	IV xC	1~2mm大の石英, 長石を含む。ウン	"	淡赤褐色(内外)	"
00910	"		底部	底 2.5	"	モ混入   1㎜前後の石英,長石を含む。 ウン	"	明褐色+淡汚桃色(外)	"
	"		鉢 口縁部	124, 210	皿式	モ混人   1㎜前後の石英, 長石を含む。 ウン	"	明褐色(内) 明褐色(内)	"
00911	"	-	-		VILC	モ混入 パ	,,	明褐色+黒斑(外)明褐	"
00912	┼		甕 口縁部	later r	-		"	色(内) 茶褐色+黒色+暗褐色,	"
00913	"			底 5	N.C	″ 2~3㎜人の石英,長石粒を多く含	<u> </u>	暗灰褐色(内)	"
00914		PL.28		□ 15	VI式	む。ウンモ混入 1~2mm大の石英, 長石を含む。ウン	P-4	明褐色+黒色(外)暗茶 暗褐色+黒色(外)暗茶	
00915	"	PL.29	壺	口 10.5 器 14.5		1~2mm人の石英, 長石を数粒含む。 1~3mm大の石英, 長石を数粒含む。	P-2 SC-09	褐色(内)	
00916	"	"	III	口 13.5 器 3.5 底 7.8	板目痕有	ウンモ混入	P-1	肌色(内外)	
01001	73 🗵	PL.43	甕	口 13.65 器 20.7	VII~VII式	砂粒少量混入、金ウンモ微量混入	SC-10	淡褐色(内外面)	"
01002	"	PL.29	蹇	口 15.0 器 19.55	たIIV i	砂粒少量混入,金ウンモ微量混入	SC-10	淡褐色(外)淡灰褐色 (内)	"
01003	"	PL.30	小形丸底壺	口 11.3 器 12.7	"	砂粒少量混入,金ウンモ微量混入	SC-10 床面	淡灰褐色(内外面)	"
01004	"	PL.29	口縁部	□ 16	VII式	細砂及び 2㎜前後の石英, 長石粒を 含む。ウンモ混入	SC-10 P-4	明褐色+黒色(外)明褐色(内)	
01005	"	"	壺 底	□ 15.2	VI式	2㎜前後の石英, 長石粒を含む。 ウンモ混入	SC-10	明褐色+黒色(外)明褐色+暗褐色(内)	ふつう
01006	. "	PL.30	小形丸壺	口 16.8 器 16.4	VI式	1~3mm大の石英、長石粒を含む。ウンモ混入	SC 10	明褐色+黒色(外)明褐色+暗褐色(内)	i ,,
01007	"	PL.29	直口壺	口 9 、器	IV式	1~3㎜大の石英, 長石を含む。ウンモを微量含む	SC-10	赤茶褐色(内外)	"
01008	, ,,	PL.30	小形丸底壺	口 11.5 器 12.5	大IV	1mm前後の石英, 長石を含む。 ウンモ混入		赤茶褐色+淡黄褐色+ 黑色(外)暗褐色+赤茅褐色(内)	Ę "
01009	"	1	壺 口縁部	□ 12.6	IV式	1㎜前後の石英、長石を含む。微量のウンモ混入		淡赤褐色+淡褐色(外 淡赤褐色(内)	良好
01010	+	PL.30	) 高坏	□ 15.3	VII式	1mm前後及び3~4mm大の石英,長石を含む。ウンモ混入	SC-10 P-6	明褐色(外)暗褐色(内)	" .
01011	+	+	† · · · · ·			│2㎜前後の石英, 長石を含む。 微量		明茶褐色(外)黒色(内)	"
01011	+		口縁部	□ 17.6		のウンモ混入	SC-10	"	"
	+	ļ <u> </u>		底 8.6	IV式	"	, se 10	"	"
01013	+ -		養 底部		// // // // // // // // // // // // //	"	"	"	"
01014		-	台付壺 底部		推定4ヶ所の		- "		"
01015	- <del> </del>	1.	高坏 底部	底 10.4	穿孔 VIII				- "
01016	5 "		高坏		WII式	"			

## Tab-22 野方久保遺跡出土遺物一覧

登録 番号	挿図 番号	図版 番号	器種 器部	法 量	形態の特徴	胎 土	出土遺構	色 調	焼 成
01017	73 🛛		高坏 胸部		加式	2㎜前後の石英、 長石を含む。 微量 のウンモ混入	SC-10	明茶褐色(外)黒色(内)	良 好
01018			高坏				"		
01019			底部	底 3.4	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		"		
01201	74 図	PL.30	鉢 □縁部	□ 12	IV式	1mm前後の石英,長石及び1~2mm大 の褐色粒を含む。ウンモ混入	SC-12	明褐色+淡赤茶色(内外)	"
01202	"		"	□ 12	,,	1㎜前後の石英、長石を含む。 ウン	"	明黄褐色(内外)外面の	"
01203	"		壺 口縁部		<i>"</i>	モ混入   2~3m大の石英、長石を含む。ウン	"	部丹塗り 明黄茶褐色(内外)	"
01204	"		<i>"</i>	□ 18.5	皿式	モ混人   1㎜前後の石英, 長石を含む。 ウン	,,	明褐色+黒色(外)明茶	,,
01205	"		"	110.0	<i>"</i>	モ混入   3㎜大の石英粒を数粒含む。ウンモ	"	褐色(内) 明褐色(内外)	
	"					混入   1~2mm大の石英,長石を含む。ウン	"		良好
01206			<b>甕</b> 口縁部	riv 400	IV式	モ混入 1mm前後の石英, 長石を含む。ウン	"	暗茶褐色(内外)	
01207	"	·	器台	底 12.8	"	<ul><li>モ混入</li><li>1∼2mm大の石英,長石粒を多く含</li></ul>		明褐色(内外) 暗褐色+黒色(外)明褐	"
01208	"		壺 底部	底 6	Ⅲ式	む。細かなウンモ混入 1~2m大の石英粒を含む。ウンモ混	" SC-13	色+黒色(内)	ふつう
01301	"	PL.30	高坏	□ 18.4	XIIIX	入	P-5	暗褐色(内外)	良 好
01302	"		"	□ 19.2	"	1~3㎜大の石英,長石を含む。ウンモ混入	SC-13 P-3	赤茶褐色+黄茶褐色(内外)	やや甘い
01303	″_		"	□ 16.5	"	1~3㎜大の石英、長石粒を含む。ウンモ混入	SC-13 P-4	赤茶褐色(内外)	ふつう
01304	"	PL.30	"	□ 16	"	1㎜前後の石英, 長石粒及び赤色粒を含む。ウンモ混入	SC-13 P-4	暗赤褐色(内外)	良 好
01305	"	"	丸底壺 底部		VII式	大粒(0.2~1㎜)の石英粒を含む。 微量のウンモ混入	SC-13	黒色+明褐色(外)暗褐色+大黒色(内)	
01306	"		壺 口縁部	□ 17.5	Vī式		SC-13 P-3		
01307	"		"	□ 20	"		SC-13		
01401	"		夏 口縁部	□ 19.7	"	1~3mm大の石英、長石を含む。ウン モ混入	SC-14	暗茶褐色(内外)	良 好
01402	"	PL.30	鉢 底部	底 13.5		4~5mm大の石英粒及び同大の暗茶褐色粒を含む	"	黒色(胴部)+明褐色(底部)明褐色々(内)	"
01403	"		"	П 9.4		1~4m大の石英粒を含む、わずかに ウンモ混入	"	明茶褐色(外)暗茶褐色	"
01404	"		小形丸形壺		J <sub>z</sub> IIV	2~3mm大の石英粒を含む。ウンモ混	SC-14 P-1	黄茶褐色(内外)	"
01405			口級部			入   1~3㎜大の石英、長石を含む。ウン	SC-14	明黄褐色+淡赤色(外)	"
01406	74 🕱		鉢	П 13	VI式	モ混入   1mm前後の石英,長石及び赤色粒混		淡赤色+灰褐色(内) 暗茶褐色(内外)	"
01407	//		丸形壺	FT 10	VILC	入。細かいウンモ含む 1~2㎜大の石英,長石を含む。ウン		暗黒褐色+淡褐色(外)	"
			+	1110	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	モ混入   2~4mm大の石英粒を多く含む。白ウ	SC-15	暗褐色+暗灰褐色(内)	"
01501	75 🗵		鉢 口縁部		IV式	ンモ混入 細砂及び1mm前後の長石を含む。4 ~5mm大の長石数粒含む。ウンモ混		明黄褐色(内外) 赤褐色(外)明褐色(内)	"
01502			甕 底部	底 9.5		2~5mm大の長行数私含む。ランモ混 2~5mm大の石英、長石を多く含む。		外面は全体丹塗り 暗褐色(外)暗茶褐色	"
01503			豊 □縁部		"	ウンモ混入 1~2mm大の石英, 長石を含む。ウン	SC-15	(内)	
01504			台付壺	-	"	モ混入	"	明褐色+黒斑(内外) 赤褐色(外)明褐色(内)	"
01601	"		壺 胴部	<u> </u>	"	1㎜前後の砂粒を含む。ウンモ混入	SC-16	外面は全体, 丹塗り	"
01602	"	<u> </u>	鉢 口縁部		11式	1~2㎜大の石英、長石を多く含む。ウンモ混入	"	暗褐色+黒斑(外)明褐色+暗褐色(内)	"
01603	"		"		"	2~3mm大の石英、長石を含む。金ウンモ混入	" .	明褐色(内外)外面の一 部に黒斑有	ふつう
01604	"		壺 底部	底 7		1㎜前後の石英, 長石を含む。 細かなウンモ混入	"	明黄褐色(内外)	良 好
01701					欠番				
01702			高坏	□ 26		1㎜前後の石英,長石を含む。 ウンモ混入	SC-17	明黄褐色(外)明茶褐色 +暗褐色(内)	良 好
01703	75 図	PL.32	器台	口 16.4 器 14.1 底 16.3	rv式	石英粒(1~2㎜)少量混入,金ウン モ微量混入する	"	淡褐色(内外)	"
01704	"	"	变	底 8.9	"	砂粒 (石英粒を含む)を少量混入, 金ウンモ黒ウンモ微量混入	SC-17 P-5	暗茶褐色(外面)褐色( 面)外面に煤付着,内面に 二次焼成による変色有り	Z "
01705	76 図	PL.31	变	□ 24.2	"	砂粒(石英粒を含む)少量混入、金 ウンモ微量混入		淡褐色(内外)	"
01706	75 図	"	鉢	口 9.6 器 7.9	"	石英粒 (1mm) 微量混入, 金ウンモ 微量混入		外面に黒斑有 淡褐色 (内外)	
01707	"	"	椀 鉢	口 9.3 器 4	"	仮里低八   石英粒 (1~3mm) 多量混入, 金ウン   モ微量混入	"	淡褐色(外)黒褐色(内)	"
01708	"	"	"	底 2.2	"	- 仮重混入 石英粒 (1mm) 少量混入, 金ウンモ 微量混入	SC-17	淡赤褐色(内外)	やや不良
01709	"	+	壺 口縁部	1 10	,,	石英粒(1~2㎜)少量混入,金ウン	SC-17	"	良好
01705	"	-	1		"	モ微量混入   砂粒(石英粒を含む)少多混入,金	P-3 SC-17		// // // // // // // // // // // // //
	<u> </u>	Di co	<del> </del>		"	ウンモ微量混入 0.5~1mm前後の石英 長石粒を多く 含む。 一部残る 円を施した部分か	P-9	赤褐色(内外)	"
01711	"	PL.32	1	13.5	<b> </b>	含む。赤茶褐色 丹を施した部分か 一部残る 1~2㎜大の石英、長石を含む。ウン	P-5 SC-17	明褐色+赤茶褐色(外)	
01712	"	-	夏 □縁部	□ 26.3		モ混入 - 石英粒 (1~3mm) 少量混入, 金ウン	P-8	明褐色(内)	"
01713	"	PL.31	台付壺		″ 外来系	石英和(1~3㎜)少量混入、金サン モ微量混入	P-4	灰熏色(外面①)淡褐色 (外面②)灰褐色~淡褐 色(内面)	"

## Tab-23 野方久保遺跡出土遺物一覧

登録番号	挿図 番号	図版 番号	器種 器部	法 量	形態の特徴	胎 土	出土遺構	色 調	焼 成
01901	76 図		甕 底部	底 7	IV式 外来系	1~3mm大の石英,長石粒を多く含む。細かなウンモを微量含む	SC-19	茶褐色(内外)	良 好
01902	"		"	底 8.1	"	1~3㎜大の石英、長石粒を含む。ウンモ混入	"	黒色(外)明褐色+暗褐色(内)	"
01903	"		高坏 受部	□15.6	"	1~2㎜大の石英, 長石粒を含む。ウンモ混入	"	明黄褐色(内外)	"
1904	"		壺 胴部		"	1mm前後の石英、長石を含む。金ウンモを多く混入	"	暗褐色(内外)	"
2001	"		甕 底部	底 6.4	"	2~5㎜大の石英,長石粒を多量含	SC-20	黒褐色(外)暗黒褐色	ふつう
02002	"		//	底 7	<i>"</i>	む。微量のウンモ混入 1~4㎜大の石英、長石粒を多く含	"	明褐色+黒褐色(外)	良 好
02003	,,		壺 底部	底10.5	Ⅱ式	む。ウンモ混入 2~4㎜大の石英, 長石粒を多量含	"	明褐色(内外)	ふつう
	"				"	む。ウンモ混入 1~3㎜大の石英,長石粒を多量含	"	明褐色(外)明褐色(内)	"
02004			夏 底部	底 9.1		む。ウンモ混入 1~3㎜大の石英、長石を多量含む。	SC-20		"
02005	"		壺 口縁部	□21.2	Ⅲ式	ウンモ混入 1㎜前後の石英,長石を含む。 ウン	P-1 SC - 20	明黄茶褐色 明褐色(内外)外面の一	
02006	"		口縁部			モ混入 1~3mm大の石英、長石を含む。赤色	Pit-3 SC - 21	部丹塗り	良 好
02101	"		鉢 	口10.6 器5.6	IV式	粒,ウンモ混入	Pit-2 SC - 21	明茶褐色(内外)	
02102	"		<i>"</i>	□12.2	"	細砂及びウンモを含む	Pit-2	明黄褐色(内外)	
02103	"		鉢 口縁部		"	"	SC - 21 Pit-3	. "	"
02104	"		"		"	細砂を含む。金ウンモ混入	SC-21	//	"
02105	"		"		"	2㎜大の石英粒及びウンモを含む	SC - 21 Pit-3	明淡褐色(外)明茶褐色 (内)	"
02106	"		選 口縁部		"	2~3mm大の石英粒を含む。ウンモ混入	SC - 21 Pit-2	黒色+暗茶褐色(外)暗褐色(内)	"
02201	77 🗵	PL.33	甕	口(内)15 器29.4 底6.7	皿式	石英粒(1~2㎜)少量混入,金ウン モ微量混入	SC-22 P-4	褐色(暗茶褐色(外)褐色 (内)黒斑有	"
02202	76 🗵	"	短頸壺	口(内)15.2 器12.8 底5.3	" .	石英粒(2~3mm)少量混入,金ウン モ微量混入	SC-22 P-2	淡褐色~褐色(外)褐色 (内)	"
02203	"		夏 底部	底 7.6	IV式	石英粒少量混入,金ウンモ微量混入	SC-22	褐色(内外)	"
02204	"		複合口縁壺 口縁部		11式	"	" .	淡褐色~褐色(外)淡褐 色(内)	"
02205	77 🗵		理	□13.2	"	石英粒(1㎜)微量混入, 金ウンモ 微量混入	"	淡褐色(内外)	"
02206	"		小型甕 口縁	□14.2	,,	石英粒(1~3㎜)少量混入,金ウン	SC-22	淡赤褐色(内外)	"
02207	"		部 口縁部		外面に口縁 と胴中央に煤 付着する	モ微量混人   石英粒少量混入   金ウンモ微量混入	P-12	淡褐色(内外)	"
	"			H21.2	付着する 内,外面にわ かに煤を付着 る	砂粒微量混入、金ウンモ微量混入	SC-22	暗褐色(外)赤褐色(内)	良好堅徽
02208		D7 00	鉢 □縁部	口22.3 掌	_	石英粒 (1~5mm) 少量混入, 石英粒	P-9 SC-22	淡赤褐色~淡褐色(外)	良好
02209	"	PL.32	鉢	器13.2 底5.3	Ⅲ式 , 内面は棒状工具	微量混入	P-6 SC-22	※褐色(内)	R *I
02210	"	"	支脚	器 9.3 手づくね と指ナデ 形ヘラケ	内面は棒状工具。外面は指ナデ整 ズリ	石英粒少量混入。金ウンモ徽量混入	P-7	淡褐色(内外)	
02211	"		大型甕 胴部		Ⅲ~Ⅳ式	1㎜前後の石英,長石を含む。 ウン	SC-22		
02301	"		甕 底部	底 6.5	IV式	モ混入	SC-23	黒褐色(内外)	ふつう
02302	. "		"		"	1~2㎜大の石英、長石を多量含む。ウンモ混入	"	明褐色(内外)	良 好
02401	78 図	PL.33	丸型壺	□11.3	VI式外面の一 部に黒斑有	2〜4㎜大の石英粒を含む。ウンモ混  入	P-1	赤茶褐色(内外)	"
02402	"	"	鉢	口14.5 器 5.6	IV式	1㎜前後の石英, 長石を含む。 ウン モ混入	P-1	"	"
02403	"		"	□14	"	1~2㎜大の石英,長石粒を含む。赤 色粒,ウンモ混入	50 24	明茶褐色(内外)	"
02404	"		鉢 口縁部	が 滅が る部へ	外面の柔面は磨 皆しく残ってい みは煤が付着	2~5㎜大の石英, 長石粒を多く含む。ウンモ混入	"	暗褐色(内外)	ふつう
02405	"		"	, - 5072	// 外面の一 部に黒斑有	む。ウンモ催人 2mm前後の石英、長石を含む。 大粒 (8mm大) の石英粒が数粒混入, ウン モ含む	"	明黄褐色(内外)	良 好
02406	"		壺 底部		"	2~3mm大の石英, 長石粒を多く含む。ウンモ混入	"	暗褐色(外)明褐色+暗褐色(内)	"
02407	- 11	† · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	高坏 胸部	底12	Ⅷ式	1mm前後の砂粒を含む。金ウンモ混入	"	赤茶褐色	"
02408	"		甕 底部	底 8.5	IV式	2~3mm大の石英、長石を含む。ウンモ混入	· "	暗褐色(外)黒色(内)	"
02409	"	1-	//	底 7	皿式	2~4mm大の石英、長石を含む。金ウ	"	暗褐色+黒斑(外)暗褐 色(内)	, ,
02410	"	<del> </del>	手捏	口 4.5 器 3	1	ンモ混入 1㎜前後の石英混入、細かいウンモ	SC-24	明淡茶褐色(内外)	"
	"		子拉 <b>賽</b> 口縁部	□ 4.5 63 5	IV式	含む   1mm前後の砂粒及び大粒(3~7mm大)	P-4 ) SC-24	暗褐色(外)黒褐色(内)	"
02411	"			110	// // // // // // // // // // // // //	の石英粒を含む。金ウンモ混入 1mm前後の石英、長石を含む。金ウ	OC 24	明黄褐色(内外)	"
02412	-	-	<b>鉢</b> 口縁部			ンモ混入 1mm前後の砂粒混入、細かなウンモ		陪想鱼+里褐色(外)暗	
02413	"	-	選 口縁部	口18.5 器11	"	混入 1mm大の石英粒を含む。赤色粒,ウ		褐色(内) 淡褐色+明茶褐色(外)	
02901	"	PL.33	高坏	脚底12.6	次III	ンモ混入	P-1	淡褐色	-
02902	"	"	"	□17.5	"	0.5~1㎜前後の石英、長石及び赤色粒を含む。ウンモ混入	P-5	淡褐色+暗褐色(内外)	"
02903	"	1	整 □縁部	□13.3	"	1mm前後及び3~4mm大の石英粒を含む。ウンモ混入	P-4	暗茶褐色+黒斑	"
02904	"	PL.33	金木	口13.8 器8.5	VI式	1㎜前後の石英,長石及びウンモを含む	SC-29	暗褐色+黒斑(外)明褐色+暗褐色(内)	<b>3</b> //

Tab-24 野方久保遺跡出土遺物一覧

登録 番号	挿図 番号	図版 番号	器種 器部	法 量	形態の特徴	胎 土	出土遺構	色調	焼成
02905	78 図		高坏 受部	□14.5	"	大粒(3~4mm大)の石英粒を数粒含 む。ウンモ混入	"	暗褐色(外)明褐色(内)	"
03001	"		壺 口縁部	□12.6	VII式	1㎜前後の石英、長石を含む。ウン	SC-30	暗褐色+黒色(外)黒褐	"
03002	"		"		"	モ混入   1㎜前後の石英、長石を含む。細か	"	色(内) 黒褐色(内外)	ふつう
03003	"		高坏力脚部	脚底10.4	VII式	い赤色粒を含む。金ウンモ多量混入 細砂及びウンモを含む	"	明赤茶色(内外)	ふつう
03101	"	PL.31	整	□17.7		1~3㎜大の石英, 長石粒を多く含	SC-31 床	黒色+明褐色(外)暗褐	良好
03102	"		甕 口縁部	□15.4	□式内面,外面の一部に円 ・	む。ウンモ混入 1~4㎜大の石英、長石粒を多く含	// JI	色+赤褐色(内) 淡白黄褐色(内外)	やや甘い
03103	78 🗵		蹇形土器 口	□16	著しい VIII式	む。わずかにウンモ混入   2~3㎜大の石英,長石粒を多く含	SC-31	淡白黄褐色(外)黒褐色	やや甘い
03104	"		縁部 ″	□18	"	む。細かなウンモ混入   1~2㎜大の石英,長石を含む。ウン	<i>"</i>	+灰褐色(内) 明褐色+黒斑(外)明褐	
03105	79 🛛		"	□ 7.5	外面にスス付	モ混人、金ウンモ混人   1~2㎜大の石英、長石粒を含む。金	"	色+黒斑+灰褐色(内) 明黄褐色(内外)	良好
03106	"		壺 口縁部	□14	着 "	ウンモ混入  1㎜前後の石英,長石及び赤色粒を	"	淡明茶褐色(内外)	白好
03107	"		//	□18.5	IV式	含む。ウンモ混入			良好
03108	. //		高坏 受部	□16.5 □16	VII式	ンモ混入 1㎜前後の石英, 長石を含む。赤色	SC-31 床	明褐色(外)暗褐色(内)	
	"		同か 文郎			粒,ウンモ混入 1~2㎜前後の石英,長石を含む。ウ	SC-31	赤茶褐色(内外)	" .
03109	<i>"</i>		"	□18	VI式	ンモ混入	SC-31 床	"	<i>"</i> .
03110	"		-	□19.8	VII式	″ 1㎜前後の石英, 長石を含む。赤色	SC - 31	"	"
03111	."		高坏 脚部		<b>建</b>	粒ウンモ混入 1~2㎜大の石英、長石を含む。ウン	SC-31 床	"	"
03112					<i>"</i>	モ混入 1mm前後の石英・長石を含む。ウン	"	"	"
03113	"	PL.31	小形丸底壺	口 9 器10	VII式	モ混入	"	明赤茶褐色(内外)	ふつう
03114	78 🗵	"	"	口 8.5 器8.8	"	細砂及びウンモを含む   胎土 1㎜の石英,長石を含む。ウン	"	明褐色(外)暗褐色(内)	良 好
03115	79 🛛	"	"	□10	XIIX	日本   日本   日本   日本   日本   日本   日本   日本	SC-31	明褐色+暗褐色(内外)	ふつう
03116	78 🗵	"	坩	口 5.7 器 7.9	VII式	"	."	"	
03117	"		小形丸底壺		大皿式	"	"	//	
03118	″.	PL.31	手捏	口 3.8 器 2.8		細砂を含む。ウンモ混入	<i>"</i> .	淡明肌色+黒褐色(外) 暗褐色(内)	ふつう
03119	"	"	"			細砂及びウンモを含む	"	茶褐色大黒色(外)暗褐 色(内)	"
03120	″	"	"	口 3.7 器 3.2		"	"	茶褐色+黒色(外)暗褐 色+茶褐色(内)	"
03121	"	"	"			"	"	明褐色(内外)	"
03122	79 図	"	小形丸底壺	口 9.9 器 9.2	VI式	砂粒少量混入,金ウンモ	SC-31 床	淡褐色(内外)	良 好
03201	"		高坏 受部	□15	"	1~2㎜大の石英,長石を含む。ウン モ混入	SC-32	茶褐色(内外)	"
03202	"	PL.34	高坏脚部	脚裾部11.7	"	1mm前後に石英,長石及び赤色粒を含む。微量のウンモ混入		"	"
03203	"	"	"	脚裾部12.5	" .	1~3㎜人の石英,長石粒を多く含む。ウンモ混入	"	赤茶色(内外)	"
03204	"		高坏 受部	□17.3	"	細砂及びウンモを含む	"	赤茶褐色(内外)	"
03205	"		器台脚部	脚底部10.5	V式	1㎜前後の石英, 長石を含む。 ウン モ混入	"	汚明褐色(内外)	"
03206	"		蹇 底部	底部 8	IV式	0.5~1㎜前後の石英, 長石を含む。 金ウンモ混入	SC-32	黒色(外)胴褐色(内)ス ス付着	"
03207	"		"	底 8	Ⅲ~Ⅳ式	1~4mm大の石英,長石を含む。ウン モ混入	" .	明褐色(外)明褐色(内)	"
03208	"		″ 口縁部		IV式	1㎜前後の石英, 長石を含む。 ウン モ混入	"	明褐色(内外)	. "
03209	"		"		"	2~4mm大の石英、長石を含む。ウンモ渥入	"	暗褐色(内外)	"
03210	"		"		表面の磨滅著 しい IV式	2~3mm大の石英,長石を多く含む。 ウンモ混入	"	汚黄褐色(内外)	ふつう
03211	"		"	□ 9	外面一部黒斑丹堂り施 行VI式	細砂及びウンモを含む	"	明赤茶褐色(内外)	
03301	80 🗵	PL.35	变	□14	四式	大粒(3~4㎜大)の石英, 長石を多く含む。白, 金ウンモ混入	SC-33 P-4 P-5	赤茶褐色+黒色	良 好
03302	"	"	支	□14	VII式	2mm前後の石英,長石及び4mm大の石英粒を含む。ウンモ混入	SC-33 P-1	黒褐色+暗褐色(内外) スス付口縁部を丹塗り	ふつう
03303	79 🗵	PL.34	鉢	口12.2 器 5.4	VI式	1~2mm前後の石英,長石を含む。ウンモ混入	SC-33	赤茶褐色(内外)外面に 部丹	良 好
03304	"	"	"	口12.7 器 5.2	"	2~3㎜前後の石英、長石を含む。細かな白ウンモ混入	"	明褐色(内外)	"
03305	"	"	"	口11 器 4.7	"	2mm前後の石英、長石を含む。ウンモ混入	"	明茶褐色+黒色(外)黒	"
03306	"	"	壺	口 8.2 器11	"	細砂及び 1㎜前後の石英、長石を含	SC-33	色(内) 茶褐色+黒斑(外)茶褐	良 好
03307	"	"	高坏脚部	脚裾部13	Ⅷ式	む。ウンモ混入 1mm前後の石英、長石を含む。赤色	P-4 SC-33	色(内) 赤茶色(内外)	ふつう
03308	80 🗵	PL.35		□14.3	VII式	粒,ウンモ混入 砂粒多量混入,金ウンモ多量混入	<i>"</i>	淡褐色(外)褐色(内)	良好
03309	79 🗵	PL.34		口11.3 器 4.5		2~5mm大の石英、長石を含む。ウン	SC-33	赤茶色(内外)	ふつう
			124	10 10 4.0		モ混入	P-2	かっ木 にくパクトノ	as 2.7

## Tab-25 野方久保遺跡出土遺物一覧

登録 番号	挿図 番号	図版 番号	器種 器部	法 量	形態の特徴	胎 土	出土遺構	色 調	焼 成
3310	"		壺	□10.2	IV式	1㎜前後の石英, 長石を含む。 ウン モ混入	SC-33	明赤茶褐色(内外)	良 好
3311	"		鉢	口15.5 器10	VI式	1~5mm大の石英,長石を含む。わずかにウンモ混入	"	黒褐色(外)暗褐色+黒褐色(内)	"
3312			"	□21	"	2~3mm大の石英, 長石を含む。細か	"	明黄褐色(内外)	"
						なウンモ混入 1~3㎜大の石英,長石を含む。白ウ	SC-34	暗褐色+黒色(内外)	"
3401			手捏	口8 器 4.7		ンモを混入 1mm前後の石英, 長石を含む。 ウン	P-2	明蓄褐色+赤茶褐色	
3501	80 図	PL.34	壺 底部		XI式	モ混入	SC-35	(外)暗褐色(内) 明黄褐色(内)明茶褐色	
3502	"		甕形土器 口縁部		"	細砂及びウンモも含む		+暗褐色(外)	
3503	"			□19.7	"	1㎜前後の石英, 長石を含む。 ウン モ混入	"	明白褐色+暗褐色(外)明白褐色(内)	
3504	" .		"			1~3mm大の石英,長石を含む。ウン モ混入	"	明汚黄褐色(内外)	"
3505	"	PL.34	<b>甕</b> 形土器 底部	底 7.5	Ⅲ式	2~3㎜大の石英,長石を含む。ウン  モ混入	SC-35 P-6	淡黄褐色+淡桃色(外) 淡白灰褐色(内)	ふつう
3506	"		"		N式	2~3㎜大の石英粒を多く含む。金ウンモ混入	SC-35 P-3	明黄茶褐色+明淡茶褐 色(外)	良 好
3507	"		高台は椀			1~3mm大の石英,長石を含む。大粒 (5~8mm) の石英粒,ウンモ混入	SC-35 P-1	明茶褐色(内外)	"
3508	"	PL.35	高坏(脚)	脚裾部14	Ⅲ式	1~5㎜前後の石英、長石を多く含む。金ウンモ混入	SC-35	明黄褐色(内外)	"
3509	"	"	,,	脚裾部12.4	WII式	1~2㎜大の石英、長石粒を含む。ウ	"	淡明茶褐色(内外)	"
3510	"		.,,	脚裾部14	"	ンモを多く含む 1~2mm大の石英, 長石粒及び赤色粒	SC-35	明黄茶褐色(内外)	"
				MAN TO LINE T	IV式	を含む。ウンモ混入 細砂及びウンモを含む	P-3 SC-36	明褐色+暗褐色(外)明	ふつう
3601	81 🔯		高坏受部		// // // // // // // // // // // // //	1㎜前後の石英、長石を含む。細か	<i>"</i>	黄褐色(内)   黒色(スス付着)(外)暗	良好
3602	"		鉢 口縁部			なウンモ微量含む 2~5㎜大の石英、長石を含む。細か	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	黒褐色(内)	
3603	"		型 口縁部		IV式外面の一 部に丹塗りの 跡を残す	なウンモ混入	"	明黄褐色(内外) 思 褐 色 (外) 明 茶 褐 色	
3604	"	-	"		"	なウンモを多く含む	"	(内)	"
3605	"		壺 口縁部		"	2~4㎜大の石器,長石を多く含む。 細かな金ウンモ混入	"	明黄褐色(内外)	"
3606	"		壺 底部		加式	1mm前後の石英粒,長石粒を含む。  微量のウンモ混入	"	黒褐色(内外)	"
3607	"		器台		IV式	1~2mm大の石英, 長石を含む (4~6 mm) の石英粒を含む。ウンモ混入	"	明黄褐色(内外)	ふつう
3608	. "		壺 底部	底 7.2	<b>光</b> II	1~2mm大の石英、長石粒を含む。金ウンモ混入	"	暗褐色(外)黒褐色(内)	良好
3609	"		"	底 6	"	lmm前後の石英,長石を含む。細かなウンモ混入	"	明褐色+黒色(内外)	"
3610						1~2mm大の石英、長石を含む。(4~ 6mm大) の石英粒, ウンモ混入	."	明汚黄褐色(外)暗黒褐 色(内)	"
3801	81 🗵		鉢	口12.5 器8.05	IV式	石英粒(1~3mm)少量混入, 金ウン	SC-38	暗褐色(外黒斑)淡褐色	"
	//	DI OC		底 6.5	"	モ微量混入   石英粒(2~5mm)少量混入,金ウン	"	淡赤褐色(内外)	"
3802	ļ.,		小形甕形土器	-		モ微量混入	"	淡褐色~暗赤褐色(外)	,,
3803	"	"	甕	口23.6 底 6	式	砂粒少量混入,金ウンモ微量混入 石英粒 (1~3mm) 少量混入,金ウン		淡褐色(内) 淡褐色~褐色(外)淡褐	
3804	"	"	器台	器21.3		七微量混入   石粒(石英粒を含む)少量混入。金	"	色(内)黒斑あり 淡褐色~暗褐色(外)褐	
3805	"	"	甕	□14.0	IV式	ウンモ微量混入	"	色(内)	
3806	"	"	鉢	口17.4 器10.5 底 7.4	"	石英粒を少量混入, 黒ウンモ, 金ウンモ, 鉄分を微量混入	"	淡褐色(内外)	"
3807	81 図	PL.36	沓形器台(土  製支脚)	裾部11.05 高11.3	IV式	石英粒少量混入,金ウンモ微量混入	SC-38		良好
3808	"		<b>発</b> 形土器 口縁部	□18	" .	2~3mm大の石英,長石を多量含む。 ウンモ混入	"	明黄褐色(内外)	"
3809	"		"	□16	"	1㎜前後の石英, 長石を多量含む。 赤色粒, ウンモ混入	"	淡白黄褐色(内外)	ふつう
3810	"		壺 口縁部		"	1~2m大の石英、長石を含む。ウンモ混入	"	明茶褐色(内)淡白黄褐色(外)	良 好
3811	"	<b>—</b>	翌 口縁部	□23	"	"	"	明黄褐色(内)淡白黄褐色(外)	ふつう
03812	82 🗵		鉢 口縁部	□21	皿式	1㎜前後の石英,長石を含む。ウン	"	赤褐色(外)暗褐色(内)	
03813	02 [2]	-	//	□14cm	"	モ混入   1~4㎜大の石英, 長石粒を多く含	"	外面丹塗り 暗茶褐色(外)茶褐色	
	"	+				む。ウンモ混入 細砂をわずかに黒ウンモ混入	"	(内) 淡白褐色(外)底部暗灰褐色(外)乳白色(内)	やや甘い
03814	-	-	壺 底部	底部 6.5	IV式	相似をわすかに黒リンモ低人   1~3mm大の石英,長石を含む。ウン	"	明黄褐色(内外)外面の	
03815	"		高坏 受部	□28	二二	を混入 2~4m大の石英,長石粒を多量含		一部黒斑あり	DC 31
03816	81 🖾		甕 底部	□ 8.5	"	む。ウンモ混入		暗褐色(内外) 暗褐色+黒色(外)茶褐	
03817	"		"	底径 5	V式	1~5㎜大の石英粒を含む。ウンモ混 入	"	增橋巴士黒巴(外)茶桶 色(内)	
03818	82 図		ふいごの羽□	径 7.8			"	"	"
03819	"	PL.36	"	" 5.7°		"	"	"	"
03820	"		脚台付甕	底径 9.5	111式	"	"	"	"
03821	"	1	高台付椀			,	SC-39	• "	"
03901	"	+	甕 口縁部	□17	畑式	細砂及び赤色粒を含む。金ウンモ多く含む	"	明褐色(内外)	ふつう

## Tab-26 野方久保遺跡出土遺物一覧

登録 番号	挿図 番号	図版 番号	器程	重 器部	法 量	形態の特徴	胎 土	出土遺構	色調	焼 成
03902	"		"		□15	"	1㎜前後の石英、長石を含む。 金ウンモ混入	"	"	良 好
03903	"		壺	□縁部		VI式	細砂及び金ウンモ多く含む	"	"	"
03904	"				□11.5	"	細砂及び1mm大の長石含む金ウン	"	明褐色(外)茶褐色+明	,,
	,,				·		モ、赤色粒混入	"	褐色(内)	"
03905	-		鉢		口器	VII	細砂を含むウンモ混入		黒色(外)淡灰褐色	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
03906	83 🗵	PL.37	壺		口13 器 5.3	VI式 外来系	"		"	
03907	82 図	"	甕		□16.6	XII式	"	"	. "	"
03908	"	"	壺		□12.6	大IV	"	"	"	"
03909	11.	"	甕		□17.8	"	"	"	明褐色(外)茶褐色(内)	<b>"</b>
03910	"		甕		□14.2	"	<i>"</i>	"	"	"
03911	"	PL.37	小形	丸底壺	口10 器 9.5	"	"	SC-39 P-1	"	"
03912	"	"	鉢		口 8.2 器 4.1	VII式	"	SC-39	"	"
03913	"		高坏	坏部	□16.5	WII式	"	"	"	"
03914	"		髙坏			"		,,	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	<i>"</i>
04001	83 🗵				D15 5	w- <del>2</del>	  細砂及び2~3㎜大の石英, 長石粒	SC-40	原担任(从)应担任(由)	<i>"</i>
		DY 00		口縁部	□15.5	IV式	を含む。細ウンモ混入	SC-40	黒褐色(外)暗褐色(内)	
04002	"	PL.38	椀		口11.5 器 4.6		細砂及びウンモを含む 細砂及び2~3㎜大の石英, 長石を	P-1	淡明褐色	"
04003	"	"	椀		底6.2		数粒含む。ウンモ混入	"	明褐色	"
04004	"	"	椀		口11.1		細砂及び 2mm大の石英, 長石粒を少 量含む。ウンモ混入	"	"	"
04005	"		椀		□12		細砂及びウンモを含む	SC-40 P-1	暗灰褐色(外)暗黒褐色 (内)	"
04006	"		"				1mm前後の石英 長石粒を含む。4~5mm大の赤色粒を数粒含む。ウンモ源入	SC-40	淡明黄褐色(内外)	"
04007	"		骸	底部	底径 7	IV式	1㎜前後の砂粒及び大粒(4㎜前後) の石英粒を含む。ウンモ混入	"	明黄褐色(内外)	ふつう
04008	"		壺	口縁部	□ 14	"	粘土 2~3mm大の石英 長石を含む。 4~5mm大の赤色粒を数粒含む。ゥン	SC-40 P-1	淡明色(内外)	良 好
04009	"	-	甕	底部	底径 5.6	Ⅲ式	1~3㎜大の石英、長石粒を含む。ウ	SC-40	灰褐色(内外)	,,
04010	,,,	-			″ 6.2	IV式	ンモ混入 細砂及び4㎜大の石英粒を数粒含	"	黒色+淡明赤褐色(外)	,,
	"	-	-	m 45.40	0.2	//	む。細かいウンモ混入 2~4mm大の石英, 長石粒を含む。ウ	,,	淡明褐色(内)	,,
04011				口縁部			ンモ混入 2~3㎜大の石英, 長石を含む。ウン		明淡褐色(内外)明黄褐色	
04012	"		"		□14.7	"	モ混入	"	(内)	ふつう
04013	"		"		□19.2	"	" B L S T # B T % + 6 B A	"	明黄褐色(内外)	良 好
04014	"		甕	底部	底 7.6	"	2~5㎜大の石英, 長石粒を多量含む。ウンモ混入	"	明茶褐色(内外)	ふつう
04101	84 🗵		菱	口縁部	□25.6	<b>た</b> 皿	1~2㎜大の石英,長石粒を多く含   む。ウンモ混入	SC-41 P-14 P-20	暗褐色(内)暗褐色+淡褐色(外)	良 好
04102	83 🖾		"		□25.2	"	0.5~1㎜前後の長石粒及び2㎜大の 石英粒を含む。細かなウンモ混入	SC-41 P-9 P-11	茶褐色+黒色(外)茶褐 色(内)	"
04103	"		"		□26.2	"	1mm前後長石粒を多く含む。細かな ウンモ混入	SC-41	外面黑褐色(黒斑)内面 明褐色	"
04104	84 🗵		"		□20	"	1~3mm大の石英、長石粒を含む。わずかにウンモ混入	"	暗褐色(外)明茶褐色(内)	"
04105	86 🗵	<u> </u>	甕	底部	底 6.3	"	0.5~2mm大の石英, 長石粒を含む。 金ウンモ赤色粒混入	SC-41 P-12	暗褐色+黒色(外)暗褐 色(内)	"
04106	"		"		底 7.2	IV式	1~3㎜大の石英, 長石粒を多く含	SC-41	明褐色+暗褐色(外)黒	"
04107	"		,,		底 8	"	む。ウンモ混入   1~3㎜大の石英,長石粒を含む。白	P-11 SC-41	褐色(内) 明褐色	"
04108	85 🕱		,,,			"	ウンモ混人  1~2mm大の石英、長石粒及び大粒	SC-41	明茶褐色(外)明褐色	"
<u> </u>		<u> </u>	-	-	底 7.5		(3~5mm) の石英粒を含む。 日ウン モ混入   0.5~1mm大の石英, 長石粒を多く含	F-21	(内)	
04109	"	<del> </del>			底 9.5	"	む。白ウンモ混入 1mm前後の石英、長石を多く含む。	30 41	暗褐色(外)黒褐色(内)	"
04110	86 図	ļ			底 6.6	"	ウンモ混入	"	明褐色(外)暗褐色(内)	ふつう
04111	85 図		"		底 7.2	皿式	石英粒 (1mm) 少量混入, 金ウンモ 微量混入	"	褐色~暗褐色(外)淡褐 色(内)	良好
04112	86 図	<u> </u>	"		底 3.4	IV式	1~5㎜大の石英,長石を多く含む。 微量のウンモ混入	SC-41 P-25	明赤茶褐色	" .
04113	85 🗵		"		底 9	m式	1~3mm大の石英粒を多く含む。微量 のウンモ混入	SC-41	明褐色(外)暗褐色(内)	"
04114	86 図		壶	底部	底 8.5	"	1~2㎜大の石英, 長石粒を含む。微量の金ウンモ混入	SC-41 P-29	茶褐色(内)明褐色+黒褐色(外)	"
04115	" .		甕	底部	底 7.2	N式	石英粒 (1~3㎜) 少量混入, 金ウンチ サウンチ 後 景浪 入	SC-41 P-19	暗褐色~淡褐色(外)淡 赤褐色(内)	"
04116	87 🗵	†··	鉢	底部	底 4	"	2~4mm大の石東成八 2~4mm大の石東大。長石粒を多量含む。大粒 (5~7mm大) の石英粒を含む。ウンモ混入	SC-41	明褐色	<i>"</i> .
04117	85 🛛	PL.39	+	口縁部	□14	外面に黒斑有	砂粒微量混入、金ウンモ、黒ウンモ	SC - 41	淡褐色(内外)	良好(やや柔
04118	84 図	PL.38	+	完形	口15.5 器32.3	田式 外面に黒斑有 IV式	微量混入   石英粒(1~2mm)金ウンモ, 黒ウン	P-2 S-41	淡褐色(外)淡暗褐色	らかい)
		1 1.30	+-		底7.8	IV式 外面の丹塗り	- モ微量混入 - 1㎜前後の石英, 長石粒を含む。細	P-5	(内)	
04119	85 図	<u> </u>	큪	口縁部	□14.2	施行 形式	1㎜前後の石英, 長石粒を含む。 細かなウンモ混入	SC-41	<b>淡明褐色</b>	"

## Tab-27 野方久保遺跡出土遺物一覧

登録 番号	挿図 番号	図版 番号	器種 器部	法 量	形態の特徴	胎 土	出土遺構	色 調	焼 成
04120		PL.39	"	□15	外面の一部に 黒斑有 IV式	1~2㎜前後の石英,長石粒を含む。 ウンモ混入	"	明黄茶褐色(内外)	"
04121	84 🖾		整 □縁部	□17.7	IV式	1~2㎜大の石英,長石を含む。細かなウンモ混入	"	明褐色+暗褐色(内)明褐色(外)	"
04122	85 🗵		壺 口縁部	□17.0	V式	砂粒 (1㎜) 少量混入, 金ウンモ微	"	淡赤褐色~淡褐色(外)	"
04123	86 図		蹇 胴部,		IV式	量混入 1㎜前後の石英,長石粒を含む。 わ	SC-41	淡褐色(内) 明褐色+黒色	ふつう
			底部		- 1	ずかにウンモを含む。 2~5㎜大の石英,長石粒を混入(徽	P-16 SC-41	明褐色+黒色(外)明褐	やや甘い
)4124	87 🖾		底部	底 5	著しい IV式	量)のウンモ混入 砂粒 (1mm) 微量混入, 金ウンモ微	P-20 SC-41	色(内)	
)4125	"	PL.40	坩	口15 器13.25	IV式 外来系	量混入	P-33	褐色~赤褐色(内外)	良好
04126	86 図		鉢	□18		1㎜前後の石英、長石粒を含む。微量のウンモ混入	SC-41	明褐色(内外)	
04127	87 図		<b>"</b>		"	1~2㎜大の石英,長石粒を含む。大 粒の金ウンモ混入	"	明茶褐色(内外)	
04128	86 図		甕 底部	底 4.5	内外面黒斑有 IV式	石英粒(2~5mm)少量混入,金ウン モ微量混入	S-41 P-20 P-14	赤褐色(外)褐色(内)	やや不良
04129	"		鉢 口縁部	□18	"	2~4㎜大の石英,長石粒を含む。ウンモ混入	SC-41	明茶褐色(外) 黒褐色 (内)	良 好
)4130	88 🖾	PL.40	高坏 接合完 形	口30.3 脚16.8	外面の器壁の 剝落が多い 田式	石英粒(1㎜)少量混入,金ウンモ, 黒ウンモ微量混入	SC-41 P-17 P-4	淡赤褐色(内外)	"
04131	"		高坏 坏部	□32	内外面に黒斑	石英粒 (2mm) 少量, 金ウンモ微量 混入	SC-41	淡褐色(内外)	"
)4132	"	PL.39	高坏 完形	口30.5 器16	有 "	石英粒 (1~3mm) 少量混入, 金ウン	SC-41	"	"
04133	87 図	1 B.00	<b>脚</b> 台付壺 底	脚16.8 底15.5	外面の表面剝 落が著しい 皿式	モ微量混入 1~4㎜大の石英, 長石粒を多く含	P-31 SC-41	黒褐色(外)明褐色(内)	やや甘い
		DI 40	部		// / / / / / / / / / / / / / / / / / /	む。ウンモ混入 1~3mm大の石英,長石粒を含む。細	SC-41	明茶褐色(外)暗茶褐色	良好
04134	88 🗵	PL.40	器台	底13.8		かいウンモ混入 石粒(石英粒を含む。2~5mm)少量	P-1 SC-41	(内)	
04135	"	PL.41		器19 よって整	タキとヒデに 形内面は指頭 ・デ整形 V式	混入,金ウンモ微量混入	P-13	褐色(内外) 明	<i>"</i>
04136	″	PL.40	"	□15.8	IV式	2~3m大の石英, 長石粒を含む。金ウンモ混入	SC-41	(内)	ふつう
04137	87 🗵	"	"	□15.2	"	1~2㎜大の石英,長石を含む。ウン モ混入	SC-41 P-20	明褐色(外)暗褐色(内)	良 好
04138	"	PL.41	"	口14 器16.8 脚17.1	"	1~3㎜大の石英,長石及びウンモを 含む	SC-41 P-20	明褐色(内外)	"
04139	"		"	口13.6 器19.8 脚16	II式	砂粒(1mm未満) 微量混入, 金ウン モ微量混入	SC-41	淡褐色~淡赤褐色(外) 淡褐色(内)	"
04140	88 🗵		器台	□14.2	IV式	2~4㎜大の石英, 長石粒を含む。ウンモ混入	"	明褐色(内外)	" .
04141	87 🖾	PL.41	"	口12.2 器16.3	Ⅲ式	石英粒(1~2㎜)少量混入,金ウン	SC-41 P-32		
04142	"		支脚	底(内)14.9 器10.3 <b>脚</b> 9.3	,,	モ微量混入   石英粒(2~3㎜)少量混入,金ウン	SC-41	淡赤褐色(内)淡赤褐色	良好
	. ,,	DI 40	<u> </u>	an 10.0 pap 3.0		モ,黒ウンモ微量混入   0.5㎜前後の長石及び1~3㎜大の石	P-8 SC-41	~暗赤褐色(外) 明褐色(内外)	"
04143	-	PL.40	壺 底部		IV式	英粒を含む 2~4mm大の石英, 長石を多く含む。	P-17		<i>"</i>
04144	"	-	器台	□15.2	Ⅲ式 脚部に丹塗り	ウンモ混入 1~4m大の石英, 長石粒を含む。わ	SC-41 SC-41	明赤茶褐色(内外)	
04145	88 🗵		高坏	受部径	の痕跡有Ⅳ式	ずかに細かいウンモを含む	P-6	明褐色(内外)	"
04146	84 🗵	PL.38	甕 口縁部	□21.3	部分的に黒斑 有 ″	1~2mm大の石英、長石粒及び大粒 (4~5mm人) の石英粒を含む。細かなウンモ混入	SC-41	暗褐色(内外)	ふつう
04147	88 図		高坏 坏部	□34.6	"	石英粒(2~3mm)少量混入,金ウン モ微量混入	"	淡褐色(内外)	良 好
04148	84 図	PL.38	大型甕 口縁部	一部に丹 口42 われる痕! 分)が認め	を施したと思 外(赤茶けた部 られる 〃	2~3㎜大及び大粒(5~6㎜大)の石 英, 長石粒を含む。細かなウンモ混	SC-41	明褐色(内外)	"
04149	88 🗵	1	高坏 胸部	脚20.1	Ⅲ式	1㎜前後の石英, 長石を含む。 ウン モ混入	SC-41 P-3	明褐色(内外)	"
04150	84 図	<b>†</b>	翌 □縁部	□25.8	IV式	1㎜前後の石英、 長石を含む。 ウンモ混入	SC-41 P-16	暗褐色(内外)	"
04151	87 図		高坏		11式	2~5㎜大の石英、長石粒を含む。ゥ	SC-41	明黄褐色(内外)	"
04152	85 図	PL.39	大形壺	口49.4 器66.6	v₹	ンモ混人 砂粒 (ø2~5mm) 少量混入	SC-41 P-10 P-17	褐色(内外)黒斑あり	"
04201		-	壺 底部	底 4.5	"	1~2㎜大の石英粒及びウンモを含む	T	田根色(内外)	ふつう
		PL.41		ма, т.о	"		SC-42	73,40 (3 (7 ) 7 )	+
04202	"	+ ‴	壺□縁部	F.0.1		2~3m大の石英、長石を多く含む。		明芙提佐(中州)	ė tz
04203	"	-	<b>鉢</b> 口縁部	□ 8.1		2~3mm大の石英, 長石を多く含む。 ウンモ混入 2~3mm大の石英, 長石を含む。ウン	SC-42 床	明黄褐色(内外) 暗褐色 + 黒斑(外)明褐	良好
04204	"		甕 □縁部		IV式	モ混入	SC-42	A BOW (A)	<u> </u>
04401	"	PL.41	"	口21.5	"	1~3㎜大の石英、長石粒を含む。金ウンモ混入	30 44	世十黒斑(内) 暗褐色(内)口縁部明褐色(集付着のため黒色 (外)	良 好
04402	"	"	甕 底部	底 7.7	Ⅲ式 .	細砂及び1~2㎜の石英,長石を含む。ウンモ混入		明茶褐色(外)淡明褐色 (内)	
04403	"		"	底 8	IV式	1~3㎜大の石英,長石粒を多く含む。ウンモ混入	"	明褐色(内)黒褐色+明褐色(外)	ふつう
04404	"		鉢 口縁		皿式	1~2㎜大の石英, 長石粒を含む。ウンモ混入	"	明茶褐色(外)暗褐色 (外)	
04405	"	1	変 底部	底 2	"	細砂及び2~4mm大の石英, 長石粒を含む。ウンモ混入	. ,,	淡明褐色(内外)	"
04406	"	PL.41	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	口14.3 器4.5	奈良	細砂及び2㎜大の石英粒を少量含	"	明褐色+黒色(外)淡明	"
04407	"	PL.42		口19.2 器15.7	11式	む。ウンモ混入 石英粒 (1~3mm) 少量混入, 金ウン		黄茶褐色(内) 暗赤褐色~暗褐色 赤 褐色~褐色(外)	. ,,
	-	PL.42	-	底5.5 口15.7 器34.1		モ微量混入   砂粒(石英粒を含む)(1〜4mm) 少   量混入,金ウンモ微量混入		褐色~褐色(外) 淡褐色(内外)	
04408	"	+ ″	壺 完形 壺 口縁部,	底9.1	Ⅲ式	量混入,金ウンモ微量混入	SC-45	-	
04501	"		胴部 山豚市,	□18.2	器面の剝落が 著しい IV式	石英粒(0.5~2㎜大)	P-45	淡赤褐色(内外)	やや不良

Tab-28 野方久保遺跡出土遺物一覧

登録 番号	挿図 番号	図版 番号	器種 器部	法	量形	態の特徴	胎 土	出土遺構	色 調	焼 成
04502	93 🗵		高坏 脚部	脚11.2	VEE	t.	石英粒(1mm大)少量, 金ウンモ微 量混入		淡赤褐色(外)淡白赤褐	良好(柔らか
04503	"		"	脚11.9	VIZ		石英粒 (1㎜大) 微量混入, 金ウン	P-33 SC-45	色(内) 赤褐色(外)褐色(内)	い感じ) 〃
04504	"		高坏 坏部	□17.9	"		- モ微量混入 - 石英粒少量,赤色粒,金ウンモ微量	P-14 SC-45	淡赤色(外)淡赤褐色	良好(やや柔
04505	,,		"	□16.6	VIII 🛨	<u> </u>	混入 石英粒(1~2㎜大)少量,金ウンモ	P-24 SC-45	(内)	らかい)
04506	91 🔯					•	微量混入 石英粒 (1~4mm) 少量, 赤色粒, 金	P-12 SC-45	淡赤褐色(内外)	"
	91 (2)		変	□12.35	有	VII式	ウンモ微量混入	P-28 SC-45	淡褐色(外)茶褐色(内)	良好
04507		PL.43	菱.	-		可思斑有, 才着 VII式		P-34	淡赤褐色(内)淡赤褐色 ~淡白褐色(外)	"
04508	"		甕 完形	口20.1 器	\$11.6 VII	<del></del>	石英粒(1㎜未満),金ウンモ微量混   入	SC-45 P-51	淡赤褐色(内外)	やや柔らかい
04509	″		壺	口 9.8 器	§13 "		細砂及び2~3㎜の石英, 長石粒を含む。ウンモ混入	SC-45	暗褐色(内外)	やや甘い
04510	92 図	PL.44	」壺 底部の 部なし	□13			1㎜前後及び3㎜大の石英,長石粒 を含む。ウンモ多く混入	SC-39 SC-45 P-18 P-20	暗褐色+明褐色(内外)	ふつう
04511	91 🗵	PL.43	壺 完形近し	□11.5	TAT →	i一部に黒 VII式	1㎜前後及び 2~4㎜大の石英, 長石 粒を含む。赤色粒ウンモ混入	SC-45 P-32	暗褐色+黒色(外)暗灰褐色(内)	良 好
04512	"		壺 完形	口14.5 器	計9.2 肥多	リー部 1 mm アル有 む。 マルズ 粒を	前後の石英、長石及び赤色粒を含 大粒(3~4mm)大の石英、長石粒を敷 さむ。細かな金クンモが多く含まれる。	SC-45 P-6	暗茶褐色+黒褐色(内 外)	"
04513	"	PL.43	壶	口11.6 器	₹17.3 <i>"</i>		細砂及び赤色粒を含む。3~4m大の石英、長石粒を数粒含む。細かなウンモを多く含む	SC-45 P-46	茶褐色(内)茶褐色+黒色(外)	"
04514	"	"	"	口11.6 器	₹16.1 VII ₹	,	茶褐色粒及び金ウンモ混入 1mm前後の石英 長石数な大粒 (4~5mm	SC-45 P-5	暗茶褐色(内外)	"
04515	92 🗵		"	□12.4	"	0.5	~1mm前後の石英 長石及び赤色粒を こ。3~4mm大の石英 長石粒が数粒 る。細かなウンモが多く混入	SC-45 P-22	明茶褐色(内外)	"
04516	"		丸底壺		"		1㎜前後の石英,長石粒を含む。3〜  4㎜大の石英粒が数粒混じる。ウン	SC-45 P-9	暗褐色+黒斑(外)明褐	ふつう
04517	"		"		"		0.5~1㎜前後の石英, 長石及び赤色	SC-45	色(内) 暗茶褐色+黒色(外)暗	良好
04518	"		"	□13	VIII	黒斑有	粒が含まれる。細かな金ウンモ混入 1~2㎜大の石英、長石粒及び赤松粒	P-21 SC-45	茶褐色(内) 茶褐色+黒斑色	"
04519	"		"	□12.4	VII 🕏		を含む。ウンモ混入 2~5mm大の石英, 長石粒を含む。わ	P-48 SC-45	茶褐色(内外)	"
04520	"	PL.44	<b>甕</b> 完形	口18.2 器			ずかに細かいウンモ混入 1~3mm大の石英,長石及びウンモを	P-16 SC-45		
04521		. //	<i>"</i>		\$18.1 "		含む 1~4㎜大の石英,長石粒及び細かな	P-4 SC-45	淡褐色(内外) 明褐色+黒色(外)明茶	
04522	"		,,				ウンモを含む	P-8 SC-45	褐色(内) 明褐色+黒色(外)茶褐	"
				□14	VIII		1mm前後の石英, 長石及び大粒(3~4mm)大の石英, 長石含む 1~15mm前後の石英, 長石粒を含む。	P-31	色(内)	
04523	91 図		夏 口縁部	□18			ウンモ混人	SC-45	淡灰褐色(外)明褐色	ふつう
04524	89 図		"	□17	N₹	<u> </u>	0.5~2㎜大の石英、長石及び赤色粒を含む。ウンモ混入	SC-45 P-2	暗黒褐色(外)スス付着 暗褐色(内)	良 好
04525	91 図		"	□17	VI⊋	<u> </u>	1~2㎜前後の石英,長石粒及び赤色 粒を含む。ウンモ混入	SC-45 P-20	茶褐色(内外)	"
04526	"		"	□13.9	"		細砂及び1~2㎜大の石英,長石粒 を含む。細かなウンモ混入	SC-45 P-31	茶褐色+黒色(外)暗茶 褐色(内)	"
04527	90 図		"	П16.1	"		2~3㎜大の石英,長石粒を多く含  む。ウンモ混入	SC-45 P-43, 47	明褐色(内外)	ふつう
04528	"	PL.42	夏 口縁部	□20	N∄	t	1~2㎜大の石英,長石を含む。ウン モ混入	S-45	暗褐色+黒褐色(内外)	"
04529	"		"	□16.7	VI∄	Ç	1~2㎜大の石英,長石及び赤色粒を 含む。ウンモ混入	SC-45 P-51	暗褐色(内外)	"
04530	"		"	□15.6	<i>"</i>		2~5㎜大(大粒)の石英,長石を多 く含む。ウンモ混入	SC-45 P-44	淡明桃色(外)暗褐色+明褐色(内)	甘い
04531	91 図		"	□13.6	"		1~2m大の石英、長石粒及びウンモを含む。3~4m大の石英粒を数粒含	SC-45 P-53	明褐色+黒色(外)茶褐色+暗黒褐色(内)	良好
04532	90 図		"	□14	VII∄		1~2mm大の石英, 長石を含む。ウン	SC-45	明褐色(外)灰褐色(内)	ふつう
04533	"	PL.42	"	□15.9	"		モ混入   1㎜前後及び 2~4㎜大の石英,長石	P-19 SC-45	明褐色+黒色(外)暗灰	"
04534	89 🗵	"	壺 口縁部	□15.5	ш≢		粒を含む。わずかにウンモ混入 1~2㎜大の石英、長石粒を多く含	P-35	褐色+暗褐色(内)	
04535	93 🔯	PL.44	高坏	口17.2 器	11.7 VI⊒	t.	む。ウンモ混入 細砂及びウンモを含む	SC - 45	赤茶褐色	良好
04536	"		高坏 坏部	脚12 口19	"		0.5~1 mm前後の石英, 長石粒を含む。ウンモ混入	P-17 SC-45	茶褐色(内外)	<b>以</b>
04537	"	PL.44	//	□17.2	"		む。ウンモ混入 1mm前後の不英、長石粒を含む。大 位(3~4mm大)の石英粒を数粒含 む。ウンモ混入	P-10 SC-45		<i>"</i>
04538	"	PL.45	小型丸底壺				型。ウンモ混入 の石英粒を敷粒含 1㎜前後の石英、長石粒を含む。ウ	P-13 SC-45	明白褐色(内外)	
04539	"	FL.45	小型丸底盘		引2.7 VIII		ンモ混入 1~2㎜大の石英, 長石粒を含む。ウ	P-28 SC-45	明褐色(内外)	
	"				₹ 9.3 VI式	に黒斑有	ンモ混入 0.5㎜前後の石英, 長石及び赤色粒	P-25 SC-45	明褐色+黒色(外)暗褐色+明褐色(内)	"
04540			"		7 0.7	の一部に	を含む。ウンモ混入	P-51	茶褐色(内外)	"
04541	"		"		・ りり円を	施す〃	細砂及びウンモを含む	SC-45 P-7	明褐色(外)明淡桃色(内)	"
04542	"		"	口 8.6 器	48 施す	及び内面部に丹を	1㎜前後の石英及び長石を含む。黒 ウンモ混入	SC-45 P-3	暗褐色+暗污赤褐色(外)暗褐色(内)	"
04543	"		"		"		細砂及びウンモを含む	SC-45 P-15	明褐色+淡明桃色(外) 淡明桃色(内)	ふつう
04544	"		"	□ 7.8	VIII⊒		1~2㎜大の石英,長石及びウンモを 含む	SC-45 P-25	暗茶褐色(内外)	"
04545	92 図		"	□ 9.7	外面無助	iに胴部 E有 "	1~2㎜大の石英,長石を含む。ウン モ混入	SC-45 P-1	暗茶褐色+黒色	"
04546	"		"	□ 9.6	VII∄		1mm前後の石英 長石粒を含む。(2 〜3mm大) の石英粒含む。わずかに ウンモ混入	SC-45	暗褐色+黒色(内外)	良 好
	"		,,	□ 9.5	"		1~2㎜大の石英長石粒を含む。ウン	SC-45	明褐色+赤色(丹外)明 褐色(内)	

## Tab-29 野方久保遺跡出土遺物一覧

登録 番号	挿図 番号	図版 番号	器種 器部	法 量	形態の特徴	胎 土	出土遺構	色 調	焼 成
番号 )4548	番号 93 図	番号 PL.45			に本の葉を拝	細砂及びウンモを含む。砂質の強い	SC-45	明褐色(内外)	ふつう
	<i>"</i>	112.45	"		IV式	0.5~1mm前後の石革 長石及び大粒	P-50 SC-45		良 好
4549	-		"	口10.3 器 8.1	177 -P	1~4㎜大の石英,長石粒を多く含	SC-4	茶褐色(内外)	ふつう
4550	″			底 4	VIIX.	む。金ウンモ混入	P-30 SC-51	明褐色+淡赤褐色(内)	<del>~~~~</del> 良 好
5101	94 図	PL.46	"	口13 器5 底6	″ 底部の一部に	後の褐色粒を含む。ウンモ混入	P-6 SC-51	明褐色+黒色(外)	
5102	93 図	PL.45	甕 底部	底8.5	黒斑有 Ⅲ式	多く含む。ウンモ混入	P-6	明赤茶褐色(外)茶褐色	
5103	"	"	"	底6.5	"	む。細かな金ウンモ混入	SC-51 P-2	(内)	ふつう
5104	"	"		口15.2 位置全体	に黒斑有V式	1~2㎜大の石英,長石粒を含む。ウ ンモ混入	SC-51 P-1	黒褐色+明褐色(外)黒 色+暗褐色(内)	良 好
5105	"	"	翌 □縁部	□18.6		刷毛目が細かい	SC-51, 52	"	<i>"</i>
5106	94 🗵	PL.46	壶	□15.4	WII式	2~5㎜の砂粒を多く含み荒い調整方法である	SC-51	明褐色+淡赤褐色(内) 明褐色+黒色(外)	良 好
5201	46 図	"	"	□13.8	口縁部に赤色 顔料付着 <b>Ⅲ</b> 式	"	SC - 52	"	"
5202	"	"	高坏	脚15	五式	"	"	"	"
5203	"		甕	□29.4	"	0.5~2mm大の砂粒を多く含む	"	"	"
5301	"		翌 □縁部	□20	VI式	1~2㎜の砂粒を含む	SC-53	赤黄褐色	堅い
	<i>"</i>		55C 口稼品 手ずくね ミ	□3.7 器2.7	1,2,24	"	"	<i>"</i>	良好
5302			ニチュア		m-t-	"	SC-54	<i>"</i>	<i>"</i>
)5401	"		器台脚部	脚15.9	Ⅲ式	″ 1㎜前後の石英,長石及びウンモを	SC-54 SC-52	″ 淡赤茶褐色+黒色(内	"
5701	"	PL.46	壺	口9.6 器11	VII式	含む   1mm前後の石英、長石粒及びウンモ	P-1	外)	
5801	"		翌 □縁部	□18	内面の一部に 黒斑有 VII式	を含む	SC-58	明褐色(内外) 明褐色+黒褐色(外)明	ふつう
5802	"		鉢	□13.4	<i>"</i>	1㎜前後の石英,長石粒を含む。2㎜ 大の石英粒及びウンモ混入	"	明褐色+黒褐色(外)明褐色(内)	良好
5803	"		甕 口縁部	□23.4	"	よく精製された粘土を使用	"	"	"
5804	"		器台 脚部	脚16.6	VI式		"	"	"
6101	95 🗵		甕 完形	口23.4 器27.0 底6.4	Ⅲ式	1~2㎜の砂粒を多く含む	SC-61	赤褐色	ふつう
6102	94 🗵		壺 底部	底8	"	1~3㎜の砂粒を含む	SC-61	"	"
6103	"		底部	底6.2	IV式	1~3㎜の砂粒を多く含む	"	茶褐色	"
20104	"		坏蓋			1~3mmの砂粒を多く含み作りが難		"	良 好
30201	95 図		壺 底部	底 4.0	111式	石英,長石粒を含む。ウンモ混入	SX-02	赤褐色+暗褐色	"
	90 🖂	<u> </u>			"	"	"	暗褐色+茶褐色	"
30202	-		高坏 底部 大型袋状口袋	底14.8		1~2mmの砂粒を含むが良質の粘土を	Pit - 1001	赤褐色+暗褐色	"
10001	"	PL.47	大型袋状口線 壺		TV式	使用している。 胎上 1~1.5mm大の石英, 長石粒を含		茶褐色(内外)外面に黒	"
10002	100 🗵	PL.51	丸底壺	□ 8.2	VII式	む。ウンモ混入	Pit-227	斑あり	-
40003	"	"	鉢	口11.0 器 8.7		石英、長石粒を含む。ウンモ混入	"	暗褐色+茶褐色	"
50101			鉢		丹塗り土器 VI式	細かな砂粒及びウンモを含む	SC-01	赤茶褐色(内外)	"
50501	96 図	PL.47	<b>甕</b> 口縁部なし	底8	外面は磨滅   Ⅲ式	"	SC-05 P-1	"	"
50502	"	PL.48	翌 □縁部	□21	IV式	"	SC-05 P-77	"	"
50503	"		壺 口縁部	□22.8	V式	"	SC-05 P-2	"	"
50504	"	PL.47	"	□22.6	"	"	" P—2	"	"
50505	"	PL.48	"	□23.8	Ⅲ式	"	P—2	"	"
50506	"	"	"	□24.4	IV式	"	P—2	"	"
50601	"	PI47	高坏 脚部	脚11.2	V≣式	細砂及び2~3mm大の石英粒を含む。		明黄茶褐色	ふつう
50602	"	1 2.47	夏 口縁部	□15.7	一部丹塗り	ウンモ混入   0.5~1mm大の石英, 長石を含む。微   量のウンモ混入		淡白褐色+淡赤褐色 (外)灰褐色(内)	. ,,
	1	D7 45		<del>                                     </del>	VII式	1㎜前後の石英,長石を含む。 ウン	P-3 SC-06 SC-05 P-6	(外)灰褐色(内) 淡灰褐色(内外)	"
50603		PL.47		口15.6 器22.2		- 年混入	SC-06	DOOR GETTIN	"
50604	1-	1	高坏 坏部	П17	WII式 外来系		P-1		"
50605	"	1-	高坏	□15.4	"	"	SC-06	淡褐色(外)淡赤褐色	
50901	"	PL.48	壺 底部	底7.9		石英粒多量混入,金ウンモ微量混入	SC-09	(内)	12 ×1
60101	109 🛭	PL.6	円盤状土盤			"	SD-01	"	"
60102	97 🗵		器台	底15.8	IV式	."	"	"	"
60103	"		高台付椀 底部	底8.0		"	"	"	"
60104	. "		2 □縁部	□15.8	VI式	"	"	"	"

Tab-30 野方久保遺跡出土遺物一覧

登録 番号	挿図 番号	図版 番号	器種 器部	法	量	形態の特徴	胎 土	出土遺構	色調	焼 成
60105	97 🗵	181-7	蹇 口縁部	□16.4		VI式	石英粒多量混入、金ウンモ微量混入	SD-02	淡褐色(外)淡赤褐色	良好
60201	100 🔯	PL.51	"	□24.2	-	表面丹塗り 全体的に磨滅	1/11/11/11/11/11/11/11/11/11/11/11/11/1	P-33 SD-02	(内)	
60202	"	PL.50	"	□16.4		内外とも磨滅	"	P-33		"
60203	"				丹塗り	中期		" SD-02	"	"
		PL.51			丹塗り、 対の穿えると思え	磨滅著しい 2 化が4ヶ所にあったる これる I式 全体的に磨滅 ロロ縁一郎に	"	P-41 SD-02	"	"
60204	"	"	甕 口縁部	□22.0		ロ縁一部に 破損 I式 磨滅が著しい	"	P-44	"	"
60205			変 底部	底10.2		日式	"	SD-02 P-50	"	"
60301	"		高坏 底部	底17.4		上 大 工	"	SD-03	"	"
60302	"		甕 底部	底 5.4		IV式	"	"	"	"
60303	"		鉢	□ 9.2		"		"	"	"
60401	97 🗵	PL.48	壺 完形	口15.2 底 9.9	器17.0	全面に煤付着 表面が荒れて	"	SD-04 P-3	. "	"
60402	"		甕 底部	底 9.8		11式	"	SD-04 P-5	"	"
60403	"	PL.48	器台 完形	口12 器 脚12.5	16.3	表面剝落の為施文方法不明	一部に縦ハケメが認められる	SD-04 P-14	"	"
60404	"	"	<b>甕</b> 口縁部	□26.8		"	"	SD-04	• "	"
60405	"	"	"	□28.4	表記	」 刺落している かに丹塗り痕	"	P-11 SD-04 P-13	"	"
60406	"		"	□27.2	1507年	Ⅲ式	"	P-13 SD-04	"	"
60407	"		"	□18.6		"	"	"	"	"
60408	"		"	□22.4		丹塗り痕わず	"	"	"	"
60501	100 🛛		鉢 口縁部	□19.4		かに残る " II式	"		"	
60502	"		壺 口縁部	110.4		"	"	SD-05		"
	"							"	"	"
60503			高坏			"	"	"	"	"
60601	."		夏 口縁部	□16.2		"	// 1- 9の丁芸 巨アナムナ、ナンマ	SD-06	"	
60602	100 図		甕 □縁部	□20.4		IV式	1~3mmの石英,長石を含む。ウンモ 混入	SD-06	暗褐色	
60603	"		甕 底部	底 5.4		11式	"	"	"	
60604	"		壺 底部	底 8.0		"	"	"	"	"
60605	"		器台	底12.6		"			"	"
62001	103 図	PL.54	鉢	□21.5	器 8.5	VI式	1~3mm大の石英,長石粒を含む。ウンモ混入	SD-20	茶褐色	ふつう
62002	104 図	PL.57	簡形器台	底13.5		V~VI式 外来系	1mm前後の石英, 長石を含む。 ウンモ混入	"	暗褐色	良 好
62003	"	PL.56	高坏			V式	1~4㎜人の石英,長石粒を含む。ウンモ混入	"	明褐色	"
62004	"		高坏 胸部	底裾径15	i	脚部に4つの 孔をもつ皿式	1~2mmの石英粒,長石粒及び3~5 mm大の石英粒を多く含む	"	暗褐色	"
62005	"	PL.56	"			VII式	0.5㎜前後の砂粒及びウンモを含む	"	赤褐色	"
62006	"	PL.55	器台	□ 8.5	底10.5	V式 外来系	細砂、ウンモを含む	<i>"</i>	暗褐色	"
62007	103 図	PL.54	壺 完形	□11.2		IV式	1㎜前後の石英,長石粒を含む。 ゥ	"	暗灰褐色	"
62008	"		鉢 完形	□12.7			ンモ多量含む 1mm前後の石英、長石粒を含む。 ウ	,,	黒色+暗褐色スス付着	ふつう
62009	"	PL.54	"	□13.8		"	ンモ混人 1mm前後の石英,長石粒を含む。ゥ	<i>"</i>	(外)暗褐色+黒色(内)	
	104 🗵	,	高坏 受部	[]		"	ンモ混入 細砂を含む。1㎜前後の石英粒及び	"	明茶褐色	良好
	104 区	DI EA	<b>鉢</b> 完形		BE 0 4		微量のウンモ混じる 0.5㎜前後の石英, 長石を含む。ウ		淡白茶褐色 暗褐色 + 淡	ふつう
	103 🔀	. L.U4	が 元形	□15.8	a≅ 0.4		ンモ混入 1~2mm大の石英粒,長石粒及びウン	"	赤褐色(内) 影白灰褐色(外)暗褐色	"
62012		DI ==		_ ""		VI式 外面に 早終り	モを含む	"	(内)	
		PL.57	筒形器台 完形		底		1~2㎜大の石英、長石粒を多く含む。ウンモ混入	"	赤褐色+淡白褐色	やや甘い
	103 🗵	PL.55	小形丸底壺	□10.8	器 8	VII式	細砂及び2~3㎜大の石英粒を含む。 ウンモ混入	"	明褐色+暗褐色(外)明褐色(内)	良 好
62015	100 図	"	坩 完形	□10	器10.3	V式 外来系	1mm前後の石英、長石粒含む。 3~4 mmの石英粒を数粒含む。ウンモ混入	"	淡茶褐色(内外)	"
62016	"	PL.56	筒形器台 完形	□15.7	器 8.2	"	1~2mm大の石英, 長石粒を多く含む。茶褐色粒をウンモ混入	"	淡白灰褐色	ふつう
62017	102 🖾	PL.53	壺 上縁部	□22		九式	2~3㎜大の石英粒を多量含む。1㎜ 前後の長石粒,ウンモ混入	"	赤褐色(内外)一部に黒 斑	やや甘い
62018	"	PL.52	"			内外口縁付近 は丹塗り <b>Ⅲ</b> 式	1㎜前後の石英、長石を含む。細かいウンモ多量混入	"	明褐色(内)明褐色+明灰褐色(外)	良 好
62019	"	" .	"	□21.5	-	11式	2~3㎜大の石英、長石粒を多量含む。大粒(5~6㎜) の石英粒を含む。ウンモ混入	"	赤褐色(外)赤褐色+淡肌色(内)	やや甘い
62021	103 図	PL.54	鉢	□17.5	器 5.8	VI式	細砂及びウンモを含む。1mm前後の 石英粒が混じる	"	明茶褐色+明灰褐色	ふつう
			小型丸底壺 完形				L *** > 3 *** ** 140 ** **	1	エスアノドロフバアの 出入と3ノ	

Tab-31 野方久保遺跡出土遺物一覧

登録 番号	挿図 番号	図版 番号	器種 器部	法 量	形態の特徴	胎 土	出土遺構	色 調	焼 成
2023		PL.55	小型丸底壺 完形	口器	VII式	細砂及びウンモを含む	SD-20	茶褐色(外)明褐色(内)	良 好
2024	103 🖾	"	"	□11.5	Ⅳ~Ⅵ式	細砂及び数量の赤色粒、ウンモを含む	"	明褐色	"
2025	"	"	鉢	口器	VI式	細砂及びウンモを含む	"	淡灰褐色(内外)	"
2026	"		"	口12.7 器 2.9	VII式	1㎜前後の石英, 長石粒を含む。 ウンモ混入	"	暗褐色(外)淡褐色(内)	やや甘い
2027	"	PL.55	"	日13.6 日数	部は内外とも 向へのへうこ VI式	//	"	茶褐色(内外)	良好
2028	"	7 2.00	"	器 4.7 第4	VI式 VI式	1㎜前後の石英、長石を大粒(4㎜	"	"	
32029	"	,,	"	口13.7 器 3.8	"	大) の石英が数粒混じる 1㎜前後の石英, 長石粒を含む。 ゥ	"	黑褐色+灰褐色(外)暗褐色口縁一部淡褐色	良 好
		PL.56		□17	<b>V</b> I式	ンモ混入 1mm前後の石英, 長石を含む。3~4		福色 ロ縁一部淡褐色 黒斑有 淡茶褐色 外面に黒斑	,,
52030	104 図		-			mm大の石英を数粒含む 砂粒微量混入,金ウンモ微量混入		有 淡褐色(内外)	"
52031	"	PL.55	小型丸底壺	口11 器14.5		1mm前後の褐色粒及び細砂を含む。	"		ふつう
2032	"	PL.56	高坏	口19.7 器13.7	脚部に3個の 孔をもつ V式 外来系 脚部に4個の	ウンモ混入 2~3㎜大の石英, 長石粒を多く含		明褐色(内外) 淡白灰褐色,内底部の一	
2033	"	"	箇形器台	口18.3 器 7.6	北をもつ	む。ウンモ混入 1~2㎜前後の石英,長石粒を多く含		淡白灰褐色, 内底部の一 部黒斑	良好
2034	103 🗵	壺	PL.54	□11	IV式	む。ウンモ混入		茶褐色	ふつう
32035	"	"	鉢	□13.3	VII式	"		淡灰褐色	"
32036	"	"	"	口19.3 器10.7	IV式	" " " " " " " " " " " " " " " " " " "		淡褐色+黒色(外)淡褐色+淡灰褐色(内)	"
52037	105 図	PL.57	器台	口器	内外の酸化鉄 付着 II式		<i>"</i>	明茶褐色+暗灰色(外) 明茶褐色(内)	良 好
32038	104 図	PL.55		□10.5		1~2㎜大の石英,長石粒を多く含し。ウンモ混入	"	淡白褐色	"
52039	105 図	PL.57	支脚	□13.5	V式	1~2㎜大の石英,長石粒を多く含む。ウンモ混入	SD-20, 21	暗褐色(内外)	"
52040	103 🗵	"	坩	□19	IV式	1mm前後及び大粒 (3~5mm大) の石英, 長石を含む。ウンモ混入	"	暗褐色(内)淡褐色(外)	ふつう
52041	105 図	PL.57	器台	口器	一部に酸化鉄 III式	1mm前後の砂粒及び大粒(4~5mm) の石英を含む。ウンモ多量含む	"	茶褐色+暗灰褐色	良 好
52042	104 🗵	PL.55	壺 完形	□12.3 器16	VII式	1㎜前後の石英, 長石を含む。ウン モ混入	"	淡褐色(内外)	ふつう
52043	103 図	PL.53	<b>甕</b> 完形	口20.5 器37.7	VI式	2~4㎜大の石英,長石粒を多く含む。ウンモ混入	"	黑褐色+暗褐色+黒色 (内)黒色+淡明灰褐色 (外)	"
52044		PL.56	高坏 胸部	脚裾部19	11式	"	"	"	"
52045		PL.53	獲	口17.1 器22.4	VII式	"	"	"	"
52045	104 🗵	1 L.55	手ずくね土器	111.1 10522.4	1234	"	,,	"	良好
	104 Z	DI EC		F191 7	VI式	. "	"	· "	"
62047	ļ	PL.56	高坏受部	□21.7	-	"	"	"	"
62048	102 🖾		整 口縁部	□19.4	VII式		"	" "	"
62049	-	PL.57	支脚		VI式	"			"
62050	102 図	PL.53	甕	□19.2	"	″ 1~3mm大の石英, 長石粒を多く含	"	"	
62051	"		甕 口縁部	□20.3	"	む。微量のウンモ混入	// ED 20	暗褐色+黒色	"
62052	104 図	PL.56	高坏		V~VI式	細砂及びウンモを含む。微量のウン モ混入	SD-20 P-20	暗褐色(内外)	
62053	101 🗵	PL.52	大型甕	口32 器51.5	IV式	"	P-20		"
62055	102 図	PL.53	甕 口縁部	□23.8	V式 外来系	1~2㎜の砂粒を含むが精製された粘 土を使用している	".	暗褐色	"
62101	105 図	PL.57	"		V式	<b>"</b> ,	SD-21		"
62102	106 図	PL.58	直口壺	口12.2 器30.5	VI式	1~3㎜の砂粒を含む。胴部中央につなぎ部分あり	SD-21	赤褐色	
62103	106 図	"	壺	□19.2	V式 外来系	<u> </u>	"	"	
62104						"			
62105	106 🛭	PL.58	直口壺	□14	V式	."	SD-21	暗褐色	
62107	"	1	鉢	口13.8 器 7.8	V式	"	"	"	
62108	"	PL.58	高坏	口16.8 器12.2		"	"	"	
	105 🗵	-	<b>賽</b> 完形	口20 器33.5	-	"	"	"	-
62110	+		壺 口縁部	□26.4	V式	"	"	"	
		1		<del>                                     </del>	-		"	,,,	
62111	+		高坏 受部 泰形土器	□28.2	工				良好
62112	1	1	壺形土器 口縁部	□37.2	IV式	3~5mmの砂粒を多く含む 1~2mmの砂粒を含み、良質の粘土を	SD-21	明褐色+暗褐色	及 好
62113	-		高坏 口縁部		二式	使用	l "		
62114	"	1	甕 口縁部	□16.8	V式	"	"		
62115	"		壺 口縁部	□15.0	V式	. "	"	"	"

Tab-32 野方久保遺跡出土遺物一覧

登録 番号	挿図 番号	図版 番号	器種 器部	法 量	形態の特徴	胎 土	出土遺構	色 調	焼 成
	106 図	-	鉢 口縁部	□25.2	п式	1~2mmの砂粒を含み、良質の粘土を 使用	SD-21	明褐色+暗褐色	良 好
62117	105 図	PL.58	壺 口縁, 胴部	□26.8	幾内系 VI式	1~2mmの砂粒を含むが良質の粘土を使用している。	"	赤褐色+暗褐色	"
90001	98 図	PL.49	志 口紀	□21.2	幾内系 Ⅲ式	"	SX-01	"	"
90002	"	"	甕 口縁,	□25.7 器41 底 4.5	平底 全面ハ ケ目 IV式	"	"	"	"
90003	"	"			IV式	"	"	"	"
90004	99 🗵	PL.50	壺 完形	口13.0 器15.2	"	"	"	"	"
90005	"	"	"	口13.4 器19.9	底部に丸みを もつ IV式	"	"	"	"
90006	"	"	甕 完形	口15.8 器22.6 底16.6	皿式	"	"	"	"
90007	98 🖾	PL.49	器台? (フィ ゴの羽口か)	脚径13.2		//	"	"	"
90008	"		器台 完形	上径10.8 下径 9.2	IV式		"	"	"
90009	"		筒形器台	.,		"	"	"	"
90010	"	PL.49	袋状口縁壺	□24.6	11式	"	"	"	"
90011	٠,,,	"	壺	□ 5.4	IV式	"	"	"	"
90012	"		高坏り脚部	脚裾部15.8	脚部中央に4 つの孔を有す 皿式	"	"	"	"
90013	"	PL.49	壺	口 9.3 器 7.6		"	"	"	"
90014	99 図	PL.50	甕 (下甕)	口38.7 器55.5	"	"	SK-01	" .	"
90015	"	"	蹇 (上蹇)	<b>左</b> 對	を打ちかきを こっている 底 不明 10式	"	"	"	"
90016	"	PL.51	夏 完形	□30.2 器43.2		"	包含 P-1	"	"
90017	101 図		蹇 底部	底6.2	上工	1~3㎜の砂粒を多く含む	SE-01	赤褐色	"
90018	"		壺 底部	底7	IV~V式	丸みを持ち凸レンズ状を呈する	".	"	"
90019	"	PL.52	器台	上6 器11.5 底10	V式	1~3mmの砂粒を多く含み作りが難	"	"	"
90020	101 図	PL.52	<b>蹇</b> □縁, 胴部	∏19.4	IV式	石英、長石粒を含む。ウンモ混入	SX-06	暗褐色+赤褐色	"
90021	"		夏 口縁部		VIL式	"	SX-02	"	"
90022	"		高坏		九日	"	"	"	"
90023	"		臺 □縁部	□21.8	IV式	"	"	"	"
90024	"	-	鉢 口縁部	□24.2	IL II	"	"	"	"
90025	"		甕 口縁部	□16.4	VI式	"	"	"	"
90026	"		"	□15.4	"	"	" -	"	"
90027	"		甕 底部	底 5.6	皿式	"	"	"	"
90028	"		器台 底部	底16.6	"	"	· "	"	"
90029	"		高坏 胸部	脚14.4	Ⅱ式	"	"	"	" .
90030	"		甕 底部		皿式	<i>"</i>	SX-05	赤褐色+暗褐色	"
90031	"		器台 底部	底14.2	"	. "	"	"	"
90032	"		甕 底部	底 5.4	"	"	"	"	"
90033	"		高坏 口縁部		" .	"	"	"	"
90036	95 図		麗 口縁部		11式	"	SK-05	赤褐色+茶褐色	"
90037	"	1	蹇 底部	底7.6	皿式	"	"	"	"
90038	"		"	底6.2	"	"	. "	"	"
90039	"		高坏		11式	"	"	"	"
90040	"		夏 口縁部	□16.2	VII式	"	CE-06	"	"
90041	"	PL.47	"	□17.2	"	"	"	"	"
90042	"		高坏	口17.8 器11.3	VI式	"	"	"	"
90043	"	PL.47	壶	□11.6	VII式	"	"	"	"
90044	"		高坏	□36.6	11式	"	"	"	"
90045	101 図	1	壺 底部	底 6.4	IV±	"	SX-02	"	"

Tab-33 野方久保遺跡出土遺物一覧

登録	挿図 番号	図版 番号	器種 器部	法 量	形態の特徴	出土遺構	登録番号	挿図 番号	図版 番号	器種 器部	法 量	形態の特徴	出土遺構
番号 70001		番号 PL.14	メノウ勾玉	/A B	10.85 of 14.180	SK-01	番号 70041	番号	番号 PL.60	石包丁	10×4.2×0.8	頁岩	ш <u>т</u> жа 149
70002	//	//	ガラス玉	0.65 × 0.65 ×	ライトブルー	JK - 01	70041		r L.00	// // // // // // // // // // // // //	6×4×0.5	凝灰岩	包含層
70003	"	"	"	0.61	"	"	70042	"	"	"	6.3×4.3×0.5	<b>姚</b> 久石	SX-01
70003	"	"	"		"	"	70043	"	"	"	6×4.3×0.8	<i>"</i>	SC-06
	"		<i>"</i>		"	"	70044	"	"	棒状石器		″ サヌカイト	SC - 37
70005	"		"		"	"	70045		" PL.14	キヌタ状石器	$4.2 \times 4 \times 1$ $5.3 \times 13.8 \times$	Scraper 砂岩製	SC-41
	"	"	"		"	<i>"</i>	70047	107 図	PL.60	キメラ仏石碕	4.8		SC-41 SC-01
70007	"		"		. "	"	70047	109 図	PL.59	石鍋滑石	2×9.3×1.3 25×7.5	滑石製	SC - 27
70009	"		"		"	"	70048	// // // // // // // // // // // // //	//	タタキ石	$7.2 \times 12.4 \times$		SD-02
70010	"		"		"	"	70050	"	PL.60		4.7 3.4×8.2×0.9	砂岩	包含層
	. "	"	<i>"</i>		"	<i>"</i>		"	PL.60	砥石		少石	
70011	' "	"	"		."	"	70051	"	"	"	3.4×3.7×1.2		B地点
70012	"	″	"		<i>"</i>	<i>"</i>	70052	<i>"</i>	"	"	1.9×7.6×1.3	粘板岩	SC-08
70013	"	<i>"</i>	. "		"	"	70053	ii ii	"	"	10.8×9.9×3		SC-49 SC-45
70014	<i>"</i>		"	1		"	70054	<del> </del>	"	,,	$6 \times 6.4 \times 1.7$ $5.7 \times 13.8 \times$	砂岩	P-56
70015	"	. "	"		"	"	70055	"	"	"	3.3	"	SC-22
70016							70056				3.7×5.9×1.7		SC-61
70017		"					70057	"	<i>"</i>	"	3.3×4.2×1.0	<i>"</i>	"
70018	"	"	"		"	"	70058	. "	PL.59	. "	4.7×9.9×1.5	粘板岩	SC-38
70019	"		"		<i>"</i>	"	70059		PL.60	<i>"</i>	1.1×6.7×1.5	粘板	SC-11
70020	"	"	" 石鏃, サヌカ		″ 肩が張るタイ	<i>"</i>	70060	"	"	"	7.3×12×2.5	砂岩	SC-58
70021	"	"	11	1.6×3×0.4	肩が張るタイ プで択入部は 浅い	1号墳	70061	"	"	"	11.5×13×18	"	SC-45
70022	"	"	滑石製勾玉	1.1×3.5×1		SC-17	70062		PL.59	<i>"</i>	7.8×10×1.5	"	SD-20 SC-61
70023	"	"	ガラス小玉滑石製勾玉未	0.25×0.21×2	スカイブルー		70063	"	"	"	5.2×11×1.4	<b>粘板岩</b>	P-2 SC-13
70024	"	"	製師	0.8×1.7	滑石製 研磨の工程ま	SC-39	70064	109 図	PL.60	敲打器	$\begin{array}{c} 7.5 \times 8 \times 4 \\ \hline 2.4 \times 11.6 \times \end{array}$	花崗岩	S-1
70025	"	"	土製勾玉	0.9×3.3 4.7 × 10.5 ×	さいたらず 土部に火を受	SC-07	70065	108 図	"	砥石	1.3	粘板岩	Pit-601 SD-20
70026	"	PL.59	滑石石錘	4.7 × 10.5 × 3.1 238 g 1.8×4.8×1.6	けた痕跡あり	"	70066			"	11.5×13×3.0	砂岩	P-20
70027	"	"	"	198 g 5.8 × 17.8 ×		SC-02 床 SC-07	70067	109 図	-	投弾	$2.8 \times 5.3 \times 2.8$		SC-38
70028	108 🖾	″		1.3 15.3 × 25.7 ×		P-24	70068	107 図		砥石状石器	$2.1 \times 4.3 \times 1.3$ $14.2 \times 22.4 \times$	砂岩	SC-61
70029	110 🗵	<i>"</i>	砥石	5.8		SC-07	70069	110 図	"	砥石	2.8	"	P-3
70030	108 図			$10 \times 12.8 \times 5.7$		SC-07	70070	"	"	"	$11.3 \times 47 \times 4.5$ $9.4 \times 16.4 \times$	"	S-1 SC-06
70031	"			10.8×9.9×3		"	70071	110 図		砥石	8.1 6.5 × 10.4 ×	砂岩	S-1 1号墳墳丘
70032	109 図			17 • 21.7×5.7 5.5×8.2 253	博多湾型分銅	SC-03	70072	108 🖾	"	"	7.5 × 13.7 ×	"	内出土
70033	"	PL.59		g	型	SD-03	70073	//	"	"	5.1	"	SC-10
	108 🖾	"	磨石	5.7 × 11.2 × 5.4	101441	SD-001		109 図		磨石	6.3 × 12.3 × 5.9	22.4	SX-01
70035	109 図	"	磨製石斧	6.5 × 14 × 3.7 638 g	玄武石	"	70075	"		"	13×18.8×7.1		SD-20
70036	"	"	"	6.3×9.2×3.2	"	SD-63	70076	-	<del> </del>		13.6 × 31.7 × 5.2	砂岩	
70037	"	"	磨製石斧片	6.7×8.4×3.3	"	第1号墳	70077	108 図	"	// およりて父士動	6.6 × 13.5 × 2.6	"	SC-01 床
70038	"	"	磨製石斧	$7.4 \times 6.5 \times 2.4$	安山岩	SD-21	70078	"	"	柱状石斧未製品	4.3×1.4×3.5	頁岩	Pit-341
70039	"	"	横匙	6.2×5	サヌカイト	包含層	70079	109 図	"	磨製石斧	7.8×8.6×3.5	玄武岩	Pit - 555
70040	"	"	金錘	13.3×9.6	滑石	SD-20					ļ		

Tab-34 野方久保遺跡出土遺物一覧

遺物登 録番号	出土地点	遺構	器 種	金属器名	備 考	遺物登 録番号	出土地点	遺構	器 種	金属器名	備考
80001	A 地点	SC-33	銅鏃	銅 111-1	処理	80002	"	"	銅製鋤先	銅 111-11	未処理
80003	"	"	楔状鉄器	鉄	処理	80004	"	SC-38	鉄鏃	鉄 112-2	"
80005	"	"	銅鏃	銅 111-9	"	80006	"	"	"	銅 111-2	"
80007	"	"	"	銅 111-3	"	80008	"	SC-39	"	銅 111-10	未処理
80009	"	<i>"</i>	"	銅 111-8	"	80010	"	"	"	銅 111-6	"
80011	"	"	"	銅 111-4	処理	80012	"	"	"	銅 111-5	"
80013	"	SC-41	"	銅 111-7	未処理	80014	"	SD-02	銅銭	銅	処理
80015	"	"	"	"	"	80016	"	1 号墳	銅鏃	鉄	
80017	"	1号墳 墳丘内	鉄鏃	"	多数	80018	"	"	Л	鉄 112-18	
80019	"	"	"	鉄 112-19		80020	"	1号墳丘	不明	鉄	
80021	"	SC-2	"	"	3片	80022	"	"	,, .	"	2片
80023	. //	SC-4	"	"	1片	80024	"	SC-8	"	"	2片
80025	"	SC-26	"	"	鉄滓は抽出	80026	"	SC-29	鉄鏃	鉄 112-1	
80027	"	SC-41	不明	鉄		80028	"	SC - 45	手斧	鉄 112-5	黒耀石は抽出
80029	"	"	不明	鉄 112-7		80030	"	SC - 57	"	鉄	
80031	"	SC-61	  一括	"		80032	"	SC-61, P-6	"	"	
80033	"	SD-02	板状	鉄 112-16	0	80034	"	SD-09, P-1		鉄	
80035	"	SD-11	一括	"	多数一括	80036	"	Pit 95	不明	"	
80037	"	Pit - 502	"	"		80038	"	Pit - 606	"	" .	3片
80039	"	Pit-607	"	"		80040	"	Pit - 627	"	"	
80041	"	Pit -1205	釘	鉄 112-14		80042	"	Pit 1031	不明	鉄	
80043	B地点	Pit - 43	"	"	2 片	80044	"	Pit - 127	"	"	4 片
80045	"	Pit - 178	板状	"	2片	80046	"	Pit - 369	不明	"	"
80047	"	Pit-380	"	"		80048	"	なし	"	"	
80049	第3地点	Pit - 113	板状	"		80050	"	Pit - 185		"	
80051	"	Pit - 289	手斧	"		80052	"	Pit410 SX-01	"	鉄 112-6	
80053	"	Pit - 435	一括	鉄	鏃他一括	80054	"	Pit-439	"	"	5 片
80055	A 地点	SC-26	鉄鴻	"		80056	"	SC-33	"	"	
80057	"	SC-38	"	"		80058	"	SC-39	"	"	
80059	"	SE-01	"	"		80060	"	Pit - 38	"	"	
80061	"	Pit - 69	"	"		80062	"	SX-01	"	" .	
80063	B地点	Pit - 441	"	"		80064	"	ST-6	"	"	
80065	1号墳	墳丘.	鉄鏃	鉄 112-9		80066	"			鉄 112-10	
80067	"			鉄 112-11		80068	"			鉄 112-12	""
80069	"			鉄 112-13		80070	SC-61	付着地	鉄鋤先	鉄 112-3	
80071	"	"	板状	鉄 112-8							

## 第Ⅵ章 ま と め

A 地点の第1号墳・住居址・掘立柱建物・土壙状遺構・井戸状遺構などや B 地点の水田跡・小児甕棺墓・溝・住居址の遺構の記録やそれぞれの遺構から出土した土器・石器・金属器をできるだけ多く記録として記載した。紙面の都合上、記載できなかった遺物もあるが、記録として保存する報告書という思想からすれば、ほぼ満足していただけると思う。そのために十分に考察を加えることができなかったことは歪めない。ここで調査によって判明した点とその問題点を上げ、まとめにかえたい。

- 1)野方久保遺跡1次調査検出の住居址の前後関係について
- 2) 野方久保遺跡1次調査の成果について
- 3) 野方久保遺跡群について
- 4) 野方中原遺跡と野方久保遺跡の住居址の在り方について
- 5) 野方中原遺跡と久保遺跡の土器の形式分類について 以上5つの設問を設定した。
- 1)野方久保遺跡1次調査検出の住居址の前後関係について

#### A 地点の住居址について

A 地点から61軒の竪穴式住居址が検出された。台地上に2軒、他は、台地下の南西部から北側にかけて台地を囲むように検出された。南西部から西側にかけて段落ちがある。試掘トレンチを十文字に設定し、調査した結果、砂の堆積が約1 m認められ、河川であったことが明らかとなった。何時の時点で大洪水によるものかは定かではない。ただ遺構が崩壊している所からおおまかな時期は考えられる。SD—02が破壊されているところから鎌倉時代から室町時代以降であろう。

調査区内の住居址は、そのほとんどが切合い関係を持っている。住居址間の切合いや奈良時代から室町時代にかけての溝状遺構・柱穴・掘立柱建物・土壙状遺構等により破壊され、その前後関係を調べるのにも時間を費やした。

住居址間の切合い関係を整理すると以下のようになる。切合っている順(新しい方から)――。 SC-08→SC-15→SC-16、SC-01→SC-17、SD-1が SC-03と SC-06・18を切る。 SC-10→SC-51→SC-52→SC-12、SC-53→SC-12、SD-02→SC-14→SC-13、SC-07→SC-09、SC-02→SC-54→SC-25→SC-05、SC-17→SC-01、SC-20→SC-19→SC-22、SC-56→SC-26、SC-23→SC-47→SC-24→SC-29を切る。 SC-35→SC-29→SC-30、

SC-27→SC-28、SC-31→SC-58を切り、SC-58は SC-33・34からも切られる。SC-41→SC-36、SC-33→SC-36・34・32・58を切る。SC-46→SC-44、SC-38→SC-44、SC-46→SC-45→SC-40→SC-39→SC-43を切る。SC-55・59は土壙状遺構に切られる。

次に出土遺物からみた住居址の時期を考えると、

弥生時代後期後半に位置付けられる住居址は、SC—12、SC—15、SC—16、SC—17、SC—19、SC—20、SC—22、SC—23、SC—36、SC—38、SC—41、SC—42、SC—44、SC—52、SC—54、SC—61、SC—05、SC—59、SC—60の19軒である。

遺構の配置は、南西部から  $SC-52\rightarrow SC-12$ 、 $SC-15\rightarrow SC-16$ 、 $SC-17\rightarrow SC-54\rightarrow SC-05$ 、 $SC-20 \cdot SC-22\rightarrow SC-19$ 、 $SC-41\rightarrow SC-36$ 、 $SC-38\rightarrow SC-44$ 、SC-59、SC-60、SC-600切合い関係を持ち、建替を考えれば配置は、グループごとに分けられる。 $SC-12 \cdot 52$ と  $SC-15 \cdot 16$ を第 1 グループと考える時、第 2 グループは  $SC-54 \cdot 17$ と  $SC-19 \cdot 20 \cdot 22$ 、第 3 グループを SC-23、第 4 グループを  $SC-36 \cdot 41$ と  $SC-44 \cdot 38 \cdot 42$ となり、単独に位置するものが SC-18と SC-59がある。遺物からみて切合い関係は、ほぼ同時期であり、弥生時代後期に位置付けられる。

古墳時代の住居址で圧内式併行期と考えられる時期に比定できる住居址は1軒もない。すべて布留式併行期かそれより新しい時期に位置付けられる。遺構番号は、SC-01、SC-02、SC-03、SC-04、SC-07、SC-08、SC-09、SC-10、SC-13、SC-14、SC-21、SC-24、SC-29、SC-30、SC-31、SC-32、SC-33、SC-34、SC-35、SC-39、SC-40、SC-45、SC-51、SC-53、SC-57、SC-58、SC-06、SC-37、SC-26、SC-27、SC-28、SC-56の32軒である。

この内布留式併行期を新・古に区分すれば、古布留式併行期に属する住居址は、SC—03、SC—04、SC—08、SC—09、SC—13、SC—14、SC—21、SC—28、SC—32、SC—33、SC—39、SC—40、SC—45、SC—51、SC—58の15軒である。これに対して新布留式併行期に属する住居址は、SC—01、SC—02、SC—06、SC—07、SC—10、SC—24、SC—26、SC—27、SC—29、SC—30、SC—31、SC—35、SC—53、SC—56、SC—57の15軒である。

古布留式併行期自体切合い関係が認められ、これが建替えるとすれば、台地と西側段落ち部分とにそって配列されていることが窺える。SC—51は単独、SC—03と SC—08、SC—13と SC—09・SC—14、SC—04が単独、SC—21が単独、SC—32から34・SC—58・SC—39と SC—40、SC—43と SC—45を建替と考え、一時期に約7軒を想定できる。

新布留式併行期に属する住居址は、SC-24、SC-29、SC-30、SC-35の切合い関係を除けばほぼ 2 軒を 1 単位として構成される。SC-10と SC-53、SC-06・SC-07と SC-57、SC-01と SC-02、SC-24と SC-31、SC-46の 5 単位で約 6 軒を想定できる。

SC-60は、谷部 (東側) に検出されたが著しい削平を受け住居址と確認するのにとどまっ

た。この周辺には、平安時代から鎌倉・室町時代にかけての掘立柱建物が検出され、柱穴・土 壙状遺構・溝状遺構が密集している。また弥生時代後期の遺構がないわけではない。SX—01に は、取上げは困難であったが弥生時代後期後半の遺物が出土している。

SC-61は、古墳の南側台地上に1軒だけ検出された。SC-61自体かなりの削平を受けていたがやや低い部分に位置していたこともあり、辛うじて検出することができた。単独で住居址があることは考えにくいので古墳築造時にかなり削平を受けたことが考察できる。古墳の周辺は、赤褐色粘質土が露出し、上面には、遺構をまったく乗せない状態であった。

SC-61は、弥生時代後期の住居址であり、台地下の住居址と大差はない。

#### B地点の住居址について

B地点からは、8軒の竪穴式住居址を検出した。B地点は、中央部が高く両側に低くなる地形であったため中央部のみに柱穴等の遺構が検出された。検出時は、水田址と同時期の遺構と考えたが、水田址の土層断面から遺構の切合い関係が確認され時期のあることが判明した。中央部は、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての遺構があり、上面に水田址の排水溝のみが確認され、これを結ぶと水田区画ができた。これにより中央部の切合い関係は著しく、遺構から出土する遺物もかなり混在している。

中央部上面から検出された住居址は 6 軒である。SC-01から SC-04は切合い関係が認められる。新しい順から  $SC-01 \rightarrow SC-02 \rightarrow SC-03 \rightarrow SC-04$ の順である。時期は、出土土器から SC-01、SC-02、SC-05が布留式併行期の新しい段階、SC-03、SC-04が布留式併行期の古い段階に位置付けられる。

南側水田下から中央部にかけて SD—20、 SD—21とともに 2 軒の住居址を検出した。 SC—08、SC—09である。SC—05は、SC—06との切合い関係を持ち、SC—06が布留式併行期、SC—05が弥牛時代後期終末期に位置付けられる。

SC-08、SC-09は、弥生時代後期後半に位置付けられる。このほか SD-20、SD-21が庄内 式併行期から弥生時代後期後半の遺物が多量に出土し、 また SX-01からも同時期の遺物が出土している。

## 2) 野方久保遺跡1次調査の成果について

#### 野方久保遺跡1次調査の発掘調査の成果は

- 1. 台地上に位置した古墳が円墳ではなく方墳であった。
- 2. A 地点の北西側に60軒近い住居址群が検出され、時期も弥生時代後期の住居址と古墳時 代前期(布留式併行期)に属すること。
- 3. 住居址の内、現位置を保った遺物が確認され、それらは、すべて火災による家屋の放棄によるものである。

- 4. 弥生時代から室町時代にかけて掘立柱建物・溝状遺構等が谷部より検出された。
- 5. 台地上にも弥生時代の住居址(SC-61)が検出され、全体的に住居空間として利用されていたことが判明した。
- 6. 住居址の時期で弥生時代後期後半と布留式併行期は、検出したが、古墳時代の初頭の庄 内式併行期に属する住居址が B 地点の SC—06しか検出されず、A 地点からは、まったく検出 されていない。庄内式併行期の移動が今後非常におもしろい問題を提起した。
- 7. 銅製品を出土した住居址(SC-33、SC-35、SC-38、SC-39、SC-41)や鉄製品(SC-29、SC-45、SC-61、SX-01)や鉄滓を出土する住居址・Pit 等が多く、特に弥生時代後期の住居址(SC-38、SC-41、SC-61)には注目せざるをえない。銅製品・鉄製品は、第 4 次調査の弥生時代後期の住居址からも 2 本の銅鏃・鉄斧・鉄鏃が出土している。これらから野方久保遺跡群の弥生時代から古墳時代の銅生産・鉄生産の問題も提起した。
  - 8. 住居址が日影となる北西側に位置する要因は、何によるものなのか。
- 9. B地点における水田址の問題で、上下合わせて5枚の水田跡を断面、平面で確認したが、立地的には悪環境である(南側に台地があり、その比高差6mを測り、常に日影の状態にある点と西側約20mで十郎川に達し、上流の水流が激げしくなる部分)。
- 10. このような悪条件下に住居址が8軒、掘立柱建物6棟があるが、これは何の要因によるものか。
- 11. 台地下中央部に崖面を削り、小児甕棺墓を埋葬している。これの附属施設として SD—05 の溝を造っている。小児甕棺墓には、小型勾玉、ガラス玉等の装飾品を副葬している。
- 12. B地点の住居址も A 地点と同様に弥生時代後期から古墳時代前期に位置付けられるが、 庄内式併行期は 1 軒しかなくそのほとんどが布留式併行期であり、庄内式併行期に属する遺物 は、SD—20、21と SX—01と包含層中に認められただけである。
- 13. 野方久保遺跡における庄内式併行期の遺構検出は住居址1軒だけしか認められない。これが何の要因によるものか。これに対し、国史跡野方中原遺跡には、住居址内から庄内併行期の土器が出土している。しかし完掘されたものではないし、概報の写真のみであるため、明確な判断は出来ない。昭和61年に史跡整備事業のため、環濠内の調査を実施し、弥生時代後期後半の住居址を検出する際、住居址内にトレンチを設定し、住居址の時期を確認する作業を行なった。この時に庄内式併行期の住居址を検出したが、目的が弥生時代後期後半の住居址であったため幅50cmのトレンチで終了しているため全容は明らかでない。

## 3) 野方久保遺跡群について

野方久保遺跡群の北側は、牟多田遺跡の西側まで延びる台地までで、十郎川に沿って南下するが、南端は、1次調査B地点で終了する。東側は、扇状地が広がる壱岐団地までつづく。

野方久保遺跡群は、現在まで第4次調査が終了している。第2次調査は、1986(昭和61)年に調査され、弥生時代前期末から中期後半の甕棺墓等が67基調査され、甕棺内部から細形銅剣と把頭飾や碧玉製管玉、ヒスイ製勾玉等が副葬されている。調査区の北側では、弥生前期末~中期前半代の遺物も出土している。第3次調査は、第1次調査B地点の北西側に位置し、170㎡を調査した。検出した遺構は、溝・土壙・ピットで古墳時代後期以降から中世までの時期を調査担当者は考えている。第4次調査は、第1次調査A地点の西側、第2次調査地点の南側に位置し、第1次調査区から約150mの距離に位置する。検出された遺構は、竪穴式住居址8軒溝二条、土壙16基で、弥生時代後期の時期である。住居址内部からガラス玉、銅鏃・鉄斧・鉄鏃・滑石製臼玉等が出土している。

野方中原遺跡の南側に野方塚原遺跡がある。この遺跡からは、箱式石棺等が検出され、古墳 時代初頭に位置付けられる。

野方久保遺跡群の調査から、弥生時代前期末~中期末の甕棺墓、弥生時代後期後半の野方中原遺跡の環濠集落、野方久保1次・4次の住居址群、古墳時代前期の墳墓を有する塚原遺跡・中原遺跡、それらの時期の住居址群は、中原遺跡と久保遺跡群1次調査に認められる。

これらのことから野方久保遺跡群は、弥生時代前期末から室町時代までの期間、途中遺構が存在しない時期はあるものの、連続的に生活を営む場所として、また生産地として利用されていたことが明らかとなった。今後の調査により空白も埋まり、その実態も明らかになることと思われる。

## 4) 野方中原遺跡と野方久保遺跡の住居址について

国史跡「野方遺跡」(野方中原遺跡)の史跡整備で、1986(昭和61年)年に弥生時代後期の環濠集落を調査することとなり、環濠内の後期住居址のみを検出し、整備・復元する事業に携わった。この時、弥生時代後期後半の住居址には、かならず住居址周辺部に小柱穴が巡ることが確認された。これは、これまで静岡県登呂遺跡で復元された竪穴式住居とは異なり、壁が立つ構造を呈する。これは新しい発見であった。野方久保遺跡 1 次調査は、1983(昭和58年)年の調査であることと、切合い関係が著しかったこともあり、竪穴式住居址の周辺部の小柱穴の確認等は考えてもみなかった。しかし実際に図面を起こしてみると、周辺部に小柱穴のある住居址も確認(SC—04、21、24、27、28、30、38)できた。しかし他の竪穴式住居址には、その痕跡がない。すべて壁の立上がる建物ばかりではなく、従来の登呂遺跡の住居も併存していたと思われる。

今後の調査例をまって考察しなければならない問題と思われる。

## 5) 中原遺跡と久保遺跡の土器の形式分類について(付図-3)

野方久保遺跡からは、数多くの住居址、溝等が検出された。これらの遺構内より出土した遺

物は膨大な量で、それぞれが遺構の時期を決定する重要な資料であった。特に住居址から出土した資料は、数多く、一括資料として価値の高い一級ばかりである。野方久保遺跡と同時期の野方中原遺跡は、十郎川を狭んで西側100mに位置する。昭和48年の発見で、51年に国史跡となり、61年から史跡整備事業<sup>伊</sup>が行なわれ、平成2年に史跡公園としてオープンした。昭和61年に遺構確認調査を行ない、弥生時代後期後半の住居址と環濠を調査した。確認調査であるため古墳時代の住居址等は対象からはずしたためその内容は定かではないが、表面確認だけでも100軒以上(環濠内)確認しており、全域では、300~500軒以上の住居址が推察できる。

確認調査の整理で弥生時代後期後半の土器群がある。昭和48年の確認調査時にも数多くの土器群が出土しているが、写真図版のみで図示されているのは、極くわずかであるため、古墳時代の土器を今回入れこむことができなかった。資料的には、重要なものばかりで、整理、研究が行なわれていれば、早良平野の弥生後期から古墳時代前期までの土器編年が確立するものと考えられる。整備報告の中で試みたが、膨大な資料と予算の制約のため断念せざるをえなかった。今回も久保遺跡の整理でその時間がとれず、今後の課題として考えておき、今回は、整備報告の中で使用した弥生時代後期から遺物を取り上げ、形式分類の中に組込んだ。

今回図化した遺物の総類は、1150点、その内土器は、950点である。出土遺物を見ると弥生時代中期から室町時代までの遺物があり、その内弥生時代後期から古墳時代前期までの土器を形式分類した。

出土遺物の中で、口縁部・底部の形態と施文の形態等により甕形土器・壺形土器を8つに区分し、高坏・器台等は、それに適合させた。

#### 甕形土器

甕形土器は、口縁部・底部・施文の形態より区分した。

**I式** 弥生中期からの流れを持つ形態で、口縁部内唇が内側に入るタイプで、出土した遺物は丹塗り土器である。

Ⅱ式 口縁部が「く」の字状口縁を呈し、内側に稜を有するもので、底部は、立上り部位が明確に区別でき、直線的な形状を呈する。内外面とも刷毛目を施し、底部外面まで丁寧に仕上げている。刷毛目は縦方向を示す。

**Ⅲ式** 口縁部は「く」の字状口縁であるが、内面の稜がより下方に下り、より「く」の字状を呈する。底部は、平底であるが、Ⅱ式ほど立上り部位が明確ではない。刷毛目は縦方向。

**IV式** 口縁部の「く」の字状がやや立上り、底部が凸レンズ状を呈するのが特徴である。外面の刷毛目は、横・縦方向に施す。

**V式** 底部が尖底を呈し、ラグビーボール状となる。器厚は薄く仕上げられ、外面に横方向のタタキを施し、内面には刷毛目を施す。口縁部は「く」の字状を呈し、口唇部内側につまみ出しを行なう。

IV式とV式の間にもう一式あることも考えられる。

VI式 器厚はV式よりやや厚く、底部は卵形の尖底を呈する。外面胴部中位より上に横方向のタタキを施し、胴部中位下は、箆ナデ及び削りを施す。内面は、刷毛目、ナデ消し、指ケズリを行なっている。

VII式 □縁部は「く」の字状□縁を呈するが、器厚が薄く、底部が球形の丸底を呈する。外面は、横・縦・ナナメの刷毛目を施すが、まだ丁寧に行なっている。内面は、箆削りを施す。

WII式より胴部が張り、より一層球形を呈する。器厚が厚く「く」の字状口縁部の屈曲がはげしい。外面はWII式同様に横・縦・ナナメの刷毛目であるが、雑で法則性に欠ける。

#### 壺形土器

甕形土器に対応する I 式は認められない。

II式 中期末の袋状口縁からの流れにみられるもので、頸部の締りが緩やかである。広口壺は、口縁部が短かく「く」の字状となり、底部は平底で、立上りもシャープな仕上げである。

Ⅲ式 逆「く」の字状となる口縁部を有し屈曲する部分が鋭く、頸部の締りもある。広口壺は、口縁部の「く」の字状がやや緩かになる程度であまり差は認められない。

Ⅳ式 逆「く」の字状口縁を持つ壺形土器は、頸部の締りが緩やかである。40001はⅢ式に近いものであろうが、口唇部に沈線を巡らすことでⅣ式に組入れた。鋤先状に開く口縁を持つ壺形土器04512、04148は、口唇部に箆の背による刻目を入れ、突帯等にも刻目を入れる施文を有する。内外面とも縦方向の刷毛目を施し、底部は平底である。大型土器の底部は、土師器段階にも平底を呈する傾向があるとの指摘(注1)があるが、平底とするより凸レンズ状に近い形態を示すのではないであろうか。広口壺の底部にも変化がみられる。平底ではあるが、かなり凸凹する。他に直口壺がみられる。04118は口縁部が「く」の字状に広くが、底部に凸凹が認められ、一応Ⅳ式に入れた。

V式 IV式の逆「く」の字状口縁が、V式では垂直に立上る形態を呈する。直口壺は、口縁部がやや外反する。外面は横方向のタタキ、内面は、横方向の刷毛目を施す。V式の出土遺物は少ないため明確ではない。

VI式 野方中原遺跡に代表的な壺形土器がある。逆「く」の字状口縁の流れを持つ壺形土器は、口縁部が直立し口唇部が外に大きく外反することである。このほか直口壺では、底部がやや尖る丸底を呈し、口縁部がやや外反するが直立して立上る。このほか野方中原遺跡から口縁部が直立する壺や、62117の二重口縁壺等をこのVI式に組み込んだ。

VII式 野方中原遺跡にその代表的な壺がみられる。VI式の壺形土器より外反し端部で立上る 形態をする。この口縁部に類似する00313は、胴部中位よりやや上に最大径を持ち、球胴形を呈 する。底部は丸底である。

#### 鉢形土器

紙面の都合上、分類基準だけを記す。

鉢形土器は、口縁部・底部の形態、内外面の施文調整方法で区分した。

#### 高坏・器台

高坏は、受部・口縁部・脚部の形態と施文調整方法で区分した。器台も同様な基準で区分したが、支脚や筒形器台は、点数が少ないため、施文調整方法、形態で区分した。

以上のように野方久保遺跡と野方中原遺跡出土の代表的な土器に対して形式分類を試みた。 この分類に編年的要素を組み合せると

I 式が土器形態から中期末に位置付けられる。

II式は、後期初頭(田崎・柳沢編年ではIA、常松編年ではI式)に位置付けられる。

Ⅲ式は、後期中頃(田崎・柳沢編年ではⅡA~ⅡB、常松編年では、Ⅱ式~Ⅲ式か)に位置付けられる。

IV式は、後期後半(田崎・柳沢編年ではⅢA~ⅢB、常松編年では、IV式)に位置付けられる。 V式は、後期後半~古墳初頭に位置付けられる時期で、田崎・柳沢編年ではⅢC、常松編年では、V式に位置付けられる。

VI式は、常松編年のVI式で、田崎編年では土師器 I 様式の A~B に位置付けられる。

Ⅵ式、Ⅷ式は、田崎編年での土師器 Ⅰ様式の Сから Ⅱ様式に位置付けられる。

外来系土器について

胎土分析を行なっていないので明確な資料とはならないが、肉眼的観察等により判断した。 SC-03から00302、303、305、313、316、326、329の7点、SC-07から00734のほかにも類似したものがある。 SC-17から01713が、SC-39から03906が、SC-41から04125が、B 地点 SX-01から90001が、SD-20から62002、62006、62013、62015、62016、62032、62033、62055の8点が出土し、SD-21から62103、62117の2点が出土した。これらの土器は、山陰系、瀬戸内系(吉備系)幾内系、東海系と各地方の特徴を有している。紙面の都合上、記述することはできなかった。

以上で野方久保遺跡1次調査の報告のまとめとしたい。

- 注 1 福岡市教育委員会「国史跡、野方遺跡環境整備報告書」福岡市報第313集 1992年
- 注2 田崎博之・柳沢一男「弥生時代終末から古墳時代初頭の土器編年」
- 注3 常松幹雄、『古代探叢』「伊都国の土器、奴国の土器」 1992年

# 図 版



1 遺跡遠景(西から)



2 A 地点空中写真(北西から)



3 A 地点遠景(南から)



4 住居址遠景(南東から)



5 A 地点遠景(南東から)

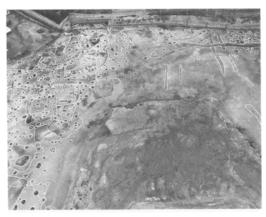


6 住居址遠景(南東から)

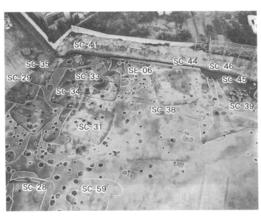
## PL. 2



1 住居址遠景(北から)



2 住居址遠景(南から)



3 住居址近景(南から)



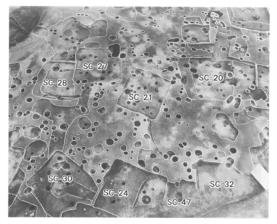
4 住居址近景(北西から)



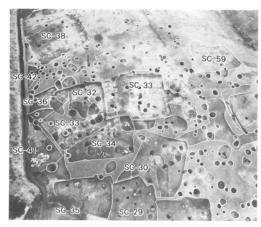
5 住居址近景(南西から)



6 住居址近景(南東から)



1 住居址近景(西から)



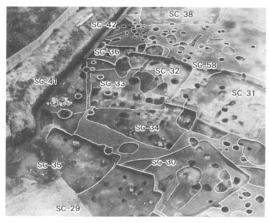
2 住居址近景(西から)



3 住居址近景(西から)



4 住居址近景(北から)



5 住居址近景(南西から)



6 住居址近景(北東から)

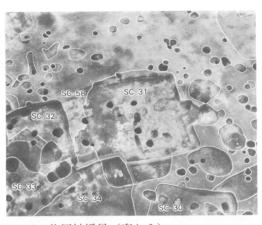
## PL. 4



1 住居址近景(北西から)



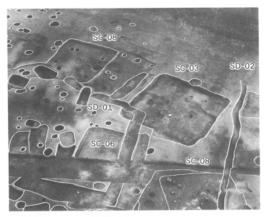
2 住居址近景(南から)



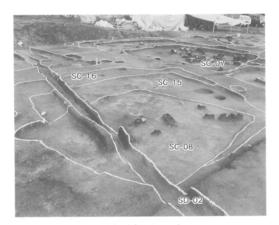
3 住居址近景(東から)



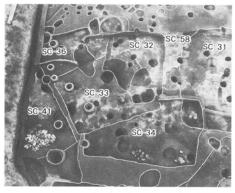
4 住居址近景(南から)



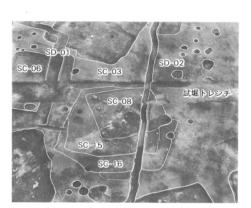
5 住居址近景(西から)



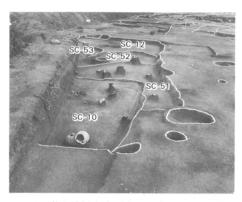
6 住居址近景(南西から)



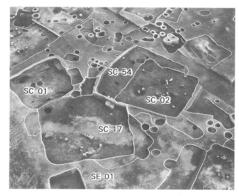
1 住居址近景(西から)



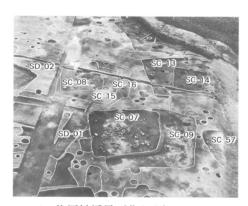
3 住居址近景(西から)



5 住居址近景(南から)



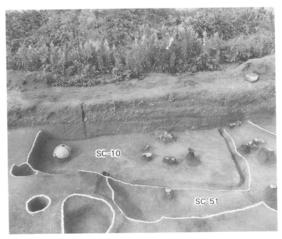
2 住居址近景(南西から)



4 住居址近景(北から)



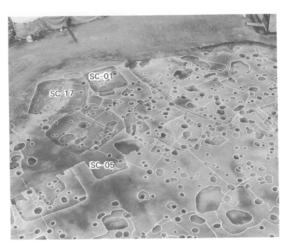
6 SC-07 近景(北から)



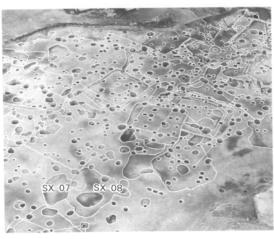
1 SC-10 近景(東から)



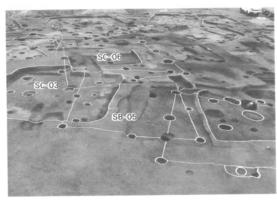
2 SC-07・09 近景(西から)



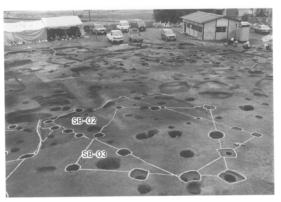
3 住居址と掘立柱建物(東から)



4 住居址と掘立柱建物(南東から)



5 住居址と掘立柱建物(東から)



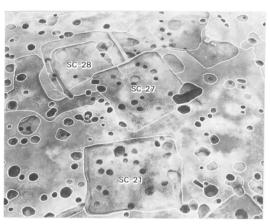
6 住居址と掘立柱建物(南東から)



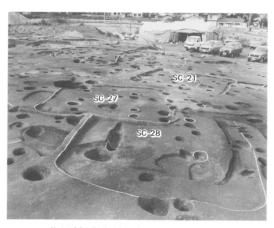
1 住居址近景(南から) SC-08,15



2 住居址近景 (東から) SC-07,09



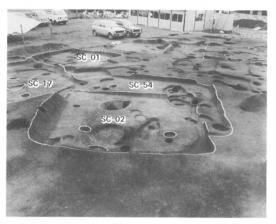
3 住居址近景(北西から) SC-21,27



4 住居址近景(北東から) SC-27,28



5 住居址近景(西から) SC-27



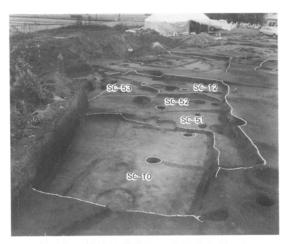
6 住居址近景(南東から) SC-02,54,01



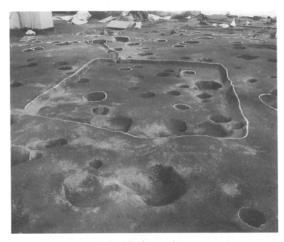
1 住居址近景(南西から) SC-38,44



2 住居址近景(東から) SC-07,09



3 住居址近景(南から) SC-10,51



4 住居址近景(南東から) SC-21



5 SC-41 出土土器近景(東から)



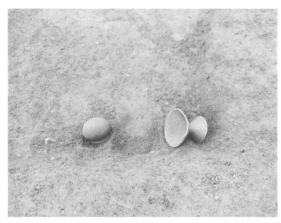
6 SC-45 出土土器近景(南から)



1 住居址近景(北東から) SC-03



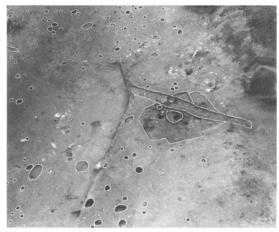
2 SC-03 出土土器近景(西から)



3 SC-03 出土土器近景(南から)



4 SC-03 出土土器近景(東から)



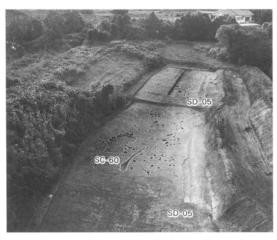
5 住居址近景(北から) SC-61



6 SC-61 出土遺物近景(北東から)



1 谷部 (3 地点) 遠景 (南西から)



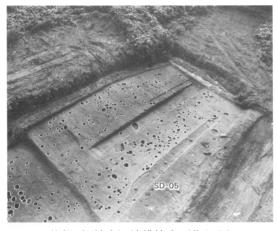
2 谷部 (3地点) 遠景 (北から)



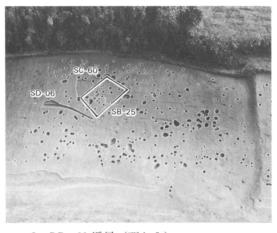
3 谷部(3地点)遺構検出(南西から)



4 谷部(3地点)遺構検出(西から)SB-23



5 谷部(3地点)遺構検出(北から)



6 SC-60 近景 (西から)



1 B地点水田址検出遠景(北から)



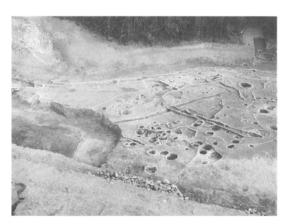
2 B地点水田址検出近景(西から)



3 水田址近景(北西から)



4 水田址全景(北東から)



5 中央部遺構検出(北から)



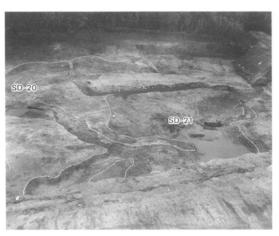
6 中央部遺構検出(北から) SC-05,06 他



1 東側水田址検出状態 (西から)



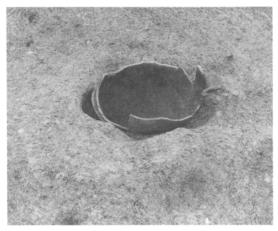
2 水田址と溝検出状態(東から)



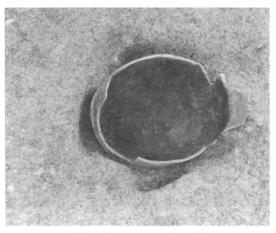
3 水田下検出 SD―20, 21 (北から)



4 水田下検出 SC-08,09全景(北から)



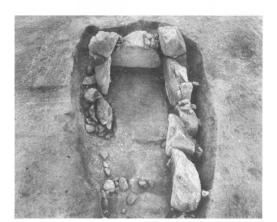
5 小児甕棺墓検出状態(北から)



6 小児甕棺墓検出近景(北から)



1 第1号墳全景(調査前)(北から)



3 第1号墳石室全景(南から)



5 石室奥壁と地山状態(東から)



7 墳丘西側土層状態(南から)



2 第1号墳全景表土排除状態(西から)



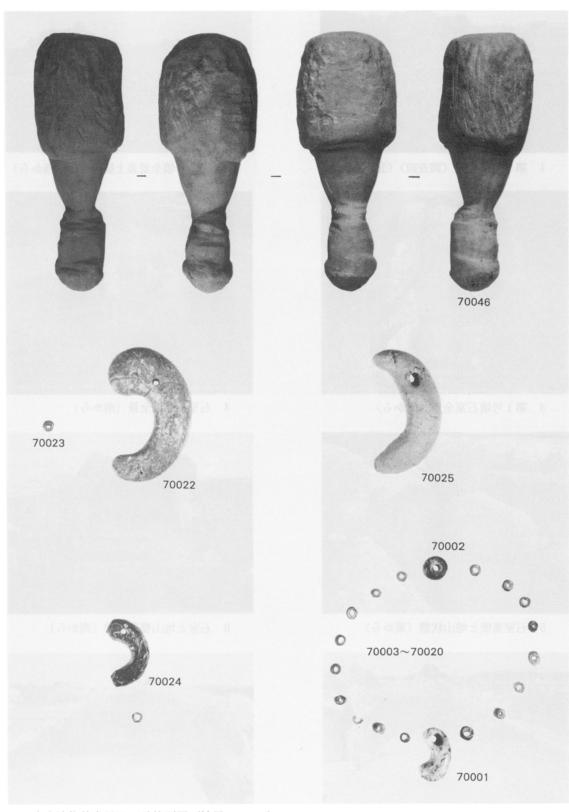
4 石室・墳丘全景(南から)



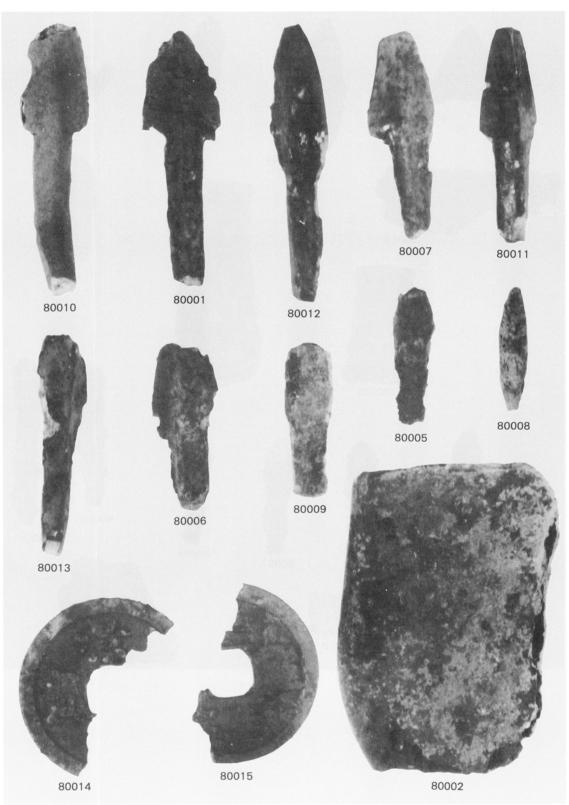
6 石室と地山整形状態(南から)



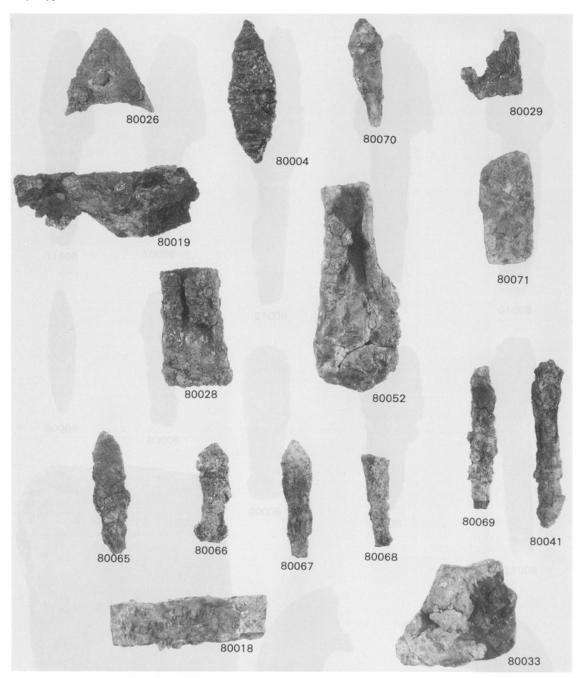
8 墳丘東側土層状態(南から)



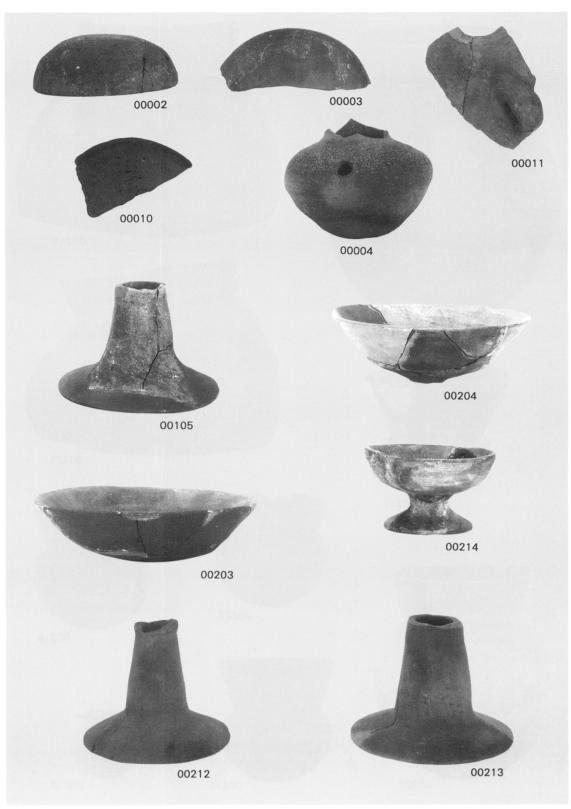
出土遺物装身具及び砧状石器(縮尺1/1,1/2)



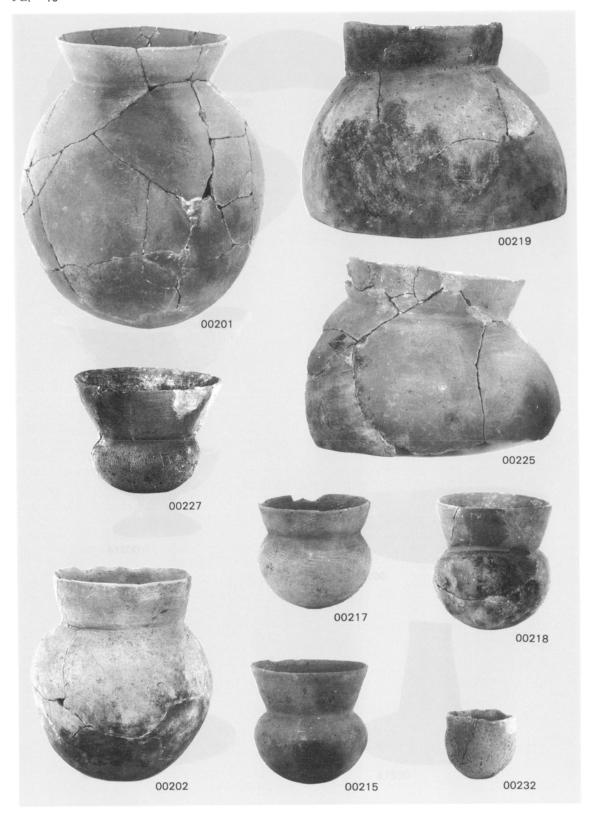
出土銅製品(縮尺1.7倍)



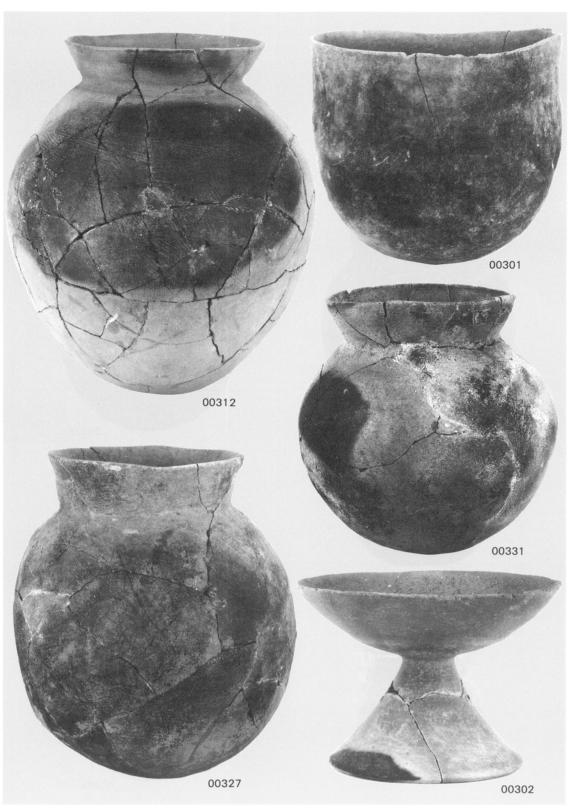
出土鉄製品(縮尺1/3)



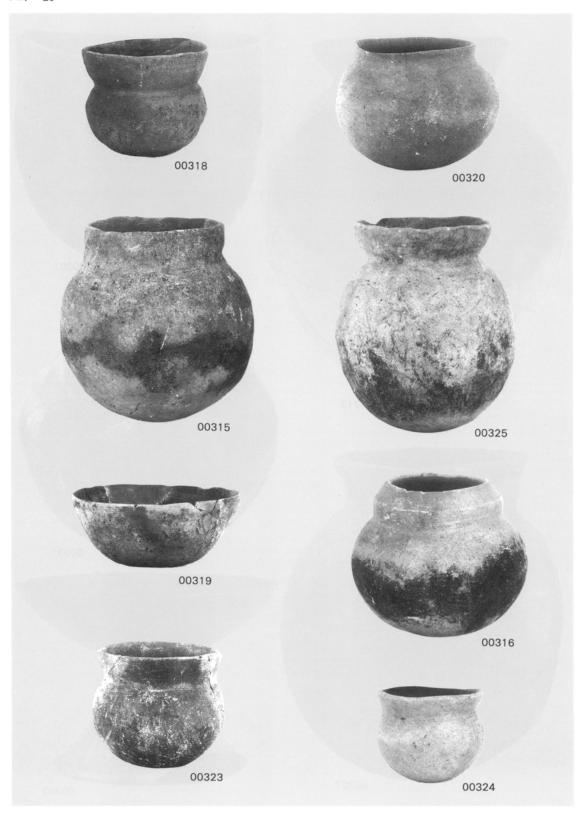
出土土器—1(縮尺1/3)



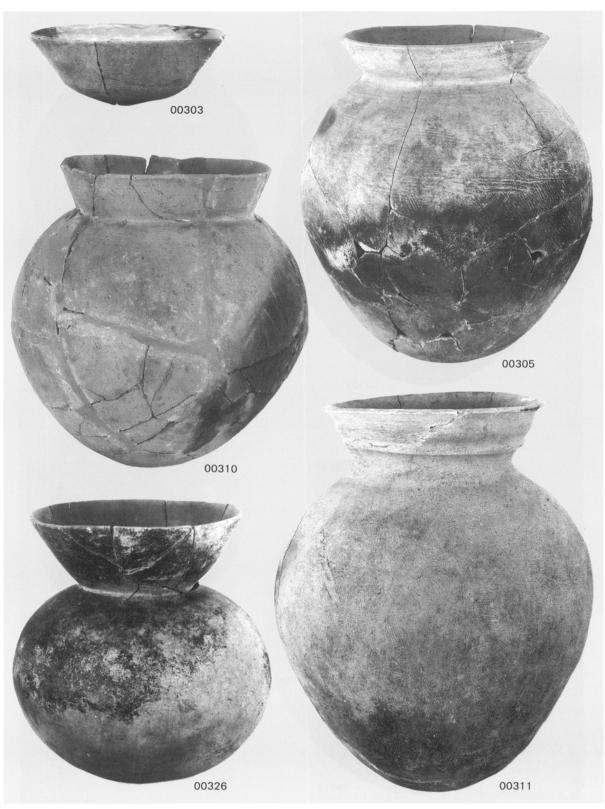
出土土器—2(縮尺1/3)



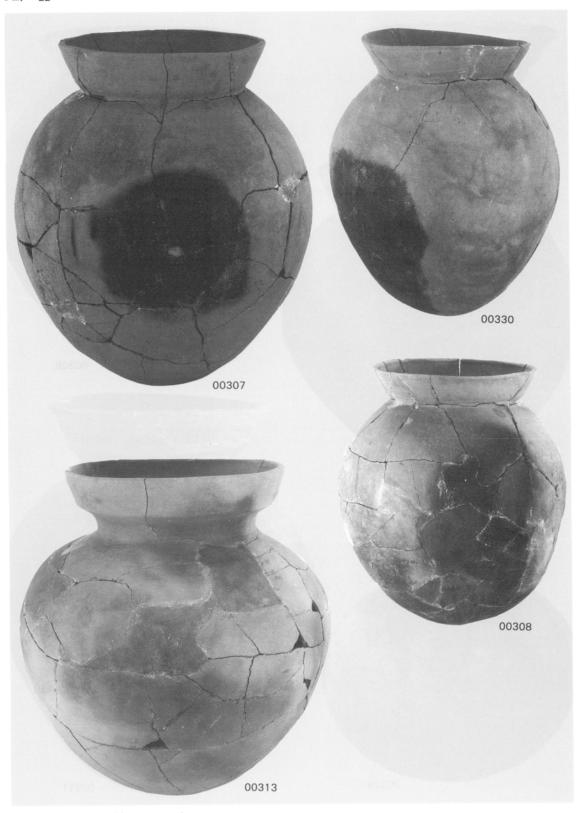
出土土器一3(縮尺1/3)



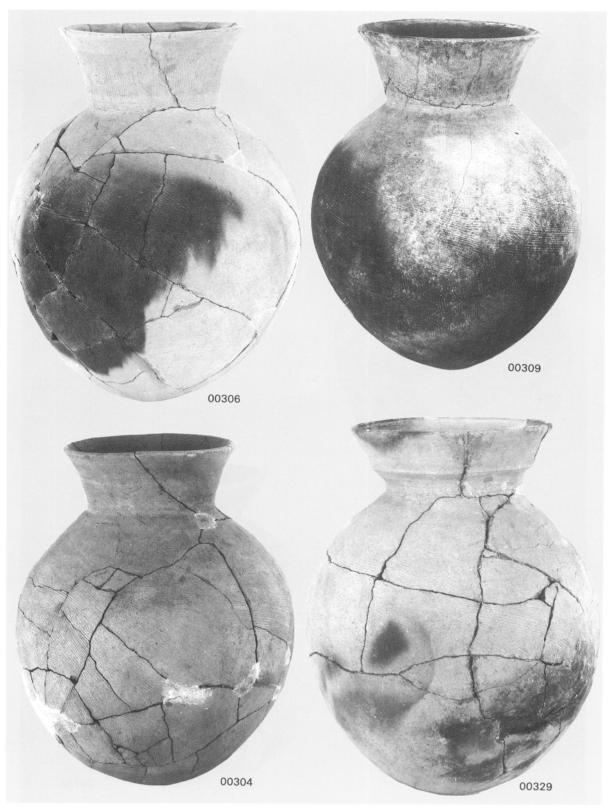
出土土器—4(縮尺1/3)



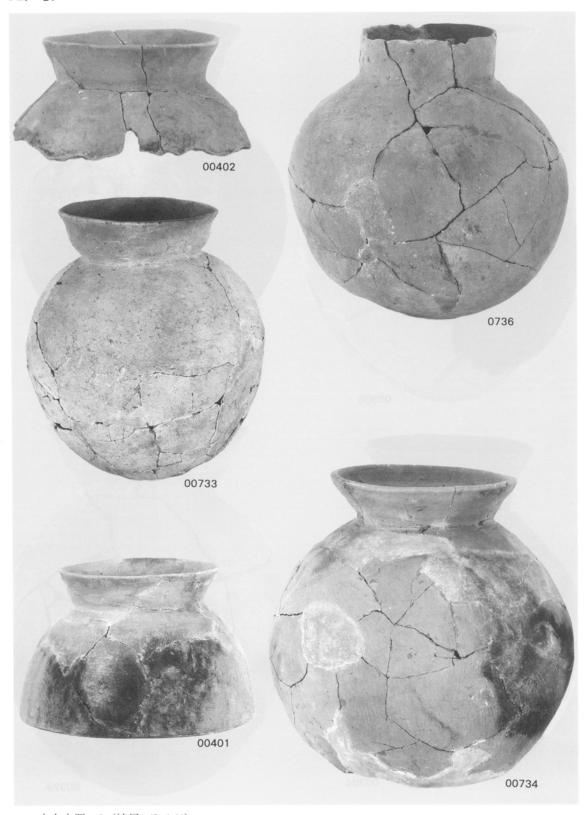
出土土器—5(縮尺1/3)



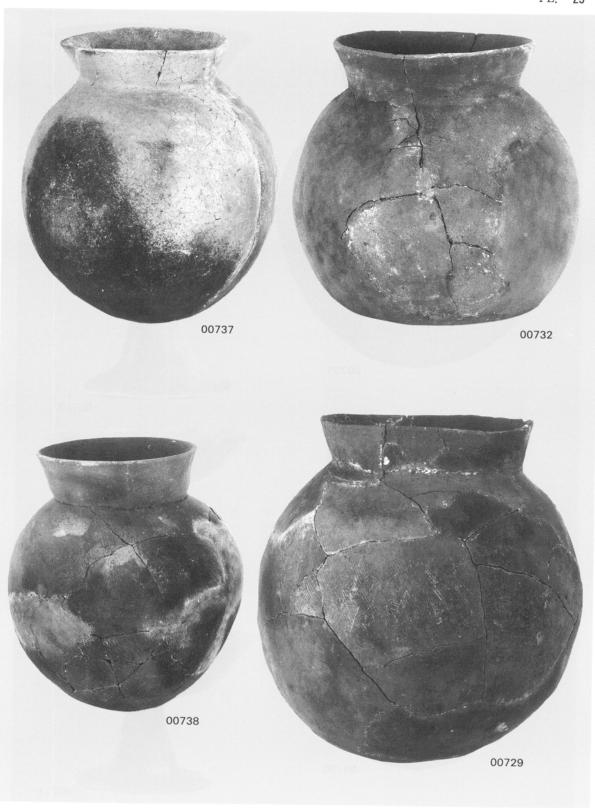
出土土器—6 (縮尺1/3,1/4)



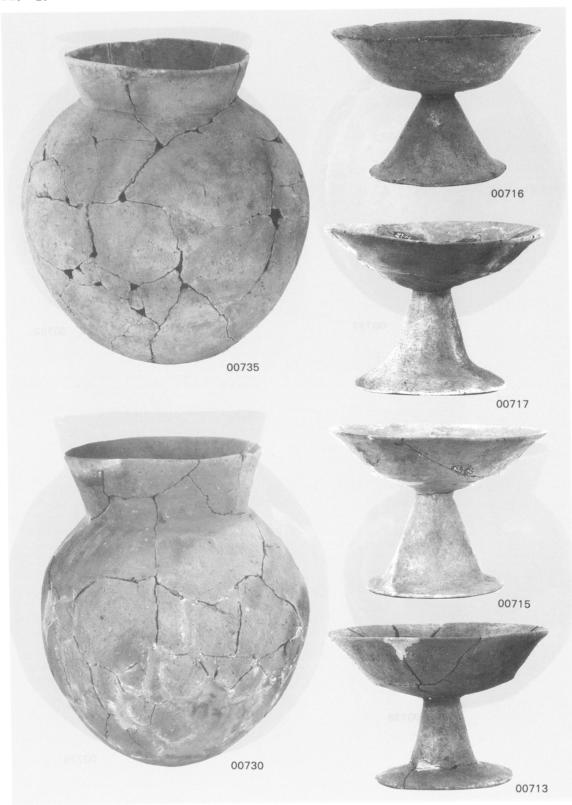
出土土器-7(縮尺1/4)



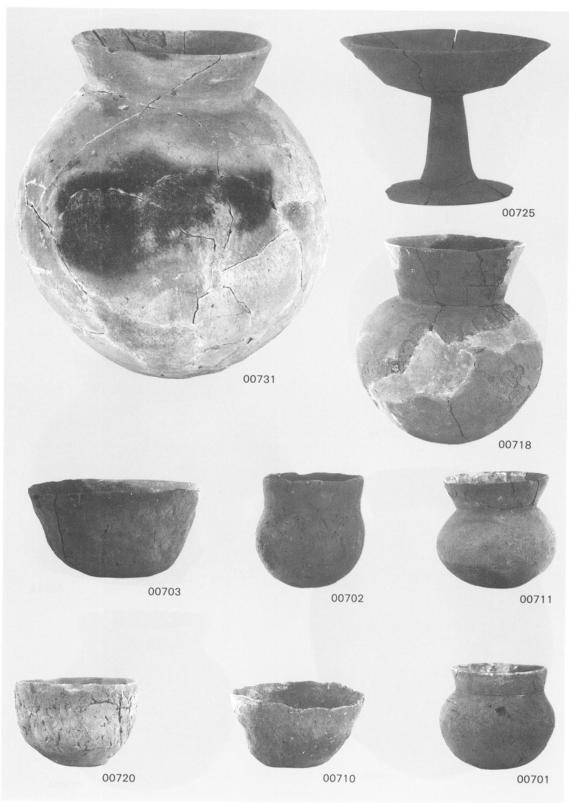
出土土器—8 (縮尺1/3,1/4)



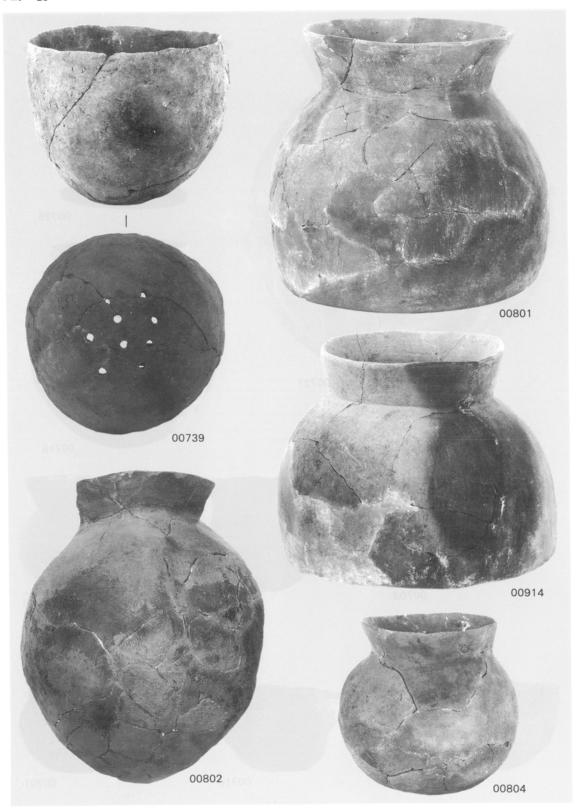
出土土器—9 (縮尺1/3,1/4)



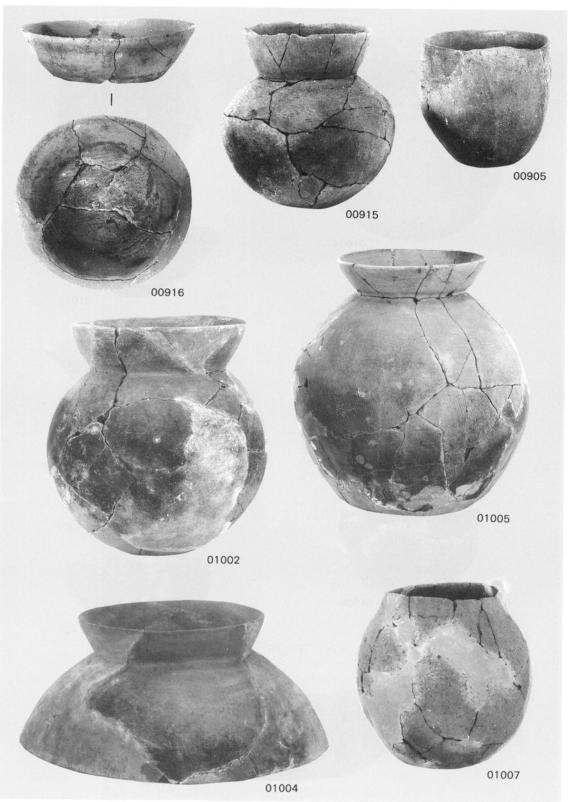
出土土器-10 (縮尺1/3)



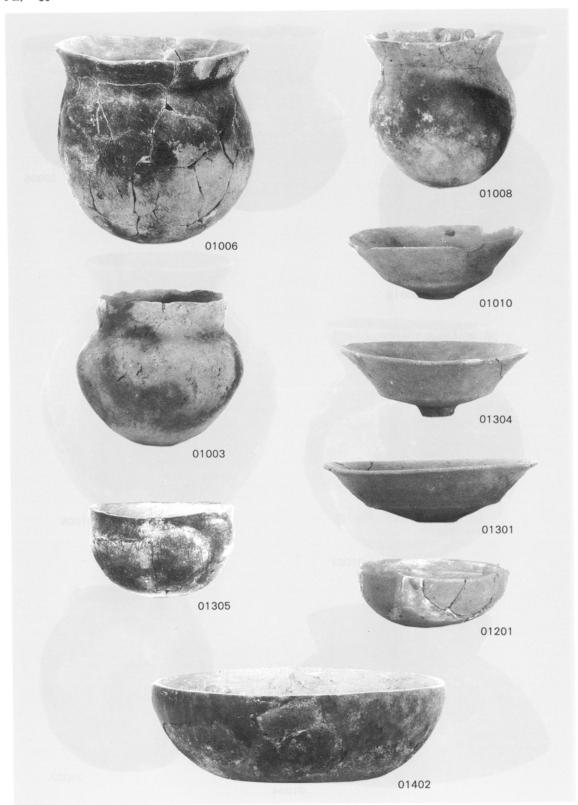
出土土器—11 (縮尺1/3)



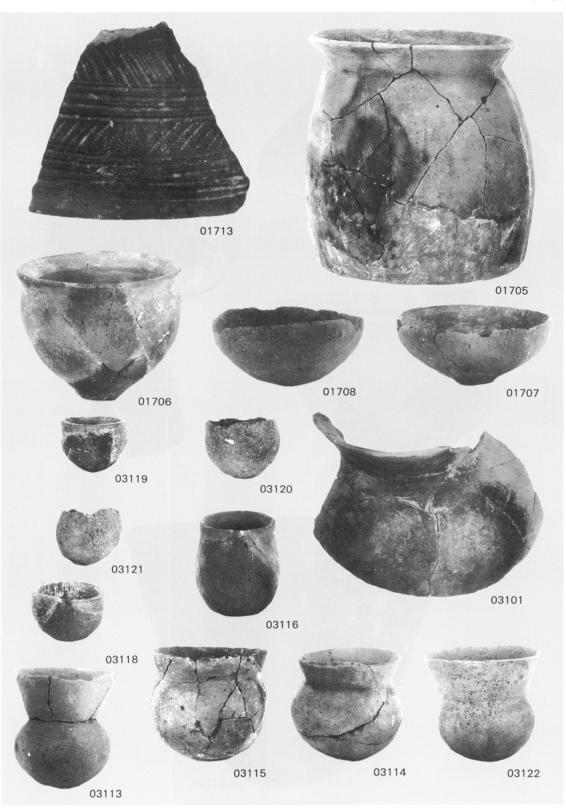
出土土器—12(縮尺1/3)



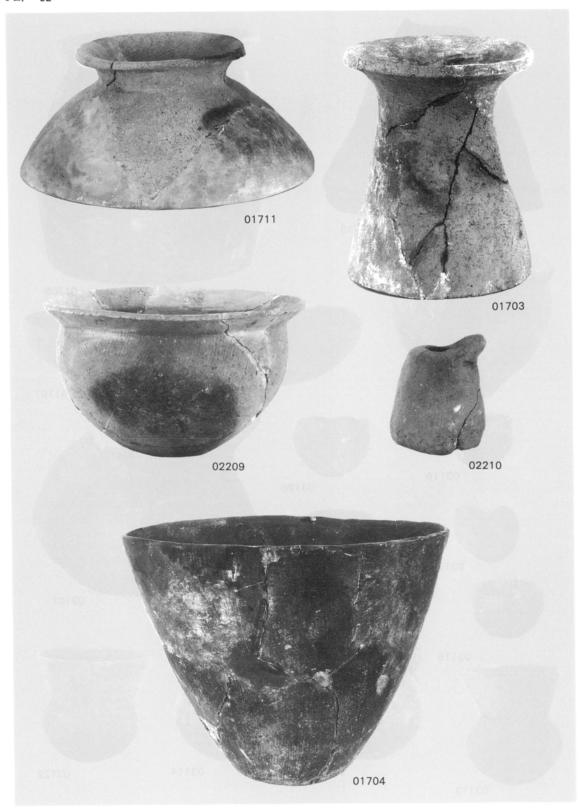
出土土器—13 (縮尺1/3,1/4)



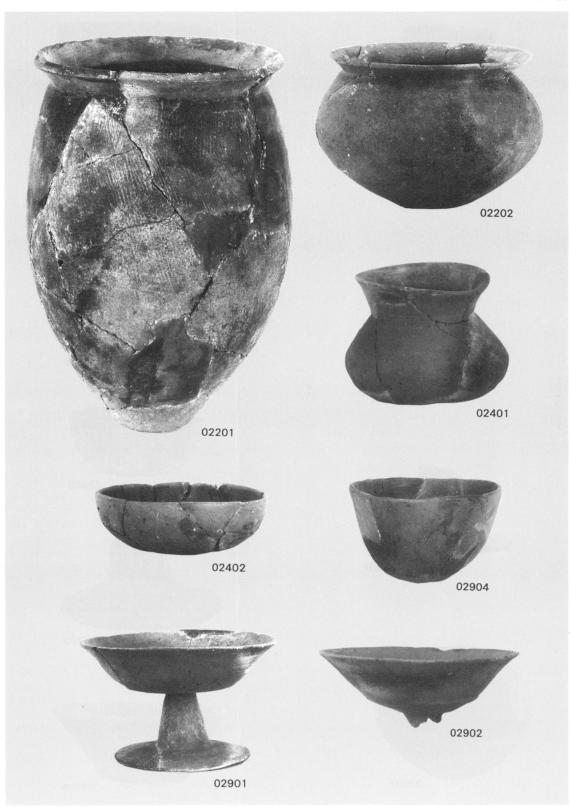
出土土器-14 (縮尺1/3)



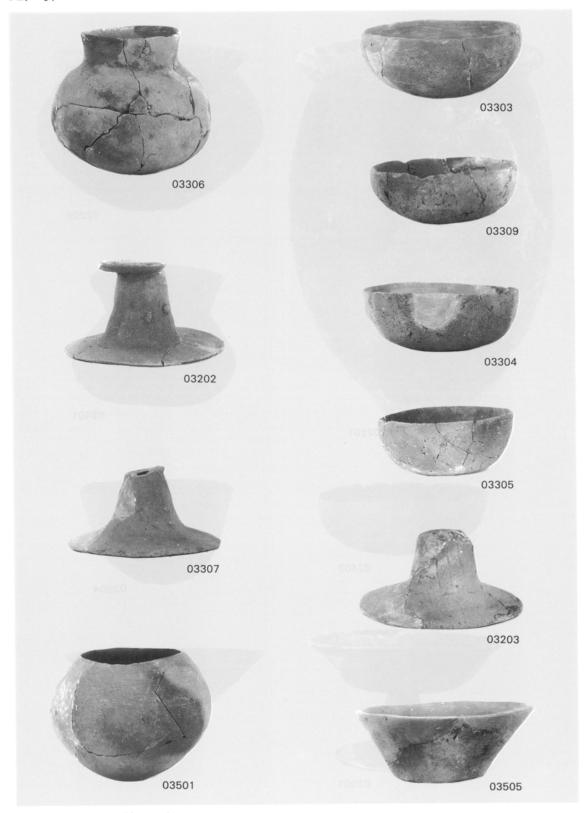
出土土器—15 (縮尺1/2, 1/3, 1/4)



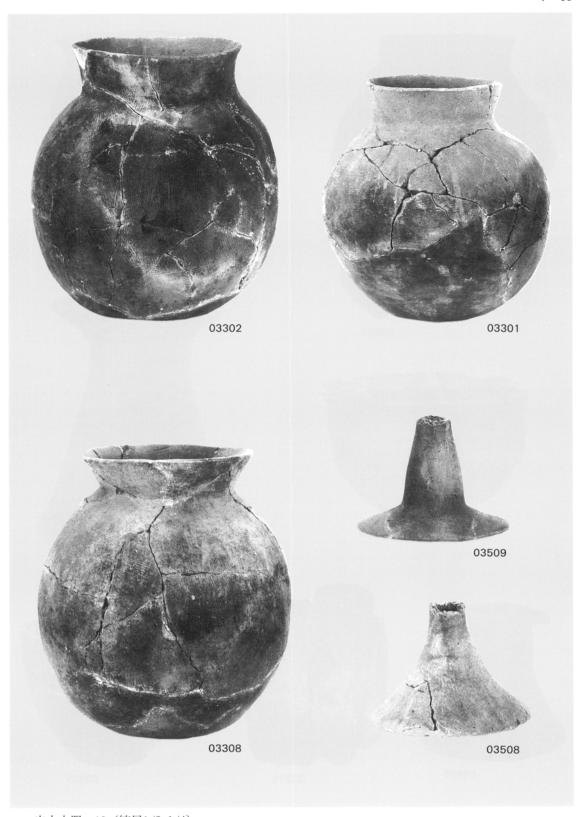
出土土器—16(縮尺1/3)



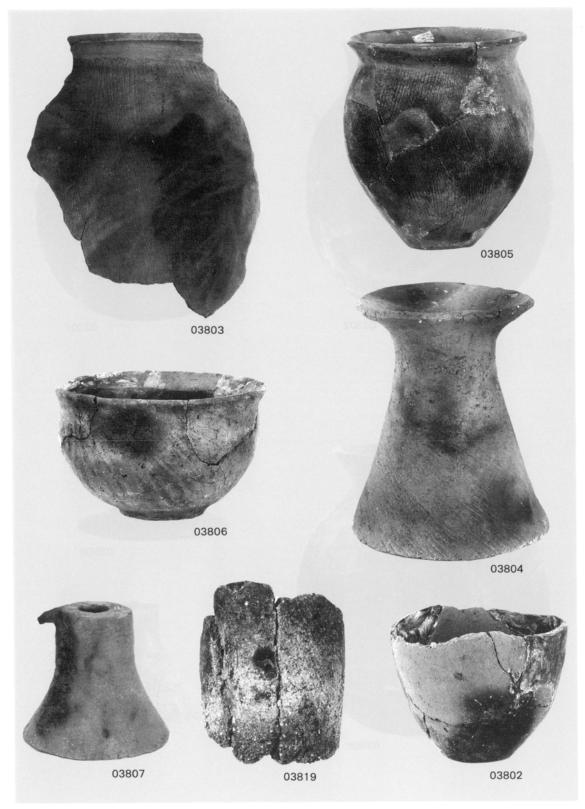
出土土器-17 (縮尺1/3)



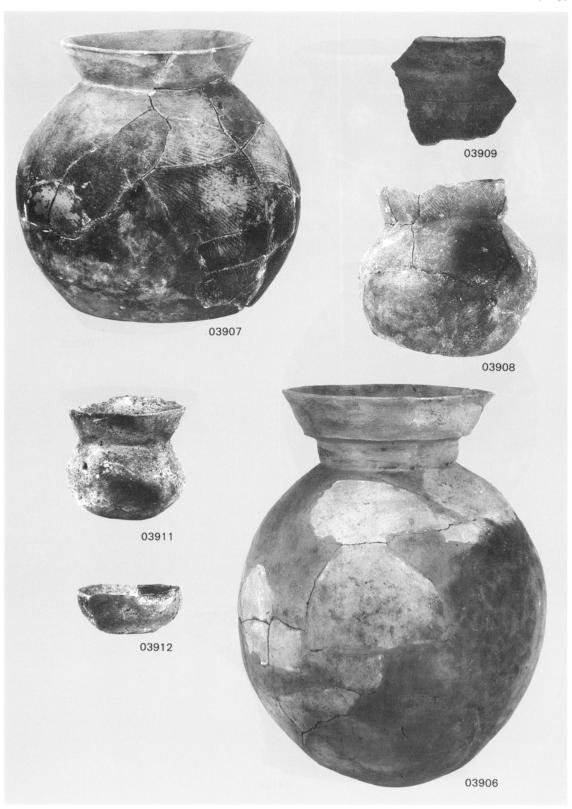
出土土器—18(縮尺1/3)



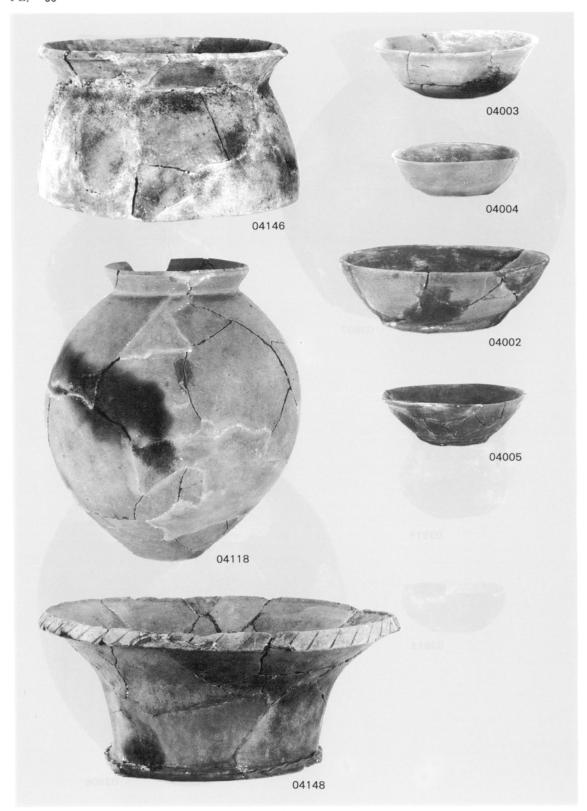
出土土器-19 (縮尺1/3,1/4)



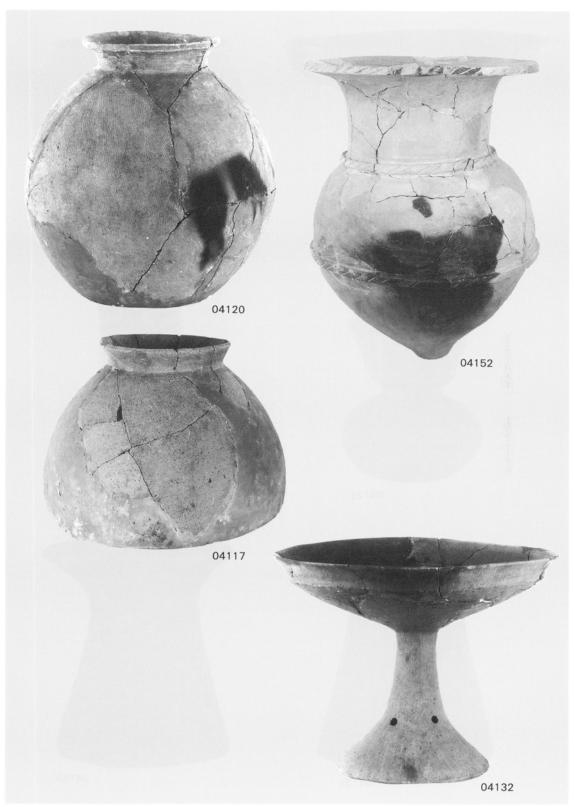
出土土器-20 (縮尺1/3)



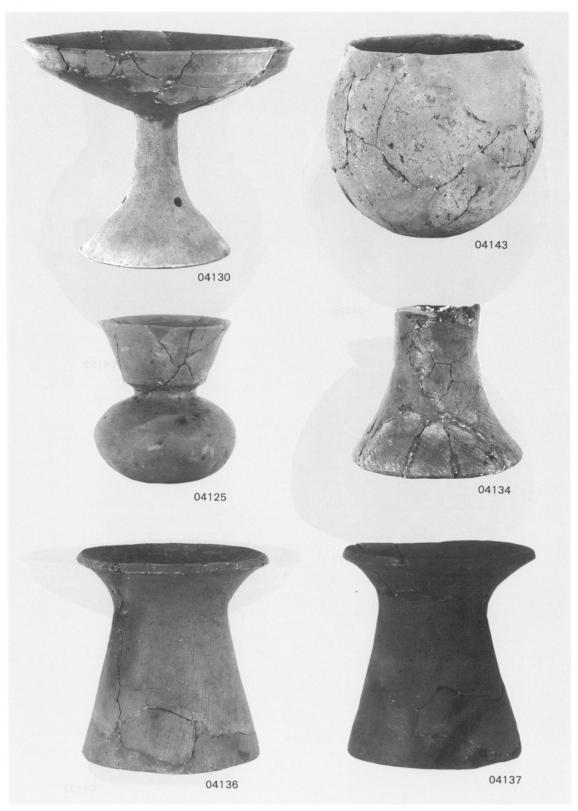
出土土器—21 (縮尺1/3,1/5)



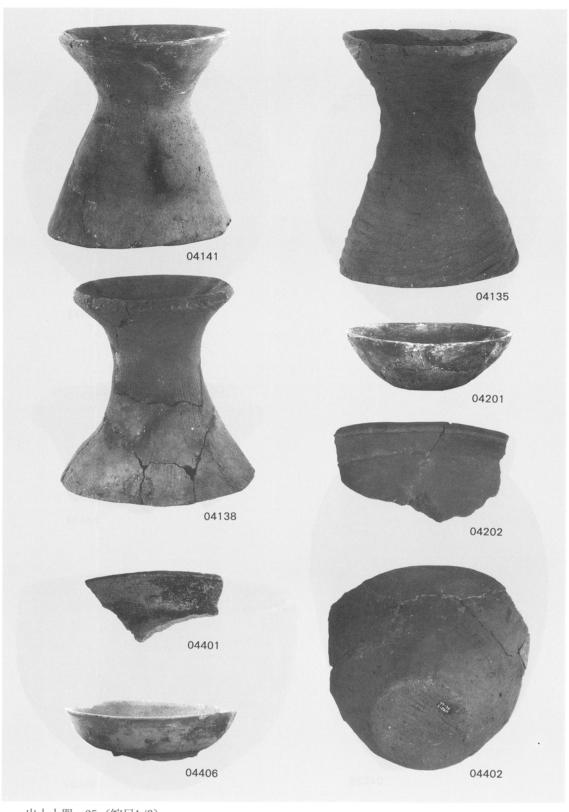
出土土器-22 (縮尺1/3,1/4)



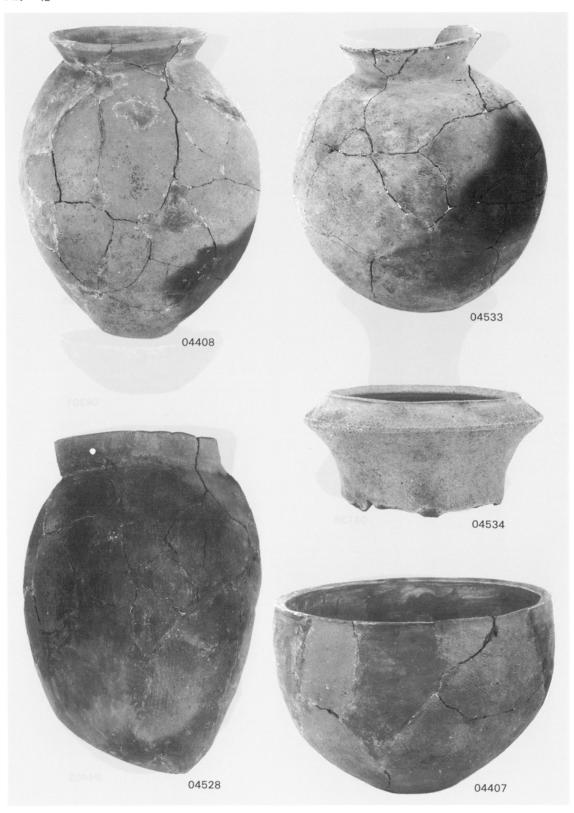
出土土器—23 (縮尺1/3,1/4,1/8)



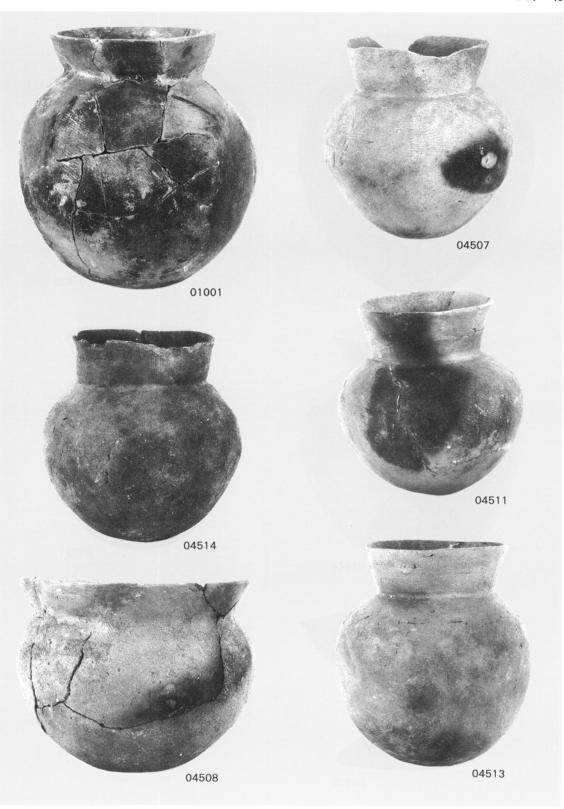
出土土器-24 (縮尺1/3,1/4)



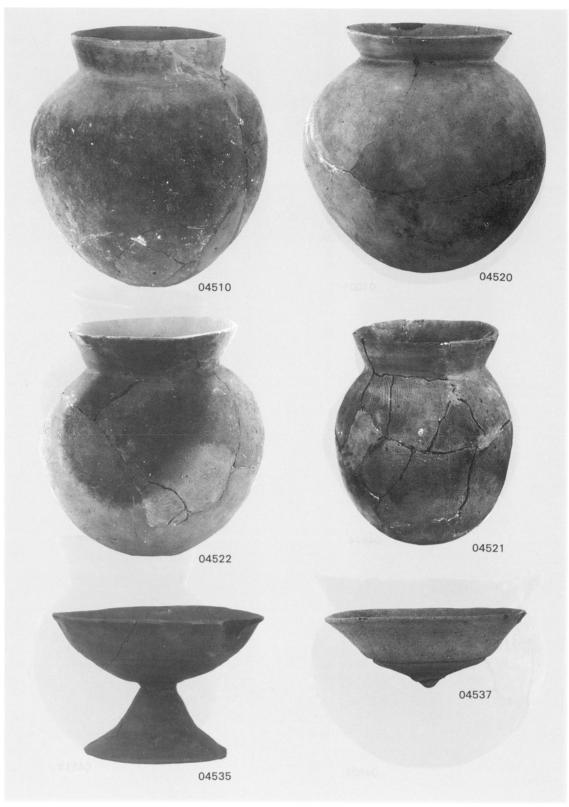
出土土器-25 (縮尺1/3)



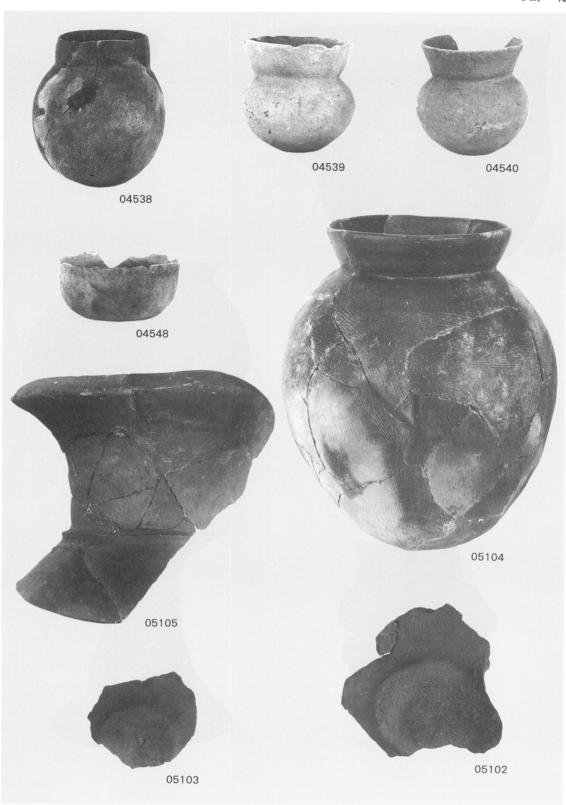
出土土器-26 (縮尺1/3,1/4)



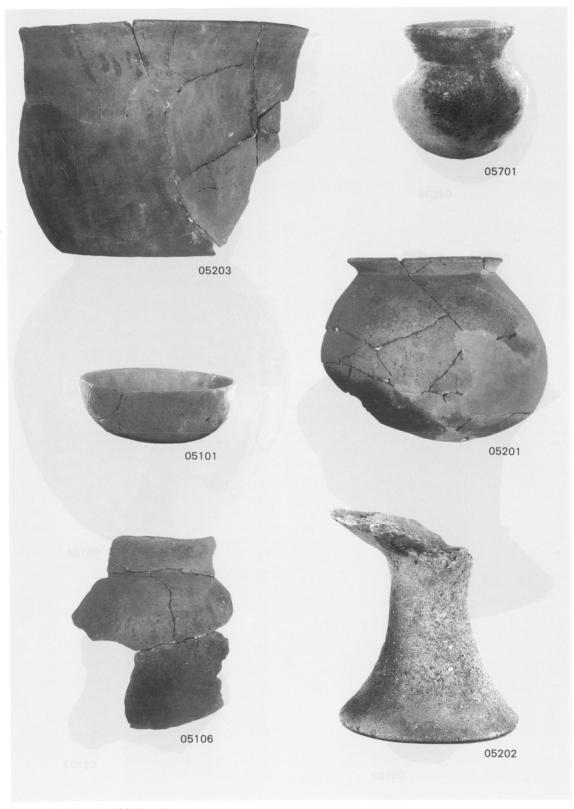
出土土器-27 (縮尺1/3)



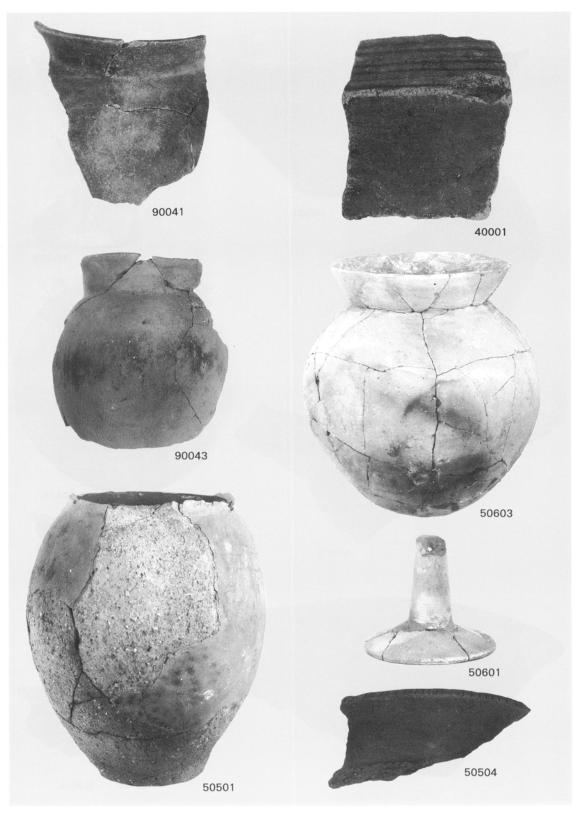
出土土器-28 (縮尺1/3,1/4)



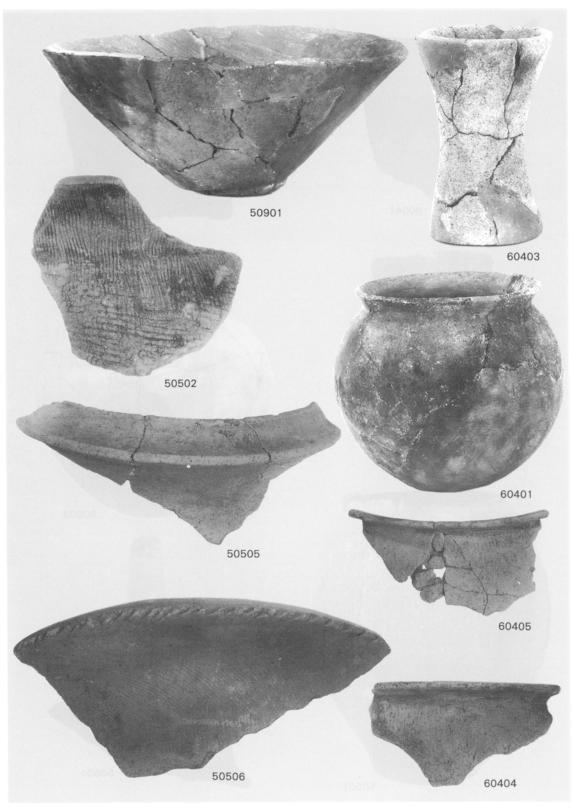
出土土器-29 (縮尺1/3)



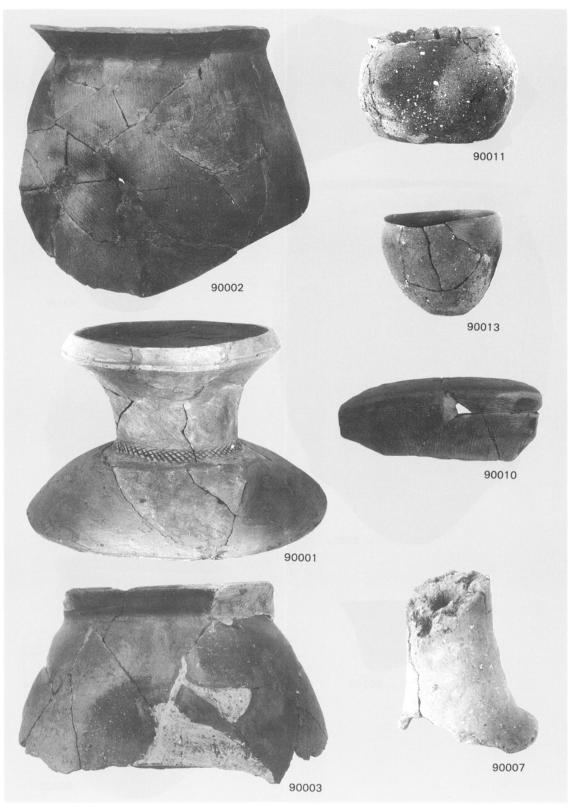
出土土器-30 (縮尺1/3)



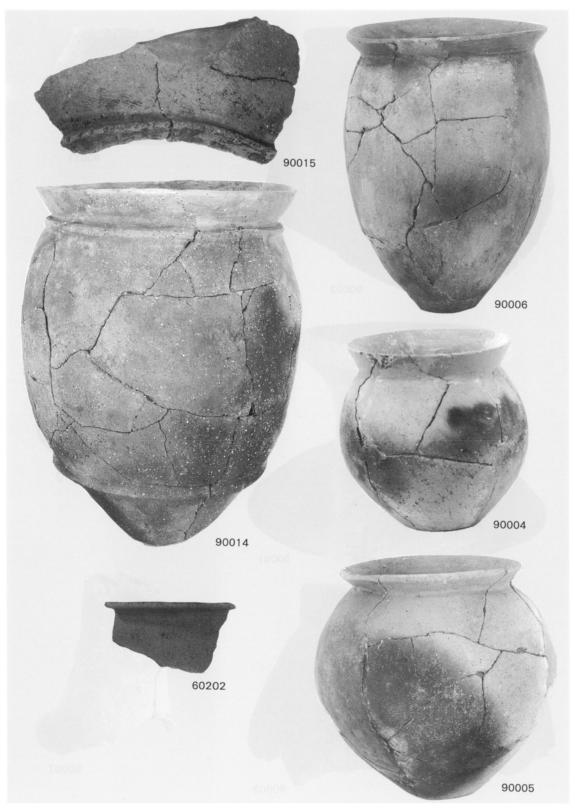
出土土器—31(縮尺1/3)



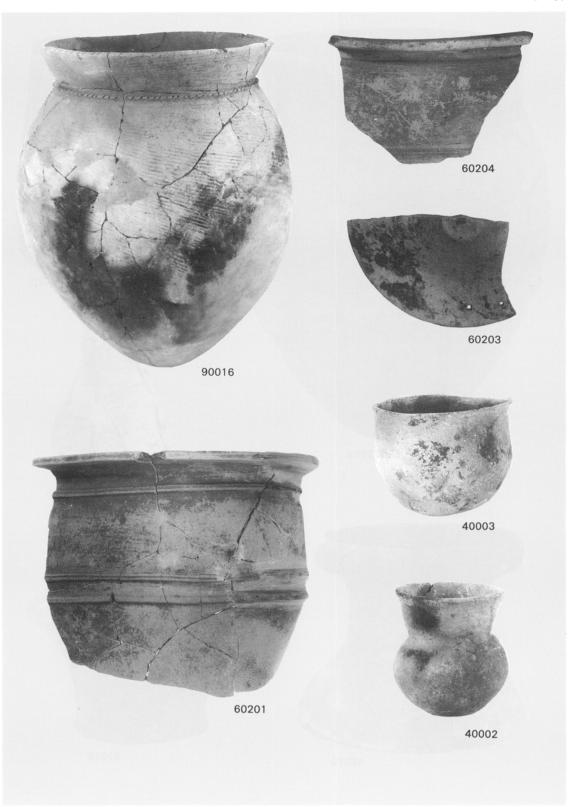
出土土器-32 (縮尺1/2,1/3)



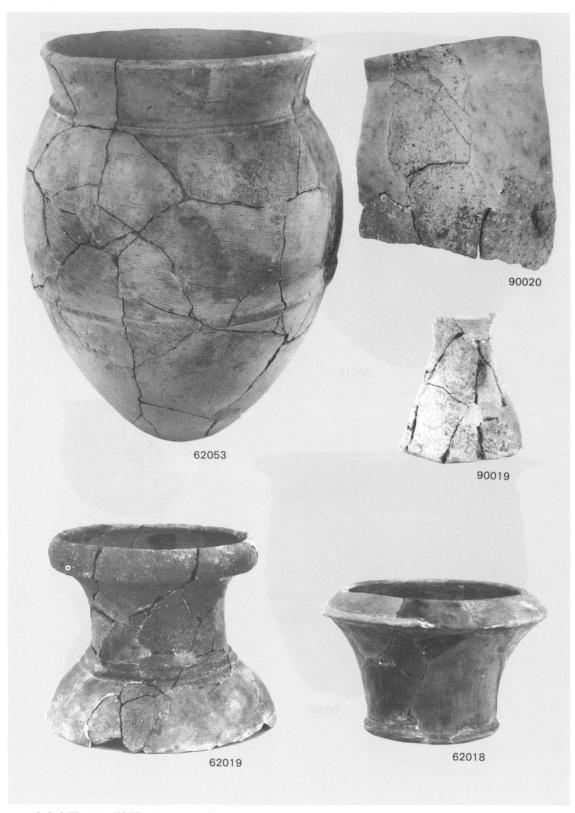
出土土器-33 (縮尺1/3,1/4)



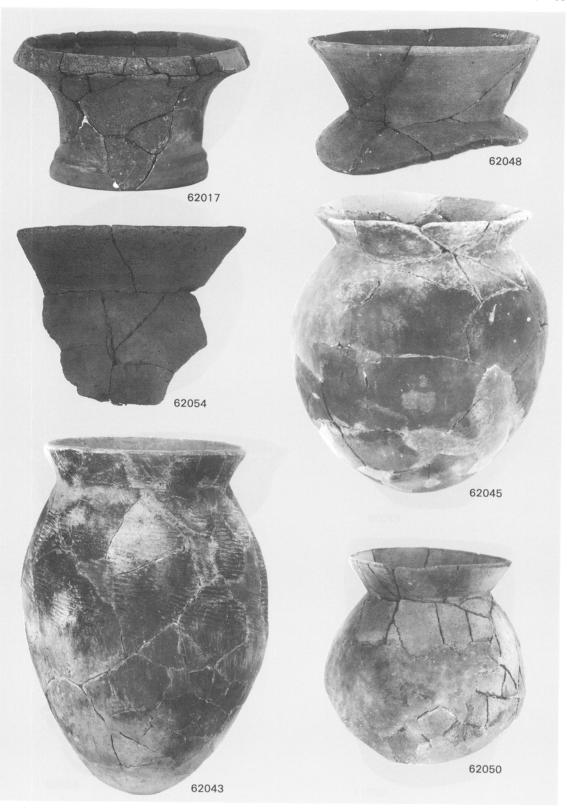
出土土器—34 (縮尺1/3,1/5)



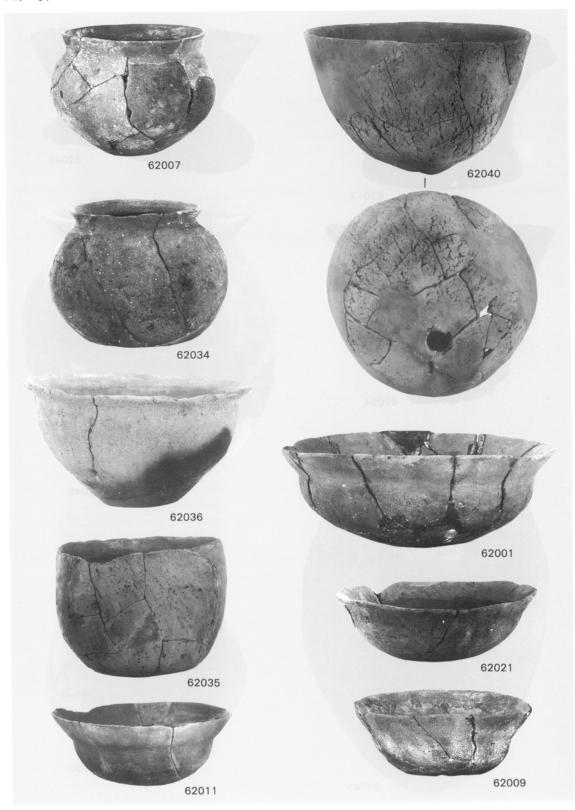
出土土器-35 (縮尺1/3,1/5)



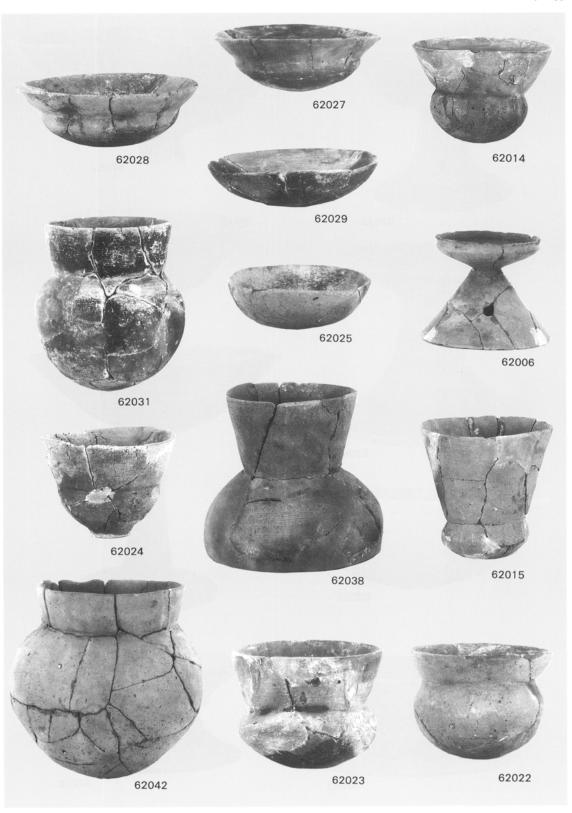
出土土器—36 (縮尺1/3, 1/4, 1/5)



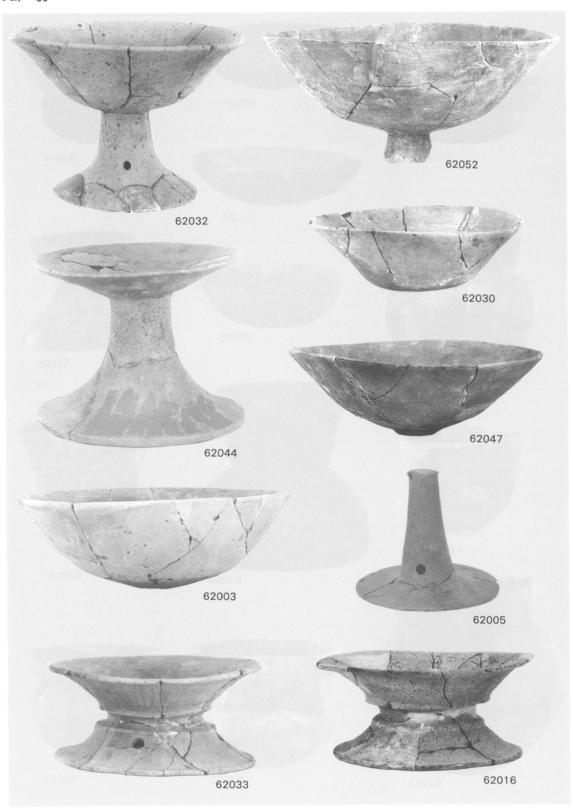
出土土器—37 (縮尺1/2, 1/3, 1/4)



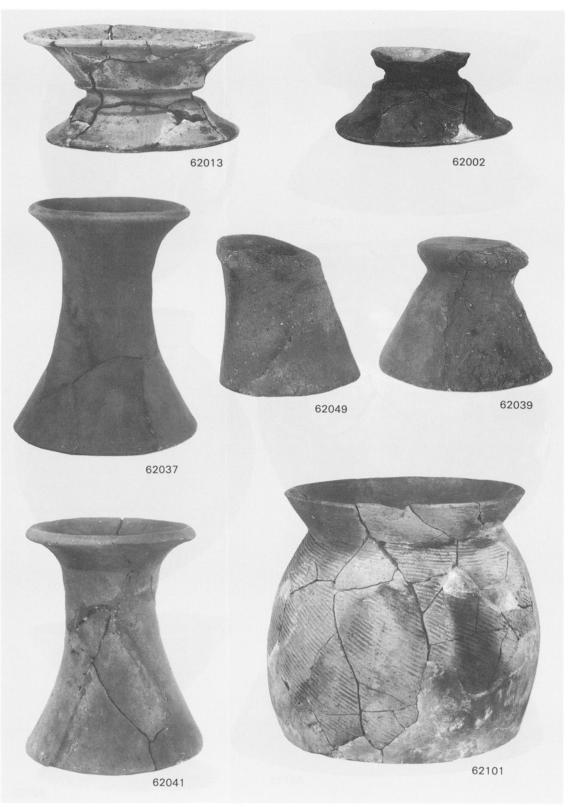
出土土器—38 (縮尺1/3)



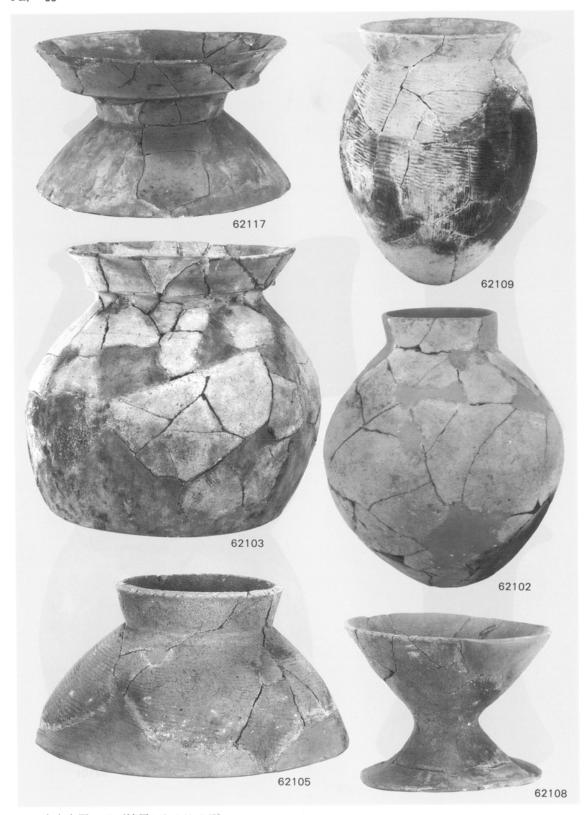
出土土器-39 (縮尺1/2,1/3)



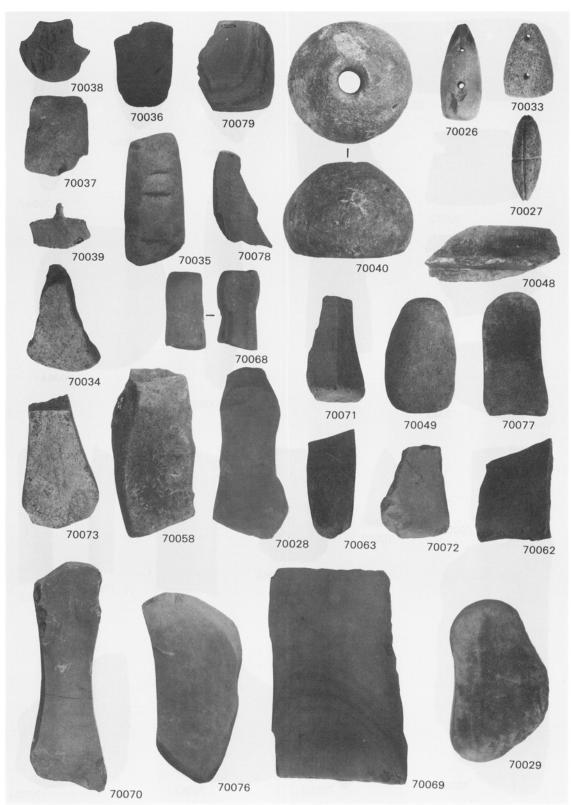
出土土器-40 (縮尺1/3)



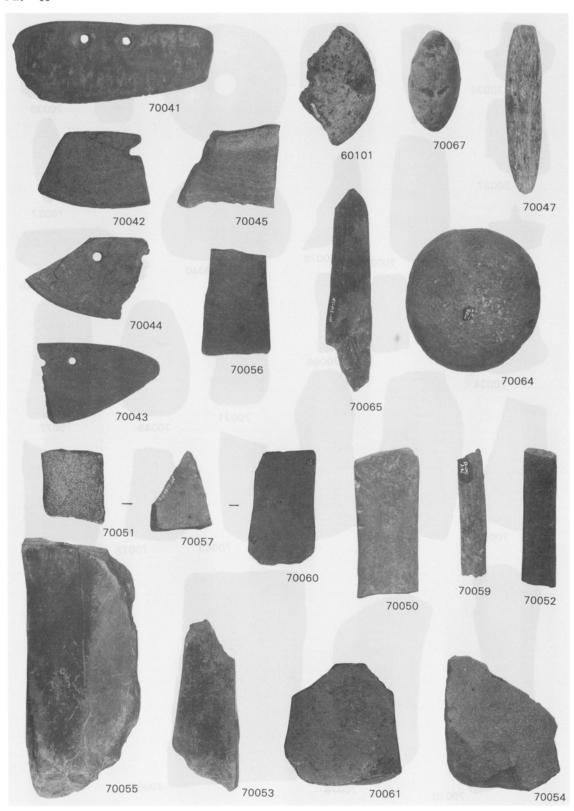
出土土器—41 (縮尺1/3,1/4)



出土土器—42(縮尺1/3,1/4,1/5)



出土石器-1 (縮尺1/2,1/3)



出土石器-2 (縮尺1/1)

## 福岡市西区

野 方 久 保 遺 跡 (Ⅱ) 第1次調查報告書 福岡市埋蔵文化財調查報告書第348集 発行 福岡市教育委員会 福岡市中央区天神1丁目8番1号 1993(平成5)年3月10日 印刷 ㈱川島弘文社

